平成28年第１回大多喜町議会定例会

３月会議会議録

平 成 28年　３ 月 ３ 日　開 会
平 成 28年　３ 月 16日　散 会

大 多 喜 町 議 会

平成２８年第１回大多喜町議会定例会３月会議会議録目次

第　１　号　（３月３日）

出席議員…… 1
欠席議員…… 1
地方自治法第１２１条の規定による出席説明者…… 1
本会議に職務のため出席した者の職氏名…… 1
議事日程…… 1
開議の宣告…… 3
行政報告…… 3
諸般の報告…… 5
会議録署名議員の指名……10
会期の決定……10
同意第１号の上程、説明、質疑、採決……10
同意第２号の上程、説明、質疑、採決……12
一般質問……13
　野　中　眞　弓　君……13
　野　村　賢　一　君……30
　山　田　久　子　君……43
　小　髙　芳　一　君……64
　渡　邉　泰　宣　君……83
会議時間の延長……94
　麻　生　　勇　君……95
散会の宣告…… 100

第　２　号　（３月４日）

出席議員…… 101
欠席議員…… 101
地方自治法第１２１条の規定による出席説明者…… 101
本会議に職務のため出席した者の職氏名…… 101

議事日程…… 101
開議の宣告…… 104
一般質問…… 104
　吉　野　一　男　君…… 104
　吉　野　僖　一　君…… 126
　根　本　年　生　君…… 137
議案第１号の上程、説明、質疑、討論、採決…… 155
議案第２号の上程、説明、質疑、討論、採決…… 165
議案第３号の上程、説明、質疑、討論、採決…… 169
議案第４号の上程、説明、質疑、討論、採決…… 172
議案第５号の上程、説明、質疑、討論、採決…… 174
議案第６号の上程、説明、質疑、討論、採決…… 179
議案第７号の上程、説明、質疑、討論、採決…… 181
議案第８号の上程、説明、質疑…… 184
議案第９号の上程、説明、質疑、討論、採決…… 189
議案第１０号の上程、説明、質疑、討論、採決…… 191
議案第１１号の上程、説明、質疑、討論、採決…… 194
議案第１２号の上程、説明、質疑、討論、採決…… 197
議案第１３号の上程、説明、質疑、討論、採決…… 201
議案第１４号の上程、説明、質疑、討論、採決…… 205
会議時間の延長…… 225
議案第１５号の上程、説明、質疑、討論、採決…… 237
議案第１６号の上程、説明、質疑、討論、採決…… 239
議案第１７号の上程、説明、質疑、討論、採決…… 243
議案第１８号の上程、説明、質疑、討論、採決…… 244
議案第１９号の上程、説明、質疑、討論、採決…… 248
議案第２０号の上程、説明、質疑、討論、採決…… 252
散会の宣告…… 254

第　３　号　（３月７日）

出席議員…… 255
欠席議員…… 255
地方自治法第１２１条の規定による出席説明者…… 255
本会議に職務のため出席した者の職氏名…… 255
議事日程…… 256
開議の宣告…… 257
議案第２１号から議案第２７号の上程、説明…… 258
散会の宣告…… 288

第　４　号　（３月１６日）

出席議員…… 291
欠席議員…… 291
地方自治法第１２１条の規定による出席説明者…… 291
本会議に職務のため出席した者の職氏名…… 291
議事日程…… 292
開議の宣告…… 293
行政報告…… 293
諸般の報告…… 294
日程の追加及び順序の変更…… 294
議案第２８号の上程、説明、質疑、討論、採決…… 294
議案第２１号の質疑、討論、採決…… 296
動議提出…… 359
議案第２２号の質疑、討論、採決…… 368
議案第２３号の質疑、討論、採決…… 368
議案第２４号の質疑、討論、採決…… 375
議案第２５号の質疑、討論、採決…… 375
議案第２６号の質疑、討論、採決…… 378
議案第２７号の質疑、討論、採決…… 380
日程の追加…… 380
議案第２９号の上程、説明、質疑、討論、採決…… 381

休会について…… 382
散会の宣告…… 383
署名議員…… 385

第１回大多喜町議会定例会３月会議

（ 第 １ 号 ）

平成２８年第１回大多喜町議会定例会３月会議会議録

平成２８年３月３日（木）

午前１０時００分　開議

出席議員（１１名）

１番	根本年生君	３番	吉野一男君
４番	麻生　勇君	５番	野村賢一君
６番	江澤勝美君	７番	小髙芳一君
８番	渡邉泰宣君	９番	吉野僖一君
１０番	山田久子君	１１番	野中眞弓君
１２番	志関武良夫君		

欠席議員（なし）

地方自治法第１２１条の規定による出席説明者

町長	飯島勝美君	副町長	鈴木朋美君
教育長	石井信代君	代表監査委員	滝口延康君
総務課長	加曽利英男君	企画財政課長	西郡栄一君
税務住民課長	市原和男君	健康福祉課長	永嶋耕一君
子育て支援課長	吉野敏洋君	建設課長	末吉昭男君
産業振興課長	野村一夫君	環境水道課長	米本和弘君
特別養護老人ホーム所長	君塚道朋君	会計室長	三上清作君
教育課長	野口　彰君	生涯学習課長	関　晴夫君

本会議に職務のため出席した者の職氏名

事務局長	渡辺八寿雄	書記	大竹義弘

議事日程（第１号）

日程第　１　会議録署名議員の指名

日程第　２　会期の決定

日程第　３　同意第１号　大多喜町教育委員会委員の任命について

日程第　４　同意第２号　大多喜町教育委員会委員の任命について

日程第　５　一般質問

◎開議の宣告

○議長（志関武良夫君）　おはようございます。

本日は、平成28年第１回議会定例会が招集されましたが、議員各位を初め町長及び執行部職員の皆さんには、ご出席をいただきましてまことにご苦労さまでございます。

ただいまの出席議員は11名全員です。定足数に達しておりますので、会議は成立します。

ただいまから、平成28年第１回議会定例会を開会します。

これより３月会議を開きます。

（午前１０時００分）

◎行政報告

○議長（志関武良夫君）　日程に先立ち、町長から行政報告があります。

町長。

○町長（飯島勝美君）　皆さん、おはようございます。

例年より暖かく感じられました冬も間もなく終わりを迎えまして、各地で春の訪れを伝える便りが聞かれるようになりましたが、本日、平成28年第１回議会定例会３月会議を開催させていただきましたところ、議長を初め議員各位には大変お忙しい中ご出席をいただき、まことにありがとうございます。また、平素は町政運営にご支援、ご協力を賜り、改めて御礼を申し上げる次第でございます。

行政報告につきましては、お手元に配付をさせていただきました報告書によりご承知いただきたいと思います。

さて、本日から始まる議会には、平成28年度各会計の当初予算を提案させていただきますので、予算編成方針などについて若干ご説明をさせていただきます。

景気は緩やかな回復基調が続いているものの、少子高齢化、人口減少社会への対応や、財政の健全化、防災・減災対策の強化、社会資本の老朽化への対応など、国は多くの課題を抱えており、これらに適切に対応していかなければならない状況です。

政府は、経済財政運営と改革の基本方針2015などに基づき、人口減少の克服と地域経済の再生を推進し、成長と財政再建の両立を目指すこととし、地方自治体に対しても、地域の実情に応じ、地方創生に取り組むよう期待をしています。

このような中で、本町の平成28年度一般会計予算は、厳しい財政状況のもと、事務事業の

必要性、効果等について見直しを行うとともに、第３次総合計画、過疎地域自立促進計画及び総合戦略の着実な推進を図るため、町道改良事業、少子化や定住化対策事業、深刻化している有害鳥獣対策事業、妊婦歯科健診や不妊治療費の助成、国土調査事業量の拡大などの予算措置に加え、ふるさと納税関連の事業の増額により、予算総額は前年度に比べ32.6パーセント増の56億9,200万円となりました。

歳入における自主財源については、町税は若干減少し10億3,386万円、使用料及び手数料は18.9パーセント増の１億35万3,000円、寄附金はふるさと納税の大幅な増額を見込み３億円、繰入金は大幅増の11億5,299万8,000円を見込みました。

依存財源については、地方交付税は3.8パーセント増の14億7,454万8,000円、地方消費税交付金は21.4パーセント増の１億7,000万円、国庫支出金は２パーセント増の２億3,282万5,000円、町債は過疎対策事業債、臨時財政対策債など合計で4.1パーセント減の３億4,180万円を見込みました。

一方、歳出では、主なものとしては、総務費では、いすみ鉄道及びバス路線対策、本町と品川間の高速バスのほか、ふるさと納税事業関係費が大きく増額となり、昨年度に比べ158.9パーセント増の20億2,185万1,000円を計上しました。

民生費では、高齢者や障害者福祉、少子化対策、子ども医療対策、保育園運営費、国民健康保険への繰り出しなどで3.4パーセント増の12億7,508万5,000円を計上し、農林水産業費は、有害鳥獣対策、多面的機能支払交付金事業などで15.3パーセント増の２億720万8,000円を計上しました。

また、商工費は、商業振興、観光振興、お城まつりの助成などを見込み、7.9パーセント増の6,956万3,000円を計上し、土木費は、町道改良や橋梁改修、町営住宅の修繕のほか、国土調査の大幅な拡大を見込み、26パーセント増の４億283万6,000円を計上しました。

教育費は、学校施設管理、送迎バスの運行費などで若干減額の３億5,585万5,000円を計上しました。

なお、一般会計と特別会計の合計では、前年度と比べ19.4パーセント増の84億6,758万5,000円となりました。

また、水道事業及び特別養護老人ホーム事業会計においても、それぞれの目的に合わせ、将来の事業運営を見通した予算編成としたところでございます。

以上、平成28年度当初予算編成方針等を申し上げさせていただきましたが、各議案ともご審議の上、全議案可決くださるようお願い申し上げ、行政報告にかえさせていただきます。

○議長（志関武良夫君）　これで行政報告を終わります。

◎諸般の報告

○議長（志関武良夫君）　次に諸般の報告でありますが、平成27年第１回議会定例会平成28年１月会議以降の議会関係の主な事項は、お配りした印刷物によりご了承いただきたいと思います。

なお、このうち組合議会については、関係議員からご報告をお願いいたします。

初めに、千葉県後期高齢者医療広域連合議会の関係について、11番野中眞弓君から報告を願います。

11番野中眞弓君。

○１１番（野中眞弓君）　それでは、千葉県後期高齢者医療広域連合の平成28年第１回定例会の報告をいたします。

28年２月10日、千葉市のホテルオークラで開催されました。

議題は、職員給与の改正や保険料率の変更、それから平成27年度の一般会計及び特別会計の補正予算や、平成28年度一般会計及び特別会計予算など10本の議案が上程され、全てが承認されました。27年度の補正予算、28年度の当初予算につきましては、お手元にそれぞれの予算案が配付されておりますので、ごらんください。

大ざっぱに報告します。後期高齢者医療の保険料は２年単位で決められます。今回は、28年、29年度分の保険料の改定がありました。所得割の保険料率が100分の7.43から100分の7.93、0.5パーセントの引き上げになりました。均等割は３万8,700円から４万400円に1,700円の引き上げになり、１人当たり平均保険料の年額は６万7,323円から６万9,812円に2,489円の値上げになります。

なお、大多喜町の平均保険料は、26年の数字ですが、３万5,152円で県下で52番目の安さです。それに比べて医療費は79万728円で、上から28番目です。

それから、28年度予算につきましては、一般会計は前年度比27億6,000万円の減で20億1,700万円になります。50パーセント以上の大幅減額になった理由ですけれども、27年度までは一般会計経由で交付されていた特別会計への国からの医療制度円滑運営臨時特例交付金というのが、28年度からは直接特別会計に交付されることになったので、一般会計の分が減りました。

それから、特別会計については前年度比で242億8,900万円の増です。5,505億円の予算が

組まれております。細部につきましては、どうぞ予算書をごらんください。

それで、ご協力いただきたいことがあります。歯科健診ですけれども、今までの歯科健診は、自治体がやっている歯科健診に75歳以上の高齢者が受診させてもらった場合、広域連合も補助金を出しますよというものでしたが、28年度から広域連合が事業主体となり、高齢者に対して歯科健診を行うことになりました。

歯科健診は、歯科の疾病が口腔内だけの問題ではなくて、全身にかかわる影響を持つということで、最近見直されているんですけれども、高齢期の健康維持のために、広域連合としてとにかく全県で同じ条件で取り組もうということになりました。

受診票が本人宛て、ご家族、２人年寄りがいれば２人分それぞれに届きます。例えば６月から11月とか一定期間中に、個人で直接歯医者さんで診ていただくことになります。初年度は受診率を10パーセントと見込んでいます。歯科健診は、今自治体がやっているのも大変低いんですということを、歯医者さん自身もおっしゃっていました。それに、高齢者になると、自分だけでは行けないという方もふえてくると思いますので、ご家族とかご近所の協力が欠かせないと思うんです。ぜひご家族やご近所の方に勧めていただきたいし、一緒に移送のお手伝いなどもしていただけたらありがたいかなと思います。

以上、ざっぱくですけれども、報告させていただきます。

○議長（志関武良夫君）　ご苦労さまでした。

次に、夷隅郡市広域市町村圏事務組合議会定例会の関係についてをお願いします。

４番麻生勇君からご報告願います。

４番麻生君。

○４番（麻生　勇君）　２月24日、会議が開かれまして、私と議長と副議長と３人で出席しました。

最初に管理者から報告がありましたけれども、ごみ処理施設の延期が報告されました。前も町長から報告がありましたが、そのとおりでした。

それから、議席の指定がありまして、御宿町の議員の改選がございまして指定されました。

議案については、13本の議案が上程されまして、条例の改正などがありまして、それは全員賛成で可決されました。

それから、一般会計補正予算と一般会計については、お手元に配付されていますけれども、一般会計補正予算が３億5,376万7,000円の減額がありました。これは、広域ごみ処理施設の延期によりましてこれが減額になりました。

それから、一般会計ですが、お手元にありますけれども、歳入歳出それぞれ20億4,550万9,000円と定めるということで、前年比マイナス12.3パーセントで、全員の賛成を得ました。

以上でございます。

○議長（志関武良夫君）　ご苦労さまでした。

次に、夷隅環境衛生組合議会の関係について、８番渡邉泰宣君からお願いします。

８番渡邉泰宣君。

○８番（渡邉泰宣君）　それでは、平成28年第１回夷隅環境衛生組合議会定例会の報告をさせていただきます。

去る２月29日午前10時より、平成28年第１回夷隅環境衛生組合議会定例会が招集され、本町から志関議長と私の２名が出席いたしました。

執行部から付議された事件は７件であります。夷隅郡市広域市町村圏事務組合と夷隅環境衛生組合との間の行政不服審査法第81条第１項に規定する機関の事務の委託について、２件目、夷隅環境衛生組合職員の公休に関する条例の制定について、３件目、夷隅環境衛生組合人事行政の運営等の状況の公表に関する条例の一部を改正する条例の制定について、４件目、夷隅環境衛生組合職員の勤務時間、休日、休暇に関する条例の一部を改正する条例の制定について、５件目、夷隅環境衛生組合一般職員の給与等に関する条例の一部を改正する条例の制定について、６件目、平成27年度夷隅環境衛生組合会計補正予算（第１号）について、７件目、平成28年度夷隅環境衛生組合会計予算について、以上７件の議案が審議され、いずれの議案も可決されました。

７件目の平成28年度夷隅環境衛生組合会計予算については、歳入歳出それぞれ５億3,105万4,000円となり、前年度比2,166万3,000円減の3.9パーセント減です。

以上のような内容でした。

また、そのほか、議会が終わりまして報告がありました。それについては、夷隅環境衛生組合浄化槽保守点検業務の終了計画についての報告がありまして、夷隅郡市職員の状況等を含めまして、点検業務の継続が困難な状況になっているというような状況で、平成28年11月より点検移行開始ということで、民間業者に移行するということの計画が報告されました。平成30年度末までに点検業務を廃止するということでございました。職員も定年等で大分減少するというようなことで、その後の補充等が困難なのと、それから受益者に対しては、民間業者に委託したほうが軽減されるというような内容で報告されました。

以上でございます。

○議長（志関武良夫君）　ご苦労さまでした。

次に、国保国吉病院組合議会の関係についてをお願いします。

根本年生君からお願いします。

はい、どうぞ。

○１番（根本年生君）　きのう国保国吉病院組合議会定例会が開催されました。大多喜町からは江澤議員、吉野僖一議員、それと私の３名が出席いたしました。

議案の内容は、１号から７号までありまして、これは無事承認を受けることができました。

その中で特に申し上げたいと思うことは、まずその中の１つに行政不服審査法の事務委託について、行政不服審査があったときに、国保国吉病院では対応が難しいということですので、これは広域市町村圏事務組合に委任するということが可決されました。

続きまして、27年度の補正予算がありまして、その内容は、国吉病院も医師不足に非常に悩んでおりまして、それが平成26年６月に１名、平成27年10月に２名、計３名の医師派遣が亀田病院のほうから決定されました。それに伴いまして、全体の半分が補助金とか交付金で賄われまして、半分については関係市町村で負担というか、国吉病院のほうで負担するということで、その補正予算が可決されたところでございます。

あと、28年度の会計予算につきましては、まず、今まで直通バスが御宿町のほうだけあったんですけれども、これについてはなかなか利用客が少ないということで、来年度末で終了するということになりました。

あと、未収金の件についても質問がありまして、未収金の内容については、かなりの額が未収金に上がっているんですけれども、これについては、２月、３月にかかったものがどうしても４月以降の収入になるということで、そういった説明がありました。

あと、人工透析につきましては、部屋は確保してあるんだけれども、人の配置が思うようにできていないということで、いまだ保留扱いになっております。

議会が終わりまして、その場で全員協議会が開催されまして、病院側からは、新公立病院改革プラン策定に伴ういすみ医療センターのあり方ということで協議が行われました。皆さんのところにも配付されていると思いますけれども、結論といたしますと、公立病院改革プランを行って、新病院建設後も依然として経営状態はなかなかうまくいっておりません。医師、看護師不足などにより一定の成果を上げることができないということが原因ということです。

それと、人口減少等により、今、１市２町でかなりの額の分担金を出しているんですけれ

ども、これもなかなか将来的には難しいだろうということが結論としてありまして、それで今後は病院改革に伴って、新たな病院経営の方策を探るということになりました。

その中の理由が、現在の病院経営の中で、先ほど述べましたけれども、かなり１市２町で負担しているところがあります。その額は約４億9,000万円を１市２町で負担していると。そのうち半分が交付税措置で賄われているところでございます。ちなみに、28年度はいすみ市が３億9,000万円、大多喜町が6,400万円、御宿町が2,900万円という状況であります。

今後は、こういったことも含めて新しい改革を進めようと。28年４月より、千葉県より職員が派遣されます。これは次長相当職が来るということです。それで、いすみ市より職員を派遣します。これは病院改革推進担当ということです。事務局内に病院改革推進室を設置し、新公立病院改革プランの策定に着手します。それで、いろいろ協議を重ねまして、29年３月末日に公立病院改革プラン策定、公表という形になります。続きまして、29年４月１日に新たに専門知識を有する第三者委員会を設置しまして、いろいろな面の問題点の解決に向けて議論すると。それで、平成30年度中に非公務員型の地方独立行政法人化を目指すという説明がありました。

これは地域にとって必要な病院でありますので、これを何とか継続していくためには、こういった方法しかないのではなかろうかという結論に至ったということでございます。

以上で報告を終わります。

○議長（志関武良夫君）　ご苦労さまでした。

以上で、組合議会関係の報告を終わります。

次に、１月27日、群馬県明和町議会から本町議会へ行政視察においでになりました。来庁されましたのは明和町議会の議長、副議長及び議会運営委員の皆さんで、本町議会で取り組んでいる通年会期制及び休日議会について、熱心に研修されたところでございます。対応いただきました議会運営委員の皆さんには、大変ご苦労さまでございました。

次に、１月26日及び２月26日に実施された例月出納検査の結果について、及び昨年11月に実施した定例監査の結果報告書が提出されています。お手元に配付の報告書の写しによりご了承願います。

次に、受理いたしました陳情についてご報告いたします。

お手元に配付いたしましたとおり、軽度外傷性脳損傷・脳しんとうの周知と予防、その危険性や予後の相談の出来る窓口などの設置を求める陳情が提出されています。

議会運営委員会で協議しましたが、議員各位には陳情の趣旨をご理解いただくよう、その

写しを配付いたしましたので、よろしくお願いしたいと思います。

これで諸般の報告を終わります。

◎会議録署名議員の指名

○議長（志関武良夫君）　これから日程に入ります。

日程第１、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、会議規則第126条の規定により、

11番　野　中　眞　弓　君

１番　根　本　年　生　君

を指名します。

◎会期の決定

○議長（志関武良夫君）　日程第２、会期の決定の件を議題とします。

お諮りします。

本定例会の会期は、議員の任期の都合上、本日から平成29年１月24日までの328日間にしたいと思います。

これにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　異議なしと認めます。

よって、会期は本日から平成29年１月24日までの328日間に決定しました。

なお、この３月会議の審議期間でありますが、２月23日に開催した議会運営委員会で協議した結果、議事日程にお示ししたとおり、本日から３月16日までの14日間とし、このうち実質審議は本日３日と明日４日、そして７日、16日の４日間で審議することと決定しております。

議員各位及び執行部の皆さんには、議会運営、議事進行にご協力くださるよう、よろしくお願い申し上げます。

◎同意第１号の上程、説明、質疑、採決

○議長（志関武良夫君）　日程第３、同意第１号　大多喜町教育委員会委員の任命についてを議題とします。

本案について提出者の説明を求めます。

町長。

○町長（飯島勝美君）　それでは、議案書の１ページをお願いしたいと思いますが、大多喜町教育委員会委員の任命についてでございます。

同意第１号について、提案理由のご説明を申し上げます。

教育委員のうち、本吉七太郎委員から本年３月31日をもって辞職したい旨の願があり、辞職に同意することといたしましたので、この後任の委員を任命するため、法律の規定により、議会の同意を得ようとするものでございます。

教育委員に任命しようとする方は、住所、大多喜町森宮174番地。氏名は宇野輝夫氏。生年月日、昭和30年９月30日でございます。

宇野輝夫氏は、大学卒業後37年間教職員として勤務され、この間、大多喜町立上瀑小学校長、千葉県教育庁、葛南教育事務所長、大多喜町立大多喜中学校長等の要職を歴任され、平成28年３月定年退職されるということでございます。千葉県中学校長会会長を務めるなど人格は高潔で、教育に豊富な経験と識見を有しており、教育委員として適任と考えますので、教育委員に任命したく、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律（平成26年法律第76号）附則第２条第２項の規定により、なおその効力を有することとされる同法による改正前の地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第４条第１項の規定により、議会の同意を求めるものでございます。

○議長（志関武良夫君）　説明が終わりました。

これから質疑を行います。

質疑ありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

本件については討論を省略し、これから採決したいと思います。

ご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　異議なしと認めます。

これから同意第１号を採決します。

本件はこれに同意することに賛成の方は挙手願います。

（挙手多数）

○議長（志関武良夫君）　挙手多数です。

したがって、同意第１号はこれを同意することに決定しました。

◎同意第２号の上程、説明、質疑、採決

○議長（志関武良夫君）　日程第４、同意第２号　大多喜町教育委員会委員の任命についてを議題とします。

本案について提出者の説明を求めます。

町長。

○町長（飯島勝美君）　それでは、議案書の３ページをお願いしたいと思いますが、教育委員の任命について。

同意第２号について、提案理由のご説明を申し上げます。

教育委員のうち、加曽利和男委員の任期が本年３月31日をもちまして満了となることから、この後任の委員を任命するため、法律の規定により議会の同意を得ようとするものでございます。

教育委員に任命しようとする方は、住所、大多喜町小田代386番地。氏名、中村康之氏。生年月日、昭和29年10月１日でございます。

中村康之氏は、高校卒業後、42年間市原市消防局に勤務され、この間、要職を歴任されました。また、小学校のＰＴＡ会長を務めるなど、学校教育にも熱心に取り組んでこられました。人格は高潔で、教育に関しても識見を有しており、教育委員として適任と考えますので、教育委員に任命したく、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律（平成26年法律第76号）附則第２条第２項の規定により、なおその効力を有することとされる同法による改正前の地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第４条第１項の規定により、議会の同意を求めるものでございます。

○議長（志関武良夫君）　説明が終わりました。

これから質疑を行います。

質疑ありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

本件については討論を省略し、これから採決したいと思います。

ご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　異議なしと認めます。

これから同意第２号を採決します。

本件はこれに同意することに賛成の方は挙手願います。

（挙手多数）

○議長（志関武良夫君）　挙手多数です。

したがって、同意第２号はこれを同意することに決定しました。

◎一般質問

○議長（志関武良夫君）　日程第５、一般質問を行います。

なお、議員の皆さんにご注意を申し上げます。

この３月会議における一般質問の通告者は９名です。本日３日は６名の議員の一般質問を予定し、あすは３名の議員の一般質問を予定しています。

一般質問の通告内容を見ますと、同様の質問項目について複数の議員から通告がなされております。先に通告された議員の一般質問に対する執行部の回答でご理解できる部分については、同様の質問はできるだけご遠慮いただき、違う角度からの質問にしていただきますようにお願い申し上げます。議事進行に議員各位のご協力をお願いするところでございます。

それでは、一般質問を行います。

通告順に発言を許します。

◇　野　中　眞　弓　君

○議長（志関武良夫君）　初めに、11番野中眞弓君の一般質問を行います。

11番野中眞弓君。

○１１番（野中眞弓君）　11番野中でございます。

私の第１点目の質問は、高速バスの運行についてです。

羽田・品川・大多喜間の高速バスの運行が始まって、およそ２カ月半になります。町の皆さんから、空気を運んでいる車が多いけれども、一体どうなっているんだという声をかなり耳にします。そのことは議員の皆さんもそれぞれ聞かれているので、たくさんの議員さんが

今回この高速バスについても、あるいはふるさと納税についても、町民の方からのご意見を伺ってのことだと思います。

そこで伺います。この間の運行や利用状況についてどうなのか、ご報告をお願いいたします。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　それでは、野中議員の一般質問にお答えさせていただきます。

12月17日から運行しております大多喜・品川間の高速バスの運行状況につきましては、12月の利用者は260名、１月の利用者は551名で、合計811名の方にご利用いただき、46日間で１日平均17.63人の利用客でございます。

分析といたしましては、運行してから２カ月半という時期もございますが、大多喜町からの利用者は、当初予定していた利用者数よりも多いスタートだと思っておりますが、品川駅、羽田空港方面からの利用者が少ない状況ではないかなということでございます。これは、１つは、大多喜町の皆様及び近隣の方への周知不足及び東京圏の方への宣伝が不足していることと、さらに関係者との協議が不足していると分析しております。

今後の見通しにつきましては、スタートしたばかりで、運行状況を見ると厳しいものがございますが、黒字化を目指して一人でも多くの利用者の増加を図る予定でおります。

○議長（志関武良夫君）　11番野中眞弓君。

○１１番（野中眞弓君）　それだけですか。売り上げとかはどうなっていますか。今まで、補助金などはもう既に出してはいるんですか。

その補助金関係でいうと、もし出しているとすれば、バス会社に対しては幾ら出し、利用者割引みたいなものもやるということでしたが、それも、もしも出しているようでしたらお願いします。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　バス会社に対する補助金につきましては、今年度分については、平成28年度で精算というような形を考えております。

それと、利用者に対する補助金でございますが、団体に対する方の補助金というものもございます。これについては今のところ１件だけ、３月１日に申請がございます。

（「個人ですか」の声あり）

○企画財政課長（西郡栄一君）　これは団体で、学校で使っていただいております。

それとあと、学生に対する補助ということでもう一件ございます。これにつきましては、

今現在３名の方が利用していただいている状況でございます。

○議長（志関武良夫君）　11番野中眞弓君。

○１１番（野中眞弓君）　今、２つ答弁がありました。数字をいただいたんですけれども、事前の計画というか、想定からすると達成率はどのくらいですか。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　当初の予定といたしまして、議会の全員協議会の中でもちょっとお話をさせていただいたものがございますけれども、これにつきましては、初年度は１日当たり16名ということでの計算をしてございます。

○議長（志関武良夫君）　11番野中眞弓君。

○１１番（野中眞弓君）　わかりました。

先ほどいろいろ、協議不足だとか宣伝が足りないとかとおっしゃいましたけれども、今後の見通しについてどのように考えていらっしゃいますか。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　今後の見通しといたしましてですけれども、一番初めにご報告させていただいた全員協議会の中では、費用的なものといたしまして9,846万3,000円ということでご報告をさせていただいているところでございます。この中で、段階的に利用者のほうをふやしていって、５年目には何とか黒字化をしたいということでお話をさせていただいております。

本年度につきましては、今のところ１日当たり16名ということでございますけれども、最終的にはやはり黒字化を目指すということで、これからいろいろな面で対策をしていかなくてはならないというふうに考えております。

○議長（志関武良夫君）　11番野中眞弓君。

○１１番（野中眞弓君）　これから対策をしていかなければならないということをおっしゃいましたけれども、その対策について、また余分なお金がかかるというような対策ではありませんよね。

例えば、全員協議会のときだったかと思いますけれども、高速バスを利用したバスツアーなどを計画してもらってと言うんですけれども、高速バスを利用したバスツアーで船子まで来て、その後の足なんかもまた町が用意したそういうもので回るとかと、そんなのをやられたら町民としては許しがたいという思いがあります。

それを確認しておきたいと思うことと、要するに附随して、バスの乗客をふやすための事

業を組んだときに、新たにそこで税負担というか、町からの財政負担がかかるようなことは絶対になさいませんよねということを確認しておきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　まず、財政負担ということでございますけれども、１点、町のほうで、私のほうで全員協議会で皆様にご説明した内容が相違していた点をここでちょっとお話をさせていただきたいと思います。

高速バスの事業費でございますけれども、今のところ、５年間で１億5,000万というふうに考えております。この高速バスの運行に関しましては、全員協議会で皆様にご説明させていただきました年間運行経費に消費税を加算していないということが判明しました。

説明させていただいた資料に誤りがあったことについて、この場をおかりしておわびを申し上げます。

また、全員協議会でご説明させていただきました年間経費につきましては、平成25年度の実績ということでご説明させていただきましたが、平成26年度の実績が昨年11月に提出されました。この平成26年度の実績につきましては、一旦受け付け、補助の目安とすることとなっておりますが、燃料費の変動などもございますので、補助金を出す段階では十分に精査し、事業者と協議する予定でおります。

これはあくまでも計画上でございますが、５年目に黒字化を図るために増額となります額は５年間で5,539万2,000円と。うち消費税相当額が3,589万9,000円。平成25年度と平成26年度の年間運行経費の差額によるものが５年間で1,949万3,000円と試算してございます。

なお、当初ご説明させていただきました額は、５年間で、先ほども言いましたけれども9,846万3,000円でございますが、かなり大幅な増額となるような予定でございます。

それと、今後の対策ということでございますけれども、やはり交通網の整備というのは大切なものだというふうに考えております。通勤通学の利便性を高め、町民の定住化や移住の促進を図るために努めていくつもりでございます。

高速バスの利用増大に向けて、地域の方への高速バスの運行の周知、高校生や大学生への周知を行うとともに、羽田空港からのバスの乗り継ぎ、品川駅からのＪＲや地下鉄メトロを利用した旅行、さらに東京圏からの利用増大を図るため、ゴルフ利用者や観光客の誘致などの政策を実施していきたいというふうに考えております。また、モニターツアーとしても利用してもらい、利用客へのアンケート調査あるいは分析を行うことなども必要だと考えております。

したがいまして、単に赤字を補塡するというよりも、利用増大のために何かをやっていくというようなことを考えていかないと、このままでは利用客がふえるというようなものはないと考えておりますので、そういった面では十分なセールスをしていきたいというふうに考えております。

○議長（志関武良夫君）　11番野中眞弓君。

○１１番（野中眞弓君）　これの最終的な計画で、9,800万円では終わらなくて、ほぼ１億5,000万円になるであろうということですけれども、この問題で、この高速バスを走らせることだったら、もう青天井に赤字補塡や補助金を出すつもりなのか。この５年間で１億円、高速バスに使う、補助金を出すということを聞いて、それはいいことだと言う人は一人もいない。計画どおりにいかなかった場合、５年も待たないで早期の撤退ということも考えているかどうか、伺いたいと思います。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　当面はやはり黒字化を目指して、例えば５年先で黒字化ということで計算はしてございますけれども、それをいかに早く人数を達成していくかというようなところで、努めていきたいというふうに思っております。

○議長（志関武良夫君）　11番野中眞弓君。

○１１番（野中眞弓君）　５年たったら黒字になる伸びと、これは５年たっても何ともならないという線があると思うんですね。ですから、もうこれは見込みがないのではないか、ほかにも、今、宣伝活動をするなんて言っていましたけれども、それにもお金が要ります。そういう附随したお金までかかると、本当に青天井じゃないかということを心配しております。そういうことにならないように、早目の撤退ということも入れておいていただきたいと思います、絶対。いかがでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　町長。

○町長（飯島勝美君）　この高速バスにつきましては、私ども考えておりますのは、何といいましても、今、大多喜町に限らず、皆さんどこの自治体もそうなんですけれども、人口減少というのは非常に深刻な問題でございます。ただ、その人口減少を解決できる市町村というのも、状況によってみんな違うわけでございます。

私どもの町にとりましては、やはり圏央道の開通という非常に大きな要素があります。この恩恵を受けられない市町村というのは幾らでもあるわけです。本町は、その恩恵を受けられる唯一の町であるということは間違いないわけです。

人口推計等も出された中で、大多喜町が消滅するのではないかという、そういうレッテルも張られたところでございますけれども、総合計画あるいは総合戦略の中でいろいろ皆さんからご意見を伺う中で、何よりも最大の課題は、少子高齢化の中でも少子化ということが最大の課題なんですね。その原因は何か。これはやはり若い方がどんどん大多喜町から転出するという、この現象をとめなければ、大多喜町は予想したとおり最終的には4,000人の町とかと、こういう話になるわけでございます。

今、我々がやるべきことは、これを何とかそういうほうにならないようにしていかなければならない。そういう中で、私どもは、若者の皆さん方のいろんなご意見の中で、ここでまず住むためには働く場所がない、あるいはこの町に住んで働く場所に行くことができない、こういう交通政策というのが若い方々の大きな考え方なんですね。

これから高齢化の中で福祉、いろんな医療とかお金もかかります。しかし、生産者世代がいなくなったときに、それを負担することができないんです。ですから、何としてもこれは、若い方々の定住化ということの中で、今、町がとるべき事業としてはやっていかなければいけない。そういう中で、私どもがなぜこの事業を進めたかというのは、ふるさと納税の中で何とか収入を得た中で、バス会社に赤字補塡をするということでなければ、走っていただけないんです。

これは、ある程度バス会社に対しての補償金なんですね。ですから、まずそのお金をつくって走っていただく。その上で、私どもは何もこのお金を使おうと思っているわけではなくて、一日も早く黒字化に進めていく。大多喜町の10年後、15年後、20年後に、大多喜町の若い世代がここに住めるようなまちづくりをするためには、何としてもこれを成功させなければいけない。

そういうことで、私どもは、お金を使うのではなくて、走っていただいた以上、これを黒字化に持って、我々は全力で進めていきたいと思いますので、これから青天井でお金を使うなんて考え方は毛頭持っておりません。

○議長（志関武良夫君）　11番野中眞弓君。

○１１番（野中眞弓君）　町長、私どもはというふうにおっしゃいましたけれども、私どもの中身は何なんでしょうか。少なくとも、このバスとか最近のいろんな出してくる事業については、職員もよく知らない、議員にも説明されていない。じゃ、町長が先ほど私どもは考えると言った、その私どもとは何だろうか、それを教えてください。

○議長（志関武良夫君）　町長。

○町長（飯島勝美君）　高速バスの運行につきましては、もう既に議会でも何度かお話もして、また承認もいただいているわけでございますので、これを知らないということではなくて、皆さんもご承知しているところでございます。

ただ、やはり黒字化に向けましては、今、走って２カ月余りでございます。ですから、走った中でいろいろ状況が見えてきています。ですから、対策はこれから打つわけでございますので、これから対策をこうやっていきますよとかというのは、またこれからお話をしていきたいと思います。

○議長（志関武良夫君）　11番野中眞弓君。

○１１番（野中眞弓君）　時間がありませんので、そのほかのことについては後々の方に追及していただきたいと思います。

２点目にいきます。ふるさと納税の件についてです。

16億円を超えるお金が集まっているとか聞いております。感謝券がネットオークションにかけられているという新聞記事が出たりして、町の皆さんの関心も非常に高くなっています。１年半過ぎました。この間の状況についてご報告をいただきたいと思います。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　ふるさと納税の平成27年４月から平成28年１月31日までの総額は、15億7,025万3,000円でございます。また、平成26年度からの繰越金と平成26年度の出納整理期間中に受け入れた寄附が4,252万2,000円ございますので、累計では16億1,277万5,000円でございます。

平成26年度からの繰越金を含めますと、本年１月末日現在では、目的別の金額といたしまして、美しく快適なおおたきを目指した自然環境の保全及び自然環境を活かした地域の活性化事業276万7,000円でございます。子供からお年寄りまですべての町民が健やかで安心して生活できるおおたきを目指した社会福祉事業が97万4,000円、ふるさとの交通基盤である鉄道沿線とバス路線への支援及び沿線の環境美化推進事業144万3,000円、文化財の保護及び地域の伝統・文化等の伝承事業66万2,000円、ふるさとの農林業及び商工業の振興に関する事業22万2,000円、高速バス運行事業2,217万4,000円、面白峡遊歩道整備事業9,668万6,000円、返礼品等への充当予定額11億2,209万3,000円、町長がまちづくりに必要と認める事業３億6,248万5,000円でございます。

また、返礼状況につきましては、ふるさと感謝券が14億9,416万6,000円、返礼品が7,576万7,000円で、主要な返礼品といたしましては、順不同ではございますが、養老牛バーベキ

ューセット、地酒のセット、ハーブクッキングセット、大多喜の純粋蜂蜜、養老渓谷宿泊プラン、大多喜町産タケノコ、新米コシヒカリ、れんげの里のアイスクリーム、切り餅、ムーミングッズとい鉄食品のセットがございます。

（「その資料、プリントアウトしてよ」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　11番野中眞弓君。

○１１番（野中眞弓君）　ありがとうございました。

何の事業に寄附をしてくれますかという、その目的をふやしたのはいつごろですか。去年の段階だと、バスと遊歩道と町長がというその３点でしたよね。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　先ほど申しました中ですけれども、前の使途ということで、前にその目的があったものがございます。それを変えて……

（「変えたのはいつのことですか」の声あり）

○企画財政課長（西郡栄一君）　昨年の３月ごろだったと思うんですが、ちょっと記憶が、今手元に資料がございませんけれども、規則を変えております。

（「３月にですか」の声あり）

○企画財政課長（西郡栄一君）　日にちについては、ちょっと規則を後で確認したいと思います。

○議長（志関武良夫君）　11番野中眞弓君。

○１１番（野中眞弓君）　それはいいんですけれども、寄附金の７割、10億円のお金が町内に落ちているというか、落ちつつあるという状況であります。10億円というのはぴんと来ないんですけれども、本町の産業で10億円の返礼品、きちんと品物のいいものを返すというキャパというか、大丈夫なんでしょうか。物が足りなくなるとか、何でもよくなるとか。

○議長（志関武良夫君）　町長。

○町長（飯島勝美君）　ふるさと納税の、私ども大変高額なものをいただいたところでございますけれども、私どもがまずふるさと納税を始めるときの基本的な考え方がございます。確かに返戻率とかそういう問題もあるんですが、何よりも信用を第一にしようということがまず原点にあるわけです。ですから、ふるさと納税の商品を扱うところをきちっと管理できる形の中で、ある程度明確にしていこうということで、そこで品質をきっちり管理していただこうということでやってきております。

そういうことで、基本的に扱うのが、観光協会とたけゆらの里、そしていすみ鉄道の３つ

の方向で今やらせていただいています。特にこの３カ所で、商品については徹底的に品質というものを管理していただいております。

ふるさと納税の中で一つ問題になっておりますのが、実は返礼商品のクレームが各地で非常に多いんです。それで非常に困っているところもありますが、私どもの今の返礼品につきましては、そういう品質管理を徹底しているということの中で、ほとんどクレームというものは今、これだけのものがあって、ないというのが現状でございます。

特に、今回は感謝券が結構多いものですから、大多喜町の商工業、農業あわせて、全ての産業に万遍なくその感謝券が使われているということで、非常に地域経済にとっては物すごい効果があるのかなと思っています。

○議長（志関武良夫君）　11番野中眞弓君。

○１１番（野中眞弓君）　私がおととしの９月議会で、ふるさと納税の返礼制度を充実させたらいいんじゃないか、長野県阿南町というところでは、町がお米を使って返礼品をやったんですけれども、公社をつくって雇用の場を確保したと。大多喜町では、何か町長の話を今聞いてみますと、ふるさと納税をしてもらうための信用という感じがするんですね。

私たちが求めているものは、ふるさと納税の制度を使って返礼品を贈る中で、雇用がふえて、ある程度ここで生活していける見通しの立つようなものを町がリードして、リードというのは、前からだけではなくて後押しもするのだけれども、そういうきちんとした産業に結びつくような取り組みというのは必要ではないかと思うんですけれども、その辺が行われているのかどうか、産業振興課長に伺いたいと思います。

○議長（志関武良夫君）　町長。

○町長（飯島勝美君）　私のほうで、その後で産業振興課長に答えていただければいいと思うんですが、地域にふるさと納税が、例えば未来永劫続くという保証は私はないと思っているんです。ですから、これはいつ国のほうはふるさと納税のはしごを外すかわからない中で、新しい組織をつくってやるというのは、やっぱり非常に危険であるということが１つあります。

もう一点は、今、雇用を生むという形は、今の形でも十分雇用は生んでいるところなんです。それは何かといいますと、皆さんの商品が売れるということは事業が繁栄しますので、当然その事業体はそれぞれ人が必要になれば雇用しますので、それは形は変わりますけれども、そこにそれだけのお金が入るということはやっぱり産業が活発になりますので、当然そこに人が必要になります。ですから、プロセスは違うにしても、雇用につながるということ

は間違いないということで思っています。

あとは産業振興課長のほうで。

○議長（志関武良夫君）　11番野中眞弓君。

○１１番（野中眞弓君）　町長がそういうふうにおっしゃるには、それなりの根拠があると思うんです。具体的な固有名詞は要りませんけれども、何とか商店ではとか、何とか産業ではこういうふうな動きが起きていますとかという例というのは、町長はちゃんとキャッチしているんですか。

○議長（志関武良夫君）　町長。

○町長（飯島勝美君）　そういう事例は幾つか私もキャッチしております。それで、実際にもうちょっと拡大しようかという話もありますけれども、これはちょっとまだ、ふるさと納税の先行きは私どもは保証ができませんので、そこは慎重にやってくださいという話をしております。

しかしながら、現状の人では足りないという話も聞いておりまして、それは幾つか私のほうに入っております。

○議長（志関武良夫君）　11番野中眞弓君。

○１１番（野中眞弓君）　実際、商工農に携わっているのは産業振興課だと思います。事務的な、お金を受け取るところは企画財政課なんですけれども、実際、返礼で町民のところにお金が落ちているというのを把握しているのは、そちらじゃなくて産業振興課だと思いますので、どんなふうなのか。

○議長（志関武良夫君）　産業振興課長。

○産業振興課長（野村一夫君）　実際、たけゆらの里、観光本陣といすみ鉄道ということで、全体的に商業関係、農業も含めて品物は返礼品として出ていると思っています。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　それでは、ふるさと感謝券の取扱店ということなんですけれども、２月１日現在で97店舗ございます。これは旅館とかゴルフ場、レジャー施設、飲食店、商店、あとはスタンドとかタクシーの業者もございます。例えばゴルフ場だとか旅館等、泊まるという意味では、それぞれ利用客がふえているというようなことでは考えております。

○議長（志関武良夫君）　11番野中眞弓君。

○１１番（野中眞弓君）　わかりました。

だけれども、これをきっかけに、大多喜の品物は本当にいいんだよ、それでリピーターが

つくような。それによって地元の、先ほど町長は、ひたすらベッドタウンとしての大多喜みたいなことで、人口定着というようなこと、定住化というようなことを捉えているというふうに私はとったんですけれども、そうではなくて、やっぱりここでなければならない産業をきちんと、掘り起こすというのはおかしいんですけれども、掘り起こして、そこに携わる地域の資源に基づいた産業を興していかなければ、本当の人口の定住化はできない、成功しているところは大体そうです。

だけれども、よそからのベッドタウン、東京から余りにも離れ過ぎている、しかも通行料も高いアクアラインが地震でもしかして通れなければ、長いこと通勤も大変になってくるという状況で、単純な定住化対策としての高速バス、そして、ただ集まればいいみたいな感じのふるさと納税の返礼品、そういうものに対してもっと掘り起こしていただきたいなと思います。

もう一つ、私は勉強不足で誤解していたんです。町がふるさと納税の使途については３つしかやっていなかったと、それはないじゃないかと思ったら、今いろいろありました。ですから幅広く、いすみや勝浦なんかを見ても、ハードというよりか、ソフト面にかなりお金を使えるような事業で募集しています。大多喜町でも、今、企画財政課長から報告があった以外にも、もし必要とあらば拡大するという考えは、町長、あるでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　町長。

○町長（飯島勝美君）　ふるさと納税につきましては、今、野中議員さんのおっしゃいましたように、やはり何よりも、よそから来ることよりも、地域の人がこの大多喜町から離れない、この地に生まれてこの地に育って、この地で頑張っていただくというのが基本であることは間違いないんです。ですから、ふるさと納税を通じて大多喜町のいろんなものをブランド化していく、高付加価値をつけていく、これが最終的な目的でございますので、これが第一にあることは間違いありません。

それで、今、ふるさと納税について、その先はどうかということでございますので、当然私ども、ふるさと納税につきましては３つの目的を持って、主には２つですね、２つの目的を持って始め、あともう一つは町長の政策ということで、これに補塡していただくわけでございますけれども、ただ私どもが想定した以上のものが入ってきております。

これから、若干鎮静化をさせたいと思いますけれども、ただこれが続く限り、ある程度のものは見込めると思いますので、その目的を達すれば、この後はそれぞれ目的に合って進めてまいりたいと思いますが、今年度を含めて今見込みとしては、先ほど課長からありました

ように、高速バスで１億5,000万円、遊歩道で１億5,000万円、そして実は、先ほどお話にもありましたけれども、広域ごみ処理建設が当面中止ということになりましたので、これはまたこれから、それぞれその事情は、町の財政としてこの建設は無理であろうということの中で、基金をためようということでありますので、そこに１億積み上げて、またそのほかにまだ、最終的に３月までには出ませんけれども、今の予算上でいきますと１億ちょっと、また３月末にいきますと１億5,000万円を超える数字は、目的を持たない形の基金で積み上げていきたいと思っています。

そして、今、野中さんのおっしゃいましたような、地域の皆さん、それから議員の皆さんからのいろんな要望の中で、これらの金につきましては、目的を達したものについては終わって、それから先について、お話のあったような形で進めてまいりたいと思っています。

今の１億5,000万円を超えるであろうという目的を持たない基金を考えるわけですが、その中で私どもが１つ進めていこうかなと思いますのは、子供の皆さんの遊び場がないということで、かねてから話をしていました遊具、こういったことはまず１つ考えようかなとは思っていますが、そのほかにもいろいろ皆さんから、また地域の皆さんからのご要望をいただきながら、これからの基金につきましては目的はある程度見えてきましたので、そういったものに使うことはもう十分可能だと思います。

○議長（志関武良夫君）　11番野中眞弓君。

○１１番（野中眞弓君）　１億5,000万円くらいのお金を、目的を決めないで使う可能性はあるという答弁だったと思います。それはそれでわかりました。

時間がありませんから次に進みますが、そのふるさと納税を使って、私は実現してほしいことが２つあるんです。

何かというと、町長の話を聞いていると、やはりふるさと納税のお金はみんな形に見えるもの、ハードウエアばかりです。住民が求めているのはそうではないと思うんです。今、私も年寄りです、もうすぐ車を運転できなくなるかもしれないと思っています。あのタクシー、週に一遍では足りないんですよね。遠くの人は、やっぱり週に一遍割引してもらっても困るんです。もっと、買い物を忘れた場合だって、急にお医者さんに行かなきゃいけない場合だってあるし、本当にいすみ市みたいなタクシーを走らせて、要するにデマンドですね。

あと、本当に国保が高くて年金が少なくなっちゃって、仕事もやめちゃっているしという、国保を安くしてほしいという願い。それから、子供が学校に持っていくお金が多いという不安。そういうソフトのものについて、町長は今まで、ほとんどお金がないということで実現

を、前だったらまず住民の暮らし第一という感じで福祉を充実させてきたけれども、ここのところずっとそれが停滞している。

それで私は２つ。ここに１億5,000万円というお金があるということがわかりました。国民健康保険の子供の均等割を軽減か免除していただきたい。それを行うには幾ら必要なのか伺いたいと思います。

○議長（志関武良夫君）　税務住民課長。

○税務住民課長（市原和男君）　それでは、子供分の国民健康保険税の均等割を減免あるいは免除というふうなことで、お答えをさせていただきます。

国民健康保険につきましては、加入者の年齢構成や医療費は高い一方、所得水準が低いことなどから、他の被用者保険と比較いたしますと保険税の負担が重くなっており、野中議員のおっしゃるとおり、保険税の算定に資産割や加入者全員の均等割が課されていることも、その要因の一つと考えられます。

保険税の負担の軽減を図るため、国民健康保険制度の中では、世帯の所得や加入者数に応じて均等割、平等割の軽減、あるいは軽減世帯数の状況に応じて、国・県から基盤安定負担金の交付を受けております。

また、町でも保険税の負担軽減、財政の健全化のため、加入者１人当たり１万円を超える法定外繰入金を一般会計から負担しておりますが、国民健康保険の単年度収支は歳出が歳入を上回る厳しい状況となっております。

そのような中で、子供分の均等割を減免あるいは軽減することは、子育て支援の一つとも考えられますけれども、軽減を行うことにより減収となる補塡財源をどうするのか。また、お子さんのいない世帯へ減収分を転嫁した場合、そのような世帯の負担が増加することが懸念される。また、相互扶助という制度の中で負担の公平など、これらを考慮いたしまして、均等割を減免あるいは軽減することは考えておりません。

軽減額の試算でございますけれども、初めに18歳までの被保険者の数を申し上げます。18歳までの加入者数で318名、加入者全体の9.8パーセントでございます。年齢ごとの内訳を申し上げますと、就学前のお子さんが90人、小学生103人、中学生65人、高校生60人となります。

保険税の課税に当たりましては、世帯の所得状況に応じて均等割額等が軽減される場合もございますけれども、今回の試算では軽減がないものとして算出をさせていただきました。なお、均等割につきましては１人当たり年間３万4,200円でございます。

軽減の試算でございますけれども、18歳まで全員を減免した場合の軽減額1,087万5,000円、15歳まで全員を軽減した場合882万3,000円、中学生を減免した場合222万3,000円、小学生を減免とした場合352万2,000円、就学前のお子さんを減免した場合307万8,000円でございます。

以上です。

○議長（志関武良夫君）　11番野中眞弓君。

○１１番（野中眞弓君）　町長、いかがでしょうか。そのくらいのお金でできるんですけれども。

○議長（志関武良夫君）　町長。

○町長（飯島勝美君）　今、課長の答弁した、大体内容としては私はそのとおりだと思います。

（「ちょっと時間がありませんので、そのくらいだったら１億5,000万の中から出せるよとか、それを端的にお答え願いたいと思います」の声あり）

○町長（飯島勝美君）　私どもは、支援についてはいろんなプランの中で考えておりまして、この部分だけではどうかということではなくて、全体の中で今私ども策定していますので、この件についてはちょっと、それはなかなかそぐわないのかなと思っています。

○議長（志関武良夫君）　11番野中眞弓君。

○１１番（野中眞弓君）　４年前に私、これをやったときに、町長は、町の財政はほかの町から比べて劣っていることではないので、全くやらないということではないけれども、ことしは考えていないと、いろいろ考えてまいりたいと思いますと、この４年間で私は考えていただいたと思うんですけれども、国保の置かれている状態は、先ほど課長は不公平だから、相互扶助だからと言うけれども、社会保障です、相互扶助ではありません。社会保障です。社会保障というのは、行政がきちんと生きる権利を守ってあげることだと思うんです。

240万の年収で、奥さんが働いていないで子供が１人の家庭、これは共済でしたよね。健康保険に幾ら払うかというと、雇用者の負担が半分ありますから、役場の職員だったら18万で済みます、１年間。ところが国保の家庭はどうかというと、同じ条件で、240万で夫婦２人に子ども１人、41万のお金を払わなければなりません。そこのところに、赤ちゃんがおぎゃあと生まれてきたら、国保のお金は、赤ちゃんですら高齢者医療制度の支援金を九千何ぼぐらい払い、自分の保険料分を払わなきゃいけないんです。だけれども、サラリーマンの家庭だったら、赤ちゃんが生まれてきてよかったね、赤ちゃんには支払い能力がありませんから。国保の均等割は、子育て世代にとってはそういう理不尽な課税がされているんです。

この４年間、町長がどのように心の隅に置いておいてくださったかわかりませんけれども、この町で若い人に暮らしてもらうために、きれいな言い方じゃありませんけれども、暮らしている人のためと、町に引っ張るために差別化というか、ほかよりもうちのほうが子育てを頑張っているよと。今、医療費は大体中学３年生までそろいましたから。

私は、この町に住んでくれている若い人たちの応援と定住化のために、国保の子供の均等割をできれば免除してもらいたい。そうでなければ軽減で、３割軽減だと、私の計算だと323万円で済みます。高校生までやってです。２割軽減だと215万円で済みます。１割軽減だと108万円で済みます。１億5,000万円の中からそれだけ出すとすれば、何十年出せるでしょうか。かなり出せるはずです、それだけではありませんけれども。

うんと所得の低い人たちには７割軽減というのがありますから、７割軽減の方が残りの３割をこちらのほうで、町の独自の軽減制度を適用してもらえば、低所得の方は均等割を払わなくても済むわけです。そういう点で何としても軽減をしていただきたいというのが１つです。

もう一つ、ついでにやります。均等割については24年の１回目の議会でした。２回目の議会では給食費の軽減というのをやりました。県内外で既に給食費の軽減、全面的に無料化しているところも４年前から既にありました。

私が今これを出したのは、ＴＰＰと、それから去年からの米価の大暴落を受けて、日本の米作はどうなるんだ、子供の食べるものは安全なのかという気持ちがありまして、給食費も軽減して子育てだよという一環もあります。

単に給食費を軽減するのではなくて、米作農家を保護するという意味、ＴＰＰから農家を守るという意味もあって、少なくとも給食のお米を町が一定の値段で買って、それを給食で使い、その分の給食費は軽減する。そういうことをふるさと納税の財源でやれないだろうかという提案です。もしそれをやるとしたら１人当たり幾ら安くなるのか、教えていただきたいんですけれども。

○議長（志関武良夫君）　野中眞弓君に申し上げます。残り時間10分となりました。よろしくお願いします。

教育課長。

○教育課長（野口　彰君）　学校給食費の軽減についてのご質問でございますけれども、経済的理由により就学困難な児童・生徒に対しましては、生活保護法に基づき国や県から学校給食費を含む教育扶助がされております。また、生活保護に準ずる程度に生活困窮している一

定所得以下の世帯の児童・生徒に対しましては、町が教育扶助をしております。

保護者の負担能力からいたしましても、ここ数年は現年分学校給食費の滞納がないことから、現在保護者に負担していただいている学校給食費は妥当であると考えておりますが、学校給食費、保育料の軽減につきましては、野村議員さんを初め多くの議員さんから要望をいただいておりますので、子育て支援といたしまして既に検討しているところでございます。

また、他の自治体の軽減策を適用した場合の経費負担についてでございますけれども、現在、県内54市町村中16市町村が学校給食費の軽減措置を講じております。学校給食費を全額無料としている市町村はございませんが、小・中学生の学校給食費を半額助成しているところや一部を助成している自治体、また、子供の多い家庭への支援といたしまして、第２子は半額、第３子から無料、あるいは第４子から無料としている自治体もございます。その他の自治体では、米や野菜等、地産地消を推進する目的で食材費の助成を行っております。

本町が他の自治体の学校給食費軽減策を講じた場合の経費でございますが、小・中学生の給食費を半額助成した場合、年間1,503万9,000円、一部助成、これは月額、小学生500円、中学生600円とした場合は329万3,000円となります。

地産地消を推進するために、給食で使用するいすみ米を全て助成した場合は、年間230万8,000円でございます。

○議長（志関武良夫君）　11番野中眞弓君。

○１１番（野中眞弓君）　先ほど課長の答弁の中に、第２子以降半額とか第３子以降無料とかとあった。それも私は必要だと思うんです。保育園までがそういう傾向になってきて、小学校、中学校に上がると９年間という在学期間がありますから、やっぱり１回に１人3,000円だ、4,000円だというのは非常にきついときがある。そういう意味では、多子家庭に対しての割引というのも保育料と連動させて、これも早急にやっていただきたいなと思うんです。

田舎が田舎らしいためには、たくさんの人が住んで荒らしてはいけない。さっきのバスの問題でも、こっちへ連れてきたはいいが、あちらこちら荒れ果ててというのは、やっぱり観光地としてもみっともない話で、それにはあらゆるところでマンパワーで、若い人たちに暮らしてもらわなきゃならない。それに対して全面的に援助するというのは当然じゃないか、１億5,000万円それに使っていいじゃないかと私は思います。町長、いかがでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　町長。

○町長（飯島勝美君）　１億5,000万円の使い道でございますけれども、これはいわゆる貯金という考え方になりますので、先ほどの国保の関係もそうだし、給食費の問題もそうなんで

すけれども、これは持続可能な財源でなければなかなか難しいなと思っています。

ですから、我々は、さっき課長の答弁にもありましたように、既に検討しているということでやっておりますので、どちらにしても若い方が暮らしやすいような形の中で、どれが一番有効なものか、今模索しているところでございまして、それをどういう形で持続可能な財源をつくるかということでも、今検討しております。

これはいずれ結論が出た段階で、また議会のほうにもお話ししたいと思いますが、とりあえず当面、28年度の予算ではちょっと間に合いませんでしたが、そういうことが可能になり次第、いつでもそれは進めてまいりたいと思っています。

ですから、国保に限らず、保育料に限らず、給食費に限らず、どれか一番可能で現実味のあるもので進めてまいりたいと思っています。

○議長（志関武良夫君）　11番野中眞弓君。

○１１番（野中眞弓君）　持続可能といったらいつになってもできません。とりあえず３年間分は確保できたとか、会社の経営だってそうなんじゃないですか。とりあえず困っているときには目先をどうしのいでいくか、今、アベノミクスで安倍さんは自画自賛しているけれども、総務省の出した数字というのは、ここへ来てがたんと悪くなっています。

働いている世代というのがやっぱり厳しい、子育て世代は厳しい。子供の貧困というのは親の貧困そのものなんですけれども、６人に１人の子供が悲惨な状況にある。それから、給食費に滞納がないと言ったけれども、それはお金が出たときに滞納している分をもらっているということですよね。そういうのもなくて、皆さんきちんと納められるんだったら困っていないでしょうけれども、渡さなきゃいけないお金を役場のところで事前にとっちゃっているわけですから、それはもしかしたら本来的には法律違反ではないかと思うんですけれども、この町でとにかく暮らしやすい、若い人たちが定着するのは、子供を育てるのにお金がかからないことです、まず１つは。少なくとも義務教育の全ての経費を、それだったら無料にしていただきたい。それを目指していろんな事業を検討していただきたいと思いますが、飯島町長になってその速度が、私はずっと落ちているような気がします。

初めに戻りますけれども、ゆめゆめ、さっき１億5,000万円バスにかけるとおっしゃいましたけれども、どうぞ9,800万円でおさめていただけますよう重ねて要望しまして、私の一般質問を終わらせていただきます。

ありがとうございました。

○議長（志関武良夫君）　一般質問の時間ですが、今ここでしばらく休憩をとりたいと思いま

す。10分間休憩をとります。

（午前１１時３９分）

○議長（志関武良夫君）　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午前１１時４８分）

○議長（志関武良夫君）　一般質問ですが、２番野村賢一君にお願いします。

ちょっと休憩をとって、時間が10分ほどしかないんですが、午後１時からの一般質問でよろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　では、時間がちょっと中途半端な時間になっちゃって申しわけないんですが、午後１時からの一般質問とさせていただきます。ありがとうございます。

では、１時からの再開とします。

（午前１１時４９分）

○議長（志関武良夫君）　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後　零時５９分）

◇　野　村　賢　一　君

○議長（志関武良夫君）　５番野村賢一君の一般質問から始めます。

５番野村賢一君。

○５番（野村賢一君）　久しぶりの一般質問で、３日前から風邪を引きまして声がかすれて、耳のほうもちょっとがーんときているので、答弁する課長さんたちは大きな声でゆっくりしゃべっていただかないと、私のほうは理解できないところがあるので、よろしくお願いします。

それでは、学校統合について質問したいと思います。

去年、大多喜小学校、上瀑小学校、総元小学校、小学校の統合は終わりまして、小学校は全部これで予定どおり２校になりました。中学校のほうはまだまだこれからだということで、私に言わせてみるともう一段落している場合じゃないと。人口減少の進む中、また過疎化が顕著に進む中で、今から統合問題を議論していかないと間に合わないんじゃないかと、こん

なような気がします。

26年12月議会で、一般質問で学校統合に関して質問しました。その日の答弁で、中学校の統合は考えていると答弁しましたが、まず１点目に、考えているということですから、何か話が統合に向かって進んでいるということだと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　教育課長。

○教育課長（野口　彰君）　教育委員会といたしましては、平成28年２月25日付で、西中学校及び西小学校保護者宛てに、西中学校の大多喜中学校への統合の是非についてアンケート調査を実施したところでございます。

アンケート調査の結果をもとに、さらに保護者や地域の皆様のご意見に傾聴しながら、統合の是非やその時期について、引き続き検討してまいりたいと考えております。

○議長（志関武良夫君）　５番野村賢一君。

○５番（野村賢一君）　もう少し具体的な答弁が欲しいんですけれども、アンケートをとったということばかりではなくて、その結果はまだ出ていないんですか。

○議長（志関武良夫君）　教育課長。

○教育課長（野口　彰君）　結果でございますけれども、アンケートにつきましては今週中までということでございます。その結果につきましては、３月中旬ぐらいまでにはまとまるのではないかというふうに考えております。

○議長（志関武良夫君）　５番野村賢一君。

○５番（野村賢一君）　３月中旬ね。

それでは、ここに前回の答弁書がございます。それをもとに質問したいと思います。23年の８月ですかね、教育長。適正委員会がどうのこうの、立ち上げて、中学校も考えてくださいよという答申があったと思います。

そんな中で、小・中学校の適正配置に関する計画の中では、中学校の統合については検討するという答弁がありました。現状は、検討するんですから、もう１年半以上もたっていますから十分検討してくれたと思います。いかがでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　教育課長。

○教育課長（野口　彰君）　野村議員さんおっしゃられたように、平成23年８月18日付で小中学校適正配置検討委員会の提言を受けまして、統合について進めておるわけでございますけれども、中学校２校については、学級生徒数が20人を下回る時期を目安に、町内１校に統合することが望ましいという提言を受けております。

統合ということになりますと、やはり保護者の方や地域の皆様の考え方、意見を十分聞く必要があるということで、今回アンケート調査をさせていただいたところでございます。

○議長（志関武良夫君）　５番野村賢一君。

○５番（野村賢一君）　同じく26年12月議会に、麻生議員がやっぱり統合問題で一般質問していると思います。その中で、麻生議員の一般質問への答弁で、中学校の統合につきましては、統廃合の状況を見ながら、保護者や地域の人々と相談してまいりたいという答弁がございました。

私に言わせれば、本当にせっぱ詰まっている問題だと思うんですよね。だから、小学校が統合したから一段落じゃなくて、もう次のステップに向かってもらわないと困るわけです。いかがでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　教育長。

○教育長（石井信代君）　ただいまのご質問ですけれども、23年８月に大多喜町の適正配置検討委員会の中で、小学校につきましては、統合は複式学級が生じたときに統合するということで、順次、老川小学校、西畑小学校が西小学校に、それから、総元と上瀑が27年度は複式学級が生じるということで、27年４月に統合を順次進めてきたわけです。

中学校２校の統合につきましては、１学級が20人以下の生徒数になったときに、地域の人、保護者と考えましょうということで、20人以下というのが一つの条件というか、話し合いの中で進めてまいりました。

28年度が初めて、西中学校が１年生、２年生、３年生全てが20人以下ということで、この２月にそれが決定いたしましたので、即アンケートをとって、とりあえず保護者の方々が、西中学校が大多喜中学校に統合することについてどうお考えになっているかということを確認するといいますか、保護者がどういうお考えでいるかということで、小学校と中学校の保護者にアンケートを今とっているところであります。そのように進めております。

○議長（志関武良夫君）　５番野村賢一君。

○５番（野村賢一君）　私にしてみれば、教育委員会とか適正委員会とか、それは確かにいろんな計画で通らなきゃいけない道かもわかりませんけれども、一番大事なことは生徒だと思うんですよ。生徒の教育に関しては、そういうことで振り回されたら子供たちがかわいそうじゃないですか、正直言いまして。

それで、後でまた話ししますけれども、現状だと、部活も幾つもない山村の中学校で、子供たちの教育にはあまりよくないと思うんですよね。やっぱり大勢で生き生きとしてやった

ほうが、いろんな意見もあるし、子供たちのためになると思うんです。今の子供というのは、私らのときと違って、山村の子供たちは、今はもう町なかに出てくれば、全然引け目を感じなく対等につき合っています。

この前、教育長に聞きましたけれども、小学校を統合してもそんなあれは全然ないよと、仲よくやっていますよと、そんなような話を聞いて安心したところなんですけれども、この件は、私、一議員が早く統合しろと言っても難しい問題と思いますけれども、本当に将来のことを考えたら検討してもらわないと、検討といいますか、そういう方向で進んでもらわないと、それこそ、先ほど来、野中さんの質問の中でもふるさと納税の件がいっぱい出ました。それも十二分に活用して、できるものはやると。それは子供のためですよ、正直言いまして。いかがでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　教育長。

○教育長（石井信代君）　野村議員さんおっしゃるように、今、西中学校で部活動というのが、男子は野球と卓球、それから女子がバレーボール、ソフトテニス、卓球ということで、男子の野球については10人いるということ、それから卓球は３人、これは１、２年生です、今現在の。バレーボール女子は３人、ソフトテニスが７人、卓球が男女３、３で６人、剣道が女子が２名と。

来年度につきましては、全校生徒数が45名です、今のところ。西中学校が45名ということで、議員さんおっしゃるように、中学校時代の部活動で学び取る力というのは、教室の中で数学、国語というだけでなくて、部活動で学ぶ力というのは、先輩、後輩あるいは顧問の先生に対する態度とか、あるいは吹奏楽もありますけれども、いろいろな大会に出たり勝ったり負けたり、そういうことで部活動で培われる生きる力というのは、非常に大きいものがあると思っています。

ただ、それは大勢の子供たちがいる中でやれれば、それはそれで最高だと思いますが、今、大多喜町の現状を考えたときに、老川の一番奥のほうだと、会所もあります、粟又もあります。そこから毎日大多喜中学校まで、スクールバスをやるとしてもかなりの時間等かかりますので、これは保護者の方々とよほど慎重に考えて話し合っていく。あるいは地域から学校がなくなるということにつきましては、やはり地域の方が、かなり歴史のある学校でありますので、そこでもし学校がなくなるような話というのは、今まで統合問題を検討してまいりましたけれども、大変な地域の方、保護者との話し合いが必要だと思っていますので、余り急いでやるということ、統合に反対の方ももちろんいらっしゃいますので、そこの辺はでき

るだけ大勢の方に、子供のことをまず第一に考えていただくような形で話し合いを持って、進めていきたいと考えています。そのためには、アンケート調査がやはり一つの大きなステップになるかなというふうに考えています。

○議長（志関武良夫君）　５番野村賢一君。

○５番（野村賢一君）　今、一番遠い生徒で、もし大多喜中学校へ来たら、キロ数はどのくらいありますか。

○議長（志関武良夫君）　教育長。

○教育長（石井信代君）　粟又だと、今、副町長にお聞きして、20キロぐらいでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　５番野村賢一君。

○５番（野村賢一君）　20キロぐらいでしたら、今、学校統廃合の中で、全国的にはもっと遠いところはありますよ、正直言いまして。それを、ある程度交通の便をよくして、中野ぐらいまできちんと送って、いすみ鉄道でどうのこうのと、それは幾らでもあると思うんです。

ただ、先ほど来議論していますと、正直言って、ここにある資料、27年５月１日基準の住民基本台帳でいきますと、西中学校は27年度が57名、現実的には52名。ということはもうここで５人。28年度は53人のところ実質上45人、もうここで８人。多分これ、大多喜中学校に来ている生徒がいるからこういう数字が出てくると思うんです。

なぜかと思うには、やっぱり部活をやりたいんですよね、子供たちは。いかがでしょうか、生徒の気持ちは。

○議長（志関武良夫君）　教育長。

○教育長（石井信代君）　来年、中学校１年生になる子供が、西小学校６年生が今21名いるんですけれども、西中学校に入る子供が17名ということで、４人の子供が移動しています。１人は特別支援学校に希望して行きます。あと３人は、ソフトテニスが２名、柔道が１名ということで、その部活動をぜひやりたいということで、大多喜中学校へ区域外就学という手続をとっておりますので、その部活動をやりたい子供にとっては、やはりやりたいというのはよくわかります。

○議長（志関武良夫君）　５番野村賢一君。

○５番（野村賢一君）　前回も教育長といろいろ議論の中で、部活というのは子供の教育課程において大変なものだよということで、お互いにその話はしました。

でも、今の子供は賢いですから、大多喜へ行けば部活もできるし、１チームで試合にも出られるし、こういうことが優先していますので、そこら辺は教育委員会としても認めている

わけですよね。そうであれば、もう少し前向きな統合に関して検討をしてはいかがでしょうかと思うんですけれども、ただ、どこに行っても反対者はどこにもいるんですよ、正直言いまして。子供のための反対じゃなくて、地域の学校をなくしちゃいけないとか、いろんな問題があるわけですよね。そういう中で反対する。しかし、子供のことを本当に考えているかといったら、それはもう違うと思うんです。教育長、いかがですか。

○議長（志関武良夫君）　教育長。

○教育長（石井信代君）　なかなかそこが難しいところで、近隣の小・中学校も今、学校統合を進めていますけれども、中には、小学校で１年・２年、３年・４年、５年・６年、全部が複式学級になっても統合はしませんというところもあります。

そういう保護者、住民、地域もありますので、そこはやはり子供のためを第一に考えて、保護者も住民の方も、説明を何回もして、そこを無視しては統合というのはできませんので、できるだけ早く、アンケート調査が出ますので、その辺はその結果を見て、議員さんがおっしゃるように、子供のためには早く統合して、大勢の子供の中でメリットがたくさんありますので、そういう方向で進んでいきたいとは考えています。

ただ、住民の方への説明とか、それを省くようなことは決してあってはなりませんので、そこはやはり意を尽くして、住民の方にご協力、ご支援をいただきながら進めてまいりたいと考えています。

○議長（志関武良夫君）　５番野村賢一君。

○５番（野村賢一君）　もちろんそうだと思いますね。地域が一緒になっていかないと、やはりうまくいく面もいかなくなってくる。

この件は最後なんですけれども、つい最近、基本構想・基本計画、いろいろ議論したばかりです。その中で、私の勘違いかわかりませんけれども、統合問題が全然のっていないんですね。子供のいろんな福祉とか何かはのっているんですけれども、統合に関しては一つものっていない。私は疑問に思いましたね、これを見て。

大多喜小学校ができ上がって、小学校の統合はまず落ちついて、今度は中学校ですよという感じでやっている中で、基本計画にのっていないということはどういうことなんですかね。ちょっと気に入らないんですけれども。

○議長（志関武良夫君）　教育課長。

○教育課長（野口　彰君）　平成28年１月会議で議決を得ました基本計画には、西中学校と大多喜中学校の統合についての記述はございません。あくまで保護者や地域の皆様のご意見を

尊重しながら、慎重に検討を進めてまいりたいと考えております。

○議長（志関武良夫君）　５番野村賢一君。

○５番（野村賢一君）　今、検討と言ったね。しっかり聞きましたよ。だから、少なくともものせておかなきゃまずいでしょう。これから５年間、どういう形で統合するにしても、将来的には本当に子供が少なくなる中で。課長、どうなの。

○議長（志関武良夫君）　教育課長。

○教育課長（野口　彰君）　あくまでも学校統合につきましては、小中学校適正配置検討委員会の提言を受けて進めてまいります。統合に関しましては慎重に進めるべきだと思っておりますので、総合計画にのせてしまいますと統合ありきかなというような印象も受けますので、特には記載はしてございません。

○議長（志関武良夫君）　５番野村賢一君。

○５番（野村賢一君）　それは違うよ。統合ありきなんていうのはわかりゃしないよ。やっぱりのせていないで統合した場合、じゃ５年後にどうなったかといったら、構想にも計画にもなくてさ。だから、子供たちが動揺、俺は今の子供はそんなことで動揺しないと思うね。それこそ自分たちが部活をやるほうがよっぽどうれしいね。そんなような感じがします。

いずれにしても、この件はぜひ、現実的にもう西中の生徒が大多喜中のほうに来ていると。ということは、子供たちも部活動で試合に出たり、それなりに結果を出していると思うんですよね。だから、ぜひここら辺は、教育長、よく考えてお願いしたいと思います。

正直言って成績はどうなんですか、西の生徒がこっちへ来て、部活動の対外試合とかそういうあれは。

○議長（志関武良夫君）　教育長。

○教育長（石井信代君）　やはりこういう少ない中での練習ですから、中には、バレーボール部などは、大多喜中学校に来て一緒に練習させていただくようなこともしていますので、やはり単独、西中学校として部活動、上のほうに行くというのはなかなかできにくい状況です。

それともう一つ、先ほど基本計画にこの統合がのっていないということですけれども、基本計画に統合を何年後に考えていますみたいなことをのせてしまいますと、これはまだ全く説明も何もしていないわけなので、それはまた非常なクレームがつくと思います。

一応23年に、教育委員会としては適正配置検討委員会で、この方向で統合については向かっていますということを知らせてありますので、そこでご勘弁いただいて、この基本計画に統合をのせるのは、やはりちょっと無理かなという思いはしています。

○５番（野村賢一君）　でも教育長、無理、無理と言われても、こっちは無理を承知で今質問しているんですよ。それをできないから、町主体で何とかしようではありませんかと投げかけているんですけれども、国がよくいう適正規模ですか、標準規模とか。12学級から18学級とか、これは全国的に見ると70パーセントぐらい、もうほとんど割っているという話が出ていますよね。そこら辺を考えると、いつまで枠内でとらわれているより、前向きな考えをしたほうがよろしいんじゃないですか。

○議長（志関武良夫君）　教育長。

○教育長（石井信代君）　議員さんに励まされていると思いますので、先ほどからも申し上げていますように、子供たちのためにどう教育環境を整えたらいいかと、これがやっぱり一番の問題だと思います。これについて早急に、地域、それから保護者、これを抜かしてはやれませんので、子供のためにいいですからといって無理やり、統合を来年やりますということになると、これまた子供の教育環境を壊してしまうことになりますので、そこは慎重に、かつ早急にやっていきたいと考えています。

○議長（志関武良夫君）　５番野村賢一君。

○５番（野村賢一君）　なかなか固くて、反対者がいるんでしょうね、西畑のほうでも統合に関しては。それはどこに行ってもいるんです。我々議会の中でも賛成、反対、結構いますから、そこら辺はもう少しグローバルの意味で考えて、また、先ほど来課長が言っているアンケートの結果が出ましたら、次の方向はどういう方向で進んだらいいかと、そこら辺、また我々も一緒に議論したいと思いますので、ぜひ報告していただければと思います。

続きまして、ふるさと納税のことなんですが、ほとんど午前中、野中さんがやっちゃって、我々はどうしたらいいかなと思って答弁を聞いていたんですけれども、とりあえず同じ質問はしたくないので、議長からの同じ質問はだめだという、最初からあれがありましたので。

１項目めの寄附金の総額は、午前中に聞きました。

また、返礼品の品物についてもいろいろありましたけれども、返礼品に関しては、やっぱり大多喜町の地域おこしのための地域産品だと思うんです。それが主体にならないといけないと思うんですよ。それが電気製品とかそういうものにほとんどいっちゃっていると。これは少し町として、何か事前にこういうことは、ふるさと感謝券が非常に、70パーセントも返すということで、そっちのほうばかり魅力がいって多額な寄附金もあったと、そんな話を聞いておりますので、ふるさと産品に関して課長はどう思いますか。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　ふるさと産品については、やはり議員さんのおっしゃられたとおり、町のいろいろなものをそこで紹介できるということで、物すごく効果があるものだと思っておりますので、これについては産品をもっとふやして、それでぜひもっともっと多くの産品をのせられるようにできればいいなというふうに考えています。

○５番（野村賢一君）　資料をもらってあるんだけれども、ふるさと産品でタケノコなんて全然出ていないよね。やっぱりおいしいところのタケノコは、直接市場へ持っていったり何かしちゃって、ないんですかね。大多喜町のブランド品はタケノコですから。

○議長（志関武良夫君）　町長。

○町長（飯島勝美君）　今、野村議員さんのおっしゃるとおり、タケノコについては限定というところになっていまして、どうしても、例えばふるさと納税で申し込んできますよね。そうしますと、本当にその商品が間に合うかどうかというのは、実は非常に難しいところがありまして、たけゆらのほうでも、確実に寄附された方々に贈れるような数量というのはある程度押さえております。そうすると、その数を出しますと即刻寄附で埋まってしまうんですね。それですぐ中止になるという状況で、ですから、その後の見込みが立てばまたすぐ出すんですけれども、それも出しますとすぐ埋まってしまうということで、実は商品が間に合わないというのが現状なところでございます。

○議長（志関武良夫君）　５番野村賢一君。

○５番（野村賢一君）　この件で、ちょっと質問外で大変恐縮なんですけれども、ふるさと納税の寄附金の使い方に関して、先ほども話がございましたけれども、高速バス、あと渓谷の遊歩道ですか、それとあと学校にピアノか何か、ふるさと納税で買ってどうのこうのという話を聞きましたけれども、１つここでお願いがあるんですけれども、ある日突然、規約、要綱が変わっているわけです。議会議員、誰も知らないんです、ふるさと納税はいつからその２つのあれになったのか。それと、この前の見舞金も100万が200万になった。今度、水道のほうでも要綱を、これは水道料を払わない人のためのどうのこうので要綱を考えている。

　こういうことは、我々議会議員が知らなくて質問した場合、おまえら、そういうことはわかっているんだろうぐらいの調子でやられた場合困っちゃうので、もし規則とか要綱とか変えた場合、事前にご連絡していただければと思うんですけれども、よろしいでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　それはふるさと寄附金の関係ということでお答えさせていただきますと、これについては、町のほうで変えた経緯というのは、できる限り具体的な事業

にしたほうが望ましいというようなお話がございまして、要は一番最初に決めてあったのは、どこの自治体でも同じような決まりなんですね。そうすると、ふるさと納税をするときに、やはり特色がある事業でないと、本来はその事業に対して寄附をするんだというようなことに基づいて変更させていただいたものでございます。

関連するということで、確かに議会の皆様には事前にはご報告していなかったので、この辺については大変申しわけないということで考えております。これからも多分事業が変更することになると思いますけれども、そのときにはこちらから、ある程度お示しできるものであればお示ししたいというふうに考えております。

○議長（志関武良夫君）　５番野村賢一君。

○５番（野村賢一君）　ぜひそうしてください。町のホームページを見ればわかるよなんて言われたら、パソコンを持っていない人なんかどうするんですか。どうやって調べたらいいかわかりませんよ。

だから、こうやって規約、要綱が変わりましたよと、要綱をつくりましたよと。大きな問題じゃないと思うんですよね。議論するのには非常にいいあれだと思うんです。この後、二元代表制がどうのこうので質問しますけれども、それはやっぱりお互いに情報交換して、議論するためにも絶対必要条件だと思います。ぜひお願いしたいと思います。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　私どもとしては、特に情報をクローズしているわけではございません。できる限り皆様に事前にいろいろな資料あるいは情報をお渡ししたいということで、また全員協議会なんかもお願いしているところでございますので、そういう要望に対して、できる限り議会のほうにもお答えしていきたいというふうに思います。

○議長（志関武良夫君）　５番野村賢一君。

○５番（野村賢一君）　よろしくお願いします。

この３月１日から、おとといから、ふるさと感謝券、上限が６万円だと、そういうあれを見ました。例えば100万でも上限は６万の感謝券しか出さないということで、そういう考えでよろしいでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　これにつきましては、若干ご説明させていただければと思うんですけれども、ふるさと納税につきましては、総務大臣から平成27年４月１日付で、地方自治法に基づく通知、技術的な助言がそれぞれ各自治体にされております。

１つは、返礼品の価格や返礼品の価格の割合の表示により寄附の募集をする行為を行わないようにすること。１つは、換金性の高いプリペイドカード等、高額または寄附額に対し返礼割合の高い返礼品を送付する行為を行わないようにすることでございます。

町のふるさと感謝券につきましては、新聞報道にもございましたとおり、インターネットオークションで転売されておりましたので、総務省で、換金性が高いことについて、また返礼割合が他の自治体と比較すると７割と高いということ、それと、大多喜町の特産品以外のものをインターネットで購入できるのではないかということについて、千葉県を通じて先月助言がございました。

町のふるさと感謝券は、東京圏から車で１時間程度という立地、養老渓谷の自然、大多喜城、町並みなどの観光、ゴルフ場、さらに大規模店が少ない商店街の特性を生かし、これを知ってもらう、来てもらう、使ってもらうことにより、町の観光や商業などの振興を図るとともに、移住や定住にもつなげるために実施しており、その効果も出てきております。

このため、総務省及び千葉県からの助言を真摯に受けとめ、ふるさと納税の趣旨を逸脱しない範囲で、ふるさと感謝券の存続に向けて改善措置を図ったところでございます。その中の改善措置の一つとして、感謝券の返礼の上限を６万円にすることにより、換金性の高い商品を抑制しました。

ほかに実施したものといたしましては、ふるさと納税のポータルサイト、ふるさとチョイスの感謝券に転売禁止の表示と、今まで扇形の写真が掲載されていたんですが、それを１枚の写真にしました。また、ふるさと納税をされた方への礼状を発送するのですが、その中に転売禁止の注意事項を加えて発送しております。それと、３月１日から実施したものとしては、感謝券の返礼割合を７割から６割に引き下げております。

それと、さらに今後、感謝券の表面に転売禁止と印刷したものに改めるとともに、取扱業者の方には適正な取り扱いをするように通知をしたところでございます。

○議長（志関武良夫君）　５番野村賢一君。

○５番（野村賢一君）　西郡課長、総務省か何か指導を受けてきましたか。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　これにつきましては、総務省から千葉県のほうに、指示するようにということで助言があったということでございます。千葉県のほうには一度伺って、協議をさせていただいております。

○議長（志関武良夫君）　５番野村賢一君。

○５番（野村賢一君）　メディアを見ていますと、読売新聞なんかにはよく出ているんですけれども、芳しくない、好ましくないという言葉がよく出ています。結論から言うと、これはだめだということですよね、芳しくない、好ましくないということは広く考えれば。そう捉えられませんか。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　この制度自体が、手探りで始めたというようなこともあろうかと思いますけれども、町のほうも本当に手探りで始めて、このような結果になったということでございます。

それぞれやりながら直していく、方向性を改めていくというのは必要なのではないかなというように思いますし、あと、国がそこまで制限できるものでもないということで、やはり自治体の裁量権の範囲で、適正な取り扱いというのは必要ではないかなと思っております。

○議長（志関武良夫君）　５番野村賢一君。

○５番（野村賢一君）　それと、税金のことでちょっとお伺いしたいんですけれども、ふるさと納税を大多喜町は受けて大分潤っています。これは、ことしはもういろんなことを考えれば、とても夢みたいな金額なんだと思いますけれども、ふるさと納税を受けた自治体は収入がふえるため地方交付税を減らされる。これは寄附金だから交付税は減らないそうですね。今度は国の地方交付税の特別交付税、これは減らされるというような話もあるんですけれども、いかがでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　議員さんのおっしゃるとおり、ふるさと納税の金額というのは寄附金でございますので、普通交付税の収入に加算されることはございません。需要の積算の中に地域経済・雇用対策費という項目がございまして、その計算過程で補正係数として使用されております。この地域経済・雇用対策に、仮に寄附金額16億円で計算しますと、平成27年度普通交付税で計算しますと174万4,000円減額するということになります。

特別交付税につきましては、ルール分ということで来ている分もございますし、３月の配分につきましては、災害とかそういったものも含まれてきますので、どれがどのぐらいになるというようなことははっきりしませんけれども、そういうおそれはあるかもしれないということで認識をしております。

○議長（志関武良夫君）　５番野村賢一君。

○５番（野村賢一君）　大多喜町は、この後、皆さん、ふるさと納税で手ぐすね引いていろい

ろ、その金を、基金をつくれとかいろいろ質問が出ていますけれども、議会としてもそのお金を何とか利用したいみたいな考えを持っているわけです。

１位は宮崎県都城市ですか。千葉県大多喜町が15億集めたとメディアで出ています。それと、２月８日の読売新聞の夕刊なんですけれども、金券の転売、この件で総務省から指導があったと。どういう指導があったんでしょうか。先ほど大体ざっぱくな話は聞いたんですけれども。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　先ほどお話ししましたとおり、地方自治法に基づく助言ということで、町のほうに連絡がございました。それは、文書とかではなくて口頭で、県を経由してこちらに来たということで、それに対して県のほうと協議をしながら、そして最終的に町で決定して、なるべく減らす方向で考えていこうということで、先ほどの上限の６万円というようなものを出させていただいたところでございます。

○議長（志関武良夫君）　５番野村賢一君。

○５番（野村賢一君）　最後に、私がかねがね町長さんのほうにお願いしている保育料の無料とか給食費の無料とか、おかげさまで医療費は中学生まで無料になりました。町長、ぜひこれ、３点セットの１つなんですけれども、ひとつお願いしたいんですけれども、いかがでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　町長。

○町長（飯島勝美君）　野村議員さんには、議会で何度かこういう質問を受けております。また、ほかの議員さんからもそういうご質問を受けておりまして、先ほど教育課長も答えましたけれども、既に検討しているところでございますが、ふるさと納税のお金というのはどっちかというと貯金に近いものですから、今、給食費の問題あるいは保育料の問題については、持続可能な財源というのが絶対に必要なものですから、その辺で今いろいろ検討しておりまして、私ども、水道事業に毎年一般財源のほうから、今年度は200万円ほど減らしました。同じように同額が県のほうからも減るわけで、400万円減らしたんですけれども、実は有収率を90パーセントに近い数字まで持ち上げたということで、有収率を約15パーセント改善したということから考えますと、水道の１立米当たりの給水単価を換算しますと、大体6,000万円ぐらいの効果があるわけですね、いわゆる回収したということになれば。これは年間です。

そういうことで、今まで水道事業もほとんど赤字の事業の中で、はっきり言いまして一般

の企業であれば倒産していたような企業でありますけれども、ようやく健全な水道事業になってきたということで、毎年、今の段階で町の一般財源の7,300万円、そして同じようなお金を県からもらうわけでございますが、そういう中で約4,000万円強の利益が出るようになってきたんですね。

本当は、それはそのまま減らせばいいんですけれども、長年ずっと状況としては何もできなかったという中で、要は除却しなければいけない資産、実は何もないのに除却をできなかったということで、決算上では残っていますので、そういったものを５年程度で除却しようということで今やっているんですが、そういったところをちょっと調整しながら、また、南房総の水をもうちょっと有効活用した中で、数百万のお金も出ますので、そういったことを調整してみながら、持続可能な財源として今どれが一番いいのかなと。保育料がいいのか、給食費の問題にいったほうがいいのかとか、そういうことをいろいろ検討しておりますが、いずれにいたしましても、これは28年度予算に計上しておりませんが、この辺の見通しがついた段階で早速実行に移したいと思っています。

これにつきましては、また議会の皆さんにご説明いたしますが、とにかく前にしっかりと進めてまいりますので、それは今のご質問にはお応えしたいと思います。

○議長（志関武良夫君）　５番野村賢一君。

○５番（野村賢一君）　前向きな答弁、ありがとうございます。よろしくお願いしたいと思います。

以上で終わります。

○議長（志関武良夫君）　以上で野村賢一君の一般質問を終わります。

◇　山　田　久　子　君

○議長（志関武良夫君）　次に、10番山田久子君の一般質問を行います。

10番山田久子君。

○１０番（山田久子君）　10番山田久子でございます。

議長のお許しをいただきましたので、通告に従いまして一般質問をさせていただきます。

最初に、ふるさと納税関係等、多くの先輩議員の皆様の後を受けます関係で、若干まとまりがないものとなるかと思いますけれども、よろしくお願いいたします。

本日は大項３点にわたり質問をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

初めに、大項１、ふるさと納税を用いた災害復旧・減災・予防対策基金の創設について、

お伺いをいたします。

近年、異常気象と言われる現況が見受けられる中で、本町でも風水害や雪害による河川や道路への被害が発生をいたしております。県や町におかれましても、さまざまご対応をいただいているところでございますが、その対象に至らない状況の中で、個人や区、地域での対応が難しいケースも発生をいたしております。地域住民の皆様から町へ要望が寄せられたことは、既に皆様ご存じのことではないかと思います。

町では、大多喜町災害見舞金規程を設け、災害救助法の適用をしない災害発生の際に見舞金を支給できるようにしておりますが、これは住民、住まい、非住まいへの災害が対象となっております。災害救助法の対象となる活動の種類の規定の中には、災害によって住居またはその周辺に運ばれた土砂、竹木等で日常生活に著しい障害を及ぼしているもの（障害物、豪雪災害時の雪も含む）の除去も含まれているようであります。

災害救助法とは少し意が異なるものかもしれませんが、大多喜町における災害で、道路や準用河川、普通河川の河川法に適用しない風水害、雪害、地震その他の災害により被害が発生し、地域住民の生活に支障が出てしまう場合など、その後の二次災害を含む災害のおそれが考えられる場合などに、のり面の修理や流木竹、土砂、土石、倒木竹等の障害物の除去や、その後の減災、災害予防対策に、ふるさと納税を用いた災害復旧・減災・予防対策基金を創設し、町長が認めた場合には、この基金を活用し対応したり、お見舞金の支給をしてはどうかと考えますが、町の見解をお伺いいたします。

○議長（志関武良夫君）　建設課長。

○建設課長（末吉昭男君）　ただいまの山田議員さんのご質問ですけれども、町では、まず建設課のほうで、とりあえずどんな災害があったかということでお調べいたしましたので、報告させていただきたいと思います。

平成26年の雪害で、葛藤筒森線で２カ所、笛倉中線で１カ所の決壊、それから堀切橋の流木による河積障害、堀切地先の宅地の裏の決壊等でございます。それと、倒木による通行障害等がありました。平成27年に入りまして、台風等の被害によりまして湯倉西部田線１カ所、板谷上線１カ所、黒原上野線１カ所、平野台１号線１カ所、笛倉中線、砂田橋の一部決壊がありました。

対応につきまして、現在ですが、26年の道路決壊につきましては、１カ所を除き補修済みなんですけれども、その残っている１カ所というのは、１回補修をしたんですけれども、工事の内容がちょっと甘くて、再度決壊してしまったという状況でございます。

26年につきましては、あとは倒木につきましても除去は終わり、通行障害も解除している状況です。そしてあと、町で対応できなかった分については、先ほども議員さんがおっしゃいましたように、個人とか区のほうで対応していただいております。

平成27年分につきましては、１カ所完了いたしまして、現在、１カ所対応中でありまして、順次対応し、補修してまいりたいと考えておりますけれども、砂田橋につきましては、今後、存続について協議してまいりたいというふうに考えております。以上が現状でございます。

以上です。

○議長（志関武良夫君）　産業振興課長。

○産業振興課長（野村一夫君）　農林関係の災害なんですけれども、風水害や雪害で発生したのり面の崩落や流木竹、倒木などの災害についてのご質問ですが、農林関係の災害は台風など降雨に起因する災害がほとんどですが、平成26年２月のときは、大雪が降った後に大雨が降り、大木が農地や排水路に倒れ、農道や橋に大量に堆積しました。これについては、国や県の農林関係の災害復旧事業には該当しませんでしたので、その処理については地元にお願いをいたしました。

以上です。

○議長（志関武良夫君）　10番山田久子君。

○１０番（山田久子君）　今お答えいただいたんですが、地元からそれぞれご要望いただいた中で、町として対応ができなくて地元でやっていただいたもの、またそのままになっているものというのは、具体的にどういったものがあったのか教えていただきたいんですけれども。

○議長（志関武良夫君）　建設課長。

○建設課長（末吉昭男君）　それにつきましては、やはり河川の流木関係が主なものでございます。

以上です。

○議長（志関武良夫君）　産業振興課長。

○産業振興課長（野村一夫君）　農林関係ですと、平沢のアシコ橋とあるんですけれども、農道橋なんですけれども、そこに流木が大雨に堆積しまして、それに対しては地元で対応していただきました。

あと、先ほど建設課長のほうからも話がありましたように、河川、水路、農業排水路等に立木が倒れたというのがありますけれども、それについては多くがそのままの状態であると思います。

以上です。

○議長（志関武良夫君）　10番山田久子君。

○１０番（山田久子君）　河川の流木ということでお話をいただきました。

今回、各地域、また個人でおやりになられたところもあると伺っておりますが、ある地域の関係者の方のお話を伺いますと、再三町のほうにお願いをした中で、結局区のほうでやることになったそうでございます。その区の場合は、区の戸数が多かったので、１軒当たりの賄い費用というものを何とか捻出することができた。だけれども、これが戸数の少ない地域では、とても今後こういう対応はできないのではないだろうかと、こういったお声もいただいております。

また、その区の場合におきましては、一度除去したものがまた流れてきたことによって、その流木が橋げたにひっかかってしまうと。そうしますと、変な話ですけれども、２度目は本当にやるのは大変なんだと、こういった問題がございます。

また、河川ののり面というんでしょうか、そういったところが崩壊をしまして、ちょっと間違えば家ごと落ちてしまっていたのではないかというような、そういう被害も考えられなくもないというような中で、何とかのり面から落ちた土砂を、また流木を、木々を、町のほうで何とか助けていただくことができないかと、こういったお話がございました。それも全て、自分の家はいいんだと、ただ川がせきとめられてしまうことによって、それが近隣の皆様に大きな二次災害として起こってしまう、これを非常に憂慮してのお願いでございました。

ただ、やはり一般の方がなかなか、川の中に落ちてしまった、高さのある崖から落ちてしまったものを片づけるということは、容易ではないです。中には、うちの議員さんの中でも、自分がみずから入って流木を片づけて対応されたという、そういう議員さんもいらっしゃいますけれども、なかなかそういったものができるという、必ずしもそういう状況ではないかと思います。

また、流木に関しましては、そのところが落ちて何とかしのげても、下流へ流れます。そうしますと下流域で、先ほど橋げたにひっかかりまして橋が壊れてしまったというような、そういったお話も伺っておりますし、またもっと下へ流れますと海へ放出をされます。いすみ市では、海岸を清掃されている方々が、竹が流れてきてしまって、それが海に浮いているうちはいいんだけれども、台風などの場合に砂にまじってしまうと、もう本当にそれを掘り出して片づけるのが大変なんだと、願わくば上流の方に来て手伝ってもらいたいぐらいの思いがあると、こういったお声も聞いております。

私は、その竹は全部大多喜のだとは思っておりませんけれども、やはり流木というのは、気がついたところである程度処理をするということが大事なのではないかと思うんですけれども、この点、町はどのようにお考えになられますでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　建設課長。

○建設課長（末吉昭男君）　確かに、最近流木が非常に流れてくるのが多いといいますか、異常気象のせいもありましょうし、山の管理、竹林の管理がどうしても最近されていない、手がおろそかになっている、また、そういう作業をされる方がいないというのが現状ではないかなというふうには考えているんですけれども、流れてきたものを各地域の方にお願いしているわけなんですけれども、これを町が全部やるという話になりますと、莫大な費用もかかりますし、かなり町中には川が大多喜町はありますので、それを含めますと大変お金もかかってくるということですので、その辺を理解していただいて、できるだけ区で対応していただければというふうには現在考えております。

○議長（志関武良夫君）　10番山田久子君。

○１０番（山田久子君）　今、区のほうでというお話でございましたけれども、これは課長さんに確かめたいんですが、あるところで橋の点検作業があったそうでございます。その際に、橋にかかる木が邪魔になるので枝打ちをしていただいたと。そうしましたところ、その枝を川へ投げ捨てていたという、そういったお話も伺っております。

私は、これは本末転倒ではないかなと。それを片づけたのが地域の住民の皆さんであると。そういった意識的な問題も非常にあるのかなと思うんです。これについて課長はどのように思われますか。

○議長（志関武良夫君）　建設課長。

○建設課長（末吉昭男君）　ただいまのお話でございますけれども、私も後で聞いて、大変申しわけないんですけれども、うちのほうの区の方に対する配慮が大変足りなかったということで、お謝り申し上げました。大変申しわけございませんでした。

○議長（志関武良夫君）　10番山田久子君。

○１０番（山田久子君）　ありがとうございます。

本当に地域の皆さんは長年そこに住んでいるので、地域の状況というのがわかるわけです。このくらいの木のひっかかりだったら、自然に流れていっても問題ないなと思う場合と、これはやっぱり対応していただかないと今後大きな災害になるのではないか、そういった中で災害時など、また流木のひっかかり具合など、そういったものを考えながら、町へ何とか、

自分たちでできないものに対してお願いをしているのではないかと、私はこのように考えております。

災害についての情報というのは、ちょっと聞きましたところ、役割分担があるようでございます。例えば、豪雨についての情報は気象庁が担当されます。次に、雨が川に流れ込んだ後、川の情報は国土交通省と都道府県の河川担当部局が、観測所や映像などをもとに川がどのような状況になっているかを収集し、発信をするそうです。さらに、川が増水し危険な状況が見え出すと、具体的に氾濫に備えるのは、被害を受けるかもしれない市町村が行っているようです。水防活動は市区町村長が所管をしております。国や県に支援を求めることが一般的なようでございます。

しかし、支援はどこが必要なのか、どこを支援するのかがわからなければどうにもなりません。そこで支援の確認が必要となるわけです。なぜこうした手順となるのか。危険の予測というのは現地でしかわからないからです。この場所となると、危険の進みぐあいや程度は個別の場所でないと把握できないからです。

町でも同じことが言えるのではないでしょうか。この場所が危ない、このままでは危険というのは、日ごろから地域の状況を知り、過去の災害の知恵を持っている地元の皆様の意見が大変重要な位置にあるのではないかと私は思います。

地元の皆様は、めったやたらに町に頼んでいると私は決して思っておりません。今も申し上げたような状況の中で、自分たちでできない、だけれどもこれを放っておいては災害につながるということの中で、町にお手伝いをしていただきたい、お力をかしていただけないかと、こういう形でお願いをしているのではないかと思います。

最近では、異常気象による突然の雨ですとか、そういったものもふえておりますし、正直なところ、河川の周りの倒木なども、昔から比べますと手入れが行き届いていないという事実もありまして、非常に多く見られると思います。こういった災害を防ぐという部分においても、町の力をおかりすることができないかと思うわけですが、再度、課長、いかがでしょうか。

それで、先ほど言いましたように、お金がかかるということの中で、私は、ふるさと納税を使わせていただくことができないかと、このように思うわけなんですけれども、町長、いかがでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　町長。

○町長（飯島勝美君）　河川に流木等いろいろ、民地から落ちた土砂とかそういうことは、昨

年もいろいろと質問を受けているところでございます。

私は、災害というのは、１つの基金で賄えるというか、要素は非常に難しいなと思っています。災害の大きさでみんな変わりますので、とても町ではできないようなものもありますし、また軽微なものもあるんです。ですから、ふるさと納税での基金というのはなかなか難しいなと思っているんですが、ただ、私は今いろいろ感じているところは、特に最近は、山の管理が行き届かない、あるいは竹林の管理が行き届かないという中で、２つの状況があるように思います。

１つは、山の手入れが行き届かない中で雨が降りますと、いわゆる山に保水能力がなくなってきているんですね。ですから、特に河川の増水が一気に出るというのが現状なんです。ですから、今、水道事業の中でもちょっとそれが問題になっていまして、雨が降ると一気にどんと出て、ぱたんと水がとまるという、非常に山に保水能力がなくなってきている。それは間違いなく山の手入れが、あるいは竹林の手入れができていないということなんです。

ですから、まず根本の、そこをどうやって改善していくかということのほうが、私は重要ではないかと思っています。ですから、流れてきたものを片づけるというのは、根本を解決できなければ、常にそれはあり得るわけなので、その辺を、原因の一番の大もとをどうしていくかということが私は重要ではないかと思っています。

○議長（志関武良夫君）　10番山田久子君。

○１０番（山田久子君）　本当に町長のおっしゃるとおりだと思います。そう思いますと、私も先日、山の中を歩かせていただきましたけれども、どこの山に入りましても、過日の雪の被害がそのままの状況で残っております。そういった山をどのように手入れをするのかといったときにも、やはり大きなお金がかかってしまうがために、手をつけられずにおいてあるというところもあるかと思います。また、最近では、大多喜町の森林組合ということをつくっていただきまして、山の手入れを始めていただいているところもございますけれども、まだまだそういったところが行き届かないという部分がございます。

今の町長のお話ですと、ここのところをもう少し具体的に、何か手だてをお考えいただいているということなんでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　町長。

○町長（飯島勝美君）　具体的なというところではないんですけれども、特にいろいろ今、私のところに来て、移住される方とか、あるいは農家の方もいろいろありまして、そういうお話をお聞きしますと、実際に自分の山を管理できないという方がいると。その管理できない

方の山を、ほかで私はできますよという、大多喜町でもともと農業をやっておられる方、そういう方がそれをお借りして農業生産のほうにつなげていくとか、あるいはまた、移住した方が生活の糧を得るのになかなか難しいものですから、特に大多喜につきましては、竹山等につきましては、一番資本がかからずに体である程度稼げる大きな材料にもなるのでありますので、そういったところをこれから、既に農家の皆さんといろいろ意見交換をしながら、また移住者の皆さんとの意見交換をしながら、里山をうまく、地主さんと借り手と、その辺の調整ができればいいのかなと、それは一つのおぼろげな考えなんですが、そういった形で進められないかというのは、今、実はいろいろと懇談会の中でお聞きしているところでございます。

○議長（志関武良夫君）　10番山田久子君。

○１０番（山田久子君）　わかりました。期待をさせていただきたいと思います。

しかしながら、今回、私の質問は、河川の流木等の対応ということでお話をさせていただいているわけですけれども、町長、ふるさと納税にそれぞれ寄附金をいただいているわけでございますけれども、面白峡遊歩道事業、高速バス事業等、さまざま事業をのせていただいておりますが、この事業の中に、こういった災害の基金になるような事業創設をしていただきまして、そこにいただいたお金を基金として災害復旧に使っていただくということはできないものでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　町長。

○町長（飯島勝美君）　ふるさと納税の寄附をされる方の内容を聞きますと、やっぱり目的をはっきりしておくことが大事で、いっぱいありますとなかなかそこにいかないわけですね。ですから、そういう意味では一つの考え方だと思います。

ただ、それをどういう形でやるかというのは、またいろいろ状況を見なければいけませんけれども、全くだめだということではないと思いますが、ある程度、ふるさと納税というのは目的をきちっと絞るということ、これがふるさと納税が入ってくる一つの要素で、その辺がぼやけているふるさと納税というのは余り入ってこないんですね。

ですから、今回はある程度目的のものが一つ達成しましたので、その後のもう一つの目的のものが若干残りますけれども、そのほかにまた新たに加えるということは十分可能だと思いますが、それをどういう形で入れるかというのは、これから考えていかなければいけないと思います。

○議長（志関武良夫君）　10番山田久子君。

○１０番（山田久子君）　ふるさと納税で目的が一つ達成したというのは、それは高速バスということでございましょうか。

そうしますと、ちょっと確認ということになってしまうんですけれども、高速バスと面白峡遊歩道の寄附金の目標額というのは、先ほど１億5,000万円というお金が出ていたんですけれども、これはそれぞれの目標額が１億5,000万円という形で解釈をさせていただいてもよろしいんでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　町長。

○町長（飯島勝美君）　高速バスにつきましては、先ほどお話しいたしましたように、これで大体５年間の目標としては達成していると思いますが、ただ遊歩道につきましては、全線をやりますと６億以上お金がかかりますので、これはなかなか難しいなと思っています。

今、私どもの一つの目途としては、大体３億を上限としたいと思っています。それで、これは特にその中で基金を積みながら、できればそれを全部使うんじゃなくて、補助金事業があればそれに当てはめていきたいなと思っております。

そして、もう一つは広域ごみ処理建設、これがとりあえず中断をしているわけでございます。しかしながら、いろいろ状況を見ますと、本当にこれが広域でできるかどうかというのは予断を許さないわけでございます。そうなりますと、やっぱり町としてもある程度のものを積んでいかなければ、もし実施するとなれば必要となりますので、私は、広域ごみ処理につきましては５億を目途に積む必要があると思っています。

ですから、それ以外のものについては、またこれから新たに考える必要があろうかと思いますが、この辺はやはりしっかりやっておかなければいけないなと思っています。

○議長（志関武良夫君）　10番山田久子君。

○１０番（山田久子君）　高速バスの寄附金の目標額が１億5,000万円、これは赤字の補塡というような形で考えさせていただいてよろしいのかと思うんですが、先ほど、収支計画書の町の財政支援、9,800万円から１億5,000万円にふえますという話をいただいたんですが、私はこの金額で足りるのかなと思っております。

実は、これは昨年いただいたものですが、これを見ますと、１日の平均利用客が116人で、年間の利用客数が４万2,340人、運賃が1,850円でずっと計算をしていただいております。これで黒字化になるというふうに考えていると思うんですけれども、１日平均利用客116人の方が乗られた場合ですが、あくまでもこれは運賃1,850円を払ってくださった方が116人乗ってこの黒字だと思うんですね。

ですが、町の今の方向性でいきますと、学生さん、それから団体の割引の方、ゴルフ客の方等を含めてとなりますと、割引、それから半額、そういったお金の部分も含まれてくるのではないかと思います。それが５年間分になりますと、このお金よりはもっと補塡をするお金がふえてくるのではないか、ちょっとそんなふうに簡単に思っただけなんですけれども、そういうふうにも感じました。

町は、先ほど１億5,000万円ぐらいのお金を高速バスの目標額として考えているようですが、これ以上の赤字が発生した場合には、どのようにするお考えでいらっしゃいますでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　町長。

○町長（飯島勝美君）　この事業は、今２カ月余りの中で、これから先の、５年先の話はなかなか誰も想定しづらいと思いますが、ただこの事業というのは、若い方の定住化という中では、大多喜町は、先ほどもお話ししましたように、このまま今何もしなければ、大多喜町は4,000人の人口、当然ですよというふうなデータも出ているわけです。

ですから、今若い方がこの地に住み続けるための条件は何か、まずそこで就業する場所、いわゆる生活の糧を得るものがなければだめですということは、当然そこにあるわけですね。それを企業誘致って、そんな簡単にできるものじゃないんです。ですから、大多喜にだって結構企業はあります。だけれども、町民の皆さんがお子さんに教育をつければつけるほど、やはり高度な職業につきたがるんです。そうすると、今、大多喜にある職業が全ていいかというと、そうではないわけです。

ですから、そうなると高度な職業というのは首都圏にあるわけです。ですから、そこに通えるような交通政策というのは、大多喜町の10年、15年後を考えたときに、絶対にこれはなくてはならないものだと私は思っています。

大多喜町は過去の歴史から学ぶべきことだと思っているんです。それは何かといいますと、過去の歴史の中で、外房線、ありますよね。これは当初の計画というのは、茂原から長南町、それから大多喜町を抜けて小湊に行くのが当初の計画だったんです。ところが、長南町と大多喜町の皆さんが大反対の中でこの計画はなくなって、今の外房線になっているわけです。それで慌てて、今度は開通してから、大変だということで木原線というのができたわけです。ですから、やはり過去の歴史から学びながら我々は政策運営をしていかなければいけないし、我々は大多喜町を今のこの時期にしっかりやらないと、本当に4,000人の町あるいは消滅の町になってしまうと思うんです。

ですから、我々は、赤字をどうこうではなくて、そうならないように、今これから、スタートして２カ月余りですけれども、しっかりと黒字に持っていけるような施策をどんどん進めていかなければいけない。その中で、お金をどんどんつぎ込むのではなくて、やっぱり利用できるようなプランをどんどん出していくということで進めてまいりたいと思っています。

○議長（志関武良夫君）　10番山田久子君。

○１０番（山田久子君）　私も、今の町長の言葉をお聞きしまして安心をいたしました。私も、このバスの運行、町長のお考えをよく理解できるところもございます。

しかしながら、町民の皆様は、これだけのお金があるのであれば、もっともっとほかに使ってもらいたいという、こういったご意見があるのも事実でございます。しかしながら、高速バスを一つの生き残りとして町がかけるということであるならば、本当に真剣に取り組んでいただきまして、赤字がどうのではなくて、黒字にするという本当に強い思いでお願いをしたい、そういうふうに思います。

せんだって私も使わせていただきましたけれども、品川駅をおりまして、高速バス乗り場がどこにあるかわかりません。どっちへ歩いて行ったらいいかわかりません。ポスターの１枚もありません。品川グースってどこに行ったらいいのかわかりません。こういう状況で、幾らお客様を呼ぼうといったって来ないですよ。

もっともっと真剣に、本当に皆さんのお声を聞いて取り組むことを真剣に取り組んでいただいて、走ってしまっているこのバスを何とか黒字化して、やってよかったと、そういうふうに言えるような事業にしていただくことが私は大事ではないかなと、そのように思っております。

毎日赤字が発生しておりますので、いつやるじゃなくて、きょうからやる、あしたやれることはやるという、そういった前向きな高速バスの運用をぜひお願いしたいと。それが、ほかのものにも使ってもらいたいと思っている人に対する責任でもあるのではないかなと。町にいただいたものだからそれは町のじゃないですよ。やっぱり町民の皆さんにいただいている寄附金ですから、これを大事に使っていただけるような、そういう思いでお願いしたいと思います。

申しわけございません、先ほどの話に戻らせていただきますけれども、面白峡遊歩道、それからほかの事業にも５、６件寄附金をいただいていたと思うんですが、こちらのほうの事業というのはどういう形で展開をしていくようにお考えでしょうか。ある程度の金額がたまったらやるのか、それまでは手をつけないのかということでございます。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　先ほどお話しさせていただいたいろいろなほかの事業ということですね。これは昨年３月１日に改正する前の目的でございます。

それで、本来、昨年９月議会の段階で、各課にこれを全て使うようにというような指示をさせていただきました。ところが、各課から出てきたのは西小学校のブランコの設置だけということで、各課のほうにも、せっかく寄附金を多額にいただいているのに、そのままにしておくのは非常に好ましくないんだということで、活用できるものは活用するようにそれぞれ指示しておりますし、また、これからもそういった面では各課にお願いしていきたいと思います。

○議長（志関武良夫君）　10番山田久子君。

○１０番（山田久子君）　今、ふるさと納税を使わせていただいたのが西小のブランコということだったんですけれども、ほかには使わせていただいているものというのはございますでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　それでは、今まで実施した事業ということでございますので、平成25年度、みつば保育園とつぐみの森保育園の大型遊具の修繕費として68万2,000円、大多喜中学校ブラスバンド部の楽器の購入に50万円を計上しております。

平成26年度には、海洋センターの卓球台の購入費として27万円、音楽鑑賞教室に75万6,000円、ふるさと納税事業の返礼品等に充てたものが1,240万8,000円でございます。

今年度の運用状況についてですが、西小学校の、先ほど言いましたすべり台の購入に107万1,000円、これは予算額でございます。それと、高速バスが運行する町道船子東前線の補修工事に219万4,000円、あと、ふるさと納税事業返礼品等に４億4,414万2,000円、予算措置済みでございます。ただ、３月補正予算議案に８億6,941万1,000円を計上させていただいておりますので、この内訳は、一般廃棄物処理基金で１億円と、それと返礼品で７億6,951万1,000円ということで計上させていただいておりますので、平成27年度の予算といたしましては、13億1,682万1,000円という見込みになろうかと思います。

○議長（志関武良夫君）　10番山田久子君。

○１０番（山田久子君）　わかりました。

それでは、ふるさと納税のほうの関係に関しましては、もし町長、お考えいただけることがございましたら、災害の復旧の基金という部分でも、考えていただける中に盛り込んでい

ただくことができればありがたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○議長（志関武良夫君）　一般質問中ですが、ここでしばらく休憩をとります。

10分間。30分から再開とします。

（午後　２時２０分）

○議長（志関武良夫君）　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後　２時３０分）

○議長（志関武良夫君）　一般質問を続けます。

10番山田久子君。

○１０番（山田久子君）　次に、大項２、大多喜町「町民の日」を制定することについての質問に移らせていただきます。

昭和29年、1954年10月５日に旧５カ町村が合併し、現在の大多喜町が誕生したことはご存じのとおりです。この10月５日を大多喜町町民の日に制定し、町民が町についての理解と関心を深め、町民であることを誇りに思う心と一体感を育み、より豊かで魅力ある町を築き上げることを期する日としてはどうかと考えますが、町の見解をお伺いいたします。

○議長（志関武良夫君）　総務課長。

○総務課長（加曽利英男君）　町村合併をした10月５日を町民の日に制定してはどうかとのご質問にお答えさせていただきます。

町民の日を制定する趣旨といたしましては、今、山田議員さんのご質問の中にもありましたことのほかに、例えば、ふるさとの歴史や風土を学ぶとともに町を愛する心を育み、町の現状を知り、また将来を考える契機とする、そういうことが考えられるかと思います。

近隣ですと、茂原市あるいは市原市が市民の日を制定しているということでございますけれども、町村での制定は少ないのではないかなというふうに考えております。仮に町民の日を制定した場合、例えば、町の成り立ちや歴史を学び、郷土愛を育む機会になるというふうには思いますけれども、既に町村合併から60年余りが経過していることもあり、それほど必要性があるとは、大変申しわけないんですが考えにくいのかなというふうに思われます。

こういうことから、現状では、事務方としましては町民の日の制定は考えておりません。以上です。

○議長（志関武良夫君）　10番山田久子君。

○１０番（山田久子君）　町では、現在、協働のまちづくりを進めております。最近、今まで以上に多くの皆様がまちづくりのためにさまざまな場面でご尽力をいただいているように感じているのは、私だけではないのではないかと思います。

そこで、町民の日を制定し、これを記念して、今まで町の表彰規程に該当しない町民の方々へ、善行表彰、功労者表彰の授与や感謝状の贈呈を行ってはどうかと考えますけれども、町の見解をお伺いいたします。町長、いかがでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　町長。

○町長（飯島勝美君）　町民の日の制定とか、それに合わせての表彰ということでございますけれども、今、加曽利課長のほうからお答えいたしましたように、やはり合併してから60年という中で今日まで来ておりますので、今ここでまた改めて町民の日というのは、なかなか難しいのではないかなと思っています。

ただ、山田議員さんのご意見としては伺っておきたいと思いますが、また表彰につきましても、毎年同じようにやるということになりますと、ありがたみがなくなりますよね、ある意味。ですから、そういうことも考えますと、今までのものでそれほど大きな問題はないのではないかなと、今思っているところでございます。

○議長（志関武良夫君）　10番山田久子君。

○１０番（山田久子君）　表彰におきましては、市によっては随時行っているところもございます。町長はありがたみがなくなるとおっしゃいますけれども、感謝をされて、ありがたく思わない人はいないのではないかなと思います。

特に町は今、協働のまちづくりということで、大変いろいろなボランティアの皆さんも多く誕生していただいております。そういう中で、町長がありがとうと一言言ってくれるだけで、そういった皆さんは本当に励みになると思います。

そういったことの中で、機会として何かの日にあればいいなと思いまして、それが私としては、町民の日を制定したらどうかと、こういうふうに思ったわけなんですけれども、また、町民の日を中心として、町長の皆さんに参加していただける行事なども実施をしてはどうかというふうにも考えました。例えば、高齢者の方からお話があったのは、落語家や何かを呼んでもらいたいとか、音楽家を招いて鑑賞したりもしたい、またのど自慢大会を催してもいいんじゃないか、また若い方からはスポーツをしてもよいのではないかと、何でも町民の皆様に喜んでいただける、そういった催し物をする日というか、その前後でそういった日として設けてもいいのではないかとも思いますし、また捉え方として、町民の皆様にボランティ

ア等で町にお力をかりる日というか、そういうようなとり方でもよろしいのではないかと思います。町民の日を、皆さんで本当にもう一度、一体感をとりながら、そしてそこで多くの皆様に日ごろの感謝を伝えていく日という形で設けることができたらよりよいのではないかと思いますけれども、いかがでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　町長。

○町長（飯島勝美君）　いわゆるボランティアといいますか、端的にすぐわかるような善行については、別にその日でなくてもその都度はできると思いますが、ある程度、ボランティア活動とか、そういう活動というのは、１年やそこらではなかなか判定がつきにくいですよね。ですから、やっぱりある程度の年数の実績というものがあって初めて、そういう活動に対して顕著なものであったということになるんだと思うんですね。ですから、単発的にぽんとわかるようなものについては、別に改めて、５年、10年という節目の中でやっておりますけれども、そういうときに間に合えばいいですし、どうしてもそうでないときにはその都度でいいと思います。

また、もう一つは、娯楽につきましては、その日ではなくても、いろいろ町でも、今、渡辺正行さん、これは大多喜高校の出身ということで、これから大多喜町にいろいろと協力したいということで申し出ておりまして、今回も若手の芸人さんを、今まで東京の渋谷でやっていたものを、今度は大多喜の公民館でやろうよということで、今回やるんですけれども、ああいう形でタレントの渡辺さんも一生懸命やっていただいていますので、そういうことで、そういう娯楽につきましては別にその日でなくても、都度やれればやっていきたいと思っていますので。

○議長（志関武良夫君）　10番山田久子君。

○１０番（山田久子君）　わかりました。

そういった中で、こだわるわけではないんですが、町でどれだけの方がボランティア等をして町にお力をかしていただいているのかということを、役所は本当に隅々まで把握ができているのかなと、ちょっとそういうような思いを感じております。町は本当に、職員の数も減らしていく中で大変になってきております。そういう中で、町民の皆様にお力をかしていただいている、そういったところが、誰が何をしていただいているのかということを、各課であったり各係であったりが本当に把握をしているんだろうか、そういった思いも受けるところがございます。

そういった意味では、目についている、今まで表彰していただいている方たちでない人た

ちをどれだけ掘り起こしていただいて、感謝の言葉を述べていただくことができるかということが、やはりこれから大切になってくるのではないかと私は思っております。

先ほども言いましたけれども、町長の一言、町長に言われる一言というのが本当に町民の皆さんはうれしいんですね。ですから、こだわるわけではございませんけれども、そういった町民の皆様に対する、お力を貸してくださっている、いただいているというところに、今後もぜひ目を配っていただいて、表彰してくれとは言いませんけれども、感謝の一言というものをぜひ伝えていっていただくことができればと思いますので、よろしくお願いいたします。

次に移ります。最後に大項３、「軽」の救急車配備についてお伺いをさせていただきます。

本町は、中山間地を初め町中においても道路の狭隘地域があるなど、救急車の運行対策を求める町民のお声がございます。高齢化が進むに伴い、安心して地域に住み続けるためにも、その対応が今まで以上に求められてきております。

平成23年４月１日施行の救急業務実施基準の一部改正第９条第２項により、軽自動車を救急車とすることが可能となったようです。既に離島や中山間地域を有する消防組合などでは、導入、運行をしているところもあるようです。

道路が狭く入っていけない、すれ違いができない、離れたところに停車している救急車までストレッチャーで搬送するには時間を要し、傷病者の様態の配慮なども伴ってくると思います。雨の日の対応もあるかもしれません。軽の救急車があれば、現場到着や患者接触までの時間も距離も短縮できるのではないかと思います。救急活動が容易になるのではないかと考えます。

そこでお伺いいたしますが、大多喜町の救急車の出動回数と、１回に出動する際に搬送する患者さんの数というのは何人くらいの方が多いのか、お伺いいたします。

○議長（志関武良夫君）　総務課長。

○総務課長（加曽利英男君）　それでは、大多喜町管内の救急車の出動状況につきまして、消防本部の調査に基づいてお答えさせていただきます。

年ごとになりますけれども、平成27年が大多喜町管内で538回出動しているということです。平成26年が535回、平成25年が536回というようなことでございます。このうち２名以上の搬送というのが、これは平成27年中のデータしかございませんが、２名以上の搬送が13件ということです。538回中13件が２名以上の搬送と、それ以外は１名ということです。

○議長（志関武良夫君）　10番山田久子君。

○１０番（山田久子君）　今のお話を伺いますと、軽の救急車というのは搬送者が１名になります。ストレッチャーが１台という形になるようですので、患者さんは１名しか乗れない。それから、救急隊員の方は３名同乗ができるというような状況であるそうです。そうしますと、538回のうち２名の搬送というのが13件ということであれば、その多くが軽の救急車でも対応していくことが可能なのではないかと考えます。

救急活動は、日常生活における人命救助の根本的な役割を担っていただいていると思います。道路幅は狭く、現在の救急車が進入できない地域はどこがあるのか、また、疾病者の家からストレッチャーで長い距離を人力で搬送しなければならないと想定される場所などは何件ぐらいあるのか、その場合の対応は今現在どのようにされているのか、お伺いをしたいと思います。

○議長（志関武良夫君）　総務課長。

○総務課長（加曽利英男君）　これも消防本部のデータですけれども、現在、大多喜町内で９カ所ということでございます。

該当の住居数、住んでいらっしゃらない方がいる場合もあるようですが、46戸ということです。場所は９カ所ですが、伊藤と中野、これは駅の反対側あたりなんですけれども、堀切、宇筒原、小田代の塚越、小倉野、泉水と、板谷は２カ所ということです。これは幅員が狭いものに加えて、例えばそれ以外でも、道路に木の枝とかそういうものが張り出していて対処が難しいということで、その場合どうするかというご質問もあったと思いますけれども、出動の指令がかかったときに、パソコンで場所が表示されるということですので、そういう場所で救急支援があった場合には、例えば連絡車、ライトバンですね。それを用意する。あるいは救急隊に加えて消防隊も出して人数を確保して現場に向かうと。それでストレッチャーで搬送する、あるいはライトバンで搬送するという対応をしているということを聞いております。

以上です。

○議長（志関武良夫君）　10番山田久子君。

○１０番（山田久子君）　今、９カ所ということで、地域名も挙げていただきましたけれども、私は、挙げていただいていない地域の中でも、ちょっと間に入っていくと狭くて救急車が入れないというところも、ほかにもあるように感じております。実際はもうちょっと多いのかなと、このように感じております。

やはり大多喜町、今、挙げていただいたところなんかも見ますと、かなり消防本部からの

距離もあります。ある統計調査によりますと、救急自動車の各地から現場到着時間までの全国の平均は、平成23年が8.2分、平成24年は8.3分というのが全国の平均だそうでございます。そういうことから見ますと、言うまでもなく本町では、地域性の関係で、これに何倍も時間がかかっている地域が多いというのが現状ではないかと思います。その中で少しでも早く対応していただくということは、救命の観点からもより大切であると思いますし、その後の予後ということを考えた場合でも、大変大切ではないかと思います。

そこで、やっぱり大切になってくるのが、救急車が入ることのできる町道の拡幅ではないかと考えます。町道の改良率は平成27年度末で55.8パーセント、平成26年度末で58.6パーセント、平成25年度末で58.9パーセントとほぼ横ばい状態にあると、過日いただきました町の資料に載っていたかと思います。

そこでお伺いいたしますが、この道路改良率というのは何でしょうか。また、今後の拡幅の見通しについてはどういう形になりますでしょうか、お伺いいたします。

○議長（志関武良夫君）　建設課長。

○建設課長（末吉昭男君）　ただいま議員さんがおっしゃいました関係でございますけれども、道路改良率でございますけれども、これにつきましては幅員が基本になっておりまして、それも３メートルを基準といたしまして、３メートル以上が改良済み、３メートル未満が未改良という形で挙げさせていただいております。

今、工事でございますけれども、狭小地区につきまして、地元のほうと協議しながら進めていたところもあったんですけれども、地元のほうでいけるぞということで、ではやりましょうということでお互いに協議しながら進めていったんですけれども、最終的に土地が買えないという状態で、だめになったというところもございます。

やはりどうしても道路をつくるに当たりまして土地が基本となりますので、その辺はどうしても地元の地権者とか周囲の方のご協力がないとできないという形になりますので、大方のところはもう改良されているんですけれども、先ほど総務課長が申しましたところ９カ所ですか、それと議員さんがほかにもあるんじゃないかということでございますけれども、その辺を中心に、地元の方と町と協働で推し進められれば進めたいなとは考えますけれども、ほとんどが拡幅だけすればいける、道路法にのっとった、基準に合った道路ということでなくて、救急車が入るだけの幅が確保できるということであれば、そんなに大工事をしなくても済む。土地だけが確保できれば進んでいけるんじゃないかなというふうに考えております。

それと、先ほどもありましたけれども、枝ですか、道路の幅員はあるんだけれども枝が出

ているよというお話もされていましたけれども、それは住んでいらっしゃる方々自身の問題なのかなということもありますので、その辺も皆さんに認識していただければなというふうに考えます。

以上です。

○議長（志関武良夫君）　山田久子君に申し上げます。持ち時間があと５分です。お願いします。

○１０番（山田久子君）　わかりました。

今の道路の件でございますけれども、地元の皆さんからは、道路を拡幅するに当たりまして、今、課長がおっしゃられたように、地域の皆さんのご協力をいただいてということでお話をよくいただくそうでございますが、やはり地域が主体になりますと、どうしても利害関係の問題があって非常に難しいところがあると、言葉として、また発言として出しづらいところがあるということでございます。できれば町が主導をとっていただきまして、町が旗を振っていただいて、それでそこに地域の皆さんが主体となり協力をしていくという、そういう形にしていただくことができないかと、こういったお声を多くいただいております。できるだけ町としてご尽力をいただいて、お骨折りをいただくことができないかと思うんですけれども、いかがでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　建設課長。

○建設課長（末吉昭男君）　それは、直接利害関係のある地権者あるいは近所の方でなくて、その区に区長さんという方がいらっしゃいますので、区長さんからお話しいただければ、それほど支障がないものと考えますので、できれば区長さんを通してお話しいただければと思います。そして町と一緒に進めていければと思います。

○議長（志関武良夫君）　10番山田久子君。

○１０番（山田久子君）　そうですね。そこに、町が主導的に進めようという思いがあっていただけるのと、地域がやってくれればというふうな形でですと、なかなかそこが難しいようなんですね。できるだけ、町としてここを広げたいので地域にご協力いただきたいというような、そういうような形をとっていただければ、本当に話も進みやすいというようなお声もございますので、今後ぜひまたご検討いただければと思います。

ちょっと時間の関係でありますので、先へ進めさせていただきます。

先ほど、道路改良率は３メートル以上ということでございました。道路幅が４メートル程度の幅しかない場合ですが、かろうじて普通自動車が通行できるかすれ違いが困難な狭さと

言われております。救急車の大きさもいろいろあると思いますが、普通自動車の規格は全長が12メートル以下、全幅が2.5メートル以下、軽自動車の規格は全長が3.4メートル以下、全幅は1.48メートル以下ではなかったかと思います。大多喜町の道路改良率、先ほど３メートル以上ということでございましたけれども、そうしますと３メートル以下の道路が40パーセント以上であると、逆に言うと言えるのではないかと思います。

こういったことから考えますと、軽の救急車の導入があれば、より早くより身近に救急車を求めている人のところまで行くことができるのではないかと思うわけでございますが、町は軽の救急車の導入、配備についてどのように思われますでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　総務課長。

○総務課長（加曽利英男君）　お答えします。

まず救急車の幅ですけれども、大多喜分署の消防車は1.89メートルだそうです。車幅ですね。管内で最大のものは1.9メートルということです。

あと、軽の救急車は千葉県下では導入されている実績はないということですけれども、姫路市の消防署ですか、そこに島があるそうですけれども、その島で運用している軽の救急車は全幅1.47メートルということで、大多喜分署のものと比べて42センチほど幅が狭いということですので、狭い場所での活動は非常に有効ではないかと思います。

また反面、幅が狭いので、救急車に搬送してからの処置が、非常に場所がありませんのでしづらいという欠点があるということ。あと、器材がやはり普通の消防車と比べて十分積めないということで、救急要請のあった状況によって器材を積みかえることがあるそうです。ですからその辺でロスが当然出ます。ということがデメリットかなというふうに考えます。

また、町で導入はいかがかというご質問でございますけれども、救急業務に関しましては、これは夷隅郡市の２市２町の広域行政の中で進めていることですので、ここで大多喜町が導入するとかできないとか答える趣旨ではないと思いますので、一つのご意見として受けとめさせていただきたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（志関武良夫君）　10番山田久子君。

○１０番（山田久子君）　今、課長のほうからメリット、デメリットのお話がございました。救急車、私がちょっと調べたところによりますとということになりますので、違うかもわかりませんが、確かに救急車は狭いので、その状況によりまして、持っていく荷物を積みかえて出動するようでございます。しかしながら、救急車が、今の高規格車の場合ですと、そこ

に行くまでの間にとめて、人力で荷物を持って患者さんのところまで実際、今、歩いて行っていただいております。そこである程度の処置をした後にストレッチャーに乗せて、消防隊の人とかそういった方も手伝っていただきながら、救急車に搬送して乗せてきています。やはりこういった場合ですと、例えば家庭で倒れた場合には、家庭である程度の処置をしないと救急車へ搬送することができないというような、ちょっとそんなお話も聞きました。

しかしながら、家の近くまで救急車を近づけられますと、救急車にそのまま乗せて救急車の中で処置ができるという、こういった逆に言うとメリットにもなるものもあるわけですね。その患者さんの軽度とか病気の重症度とかというのにもよるのかもわかりませんけれども、やはり小回りがきくことによって、逆により近くまで行く、またより近くから乗せてくるということもできるかと思います。

今は、通報の状況など、また医療の状況などから、患者さんがどういった状況であるのかというものを本当に早くに察知をすることができ、事前にこういうものがある程度必要だというものも準備ができるという、こういった意見も伺っておりますので、そういった意味において、軽の救急車というのは決して私は悪いものではないのではないかと思っております。

大多喜町では、おかげさまでドクターヘリの……

○議長（志関武良夫君）　山田久子君に申し上げます。持ち時間が来ましたので、速やかに終了してください。

○１０番（山田久子君）　わかりました。ありがとうございます。

ドクターヘリの降下場所もふやしていただいているというふうに伺っております。しかしながら、救急車でドクターヘリまでの搬送の時間がどれだけ短くて済むかということも大きな要因になってくると思います。消防本部から現場まで向かう時間が、山間部ですとそこで20分、30分かかっておるわけでございますので、そこからまた救急車で搬送する時間をいかに短くするかということが今後も大事ではないかと考えます。

先ほど広域でのお話ということでございました。夷隅郡市の広域におきましては、沿岸部でもかなり道が狭くて救急車が入れないという、そういったところもあるかと思いますので、今後、町並びに広域でご検討の際がありましたら、軽の救急車の導入につきましてもご検討いただければありがたいかと思います。

以上をもちまして私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（志関武良夫君）　以上で山田久子君の一般質問を終わります。

◇ 小　高　芳　一　君

○議長（志関武良夫君）　次に、７番小髙芳一君の一般質問を行います。

７番小髙芳一君。

○７番（小髙芳一君）　７番小髙でございます。通告に従いまして一般質問させていただきたいと思います。

まず初めに、平成28年度予算編成について質問をしたいと思います。

午前中に町長のほうから、28年度の予算の方針についてということでご挨拶がありました。今年度の予算総額は56億9,200万円ということで、久々の大型予算でありまして、予算編成には大分、今回については楽だったのではないかなというような気もしておりますけれども、大変厳しかったという話でありますし、また、予算の中で財源が少しふえますと、あれもこれもというような要求も出てくる中で、財政的に厳しくても大変だし、多ければ苦しみもうれしい苦しみであります。そんなようなことで、今回の予算編成に当たっての町長の所見をまず伺いたいと思います。

○議長（志関武良夫君）　町長。

○町長（飯島勝美君）　私の所見ということでございます。予算編成に当たりましては、今、議員のご質問にもありましたけれども、ふるさと納税と一般的に今までやっている財源というのは、ある程度区別した中で考えてきたところでございますが、私どものこの予算編成につきましては、基本はやはり、何度か議員の質問にもお答えしたとおりでございますけれども、入るをはかって出るを制する、これが私どもの基本でございます。そういうことで、財政基盤の安定強化ということで進めているところでございます。

そして、これを進めていく上で何よりも大きな力になる、また大事なのは人材の育成というところになります。そして課題は何かといいますと、先ほど来いろいろ質問も出ておりますけれども、やはり少子高齢化の中で、高齢化というのは問題ではなくて、これは１年たてばみんな年をとりますので、高齢化ではなくて、少子化というところにあるわけでございます。この少子化につきましては、近隣の市町村もいろいろお話ししますと、本当に出生者が少なくなって大変だと。私ども今年度は57名程度なんですが、来年度の見通しでいけば、40名いくかどうかという数字でございます。そういうことで、近隣も皆、来年度は少ないということで聞いております。非常に厳しいということでございますが、少子化の最大の原因は何かと言ったら、若い方の定住を促していくということ、定住をしていかなければこの問題の解決につながらないということで、ここが最大のポイントになると思っています。

そこで私どもは、財政基盤の安定ということにつきましては、何よりも収入に対して支出、分相応の生活をするということが重要でございます。ですから、まず基本は、借金といいますか、公債を毎年返しております。その公債の元金返済額よりも、借り入れ、いわゆる借金は必ず少なくするようにと、これを上回ってはならないということがまず第一でございます。基本はそこにあるわけでございます。

それで、まず私どもの財政基盤の安定の中で、一つの目標といたしましては、私、町長になりましてから、そのときの町の公債というのが約50億円弱ありました。これは私は、目標としては、40億円に持っていくことが目標でございました。今の状況でいきますと、28年、29年で大体46億円ぐらいまではなっていくかなと思っています。

これは最終的には40億という数字を公債の一つのめどとしています。これは大多喜町の財政の規模といいますと、普通でいきますと、今年度のようにふるさと納税がなければ大体40億円ちょっとなんですね。ですから、まず財政の予算の範囲内に借金をおさめるというのが基本であるということでございます。

そしてもう一つは、この公債も交付税でもらえるものがありまして、実質借金というのが大体15億円程度なんですね。公債をどんどん減らせればもう少し減っていきますので、実質町が背負う借金というもの、これを基本に財政調整基金を積み上げるということがまず第一にあるわけでございます。

ですから、今年度の状況から見ても11億円ぐらいまで財調は積み上げますが、そういうことで、これは最終的には町が実際に出す負担の金額、15億円になりますか14億円になりますかわかりませんが、その辺まで積み上げるというのが財政基盤の安定ということになります。

これを実現していくためには、やはり財政基盤の強化ということで、今いろいろ議論のありましたふるさとの納税も含めまして、また、町としてもいろいろな収入を図るような形はやっていかなければいけない。基本的には、来年度の税収も大体10億3,000万円ちょっとで、これは毎年微減になってきています。これは人口減少とともに税収は減りますので、改めて新たな財源というものを確保していく、それを強化していかなければいけないということで、ふるさと納税もいつまで続くかわかりませんけれども、できるだけ町の財源強化の中で進めていきたいと思っているところでございます。

人材の育成につきましては、もう既にいろいろ研修等を含めまして常に人材育成に努めているところでございます。

そういうことで進めておりますが、何よりもやはり最大の課題の少子化、いわゆる若い方

の定住化に向けてはいろんな施策は進めているところでございますが、町の財政というものは、ふるさと納税、今回を除けば、経常収支比率というものが大体90パーセントに上ります。そうなりますと、いろいろな事業というのはなかなか難しいわけでございます。そういうことで、第３次総合計画も28年度からスタートするわけでございますが、第３次総合計画に沿った形でこれをしっかりと計画どおりに、全てできるかどうかはわかりませんが、着実に進めていくという、そんなところが今の私どもの町の政策運営の基本としているところでございます。

○議長（志関武良夫君）　７番小髙芳一君。

○７番（小髙芳一君）　ありがとうございます。去年もそういう財政の基本的なお話を聞きまして、ことしもその延長上だなというようなことであると思います。

そこで、今お話が出ましたけれども、今年度の予算で第３次の総合計画、これも議会で随分議論をさせていただきました。また過疎地域の自立促進計画、あるいは人口ビジョンの総合計画ということで、27年度にいろいろと議論した中で、今年度から着実にこれを推進して図るというようなことでありますけれども、まず今年度の中で、ほとんど継続の部分がかなりあるとは思うんですけれども、新しく28年度から実施される計画、具体的な内容につきまして説明をいただきたいと思います。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　それでは、企画財政課のほうからお答えさせていただきます。

初めに、地方創生総合戦略に関する事業につきましては、平成26年度繰越予算の先行型交付金事業や、平成27年度補正予算の上乗せ交付分及び３月会議に上程しております加速化交付金事業がございます。また、平成28年度の新型交付金事業については、概算決定額1,000億円、事業費ベースで2,000億円のものでございますが、地域再生法に基づく地域再生計画を作成し、内閣総理大臣が認定する事業となっておりますので、詳細な説明があり次第、予算化することとなりますので、平成28年度の当初予算からは見送っている状況でございます。

このため、平成28年度予算で新規に行う事業としましては、地域おこし協力隊事業として364万6,000円、この事業は都市地域から大多喜町に住民票を移動し生活の拠点を移した者を町が地域おこし協力隊ということで委嘱し、隊員は地域おこしの支援や農林水産業への従事、住民の生活支援などの地域協力活動を行いながら、町への定着、定住を図ろうとするものでございます。

特色のある保育の実施といたしまして62万7,000円、この事業は、英語教育116万7,000円

に加え、スポーツによる体力向上や音楽などの情操教育を通して心身の発育や発展を図り、バランスのとれた豊かな人間性を育むものでございます。

地域公共交通いすみ鉄道の利用増大を図るため、シニア優待補助金として80万円、これは町内在住の高齢者にいすみ鉄道の町内の区間を優待しようとするものでございます。

また、妊婦歯科健康診査費及び不妊治療費として44万1,000円でございます。

次に、第３次総合計画に位置づけられた事業でございますが、おおむねソフト事業は重複しているものが多く、普通建設費の新規事業といたしましては、消防ポンプ自動車及び小型動力ポンプつき積載車を各１台購入する予定でおります。

また、３月補正予算に上程させていただきました地方創生加速化交付金事業として、観光客誘致事業3,664万8,000円と、地域おこし協力隊事業に300万円、小さな拠点事業として700万円を計上させていただいております。

また、総合計画の中で３年間の実施計画でございますが、３年間の予定といたしまして32億6,546万2,000円の事業費を見込んでおります。その中で、来年度、平成28年度ですが、予定された事業は10億3,819万1,000円ということで当初予算に計上させていただきました。

○議長（志関武良夫君）　７番小髙芳一君。

○７番（小髙芳一君）　今、説明いただきましたけれども、実施計画は３年ということで、もうつくられているということでよろしいですか。財政推計あるいはもう具体的な事業も３年分は既に計画済みだということでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　当初の段階で各課の要望を取りまとめまして、３年間で先ほどお話しした金額の事業を推進しようということでございます。ただ、これも年度年度で当然のように見直し、あるいは翌年に送ったり早まったりする場合がございますので、事業としてはできるものから随時実施していこうというような考えでございます。

○議長（志関武良夫君）　７番小髙芳一君。

○７番（小髙芳一君）　実施計画、３年たったらまた次の３年で新たに計画をつくり、財政推計をしていくということなんでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　財政推計につきましては、毎年毎年それぞれ見直しております。当然のように決算額の相違がございますし、当初見込んだよりも多いもの、あるいは国の政策によって異なる場合もございますので、その都度その都度、必要に応じて見直してお

ります。

また、今回の実施計画につきましては、毎年見直しを行っていくということになっておりますので、それぞれ中身については、毎年のようにＰＤＣＡということで、その中身を見直していこうという考えでございます。

○議長（志関武良夫君）　７番小髙芳一君。

○７番（小髙芳一君）　私ども、総合計画10年ということでつくりました。総合戦略は５年だということでつくりましたけれども、財政は１年１年見直しながら、計画は３年目でと。計画そのもの全体の中できちんと目標に向かって計画づくりということをしていくということではないのか。何か計画自体がもうばらばらというか、そういうふうな印象を受けるんですけれども、こういうきちんとした方向性を出した中で、その一つの事業については、こういう方向で、この予算で、この規模で内容はこうですよという部分を最初につくる話ではなかったかなというふうに思っているんですけれども、そうではない、その都度つくっていくというような感覚でよろしいのか。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　すみません。ちょっと言い方が悪かったのかもしれませんけれども、あくまでも10年間の目標というものは定めてございますので、それに向かって事業を推進するということでございます。個々のやつについては、10年先までを一つのスパンにすると非常に長過ぎるということで、それを短くして、それぞれそのときに見直していこうという考えでございます。

○議長（志関武良夫君）　７番小髙芳一君。

○７番（小髙芳一君）　そうすると、その中で起債をどの程度起こしていくのか、あるいは積み立ての部分もあるだろうし、地方交付税の算入とか、あるいは地方創生の中でまだ不確定な部分があるということでありましたけれども、そういう部分の補助金をどの程度使えるのか、その辺はある程度計画はあっても、まだまだ決まっていない部分が、不確定な要素が山ほどあるということで、毎年毎年ということの理解でよろしいんですか。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　先ほども申しましたけれども、当初予算との差というのは結構あります、決算の段階においてですね。そうしますと、できるものが当初からできないで、どうしても事業自体が完了しないというようなものもございますし、ある程度、財政の考え方からいくと、当初予算というのは非常に厳しいものがございます。ですから、この当初予

算というものを一つのベースとして当初考えておりますので、やはり実績というものとは若干相違が出てくるというふうには考えております。

○議長（志関武良夫君）　７番小髙芳一君。

○７番（小髙芳一君）　ちょっとよく理解できませんけれども、今までは５年計画の中で実施計画をつくって、５年の財政推計をして、その中で事業は、それぞれの事業が全部組まれていったんですけれども、28年度からなかなかそういうふうにはいきませんよということでよろしいのかな。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　事業自体は大きく変わることはまずないというふうに考えております。ただ、その年度割とか現実的な部分については、５カ年で計画したものよりもやはり毎年毎年見直しが必要になってくる。そういう中では、実施計画の段階では毎年ローリングしながら、その事業の完了を目標とするというような考えでございます。

○議長（志関武良夫君）　７番小髙芳一君。

○７番（小髙芳一君）　そこの部分で議論してもしようがないんですけれども、要するにそういう部分であるとなかなか財政規律が守れないんじゃないの。やっぱりある程度の、事業そのものはこのくらいの事業で、このくらいの予算でということで、当初にしっかりと決めた中でいくのが本来だというふうに思っていますけれども、その辺はいいとして、先ほど町長から健全財政ということで、これから総合計画なりを実施する中で、起債のあり方、基金のあり方、地方交付税のあり方、基本的な考え方があればお示しをいただきたいと思います。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　それでは、財政の基本的な方針についてお答えさせていただきます。

初めに、町債に関する基本的な方針といたしましては、元金の償還金以上の借り入れを実施しないこととしており、確実な町債の減額に努めております。町債の平成28年度末残高の見込みは46億1,500万円という多額な残高となっておりますが、平成26年度末残高47億1,900万円と比較すると１億400万円減少する見込みでございます。

しかし、町債は町の借金でございます。国が本来、当該年度で負担し予算化すべきところを、財源不足から町債に振りかえているものもありますので、町債の借り入れに当たっては、将来を見据え、地方交付税算入率の高い辺地対策事業債や過疎対策事業債などの有利な起債を借り入れ、財源不足に対応していきたいというふうに考えております。

次に、一般会計に係る基金につきましては、定額運用基金を除き、平成26年度決算で15億8,411万9,000円の残高で、平成27年度の決算見込みで22億4,815万7,000円となる見込みで、前年度と比較して差し引き６億6,403万8,000円の増額となっております。ふるさと基金の増額が主なものでございますが、それ以外の各基金については、その目的が定められており、町の長期的な事業を視野に入れ、単年度で多額の一般財源を要する事業について計画的に積み立て、健全財政に努めてまいりました。これらの基金を目的に沿って有効に活用し、将来にわたり健全財政を維持できることが基本的な考え方でございます。

次に、地方交付税につきましては、地方財政計画では16兆7,003億円で、前年度比546億円の減額となっていますが、地方税が1.2兆円増収となる中で、前年度とほぼ同程度の額を確保しつつ、臨時財政対策債の発行を大幅に抑制しております。

予算編成では、昨年12月22日に総務省から通知のありました地方財政対策に基づいて積算をさせていただきました。地方税収が1.2兆円の増額、地方譲与税、地方特例交付金0.2兆円の減額、地方交付税は0.1兆円の減額で16.7兆円、臨時財政対策債は0.7兆円の減額となり、地方交付税の上乗せ措置である別枠加算が地方税収の回復を受けて廃止となりました。

また、測定単位の一つである国勢調査人口等の置きかえや、その他の変動等を見込んで町の地方交付税を算出させていただきました。本年度は、実績を考慮するとともに、あと地籍調査事業の事業費の増に伴い、法定割合分の2,454万8,000円を特別交付税として見込み、前年度より5,454万8,000円増額の14億7,454万8,000万円を予算に計上させていただいたところでございます。

○議長（志関武良夫君）　７番小髙芳一君。

○７番（小髙芳一君）　町の町長を初め職員の皆さんの財政の考え方、やっぱり財政基盤の強化ということは、私、賛成をしておりました。当然、これから少子化になって、将来に負担を子供たちに残さない、人口が減少して税収も減るし、行政サービスも減るし、社会保障も本当に少ない人で支えなくてはいけない。そして国の状況を見れば、税金も上がるだろうし、本当に大変な時代が来るので、せめて町ぐらいは借金を残すなよという考えでずっときました。

27年度には、大多喜町の議会にもいろんなところから視察に、議会のほうに来ていただいています。我々も、去年は島根県の海士町と邑南町、この辺に視察に行ってきました。私は考え方が少し変わったんです。

例えば、ちょっと紹介しますと、海士町は、石破さんが日本中に、こんなに町おこしをや

っているんだよというようなことをばんばん、見本だよと、こういうことをテレビでも何でもやるわけです。島根の海士町って、25年は2,297人が、26年の、少し時期はあれなんですけれども、2,368人とふえているし、我々が行ったのは船で３時間もかかる、あんな島がどうしてふえるんだというぐらいなところなんです。2,368人で財政規模48億です。財政力指数0.09、0.1いっていない。地方債の借金71億、交付税22億。ちょっと考えられないですよ、こういうところを優良な町だということで紹介するんですから。

もう一方、島根県の邑南町。広島との境ぐらいのところですけれども、ここはもっとすごいですね。１万1,637人です。ここは財政力指数が0.17、地方債の残高160億です。予算規模は130億。１万1,000で130億の予算をつくっています。交付税が何と70億とか、山梨からもうちのほうに来てくれた村が、山梨の議長会で全部来たんですけれども、ここもちょっと紹介しておきますと、丹波山村というのが628人で存続をしています。財政力は当然なくて0.06ということで、地方債残高は９億8,000万、歳入総額18億あります。地方交付税10億。

もう一つ紹介しますと、小菅村739人、ここも0.09の財政力。地方債の借金が11億、予算規模は20億、地方交付税は９億ということで、何を申し上げたいかというと、私は一番心配していたのが、大多喜町の借金でも、国がいつ地方交付税を減らしてくるのか、ここの部分ですよ。そうすると、邑南町にしろ海士町にしろ、どんどんすばらしい町だよと宣伝しているし、一方、国は、財政力は健全にして、地方分権で自分らで運営できる町にしなさいよと片方で言っていて、片方で、大多喜町でもどんどんやっていることを、こんなすばらしいことをやっているじゃないかというようなことをやって、国はとにかくいいかげんだと思いますよ。

だけど、地方交付税を減らすことは多分できないだろう、基本的に。要は、減らしたら大多喜町どころじゃない、日本の中で全部がもう成り行かなくなってしまう。それはある程度税金を上げるしかないだろうし、消費税をどんどん上げるしかなくて、地方交付税ってそんなに心配しなくていいのではないか。ある程度、例えば辺地債にしろ過疎債にしろ、どんどん使っていけば、３割分は減債基金として積んじゃいなさいよと、将来に負担を残さないように。あと７割分は必ず地方交付税をもらってくるんなら、過疎債なり辺地債でどんどん事業をやったほうがいいんじゃないのという思いがすごくしています。

別に大多喜町は何も困っていない、いろんな総合計画をこのようにつくりました。立派な、いろんな人に見せたらすばらしい計画ですねと。でも中身はよく見ると、冊子は立派だし、いろんな雇用もふやします、何もやります、子育てもどんどん充実しますというけれども、

10年後には8,500人、でもそのうちの300人は三育ですよね。ちょっと不確定な要素があるし、8,200人ということなんですね。でも8,200人だって別に問題ない。問題があるのはその先であって、その先、多分、10年後には6,000、4,000と町長は言われましたけれども、いく可能性のほうが強い。なぜかというと、10年後の8,200人の中にゼロ歳から15歳の人がいないんですよ。これは、その先はもっと落ち込みますよ、今このようにいろんな支援の計画をつくってどんどんやりましたけれども、それでもなおこんなふうですと。

であるならば、もう少し手を打っていかないといけないのではないか。財源的には、今、言ったようにそんなに心配、方針が違うから何とも言えませんけれども、もう少し手を打っていかないと将来的に厳しいでしょう。今、私たちは１万人を割ってしまいました。10年前にある程度もっとやっていれば、１万人で維持できたかもかもしれないものが、今やることによって、やっと10年後に8,000ちょっとというのをキープして、その先の話になるんですよ。今から子供をどんどん政策をぶってふやすという部分があるので、今まで財政規律って非常に大切な部分であると思っていましたけれども、余りそっちばかり向いていると、ちょっと手が打てなくなってしまうのではないかという思いがこのごろすごくしているんですけれども、方針の話ですから、もし町長、その辺を聞いて感想があれば、まずお聞かせをいただきたいと思います。

○議長（志関武良夫君）　町長。

○町長（飯島勝美君）　小髙議員のいろいろ考え方、これも一つの考え方としては実はあるんですよね。これは一つの事業に例えますと、借金をどんどんして拡大して、結果的に実は好循環を生んだときに、それはいい結果が出る場合がある。これはもう確かにそういう側面も一つあることは間違いないですね。もう一方で、時代がどう動くかわからない。そういうときに、その体制というのは一転して危機を、危ないわけですよね。倒産の危機をすぐ迎えるわけです。ですから、そういうことを含めて対応していかなければいけない。そういう対応をした中で事業展開というのが、やはり正道だと私は思っているんです。

ですから、当然のことながら、先ほど申しましたように、財政の規律というのはしっかり守っていく、その上で、どうやって攻めの展開をできるかということだと思いますので、私も少子化の中でいろいろ考えまして、今回、上瀑の保育園の跡地を分譲いたしまして、５区画でありましたけれども、実は売り出しをして即完売となったところでございます。きょう実はその決裁をおろしたところでございまして、その前にも１つやりまして、大多喜でこの程度ならば売れるなという一つの目算が出てきたところでございまして、１つは土地の区画

を毎年30区画から40区画を完売できると、かなり人口減少に歯どめがかかるなと。今回特に45歳以下という形の中でやって、それが完売ということで、実は年齢制限を加えた中でありますので、一つの目安がありますが、ある意味、土地開発基金を今度は一般財源の中に入れまして、子育てのほうに持ってきましたので、１つは財政基盤をしっかりと守りながら攻めるということは、今、小髙議員のおっしゃるとおり、やらなければいけないと思っています。

ですから、これはこれから積極的に進めてまいりますが、特に私ども財政基盤の規律をしっかりするというのは、国の借金も1,000兆円を超えています。これは世界の中で、借金大国日本ということで、220パーセントを超える借金ですよね。やはり歴史を見て、借金で最終的にうまく成功した事例というのは実はないんですよ。やっぱり最後はどこかで淘汰されるんですね。

ですからやっぱりこれは、歴史から見れば財政基盤の健全なものというのは正しいんだと思いますし、そこを守りながらどう攻めるかというのが、今、小髙議員のおっしゃるとおり、これから工夫をしながらしっかりと攻めてまいりたいと思っています。

○議長（志関武良夫君）　７番小髙芳一君。

○７番（小髙芳一君）　総合計画なり地方総合戦略の中では、内容なり事業規模というのはまだこれからという話だと思うんですね。そういう部分で、少しでも効果があるものは、もう少し思い切ってやっていったほうがいいだろうと。

この前もちょっとお話ししたけれども、企画財政課長から、いやそれは持続可能ではないよと。少子化の中で、例えば祝い金をやって、それは効果が出ている。だんだん確実に一軒の家で子供がふえている可能性が数字としてあらわれている部分、こういうところはもう少し上げていくことに、大多喜の出生率なんて日本の中で1400番とか1500番で下のほうですよ。地方に行けば２以上のところも結構ある中で、やっぱりその辺なんかは対策を打っていく部分があるし、今までも議員の皆さんの中で、子育てのいろんな部分で総合的に支援をしていく、こういうことも大切だと思うので、まずは子供を、ゼロ歳から15歳をいかにふやしていくかという部分でやるとか、あるいはこの中にもありましたけれども、企業誘致という部分で、何人か雇用があるけど、大多喜の企業の中には半分が町外から来ているという現実もあるわけで、誘致をしたと同時に雇用が30人、40人ふえるんなら、その対策で住む場所も、分譲とかでは間に合わない部分も例えばあるわけで、そんなときにはある程度の、アパートとは言いませんけれども、せっかく雇用をふやして町外から来てしまっては、せっかくやった部分の効果は半分になってしまう。

ですから、そういうものとセットしながらどう住むところを確保するかということも、やっぱりあわせて投資というか、していかなくてはいけないだろうし、農業分野でも企業分野でも、農業なんか見ていても、家庭菜園の延長かな、本当に産業として育成するにはもっともっとしっかりとしたものをつくっていかないと、非常に厳しいのかなという思いもあるし、企業の中で５人、６人、年間５人とかという部分というのは、もうちょっと考えて、大多喜町の産業をどうするんだという部分が欲しいような気もいたします。

大多喜は、森林が70パーセントということであれば、今、木材だっていろんな部分で注目されていますよね。ナノサイズのセルロースを溶かして、すごく薄くて強度のある部分がどんどん、繊維を溶かして、そういう部分がつくられるし、木材をいろんな薬品を入れて成型して、あっという間にいろんな形をつくってしまう、そういう開発もされています。

大多喜には資源があって、昔は製材屋さんはいっぱいいました。だからもっと町と、あるいは県や国と一緒になって、そういう実用できる部分の研究開発という部分を町がある程度出して誘致するとか、それによって大多喜の林業を復活させるとか、もうちょっと大胆な発想を持ちながら投資をしてもいいんではないか。それは例えばの例ですけれども、もっともっと大きな部分ということを、10年後を見据えた産業をどう育成するんだということを考えながら、ぜひいろんな部分でこれからの事業規模なり内容、そういうものをぜひそういう目で、発想でつくっていっていただければなというふうに思います。

それでは次に、ふるさと納税のことで少し気になることがありましたので、一つだけ質問させていただきます。

いろいろ出ていますけれども、ふるさと納税で、高速バスあるいは面白峡、この辺の部分がある程度寄附されているなら、その部分として高速バス基金、面白峡基金として、別枠で基金としてつくってしまったほうがいいのではないか。いつまでもネット上に高速バス、面白峡、見る人はこれしか使わないのかよって、もっともっと大事な部分があるじゃないかと必ずなるわけで、寄附してくれた人はもうここにという部分があるので、ぜひその２つはもう基金化すべき話、別枠として基金として。

ただ、先ほど話がありましたけれども、当初、私も１億ぐらいだというふうに聞いていましたけれども、１億5,000万になるとか、あるいは町長の答弁で、５年後はわからないよと、行政はこれでは困る話であります。きちんとした収支見込みをしながら、５年後の計画をきちんと、このくらい必要なんだよと。それは一回精査をしながら、きちんと計画の中の金額をしっかりと決めて別枠で基金とする。高速バスだってほかの財源を引っ張り出してくるこ

とも可能であると思うので、それはそういうものと加味するなり、面白峡で６億全部積むというわけにはいかないだろうから、どこかのいろんな起債なり補助なりというのが、別枠があるんでしょうから、自主財源の部分としてこのくらいはためるんだよというものをつくって、その部分はある程度を確保して、あとはほかの寄附をどんどん募るようにしたほうがいいんじゃないかというふうに思います。

それを基金化したらどうなんでしょうかということです。ふるさと納税の基金ではなくて、その目的の基金として、そうすることによって、いろいろ話が出ましたけれども、これ以上幾らでもつぎ込んでいいよという話は、とても我々は認めるわけにもいかないですよ。きちんとした計画の中でこの部分だよということで、初めて高速バスも面白峡も支持できる。もちろん立派な事業として完成させてもらいたいと思いますので、その辺どうなんでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　ふるさと納税の指定できる高速バス運行事業と面白峡の遊歩道整備事業に積み立てた寄附金は、現在ではそのままふるさと基金の中で管理してございます。

このふるさと基金では、以前の事業に対する寄附金も今管理しておりますので、それらとの整合性を考慮すると、ふるさと納税で指定できる事業はふるさと基金内で管理してもよいのではないかなというふうにも考え方としてはございますけれども、しかしながら小髙議員のご指摘のとおり、別の基金に積み立て、適正に管理することも必要だと思いますので、今年度の決算状況、そしてふるさと納税額の推移を見ながら、町長と協議していきたいというふうに考えております。

○議長（志関武良夫君）　７番小髙芳一君。

○７番（小髙芳一君）　よろしくお願いします。

それでは次に、災害時の危機管理ということについて……。

○議長（志関武良夫君）　一般質問中ですけれども、ここで10分間の休憩をとります。50分からの再開とします。

（午後　３時４１分）

○議長（志関武良夫君）　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後　３時４９分）

○議長（志関武良夫君）　７番小髙芳一君。

○７番（小髙芳一君）　災害時の危機管理について、次に質問させていただきます。

まず最初に、防災訓練のあり方についてお願いをします。

今年度はたしか総元、その前は西畑、老川、そんなことで防災訓練を順番にやっていると思いますけれども、いつも防災訓練を見ていて、逆に危機感を感じます。本当に毎年の恒例行事なような感じがして、果たしてこれで訓練になるのかなというような思いがあります。

何がというと、災害があって一番大切な部分というのは災害対策本部、ここがどう機能していくかということによって、全てが変わってくるというふうに思っています。いろんなところで災害があったときに、ちょっとおくれたりいろんな部分で指示や勧告がおくれると、相当な被害を出したり、それは私たちが想定している大多喜の中ではそんなに多くはないとは思いますけれども、いかに対策本部がしっかりと機能してやるか。いろんな情報を一元化して、その中でどういう指示や命令や行動をどんどん出していくか、こういう訓練が全くされていないんですよ。

対策本部はありますけれども、そこに消防署も警察も来ますけれども、実際に有事のときにはどうするんですか、そういう訓練がされていないのではないか。行政の皆さんの事務所掌ですか、そっちのほうはきちんと対応はすぐいつでも、災害対策本部ができると避難所を開設して、それぞれの課がどうやるかと、それは多分ほとんど大丈夫だろうというふうに思いますけれども、実際の有事のときに対策本部の機能をされていない、こういう訓練はぜひやるべきだというふうに思いますけれども、ここで答弁してもらってよろしいですか。

○議長（志関武良夫君）　総務課長。

○総務課長（加曽利英男君）　それではお答えします。

防災訓練でございますけれども、これが年中行事にならないように、また形骸化しないように、少しずつではありますけれども、いろいろ変化をつけてやっているつもりでございます。今年度につきましては、例えば自衛隊の炊飯車の展示だけでしたけれども、そういうものを要請したり、また、消防団による倒壊した建物からの救出の訓練というものを新たに加えて実施をさせていただきました。

ただ、ご指摘のとおり、警察、消防を含めた災害対策本部の訓練は行っておりません。防災訓練のときに警察、消防は参りますけれども、そういうもの等を含めた災害対策本部の訓練は行っていない状況でございます。災害対策本部、それが機能するためには、情報を一元化して、警察、消防、そういう関係機関で共有するということが重要ですので、直ちにそう

いう大きな訓練を行うというのは難しいかと思いますけれども、より実践的な防災訓練ができるように、今後努めていきたいというふうに考えております。

○議長（志関武良夫君）　７番小髙芳一君。

○７番（小髙芳一君）　全然難しいとは私は全く思いません。あの中で、小学校の校庭の中でやるときに、例えば地震が起きて、町中がいろんな建物が倒壊をし、いろんなけが人が出たという想定をしたときにどうするんですか。あそこに、とりあえずは対策本部をつくりましたし、町長が本部長でいるし、そこには消防団も警察も、とりあえず消防署もいるという状況の中で、災害が起こったときにまずはどうなるんですか。

要は、あそこでなくてもここの対策本部でもいいですけれども、やっぱり住民からまずは、あるいは消防団なりから助けを求めるなり状況なり、いろんなことをまずは報告を、とにかく町中の情報を集めないと指示できない話じゃないですか。そうすると、あの防災訓練では、みんな区の人たちがあそこにどんどん寄ってきて、異常ありませんと言うけれど、実際にはそうではなくて、それぞれの区で被害があったら、なるべくその区の中で消防団なり地域の人たちが、被害状況なり真っ先に、要は対策本部のほうにどんどん情報を上げてもらって、そういうことにならないと、本当に有事のときには何も機能しない話だと思うんですよ。

防災無線は双方ですから、地域の人たちが、あるいは町のほうに助けを求めて、ここにこのくらいのけが人がいます、ぜひ応援してください、あるいはほかからも来るでしょう。いろんな区から一気に重なることも考えられるでしょう。そうするときに対策本部はどうするんですか。

やっぱり町中の地図を広げながら、ここにけが人が何人いる、こういうことをまずやるべき話で、そこに警察や消防がいれば応援に向かわせるとか、あるいは消防団がいれば、その近くに行って応援をするとかという訓練をしていかないといけないんじゃないでしょうか、現実的な話。

そして医療体制も、地域の人がけがしているけれども、どこへ行ったらいいんですか、対策本部に行きますよ、どうするんですか。けが人いるんだけれども、どこへ行ったらいいですかね。やっぱりそれが一番最初に、災害発生時のことだと思うんです。ここの防災計画では、お互いに連絡を取りながら行動しましょうと言うだけ。例えば大きなけが人だったらドクターヘリを要請すればいいですけれども、小さいけが人だっていっぱい出る話で、じゃこれはどこへ行くんですか。

それは、災害対策本部をつくったら、医療体制をどうするんだとか、あるいは軽微なけが

人だったらまずは、大体通報は、重い人は来ないですよね、連絡なんかとてもとっている暇はないから。やっぱり動ける人ばかりどんどん情報が集まってきちゃいますから、そこで出て行ってしまったら、これは当たり前の話ですけれども、もっと被害の大きいところは後回しになってしまう。こんなようなことだってあるし、まずは対策本部でいかに情報を集めるかという訓練をしておかなくちゃいけないだろうというふうに思うんですけれども、いかがでしょうか。難しいという話だったけれども、難しくないと思います。

○議長（志関武良夫君）　総務課長。

○総務課長（加曽利英男君）　難しいと申し上げましたのは、防災訓練、実際になりますと決まった時間がございますので、そういう中ではなかなか難しいんじゃないかなというような話です。

それをより有効な訓練にしていくためには、例えば、今考えておりますのは、警報が出ます。大雨警報とか出ますので、ただ、出ても実際にはもっと、被害が発生するとしても遅いというような場合が考えられると思いますので、そういう機会を捉えて、その場合には警察、消防は含めることはできないかもしれませんけれども、職員だけの訓練をするとか、そういうようなことは考えております。

あと、それぞれ警察、消防、例えば電力会社ですとか電気通信事業者とか、そういうところもそれぞれの計画を持っておりますので、それを町長が、警察、消防、ほかのところに指示できるかというと、それがまた非常に難しいんじゃないかなというふうに考えますので、これは防災計画の中では、お互いに協力連携というような表現になっているかと思いますが、実際には、防災計画の中の災害対策本部の組織の中に、自衛隊、消防関係機関、また本部長が派遣を認めた者、町長ですね、町長が派遣を認めた方たちは、災害対策本部の派遣職員として要請することができるようになっておりますので、そういう要請をして、災害対策本部を立ち上げられるんじゃないかなというふうには考えております。

○議長（志関武良夫君）　７番小髙芳一君。

○７番（小髙芳一君）　消防署も独自で動くほど人数はいません。警察だっていません。初動のことを今言っています。時間がたてば、そういう大規模災害になれば、大多喜だけじゃなくてほかもみんなそうでしょうから、大多喜だけ来るとは限りませんけれども、大多喜のいる分署だって何人いますか。６人じゃないですか。警察で何人いるんですか、５、６人じゃないですか、来られるのは。ということになると、本当に情報共有にして、その中でどう割り振って救助に行くかということになるので、それぞれが別々にやってもらったら、とても

じゃないけれども災害に対して対応なんかできないでしょう。ある程度、１時間、２時間すれば、ほかから応援に来たときには、やっぱりいろんな情報をきちんと対策本部におさめておいて、そしてどういう状況だよ、どういう機材が要るよ、何人いるよ、そういうことをどんどん指示してあげなければ、来たってどこに行っていいかわからない話じゃないですか。ですから、常に対策本部はそうやって情報をとる訓練をどんどん日ごろからやっていかないと、有事になったときは対応できないと思いますよ。

これから話をしますけれども、自主防災の部分について、一番やっぱり情報、地域の人たちが集めるところですよね。その辺も後から話しますけれども、できるだけそういう現実に沿って対応をどんどんしていかないと、訓練にならないだろう。責められるのは最後には行政の人たちで、対策本部になっちゃう話だと思うんですよ。だからやっぱりこれは、いつでも訓練以上のものはできませんから、そういう想定は常にしておくべき話だと思います。金がかかる話でも何でもなくて、そういうことを想定しながら常にやっていればいい話だと思うので、ぜひこれから一つ一つ防災訓練をより実践なものにしていっていただきたいと思います。

次に、非常電源の確保について。

去年、何月か忘れましたけれども、大多喜には自家発電装置がないということで、千葉県の中でも２つ、３つでしたか、ないということで報道されましたけれども、当初、計画はあったように記憶をしていたんですけれども、どうして自家発電の装置ってなかったんですか。今度の補正で少し計画をするということでありますけれども、全く危機管理という部分については、ちょっとお粗末ではなかったかと思うんですけれども、なぜなかったか。

○議長（志関武良夫君）　総務課長。

○総務課長（加曽利英男君）　お答えします。

非常用電源の確保でございますけれども、本来であれば、庁舎建設に合わせて非常用電源を設置できれば一番よかったわけですけれども、設計の段階で当初見込んだ建設費、これを8,000万円ほど上回る概算になりましたので、それから設計の見直しを行って、例えば建物の大きさですとか、それも縮めたり、擁壁等を削ったりして建設費を抑えた経緯がございますので、その中で非常用電源は見送ったということですが、今どういう対応をしているかということになりますと、ポータブルの発電機がございますので、例えば停電した場合には、それを利用して電話と防災行政無線、それは運用できるようになっております。ただ、それは自動的に発電機がかかるものではありませんので、発電機をかけてコードをつなぐと、そ

ういう操作が必要になりますが、そういう運用をしております。

このような中で、非常用電源設置を見送らざるを得なかったんですけれども、この３月会議に設計費のほうを補正予算で提出させていただいておりますので、可決していただければすぐ設計に入って、できれば年内に設置したいというふうには考えております。

以上です。

○議長（志関武良夫君）　７番小髙芳一君。

○７番（小髙芳一君）　そういうわけでできなかったという意味が全然わかりません。やっぱり一番大切な部分で、災害にとって自家発電がないということは、ポータブルと言うけれども、どのくらいの大きさのものかわかりませんけれども、まずは庁舎をつくったら、こういう自家発電装置は一緒につくるのが当たり前で、財源がなかったとかそういう部分は言いわけにならないですよ。本当に住民の生命、身体、財産を守るという消防の精神から言えば、全くこういうことがあってはならないというふうに私は思いますので、できるだけ早く設置のほうをお願いしたいと思います。

ほかの避難所には、あるいは小学校、中学校とか、特老とか、その辺はどうなんでしょうか。小・中は当然避難所にもなったりなんかすると、自家発電がないと、避難してきても非常に困っちゃう話ですけれども、その辺はどうなっていますか。

○議長（志関武良夫君）　総務課長。

○総務課長（加曽利英男君）　例えば西小の体育館ですとか大多喜小は、そういう配線はしてありますので、発電機をつければすぐつながるということで、今、設置はされておりません。公民館には非常用電源がございます。

○議長（志関武良夫君）　７番小髙芳一君。

○７番（小髙芳一君）　それはだって、避難してきて夜どうするんですかという話で、非常に困る話で、やっぱり最優先でそういう対応をしっかりとしておくべき話でしょう。こんな立派な防災計画を一生懸命つくるよりも、そんなのはいいから、自家発電の装置をそれぞれに、それはすぐにないかもしれないけれども、必ずやっておかなければいけない話なので、その辺もぜひ考えて、早目に対応するようにお願いをしたいと思います。

時間がありませんので、自主防災について少しお話ししたいと思います。

自主防災、なかなか設置は難しい話で、今９カ所あるということですけれども、現状はどうなっていますか。

○議長（志関武良夫君）　総務課長。

○総務課長（加曽利英男君）　その前に避難所の発電機の関係ですけれども、今、各分団に１台ずつ照明車がございますので、その照明車がついているところには当然発電機がございますので、そういうもので明かりの確保はできるというふうには考えています。

それとあと、自主防災の関係ですけれども、自主防災は現在町内で９地区ということで、これは変わりはございませんが、あと２地区ほどつくってくれるということで、こちらのほうに打診はございますけれども、現在は９地区ということで変わっておりません。

○議長（志関武良夫君）　７番小髙芳一君。

○７番（小髙芳一君）　消防車の照明車をつけたってしようがないでしょう。要は体育館の中に避難して、夜は真っ暗でいるのという話なんで、避難所に明かりがないということで、照明車で照明をしたってどうしようもないじゃないですか。だから避難所は、停電の可能性なんか一番あるわけですから、それはきちんと整備をしておきなさいよということです。

自主防災について、聞くところによると、つくったはいいけど、やっぱりそれはそのままなんですよ。ここで提案したいのは、行政連絡員、区長さんですよね。ここにある程度お願いをしちゃいなさいと。自主防災と兼ねて区長さんにお願いして、それは大変な話じゃなくて、有事のときに区の中の安否情報を上げてください、あるいは町からいろんな情報を流して、今どうなっていますかと聞きますから対応してください、こうやらないと、いつまでたってもそれぞれの自主防災はできません。

大多喜ができないというのは当たり前の話で、こんなことを言わなくたって俺はやるよ、多分みんなどこの区だってそうだと思うんですよ。有事で地震があれば、周り近所を見て助けるよ、だから別にわざわざそんなのつくらなくていいよ、そういう感じは非常にあると思うんです。ただそこで、やっぱり区長さんに区内の安否情報を、震度４だ、５だというようなことがあったらぜひ上げてもらえませんかねと、組長に周りを見てくださいよ、こういうことを自主防災の組織だということで町でお願いしちゃったほうがいいですよ。いつまでも自主防災をつくれつくれと言って、何年もやって、多分できない話で、そこに簡単な規約はありますけれども、これもちょっとやりますからぜひ参考にしてください、ある程度了解を得られたら器材も、例えばリヤカーでも何でも提供しますからというようなことでやっていかないと、地域の全部の防災がなかなかきちんとした成果が得られないですよ。

さっきの地震の話じゃないけれども、一番は地域の人たちがいろんな情報を町に上げてくれることなんで、それに対して対策本部はどう打つかということだから、この辺は行政指導を大いに発揮してもらったほうがいいと思いますよ。

時間がないようでありますので、その辺は、一つ一つ待っているんじゃなくて、どうしても行けない区だけ別枠にすればいいじゃないですか。ほとんどの区は、そのくらいのことは町に協力するよ、あるいは自分たちの地域のことだから、安否情報ぐらいは自分らで確認するよと。毎年毎年新しい区長さんにお願いすれば、ある程度そういう自主防災組織の使命は達成できるというふうに考えますので、最後に総務課長のほうから、それはどうでしょうかということでご答弁をいただければと思います。

○議長（志関武良夫君）　総務課長。

○総務課長（加曽利英男君）　防災訓練は、まさに今言われたようなこと、要するに区長さんが組長さんに発災と同時に依頼をして、それで組長さんが各地区を回って区長さんに報告をして、その区長さんが最終的に災害対策本部に報告してくるというようなことで、例年そういうパターンでやっておりますので、まさにそのとおりだと思います。

それで、大多喜町の区長さんは、それぞれそういう役割も担っているというふうに考えていただいている区長さんが大半ではないかなと思います。実際、町で被害確認をする場合も、それぞれ職員を割り当てておりますが、職員もまず区長さんのところへ行ってくれというような話もしてありますので、幸い大多喜町はまだそこまでコミュニティが崩壊はしておりませんので、区長さんがいろいろ調べてくれる、そういう任務も持っているというふうに解釈をしている方が多いと思います。ただ、これからまた新年度の区長さんを委嘱する時期になりますので、委嘱状の交付に合わせて、今言われたような業務についてもお願いするようなことはしたいというふうに考えております。

○議長（志関武良夫君）　７番小髙芳一君。

○７番（小髙芳一君）　ありがとうございました。

そういうことで、もう県に報告は、大多喜町は自主防災組織はそれぞれの地域が全部つくっていますよと報告しちゃえばいいんですよ。それぞれの仕事をその辺でやってもらえれば、後でその区に、毎年毎年防災訓練をやったって、今できている人だってやっていないでしょう。

○議長（志関武良夫君）　一般質問中ですけれども、小髙君に申し上げます。時間が来ましたので速やかにお願いします。

○７番（小髙芳一君）　わかりました。

以上でありますので、よろしくお願いをします。ありがとうございました。

○議長（志関武良夫君）　以上で小髙芳一君の一般質問を終わります。

◇ 渡 邉 泰 宣 君

○議長（志関武良夫君）　次に、８番渡邉泰宣君の一般質問を行います。

８番渡邉泰宣君。

○８番（渡邉泰宣君）　議長からお許しをいただきましたので、８番渡邉です。一般質問をさせていただきたいと思います。よろしくお願いします。

私の一般質問は、今回、何名かの方と重複している部分がありますので、余分なことを言ってしまったら、議長さんとめてください。ひとつよろしくお願いします。

平成27年12月17日、待望の大多喜発羽田経由品川行きの直行便が開業に至っておりますが、ここまでにはさまざまな意見、心配等がありながらの開業でありました。既存の東京方面より高速バスの状況から推察すると、困難と思う考え方の方が大半であったと思っております。また自分たちも、会う人に本当に大丈夫なのかというようなことが常に言われておりました。

町からの人口流出防止、大多喜町から１時間くらいで通勤通学に利用されるということにより、都内に就職された方、また大学等に入学された方の町内からの利用率の向上を図れるとの見通しもあり、また一方、東京・神奈川方面からのゴルフ客が相当数利用されるというような見通しのもとに、また、大多喜町への観光客導入等もあわせて増加の期待があるというような考え方から、当初からそう多くは望めないということは織り込み済みであるということは十分承知の上なんですが、５年以内の黒字を目指して運行されるということです。できるならば５年というより早く黒字化になるようにしたいというお話もありました。

私も前回の質問でこの話をしましたけれども、答弁の中に、事前の運行に当たって、特にゴルフ客の利用が見込めるというようなこともいろいろお話がありました。また、その辺について、ゴルフ場との話し合いも大分やっておられたというように推察をしておりますが、開業してから２カ月を経過しました。先ほど当初の説明にありましたけれども、予定より若干多いというようなことを伺いましたけれども、それでも乗車率は、本当に相当数を町から赤字分を補塡しなければいけないというような状況であります。

このような状況からある程度の感触はあると思いますが、東京方面への利用状況、通勤通学について現状と、４月からの状況がある程度変わると思います。予定によると、通勤あるいは東京に就職したという方たちの利用がどの程度見込めるのか、その辺を伺いたいと思いますが、どうでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　東京方面への就職だとか、そういう方のご利用ということでよろしいでしょうか。具体的な数については、就職、例えば４月からこのバスを使うとかというものは、今現在まだ把握はしておりません。学生につきましては、先ほどお話しさせていただきましたけれども、３名の方がご利用されているという状況でございます。これからやはり少しずつでもふやしていかなければならないというふうには考えております。

○議長（志関武良夫君）　８番渡邉泰宣君。

○８番（渡邉泰宣君）　12月が260名、１月が551名というふうに説明がありましたけれども、見込みより若干多いということでありました。

それではゴルフ客についてなんですが、私も、やはり一番期待できるのがゴルフの利用客であるような感じもしましたし、また当初は、ゴルフ客については町から優待制度というか、補助制度というか、そういうものがあるようなことも聞きましたけれども、どういうような内容で優待するのか伺いたいと思います。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　高速バスの利用増大対策事業ということで、ゴルフ場のお客様に限ったわけではございませんけれども、団体で利用される方の補助金として、10名以上で団体利用される方に対し助成させていただくということで、１人当たり400円以内と定めてございます。利用状況につきましては、２月末日までに利用された団体はございませんが、３月に１団体ということでございます。

○議長（志関武良夫君）　８番渡邉泰宣君。

○８番（渡邉泰宣君）　わかりました。

その補助制度ですか、その辺について町内、よく言われるホームページを見ればわかるとかいろいろあると思いますが、今月配られた町だよりの中には運行時間とかそういうものも入っておりましたが、その辺の記載内容がなかったようにも見受けられたんですが、その辺の周知ができていたのかどうか。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　各ご家庭には、今回の広報で高速バスの時刻については周知させていただきました。団体客でお使いになる方というのは、今までにも広報にも載せてまいりましたけれども、今回は特にそこは加えていなかったかと思います。それぞれゴルフ場にはあらかじめ協議させていただいておりますので、担当の者のほうからそれぞれゴルフ場を回って、その制度の趣旨あるいはやり方については、それぞれ説明しているということで

ございます。

○議長（志関武良夫君）　８番渡邉泰宣君。

○８番（渡邉泰宣君）　ありがとうございました。

その優待状況、１組ぐらいということなんですが、その補助をすることによって、またある程度町からもお金が出るということなんですが、それでも利用客がふえないよりはふえていただいたほうがいいということなんですが、私も最近、ちょっと用事がありまして品川行きのバスに乗ってみました。先週でしたか。その利用状況は、オリブ始発を８時半ですか、第２便ですよね。そのバスは多分向こうから来た第１便の折り返しだと思います。そのときに品川区役所にちょっと用があったので、私も女房と一緒に行ったんですが、そのときに乗ったお客が、八声部落の女性が旅行に行くということで３名、それから、そのほかはちょっとよくわからないですが、男の人が１名、これは出張だと思います。それから若い女性が２人、計８名乗りました。空港に目的があったので空港でおりまして、品川までは私と女房と２人でした。そんな状況で、たまたまそのときは８名でしたね、私らを含めて。

それで、おりたときに運転手さんにちょっと聞いてみたんですが、品川からこっちに向かったときにどうでしたかと聞いたら、ゼロでしたというような回答を受けました。たまたまきのうもそのバスにすれ違ったんですが、やはり余り乗っていなかったような感じを受けました。

そんなところで、品川区役所に私も、今せがれの住んでいるところの状況のことでちょっと用事があったので、区役所に行って、大多喜町はどうですかと、大多喜町の印象を聞いたんですね。そうしたら、大多喜町ってどういうところとか、職員がよくわからないんですよ。それで私も、お城の城下町とか、特産はタケノコがありますよとか、でもタケノコはそこまで周知していないような感じがしました。それから、やはり城下町ということで、本多忠勝のことについても余り印象がないんですね。だから含めて、大多喜町について余り印象がないんですよね。

ですから、我々が思うほど、東京都民というんですか、その辺の人たちは、大多喜町へ来るという感覚は少ないような気がするんです。大多喜町を含めて周辺へ出かけてくれるようなイベントとか、そういうものも含めてわかればもっといいのかなと。今、勝浦でひな祭りをやっていますよね。そういうものを含めて近隣の市町村といろいろな協調ですか、そういうものでもう少し知ってもらうような方法が必要ではないかというように感じました。

先ほどの町長のお話の中に、これから利用促進をどんどんやっていくというようなことと、

ある程度状況が見えてきているので、これからもっとよく利用できるような状況をつくりたいというようなこともお話がありましたけれども、その利用できる状況とかそういうものについて、今、２カ月過ぎた時点でどういうような方向性を持っていかれるのか、伺いたいと思います。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　議員さんのおっしゃるとおり、都内の方で大多喜を知らない方というのは非常に多いと思います。やはり一番の問題は、大多喜町自体のシティセールスといいましょうか、町でそういうものをＰＲしているのが非常に少ないというような現状があるのではないかなと思っています。

１つは、モデルコースだとかそういうものをつくってあげるとか、あるいは旅行代理店を経由して何かをつくってあげる、あるいはピンポイントにそこの商店街にいろいろな提案を持っていくとか、そういうふうにして地道な活動を続けないと、なかなか一気に、これが開通したから来てくださいというのはあり得ないんじゃないかなというふうに考えております。それはこれからじっくりと町としてやらなければならないというふうに思います。

それと、モデルコースをつくるに当たって、大多喜町だけじゃなくて、議員さんのおっしゃるとおり、近隣の市町村とも同じように協調していくというのも非常に必要だと思います。これは観光行政に特に関係していると思いますけれども、やはり来て終わりじゃなくて、来ていろいろなところを回って、一日楽しめるというようなものも模索する必要はあるかと思いますので、その辺、２次交通とかの問題もございますけれども、幅広くいろいろな面で対策を打っていければいいのかなというふうに考えております。

○議長（志関武良夫君）　８番渡邉泰宣君。

○８番（渡邉泰宣君）　その区役所の中で、大多喜町もどうですかということも聞かれました。大多喜町は山の多い町で、産業面ではさっき言ったタケノコとかそういうものがありますけれども、地域活動課の市町村交流担当者を紹介していただきました。昨年度でしたか、武蔵小山のムサコ祭りも私は行かせていただきましたけれども、そういうイベントについては、この担当の方は大多喜というイメージはありました。それと、今、上瀑でやっていますレンゲまつりですか、その辺についても、大多喜町のレンゲまつりというようなことでお話をしていただきました。そのほかについて、先ほど言ったように、何かやっぱりイメージがないんですね。

それで、イベントを通して大多喜も行って、何かいろいろＰＲする機会がないかなという

ような気持ちを持ちました。私も昨年はムサコ祭りを見ましたけれども、直近ではさくらまつりがありますよね。いつかというのはまだわからないですか。もう決まっていますよね。その辺でそういうイベントに対しても品川あたりに、とにかく職員にもある程度知ってもらうことが一番宣伝というか、そういうものにもつながってくるんじゃないかと思いますし、今言った旅行業者とか、そういうのもいいと思います。でもやっぱり、聞いた職員もゴルフには来ると言ったけれども、大多喜には来ていないんですよ。ほかの市町村に行っているみたいなので、その辺で、そういうイベントを通してもう少し交流ができないのかなと。職員同士とかそういうレベルで何かできないのかなというような感じも受けたんですが、どうでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　産業振興課長。

○産業振興課長（野村一夫君）　品川とか東京へ行くと、要するに大多喜のタケノコと言うと、黙っていても人がすごく集まってくるということなんですけれども、町内でも行事をやっている、それからそういう品川とか荒川とか横浜とか海ほたる、そういうところでも、例えば外房観光連盟とか中房総観光協議会とか、そういうので行っていますので、そういうところで宣伝する、ビラを配るとか、そういうことは可能だと思います。

○議長（志関武良夫君）　８番渡邉泰宣君。

○８番（渡邉泰宣君）　そういうイベントをやれば人が集まりますね。そういうところを利用して、チラシなりなんなりを配ると余計に効果が出るんじゃないかというふうに思っております。私も、この次の質問にあります事業についても、そんな観点から質問項目として挙げました。

もう一つ気になるのは、勝浦方面から現行の東京駅行き、その辺に品川行きが開通したことによって、何らかの影響が出ないのかなというようなことがちょっと気になってきました。その辺で、本当は両方うまく走ってくれれば、例えば東京駅行きに乗っていきながら、帰りには時間の都合で、品川まで東京駅からそんなに時間はかからないですから、そういう利用の方法もあると思います。

そこで品川駅、先ほど山田議員が言われたように、乗り場所が本当にわかりづらいんですよね。駅のすぐ前にターミナルがあれば、それはもうバス停というのはすぐわかりますけれども、ホテルのほうへ入って、それで余り大きな停留所というのはないんですよね。そこで、駅におりたら、例えば山手線で来てもほかの線で来ても、駅におりたら、それがどこが乗り場所なのかなというようなことで多分迷うんじゃないかなと思います。人間だから、口があ

りますから聞けばいいことなんですが、先ほどの大多喜を知ってもらう、それも必要ですけれども、乗り場所の表示がもう少し何とかならないのかなというような感じも受けたので、その辺を進めていただくにはどうしたらいいんだろうかなというような感じなんですが、どうでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　品川グースの乗り場が非常にわかりづらいというご質問だと思います。確かにホテルの中に入って、そしてちょうど３階部分になるんでしょうか、そちらの方からバスが出るということで、非常にわかりづらいということで、今回の時刻表の中には、高速バスの乗り場ということで、品川グースの京急ＥＸイン品川駅前の正面玄関３階部分になりますよというようなことで、そこでは周知をさせていただいたところでございます。

ただ、看板を設けるとなると、どういうところにどういう看板を設置するかというのが、特に都心でございますので、非常に難しさはあるのかなと。ですから地道に、ここから出ていますということで、逆に都会の方であれば、品川グースと言うと、一つの場所はわかる方も多いのではないかなと、品川近郊の方はですね。そういうふうにも考えておりますので、その辺は、随時これから周知していかなくちゃいけないというふうには考えております。

○議長（志関武良夫君）　８番渡邉泰宣君。

○８番（渡邉泰宣君）　これはわかるかどうか、わからなければよいと思いますが、現行の勝浦方面からの東京駅行きのお客の移り変わりとか、そういうものも変化していると思うんですが、その辺はどうでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　浜松町・東京駅行きの高速バスにつきましては、１日６本、上りと下りを合わせると12便運行しております。浜松町・東京駅行きの高速バスの利用者数につきましては、平成21年から平成25年までは７万人前後ということでしたけれども、平成25年度に首都圏中央連絡自動車道の整備により都心との時間距離が短縮され、平成26年には８万4,675人と利用者が増加しております。

大多喜町の状況といたしましては、大多喜バス停の平成25年までの乗降客数は9,700人前後でございました。平成26年には１万1,000人と利用者が増加しております。また、たけゆらの里では平成25年までは6,400人前後でしたが、平成26年は6,100人と微減している状況でございます。また、月別の大多喜バス停の状況は、平成27年11月の乗降客1,109人が、12月

に1,081人、１月に1,005人と微減しておりますけれども、前年の乗降客数と比較すると、12月には79人、１月には101人とそれぞれ増加している状況でございます。

このようなことから、町から乗車する高速バス利用客の全ての人が品川行きの高速バスの利用に切りかえたわけではなく、行き先に合わせた利用をしているものだというふうに推察している状況でございます。

○議長（志関武良夫君）　８番渡邉泰宣君。

○８番（渡邉泰宣君）　両方がうまく利用客がふえて走ることが一番望ましいと思いますし、言うなれば東京行きの本数が倍にふえたということになりますよね。そうすると、どっちを利用してもということが出てくると思いますし、その辺で現行のバスにもそんなに影響がないということで、かえってよくなる傾向にあるのかなというふうに今の報告では受けました。

それでは次に移りたいと思います。

大多喜町の面積のうち、山の部分が70パーセントを占めているそうですが、先日、総元地区の法塔山ですか、これは副町長を先頭に、私と山田議員と麻生議員ですか、そんな関係の人が山に行ってきました。自分も、法塔山と昔よくいう間野山と同じ山かなと思ったら、やっぱり違うみたいでしたけれども、思ったより山の状況もそんなに悪い状態ではなく、いろいろ整備すれば遊歩道としての機能ができるのではないかと。多少一部危ないようなところもありますが、整備すれば使えるのではないかというようなことの感触を受けました。

私は山が好きで、よく出かけることが最近多くなりましたけれども、それは高い山を登るというようなことはもう無理なんですが、高い山に登っている人はそんなに多くはないと思います。近くの小高い山に登って家族で楽しむとか、大多喜町の山はそういう程度の山だと思います。都会に住んでいると、どうしてもビルの谷間に住んでいるとか、車がうるさいとか、いろんな問題があって、やはり山に興味を持つ方もあるのではないかというような予想のもとで、私もこれを質問に取り上げました。

今現在、すぐ使える遊歩道というか、ハイキングみたいなことができるような道路は、古道というんですか、その辺は、近くでは県民の森とか、老川では先ほど言われましたその辺の道路がすぐ使えるところがあります。その辺を含めた感じで、さっき言った誘客というか、その辺も必要かなということでお話をしたいと思います。

今言いました、大多喜町も古道というんですか、その辺が結構あるというお話を聞きました。近くでは上瀑から睦沢に抜けるあの近くの、駒返といったかな、その辺のところも整備すれば十分に使えるというような話も聞いております。

あるいは、山があれば川もあります。それから滝もあります。その辺のところで、私もたまたま平沢のたけのこ村に、ちょうど蛍の時期に、早朝でしたか、お客さんが見えて、不動の滝はどこにありますかというふうに聞かれたんですが、不動の滝というのは私の頭になかったので、たけのこ村の駐車場の近くに滝があったので、滝と言えば私の記憶ではこの滝しかないということで教えましたけれども、後でわかったことですが、黒原の、総元駅前ですか、あの滝も、やっぱりその関係で初めて行ったんですが、都会の人から見れば相当感じのいいというか、見られるような滝でした。近くの方たちも、よくお客さんが来るとそこを案内するというようなことも聞いておりますし、５月ころには、こいのぼりですか、その辺をあれして皆さんに楽しんでもらうというようなところもありました。

そこで、このようなところを時期的に観光できるときではなかったのかと思いますが、この辺の整備について、先ほど来いろいろ話が出ておりますふるさと納税の利用というんですか、その辺を含めて何とか整備ができないのかということで、伺いたいと思います。

○議長（志関武良夫君）　生涯学習課長。

○生涯学習課長（関　晴夫君）　それでは、生涯学習課のほうからお答えさせていただきます。

町内には、本多忠朝がつくらせたという小土呂の旧大多喜街道、距離として約1,500メートルぐらいの距離があります。それと、議員さんもおっしゃいました下大多喜の、大多喜から睦沢の境にあります駒返、これも本田忠朝の伝説が残っている場所になります。それから、横山から柳原へ抜ける旧柳原道も残っております。また、塚越から筒森まで行くことのできる道など、多くの古道が大多喜町内には残されております。また、白蛇伝説のあります田代滝、それと関平内の伝説のあります内梨滝、これは平沢なんですけれども、それとあとは、お寺といたしましては本多忠勝の菩提寺であります良玄寺、それと松平家の位牌所になります円照寺、円照寺につきましては、明治維新で大多喜城が開城されたときに、松平家の奥方たちがそちらに避難したということも聞いております。そういうお寺とか、あと筒森には、弘文天皇の奥さんを祭ってある筒森神社、こちらは安産の神様として知られております。

これら町内には多くの歴史あるいは由緒のあるものがたくさんございます。これらの整備につきましては、第３次総合計画に反映できないかとのことでございますけれども、第３次総合計画の施策の中に文化財の保護・活用ということが挙げられておりますので、その中で対応していきたいというふうに考えております。

○議長（志関武良夫君）　８番渡邉泰宣君。

○８番（渡邉泰宣君）　どうもありがとうございました。

先ほど述べましたように、高速バスの利用客増進のためには、こういうものも含めて観光の、こういうパンフレットはないですよね、今のところ。ですから、そういうものも含めて、イベントと一緒にやったらどうかなというふうに思っております。

次に移りますが、大塚山整備について、私も何度かやっておりますが、西畑地域の中心的な山でもありますし、あれだけ整備されてきておりますが、若い人が少ない中で、この前もお話ししたように、精力的にやってくれた方が高齢になって、維持管理も困難な状態になっているということですが、我々議員はもとより、一般町民も相当に関心があるのは当然と言えば当たり前の状況であると思います。

その中で、この整備について、前回は地元の人でやってもらいたいというような回答でしたが、今回、せっかくのことですので、関心も相当高くなってきておりますし、駅からハイキングとかそういうのも客も大分来ております。その辺で、何とか整備に対しての支援ですか、その辺ができないかどうか伺いたいと思います。

○議長（志関武良夫君）　産業振興課長。

○産業振興課長（野村一夫君）　大塚山を含めた周辺の整備と維持管理についてというご質問ですが、大塚山の整備については、地元三条区の要望により、平成18年度から19年度にかけて県営中山間整備総合事業で整備されました。三条区の長年の懸案であり、地元負担金も積み立てにより確保したと聞いています。完成後の維持管理については、要望により建設した、また負担金も納めている三条区の管理となっております。

また、周辺の整備については、平成26年度に民話を書いた３枚の看板をかけかえたほか、360度見渡せるように山頂周辺の杉の木を伐採しました。また本年度は、万葉集の和歌を書いた看板の材料費の提供や、中野駅・大塚山・西畑駅のハイキングコースの案内看板を設置の予定です。平成28年度については、ハイキングコースのマップを作成する予定です。

ふるさと納税につきましては、経常的な事業や維持管理費には充当することはありませんので、考えておりません。

以上です。

○議長（志関武良夫君）　８番渡邉泰宣君。

○８番（渡邉泰宣君）　今の回答にありましたように、いろいろご尽力いただいていることと思いますが、地元のほうでも予算確保できたということは、私も余り聞いていなかったので、それができるようであればいいかと思いますが、それにしても、維持するというか、若い人がだんだん少なくなってきている中で、ちょっと大変な状態になるような予測もありますの

で、今後ともよろしくお願いしたいと思います。

それでは次に移ります。小さな拠点事業について伺います。

町の総合計画の中に、地方創生先行型で実施する予定の事業の中の一つに小さな拠点事業が挙げられておりますが、先ほどお話の中に、予算化されて、700万というようなことで計画されているというような話を伺いました。中野商店街において駅周辺の環境整備を行い、駅施設や観光施設と一体となった環境整備を目指すということなんですが、新たな観光レクリエーション拠点の形成、大塚山自然公園を中心とした新たな観光拠点づくりに努めるというようなことでございますが、中野駅周辺地域の活性化を図るということですが、以上が大多喜町第３次総合計画前期基本計画の中に挙げられておりますが、この計画の推進となるためにと思いますが、実施された会合があったようですが、この辺はどういうような内容で、どのような方たちがメンバーを構成して集まったのか、また、会合の内容について伺いたいと思います。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　ご質問の事業につきましては、地方創生先行型交付金事業による上総中野駅周辺の小さな拠点事業ということでございます。関係区が10区と地域も広く、地域の方を主体とした検討委員会を設置し、事業を協働で推進しようとするものでございます。

委員につきましては、市川区、中野新町区、中野本村区、堀切区には各２名の委員の選出を依頼しました。伊保田区、板谷区、三条区、田代区、弓木区、紙敷区には１名の委員の選出を依頼したところでございます。また、中野駅前振興会、中野商店街、福祉関係者、農業関係者、小湊鉄道、いすみ鉄道の関係者にも、それぞれ委員の選出を依頼したところでございます。その結果、関係区、関係団体から選出されました22名の方を検討委員会の委員として委嘱させていただいたものでございます。

まだ２回しか会合を開いておりませんけれども、１回目につきましては、それぞれ役員の選出だとか、今後の方針という問題で協議をしていただいたところでございます。後で、関係している、特に地域の議員の皆さんには、会議でどのようなことをしたのか、それをそれぞれお配りさせていただこうということで、今準備をしているところでございます。

○議長（志関武良夫君）　８番渡邉泰宣君。

○８番（渡邉泰宣君）　私たちも、そういうことに関しては関心が人よりは強いつもりでおるんですが、よく言う協働のまちづくりとか、そういうことから言いますと、その情報という

のが、終わった後にあったのかないのか全然わからない状態で今質問したんですが、西畑の議員の方も多分知らなかったということで、それで今回質問したんですが、できれば、我々もやはり関心は深いですから、その中に入っていくのは、何かちょっと事情があるとか、いろんな話も聞きましたけれども、その辺はどうなんでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　議員の皆さんがその中に入れるかどうかというご質問でよろしいでしょうか。この関係でいろんな関係区の皆さんともお話をさせていただいた中で、議員さんとはまた別にお話しする機会があるので、とりあえずは地域のいろいろな声を反映させるような形をとっていきたいということでございます。

その中で議員さんが入っていないと、どのような情報が出ているのかわからないということで、私のほうとしては、その会議の内容については、それぞれ会議録を各議員さんのほうに、特に関係している西畑地域の議員さんには送らせていただこうというふうに思っております。

○議長（志関武良夫君）　８番渡邉泰宣君。

○８番（渡邉泰宣君）　私もきょう、２回行ったというのは初めて聞いたので、その辺もちょっと情報が入っていないですね。結果がどういう話になったかということもわかっていないです。何か聞くところによると、その中で、役というんですか、組織的な役職を決めて、決まったということなんです。その状況がわからないと、我々も関心があってもいろいろ話もできないし、特に地域の、俗に言う、よく言う、西畑地区はそういう面でおくれているというようなことをよく言われるんですが、その辺で、この次の会合で仲間に入れるのか、あるいはいつごろになるのかということ、その辺を伺いたいと思います。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　当面は、この委員さんが決まっておりますので、この委員の中での検討が進むような形になろうかと思います。ただ、委員さんの中にも、いろいろな人からご意見をとりあえず聞いてみるのも必要だろうということで、アンケート調査を実施したらどうだろうかという、会議の中で意見が出ております。

したがって、これからは多分、アンケート調査をやったり、その集計をしたり、その結果に基づいて、どのようにしたら中野駅周辺が活性化してくるのかというようなことを、その委員会の中でやはり検討していきたいというふうに思っております。

○議長（志関武良夫君）　８番渡邉泰宣君。

○８番（渡邉泰宣君）　先ほどメンバーの、どの辺の人が集まったかということも伺いましたけれども、ちょうど半分ぐらいということですよね、西畑地区でいくと。私が言いたいのは、どっちかというと西側になるんですか。東側のほうにもやはりいろんな考えを持っている人もいると思うんです。例えばさっき言った不動の滝とか、その辺は、西畑ではないですけれども、すぐ隣のところでありますよね。それとか、私もこの前話したダムとか、そういういろんなところもあるし、そういうところで、当初はもう少し範囲の広い人が集まって会合を開いたほうがよかったのではないかなというような感じも受けたので、今後、中野駅が拠点だから、確かに向こうになると思うんですが、もう少し範囲を広げてやればいろんな話も出ると思うんですが、どうでしょうか。

◎会議時間の延長

○議長（志関武良夫君）　皆さんに申し上げます。

間もなく５時となりますが、時間の延長をお願いしたいと思います。よろしくどうぞ。

○議長（志関武良夫君）　どうぞ続けてください。

企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　現在は22名の委員さんがいらっしゃいます。本来であればもっと、議員さんのおっしゃるとおり、いろいろな地域の人からお集まりいただいて検討していただくというのが、もちろん必要かなというふうにも思いますけれども、ただ、22人の方が意見を言っても、限られた時間の中でなかなか、全員の方の意見を聞くだけで時間が経過してしまうというような状況でございます。ですから、これ以上の数でこの委員会を開くのもどうなのかなという考えはございます。

○議長（志関武良夫君）　８番渡邉泰宣君。

○８番（渡邉泰宣君）　これから始める事業なので、いろんなやり方はあると思いますし、執行部のほうの考えもいろいろ出てくると思いますが、できれば皆さんと、私どももそういう気持ちも特に強く持っておるので、なるべくいろんな意見の出るような中に参加したいという希望もあります。

それで、今いろいろ私の質問の中にありましたけれども、これも全て、なるべく早く品川行きのバスが利用客がふえるようにというような気持ちも含めまして、今回の質問をさせていただきました。その辺で今後ともよろしくお願いしたいと思いまして、私の質問とさせて

いただきます。どうもありがとうございました。

○議長（志関武良夫君）　渡邉泰宣君の一般質問が終わりました。

ここで10分間休憩します。

（午後　５時００分）

○議長（志関武良夫君）　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後　５時０９分）

◇　麻　生　　勇　君

○議長（志関武良夫君）　一般質問を行います。

４番麻生勇君。

○４番（麻生　勇君）　麻生勇でございます。オーラスですが、しばらくよろしくお願いいたします。

私は、ふるさと納税を活用した人口増対策という大題で質問させていただきます。

昨年の12月17日に羽田空港経由品川行きの直通高速バスが運行されました。将来的には、都会から本町に訪れる方や町民はもとより、通学や通勤などに利用される方々が増加し、採算がとれるようになることを望んでいます。

ふるさと納税のことは久しぶりに聞きました。２億8,000万円と広報に記載されておりました。ところが、最近の新聞記事は、はるかにそれを上回る、全国で本町が自治体トップ20のうち13位にランクされており、その額が何と15億3,000万円でした。このふるさと納税の使途は、高速バス運行事業と面白峡遊歩道整備事業に活用することになっており、当面は高速バスの赤字補塡に活用されると聞いております。

今現在、全国各市町村では共通の人口減少に悩まされていますが、人口増対策に活用してもよいのではないかと思いますので、以下の点についてお伺いいたします。

何回も質問しておりますが、城見ヶ丘団地の件ですが、城見ヶ丘ついては、ほかの議員さんたちも何度か質問されています。私もその一人です。しかしながら、住民との約束で安く売却できないとの回答を得ています。今回は視点を変えました。城見ヶ丘団地の未売却地にふるさと基金を活用し、住宅の建設で希望者に貸し出す、また、売却の場合は長期返済計画を組み、対応する考えはないかを伺いたいと思います。

○議長（志関武良夫君）　建設課長。

○建設課長（末吉昭男君）　城見ヶ丘団地は、平成25年度から平成27年度にかけまして、毎年１区画ずつ売れており、現在９区画が残っております。そこで、ふるさと納税を活用して、この９区画に住宅を建設して、賃貸借及び売却したらどうかということでありますけれども、それも一つの案ではなかろうかとは思います。

しかしながら、まず土地を売却することが前提となっております。そしてまた今回、今お話がありましたとおり、品川・大多喜間の高速バスも走り、条件もよくなってまいりました。そういうこともありますので、引き続き販売に対しまして努力してまいりたいと考えております。

そしてまた、住宅を町で建設することも、ふるさと納税を活用するか否かは別といたしまして、定住化を推進する上での一つの方策として受けとめさせていただきたいとは思っております。

以上でございます。

○議長（志関武良夫君）　４番麻生勇君。

○４番（麻生　勇君）　結局、安く売らないということですか。

○議長（志関武良夫君）　建設課長。

○建設課長（末吉昭男君）　土地だけについては、現状のままで販売していこうという考えでございます。

○議長（志関武良夫君）　４番麻生勇君。

○４番（麻生　勇君）　わかりました。

町長、一つお願いします。これは提案になるんですけれども、高齢化、少子化の問題が一番問題だという話でしたので、できれば私の提案、ここに書きましたけれども、安く住宅建設をして、安く貸して、長期で有利に住んでもらえると、そういう対策というか、計画を考えられないか伺います。

○議長（志関武良夫君）　町長。

○町長（飯島勝美君）　大変興味のある話でございます。実はそのお話もある程度視野に入っていることは入っているんです。ただ、どうやってやるかというのはなかなか難しいものですから、ただ城見ヶ丘につきましては、前に買われた方の反発というのは非常に強い。もう既に１回500万円の支援をしていますから、改めてもう一回やるということは、なかなかこれは難しいと思うんですね、もう一度それで決定していますので。

今、課長の答弁にありましたように、今度は交通の利便性ということで考えれば、あの土

地は付加価値があると思いますので、むしろ最近あそこを買われる方は、首都圏の方が何人か、今、買い始めていただいていますので、この地域の人にとってみては物すごく高いんですけれども、首都圏の人にとってみればそんなに高くないんですね。ですから、最近買われている方は、みんな首都圏の方が今買われていますので、これはもう少し推移を見たいと思っております。

ただ、もう一方で、２億5,000万円の基金を一般財源化して、定住化に向けてということで、もう既に議会の承認も得ているところでございますので、今回も２回目の実験的なものとして、上瀑保育園の跡地を同じような形で売り出しをしてみました。今回は逆に年齢制限をかけたわけです。45歳以下ということでやりました。おもしろい現象だなと思いますのは、今回の５名の方は全部、町内の町営住宅あるいはアパートに入っている方なんですね。ですから、こういう興味深い今回の結果も出ておりまして、本来の町営住宅の目的というのは、実はそこで安い家賃でできるだけ資金をためて、最終的に住宅を買っていただくというのが一つの形でもあるわけですね。ですから、そういう形にのっとった形になっているようなわけですね。ですから、45歳以下という若い方でありますので、これは一つの大きなデータとなります。

そういうことで、２億5,000万円の基金をどう使うかという形になるんですが、定住化に向けましてね。この２つの事例をもとに、ある程度の売れるという形、若い方が定住化に向けては意欲があるんだなということもあり、特に大多喜町には若い方が求められるような土地がないということもはっきりしてきましたので、これからそういったことをもう少し積極的に、いろんな形で今のご意見も賜りながら、いろいろまた計画をつくってまいりたいと思っています。

○議長（志関武良夫君）　４番麻生勇君。

○４番（麻生　勇君）　確かにそうかと思いますけれども、今、10区画が９区画になったということでおめでとうございます。よかったです。それで、９区画なんですけれども、利用価値が高い、利便性がよくなるということで売れればいいんですけれども、売れなかった場合、ずっと草刈り、管理をやらなくちゃいけなくなるわけですよね、町で。だからそれも考えながら、私の提案も少し頭の中に入れて進めていっていただきたいなと思います。

次に、新生大多喜町、現大多喜町の人口減少は、他市町村も懸案事項となっておりますが、本町は合併当初から世帯が3,500戸、ほとんど横ばいで推移している。人口は１万8,000から現在１万を割っていますよね。9,800ですか、そのくらいの人口になっていると思います。

そこで、世帯増をしなければ人口はふえないと、そういう結論じゃないかなと私は思います。したがいまして、さっきの住宅建設は、それができたらすごくいいことであると私は思います。

そこで、世帯増プロジェクトを町でつくって、若者が安心して住めるような企画を立ててはどうかと考えます。その点について何かありましたらお願いします。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　企画財政課からお答えさせていただきます。

世帯増プロジェクトを組織して若者の定住化の企画を策定し、若い人たちを募集する、これは非常に貴重なご意見だと思っております。人口の定住化には、地方創生で実施しているソフト事業だけでは難しい問題もございます。このため、４月１日以降、土地開発基金を廃止して定住化基金を設置して運用することとなりますが、行政だけではなく、まさに産官学金労言一体となって、そして地域の方と協働して定住化を図ることが必要だと考えております。

そういう中で、財源につきましては、定住化に向けた事業にはもちろん定住化基金もございますし、ふるさと納税の基金だけではないということでございます。その企画の内容を十分精査した上で関係課と協議を進めたいというふうに思います。

○議長（志関武良夫君）　４番麻生勇君。

○４番（麻生　勇君）　４月３日に渡辺正行さんが来て何かやってくれると、人を集めてやってもらえるというような情報がこの間の広報に載っていました。私も希望したところで、大変喜んでおります。

そこで、そのプロジェクトなんですが、さっきみんなでという話がありましたので、よい案をつくって、町は町営住宅から城見ヶ丘に移ると、それは人口がふえないんですね。やはりよそから呼ぶということで町外に広く募集すると。そうすればたくさんの応募者が、渡辺正行さんにまた協力してもらって、町内に来るように応募をしてもらえれば、非常にすばらしい町おこしになるのではないかなと思います。どうでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　町長。

○町長（飯島勝美君）　今、議員の言われたように、大多喜高校の出身ということで、非常に大多喜町に愛着を感じていただいております。大多喜には同級生が多いということで、よく遊びには来ていただいております。

先ほどのお話は、彼がずっと今まで行ってきたのは、若手芸人を育てるということで東京

でやっていたんですね。それを大多喜で何回かやろうよということの中で話が出まして、昨年のお城まつりのときにその話が出たんですが、そういうことで大多喜に協力したいということでの第１弾の話になるわけでございますけれども、これに限らずいろんな形で、婚活についてもそこに絡ませていこうとか、いろんな提案を実は渡辺さんのほうから受けておりますので、これはこれから町おこしの中で協力するということを本人からも言っていただいておりますので、これからさらにまた協力をお互いにして、やはり人口減少に歯どめをかけられればと思っております。

もう一つは、今、住宅の話も出ましたけれども、やっぱり一つの資産として、先ほど、土地開発基金を今度は定住化に向けての基金としてするわけですけれども、一つの考え方として、今の人口減少の数を考えますと、年間に町が40の区画を分譲して、それが何とか売れれば、ある程度人口減少の歯どめで、もとになるのかなというような一つの試算もしているところでございまして、そういったことも含めて、いろんな形で皆さんにご協力をいただきながら、やはり人口減少をとめていく必要がありますので、また議員さんにもいろいろなご提案をいただければと思っています。

○議長（志関武良夫君）　４番麻生勇君。

○４番（麻生　勇君）　若い人が町に移住して、例えば新婚さんがそこに住んでもらえると、約20年は安心して人口がふえていくんですね。９区画ですから、36人はずっと20年間続くはずですよ。ずっといたらですよ。ずっといたらそのような結果になるんじゃないかと思います。

新しい住宅というのは、大体20年ぐらいで静かになっちゃうんですね、住んでいるところが。だからできるだけ、町長が今言ったように、毎年毎年40区画を整備して、そこにまたよそから来てもらうと。町の転居だと一つも人口はふえませんので、よそから来てもらうと。それには、前回、私は質問したことあるんですが、鉄婚という話をしたと思いますけれども、鉄道を使ったり、渡辺正行さんの協力を得たりして、ぜひ町の人口が減らないように、10年後8,300人、そこが目標じゃなくて、もっと上が目標のはずなんですよね。だから、総合計画のときに、もう少しふやしたほうがいいんじゃないのという話をしたことがあるんですが、やっぱり現状維持を狙ってやっていかないと、そこへ行っちゃいます。ぜひそんな考え方で、すごくいいプロジェクトを組んでもらって、私もまだしばらく生きていますから、それを見て死にたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

以上で質問を終わります。

○議長（志関武良夫君）　以上で麻生勇君の一般質問を終わります。

◎散会の宣告

○議長（志関武良夫君）　以上をもちまして本日の日程は終了しました。

明日３月４日の会議は、提案されている事件が多いことから、会議の開始時間を午前９時に繰り上げて開くことといたしたいと思います。ご承知いただきますようお願いします。

これにて本日の会議を閉じます。

ご苦労さまでした。散会とします。

（午後　５時２７分）

第１回大多喜町議会定例会３月会議

（ 第 ２ 号 ）

平成２８年第１回大多喜町議会定例会３月会議会議録

平成２８年３月４日（金）

午前　９時００分　開議

出席議員（１１名）

１番	根本年生君	３番	吉野一男君
４番	麻生　勇君	５番	野村賢一君
６番	江澤勝美君	７番	小髙芳一君
８番	渡邉泰宣君	９番	吉野僖一君
１０番	山田久子君	１１番	野中眞弓君
１２番	志関武良夫君		

欠席議員（なし）

地方自治法第１２１条の規定による出席説明者

町長	飯島勝美君	副町長	鈴木朋美君
教育長	石井信代君	代表監査委員	滝口延康君
総務課長	加曽利英男君	企画財政課長	西郡栄一君
税務住民課長	市原和男君	健康福祉課長	永嶋耕一君
子育て支援課長	吉野敏洋君	建設課長	末吉昭男君
産業振興課長	野村一夫君	環境水道課長	米本和弘君
特別養護老人ホーム所長	君塚道朋君	会計室長	三上清作君
教育課長	野口　彰君	生涯学習課長	関　晴夫君

本会議に職務のため出席した者の職氏名

事務局長	渡辺八寿雄	書記	大竹義弘

議事日程（第２号）

日程第　１　一般質問

日程第　２　議案第　１号　大多喜町過疎地域自立促進計画を定めることについて

日程第　３　議案第　２号　行政不服審査法の施行に伴う関係条例の整備に関する条例の制定について

日程第　４　議案第　３号　特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について

日程第　５　議案第　４号　特別職の職員で常勤のものの給与及び旅費に関する条例及び地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例附則第２項の規定によりなおその効力を有するものとされる同条例第４条の規定による廃止前の大多喜町教育委員会教育長の給与及び旅費等に関する条例の一部を改正する条例の制定について

日程第　６　議案第　５号　大多喜町一般職の職員の給与等に関する条例の一部を改正する条例の制定について

日程第　７　議案第　６号　固定資産評価審査委員会条例の一部を改正する条例の制定について

日程第　８　議案第　７号　大多喜町過疎地域固定資産税課税免除条例の一部を改正する条例の制定について

日程第　９　議案第　８号　大多喜町一般廃棄物処理施設建設基金条例の制定について

日程第１０　議案第　９号　大多喜町行政不服審査関係手数料条例の制定について

日程第１１　議案第１０号　大多喜町介護予防・生活支援事業等利用者負担金徴収条例の一部を改正する条例の制定について

日程第１２　議案第１１号　大多喜町企業誘致及び雇用促進に関する条例の一部を改正する条例の制定について

日程第１３　議案第１２号　大多喜町水道事業給水条例の一部を改正する条例の制定について

日程第１４　議案第１３号　大多喜町消防団員の定員、任免、給与、服務等に関する条例の一部を改正する条例の制定について

日程第１５　議案第１４号　平成２７年度大多喜町一般会計補正予算（第９号）

日程第１６　議案第１５号　平成２７年度大多喜町鉄道経営対策事業基金特別会計補正予算

（第１号）

日程第１７　議案第１６号　平成２７年度大多喜町国民健康保険特別会計補正予算（第４号）

日程第１８　議案第１７号　平成２７年度大多喜町後期高齢者医療特別会計補正予算（第１号）

日程第１９　議案第１８号　平成２７年度大多喜町介護保険特別会計補正予算（第４号）

日程第２０　議案第１９号　平成２７年度大多喜町水道事業会計補正予算（第３号）

日程第２１　議案第２０号　平成２７年度大多喜町特別養護老人ホーム事業会計補正予算（第２号）

◎開議の宣告

○議長（志関武良夫君）　改めまして、おはようございます。

議員各位を初め、町執行部の皆さんには昨日の会議に続きましてまことにご苦労さまでございます。

ただいまの出席議員は11名全員です。したがって、定足数に達しておりますので、会議は成立いたします。

これより本日の会議を開きます。

（午前　９時００分）

◎一般質問

○議長（志関武良夫君）　日程に入ります。

日程第１、一般質問を行います。

通告順に発言を許します。

◇　吉　野　一　男　君

○議長（志関武良夫君）　初めに、３番吉野一男君、一般質問をお願いします。

○３番（吉野一男君）　おはようございます。

３番吉野一男でございます。通告に従いまして、議長のお許しをいただきましたので、ただいまから一般質問を行います。

第１点目は、ふるさと納税についてであります。第２点目は、町長の職務代理について伺います。第３点目につきましては高速バス運行計画を、以上３点についてをお伺いいたします。

まず最初に、ふるさと納税についてお伺いいたします。

平成28年２月８日、読売新聞の夕刊に、自治体がふるさと納税の寄附を謝礼品として送った商品券などの金券がインターネットのオークションで転売されるケースが相次いでいるということです。また、その中で最も多かったのは、１万円寄附すると7,000円分がもらえる大多喜町のふるさと感謝券の168件、町内の商店や旅館などで使えるが、ネット通販を利用できる店もあるため、他市町の件数よりも突出して多かったと言われております。総務省は、地域振興という制度の趣旨から外れているとしているため、今後、町としてどのような対応

をとるのかお伺いいたします。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　ふるさと納税につきましては、総務大臣から平成27年４月１日付で地方自治法に基づく通知、技術的な助言がされております。１つは、返礼品の価格や返礼品の価格の割合の表示により寄附の募集をする行為を行わないようにすること、１つは、換金性の高いプリペイドカード等、高額または寄附額に対し返礼割合の高い返礼品を送付する行為を行わないようにすることでございます。

町のふるさと感謝券につきましては、今までもお答えさせていただきましたけれども、また、新聞報道等でご指摘された部分、インターネットオークションで転売されていること、そして、総務省では、それが非常に換金性が高いということ、返礼割合が７割と高いこと、そして、大多喜町の特産品以外のものをインターネットで購入できることなどについて、千葉県を通じて助言があったところでございます。

町のふるさと感謝券は、今までもご説明してきましたけれども、東京圏から車で１時間程度という立地、養老渓谷の自然、大多喜城、町並み整備などの観光、ゴルフ場、さらに大規模店が少ない商店街の特性を生かし、知ってもらう、来てもらう、使ってもらうことにより町の観光や商業などの振興を図るとともに、移住や定住にもつなげるために実施しており、その効果もございます。総務省及び千葉県からの助言を真摯に受けとめ、ふるさと納税の趣旨を逸脱しない範囲で、ふるさと感謝券の存続に向けて改善措置を図ったところでございます。

直ちに実施したものといたしましては、ふるさと納税のポータルサイト、ふるさとチョイスの感謝券に転売禁止の表示と扇形の写真、ふるさと感謝券が開いているような形、そういうものを１枚の写真にしました。また、ふるさと納税をされた方への礼状に転売禁止の注意事項を加えて発送してございます。

次に、３月１日から実施したものとして、感謝券の返礼割合を７割から６割に引き下げるとともに、感謝券の返礼の上限を６万円にすることにより、換金性の高い商品を抑制したところでございます。

今後は、感謝券の表面に転売禁止と印刷したものに改めるとともに、取扱事業者の方には適正な取り扱いをするよう通知をしたところでございます。

○議長（志関武良夫君）　３番吉野一男君。

○３番（吉野一男君）　きのうもちょっと話があったんですけれども、３月１日付か何かわか

りませんけれども、今までは７割だったんですけれども、これが６割ということで、たしかこれ、上限が６万円ということですよね。上限が６万円ということは、逆に言えば、あくまでも10万円寄附しても６万円ということであるわけですかね。その点は、そういうことでしょうかね。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　ふるさと感謝券の返礼品として送るのを、上限を６万円にしたということでございます。ですから、20万円ご寄附をいただいても６万円の感謝券を送付するということでございます。

○議長（志関武良夫君）　３番吉野一男君。

○３番（吉野一男君）　そうすると、今までは実際的に７割ですか。７割出していたものを、今度はそういうことで６割ということなんですけれども、今まで当然、多く出していた人は、それだけまたメリット的にあったわけですけれども、７割もらっていたわけです。1,000万出しても700万はもらえたわけですけれども、今回の場合は1,000万出しても６万円ということで、そういう解釈でよろしいわけですね。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　はい、そのとおりでございます。

○３番（吉野一男君）　そのときに、それと同時に10万円出しても６万円ということなんですけれども、そのほかに返礼品って、何か特産物ですか。町の特産物を返礼するという形があるわけですかね。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　ただいまの話は、ふるさと感謝券についてのお話をさせていただいたので、商品については何ら制限を設けておりませんので、それは可能だと思っています。

○３番（吉野一男君）　ありがとうございました。この続きは、ちょっとまた高速バスのほうで実はやりたいと思うんですけれども、わかりました。ありがとうございました。

　続きまして、今までに総務省から大多喜町ふるさと感謝券の７割の高還元率について指導があったわけでございますけれども、どのような形で何回あったのかをお伺いいたします。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　今回、２月に助言されたのが初めてでございます。

○議長（志関武良夫君）　３番吉野一男君。

○３番（吉野一男君）　２月に初めてということですか。これは２月に初めてということは、どこ。国のほうですか、県のほうからですか。国からあったんですか。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　これは、総務省のほうから千葉県を経由して、県のほうから町に連絡があったものでございます。

○議長（志関武良夫君）　３番吉野一男君。

○３番（吉野一男君）　その件について、私、県に聞いたんですけれども、県に聞いたら、担当者だと思うんですけれども、今までに２回ということですね。２回は指導したということで伺っておるので、その点、どうでしょうかね、食い違いがあるんですけれども。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　７割の返礼については、この前が初めてでございます。

その前には、昨年の５月会議の補正予算議案の中でもご説明させていただいたと思いますが、町のふるさと感謝券に７割を返礼する表示がされておりました。これについては、総務省から千葉県を通じて、寄附の募集に際して返礼品の価格や返礼金の価格の表示、割合の表示については自粛するようにということで、技術的助言がございました。

○議長（志関武良夫君）　３番吉野一男君。

○３番（吉野一男君）　ありがとうございました。

そういうことで、最初から言いますと、結局、最終的には２回ということになると思うんですけれども、当然、そういう形で指導があったわけですけれども、その次に行きますけれども、指導された内容について、具体的にちょっとどういう指導があったのか。ただそれだけの指導か、それとも後で、もう少しつけ加えた内容があるのかどうか、ちょっとその点でお伺いしたいんですけれども。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　指導された内容については、今までご説明してきたとおりでございます。

○議長（志関武良夫君）　３番吉野一男君。

○３番（吉野一男君）　それ以外はないわけですね。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　それ以外には特にないものと認識しております。

○議長（志関武良夫君）　３番吉野一男君。

○３番（吉野一男君）　ありがとうございました。

その内容についてなんですけれども、課長が県のほうに行ったわけですよね、実際的に。結局、指導された方について、県のほうに行って、一応出向いていって、そういう指導を受けたということでよろしいですか。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　はい。これは、あくまでも技術的な助言ということで、それに全て従わなくてはならないというものではないんです。町としては、やはり適正な取り扱いをしていきたい。スタートしたばかりで手探りで始めたものですから、こういう結果になるというのが想定されなかったものですから、それについては改めていきましょうということで千葉県にも行きました。それで、千葉県では、そういう内容について協議を一緒にしましょうということで相談に伺ったということでございます。最終的には、今回のものについては町の内部で決定したものでございます。

○議長（志関武良夫君）　３番吉野一男君。

○３番（吉野一男君）　その内容について、当然、飯島町長に報告したと思いますが、飯島町長の政治判断で、今までの前の７割の関係なんですけれども、感謝券なんですけれども、大多喜町ふるさと感謝券７割の高還元率を、今回は平成28年２月29日まで継続してきた理由ですね。３月１日から、今は６割となったわけですけれども、とりあえず３月１日付では一応６割ということの上限を設けたものをつくったわけだと思うんですけれども、２月29日までは、今までそういう関係で協議した結果を町長に話をしていたわけですけれども、その場合、町長は、今まで７割ということで対応をやってきて、その県からの報告を受けた中で、そのまま続行しろという形はとったんでしょうかね。町長、お願いします。

○議長（志関武良夫君）　町長。

○町長（飯島勝美君）　これは、今、課長の答弁にもありますように、私ども、やはり後発といいますか、なかなか町に特産品的なものが非常に少ない中でこれをスタートしたところでございますけれども、そういう中でいろいろと、インターネットとかでいろいろ出ていることも承知しておりまして、じゃ、それをどういう形で収束するかということで、やっぱり内部では相当何回か議論をしながら、最終的に今の結論に来たところでございまして、それは、その出始めたときから、もう既に議論はしていることは間違いありません。

○議長（志関武良夫君）　３番吉野一男君。

○３番（吉野一男君）　当然、何回か協議したと思うんですけれども、あくまでもそういう形

で、各自治体で行っている返礼品、特産品の送付等については、総務省から寄附金控除の趣旨を踏まえた良識ある対応を要請していると思うんですけれども、そういう点で、即そういう形で対応をしなかったわけですけれども、協議に何カ月かかかったわけですけれども、たまたまこの件につきまして、大多喜町は当然県のほうに呼ばれて、千葉県としても、市川市と大多喜だけだったと思う。その点、ちょっとわからないんですけれども、私が把握している段階では市川市と大多喜町だと思うんですけれども、市川市の場合はＴポイントということで、実際的にちょっと、Ｔポイントはあくまでも2,000円ですね。2,000円のＴポイントを出したということであります。それで、この点も総務省、国のほうから指導を受けまして、即、去年の７月31日ですか、７月31日にもう取りやめまして、これを現在は特産品という形で３割ですか、特産品の３割を出しているということであります。

その当時は、2,000円でＴポイントは２割ですか、２割の還元ということで伺っておるんですけれども、一応、町としても、市川市の例もありますので、そういう点では市川市のほうにも一応内容的には聞いたことがありますか。課長、ちょっと答弁をお願いしたいんですけれども。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　市川市さんのＴポイントカードだと思いますけれども、それについては非常に換金性が高いということで、これは、そのときに県のほうが同じく助言したということで改めたものだと認識しております。

○議長（志関武良夫君）　３番吉野一男君。

○３番（吉野一男君）　そういうことであるんですけれども、一応そういう形で還元性、現金性があると言うとそうなんですけれども、結局、町でやっている感謝券も同じ。結局は換金性があると思うんですよ、だからそういう点が、加えて、ただ感謝券という名だけのものであって、あくまでも現金化ということがありますので、そういう点で、やっぱりそれを含めた中で対応しなくちゃいけないと思うんですけれども、今までは、そういう形で感謝券だからいいと、現金じゃないという形であるんですけれども、あくまでもこれは感謝券であっても、これは実際的に現金と同じなんですよね、内容的には。

それはそれで次に移りますけれども、結局、大多喜町ふるさと感謝券は、今まで還元率は７割の還元率で、総務省や県から再三の指導があったりしたにもかかわらず、町長は、結局、こういう形だと思うんですよ。結局は法を犯さなければ何をやってもいいのかという考えになるわけであり、一般的に考えますとですね。その点はどのように町長は考えているのかお

伺いします。

○議長（志関武良夫君）　町長。

○町長（飯島勝美君）　ふるさと感謝券は換金をするものではないんですね。ですから、感謝券をお返しした、感謝券というのは、必ず大多喜に来て買い物してもらうというのが趣旨でありまして、換金性をもともと趣旨としてやっているものではありませんので、これは、一部の方がそういう形で実際にネット上にそれを出したということで、いろいろとお話があるわけでございまして、私どもの、そのもともとの趣旨は、大多喜町に来て買い物してもらうというのが感謝券の趣旨でございます。ですから、お金にかえるなんていうのは最初から考えていないということでございます。

また、もう一つは、このいわゆるふるさと納税そのものの制度というのは、本来ならば国がガイドラインを示すべきものなんです。だけれども国は、ただふるさと納税は地方自治体に任せますよという話の中でいて、それを指導、指導というところで来ているので、本当は一番いいのが、国がガイドラインを示してもらえれば、それにみんな従うわけでございますので、国にそういうものがないわけですよね。ですから、それは地方の自治体でそれぞれ考えながら、やはりいい方法に持っていくということで今やっておりまして、一つの事業も、全てうまくいくものではなくて、やはり問題が出たらそれを改めると、そういうことが大事だと思っていますので、そういうことで、今回しっかりと改めさせていただいたところでございます。

○議長（志関武良夫君）　３番吉野一男君。

○３番（吉野一男君）　ありがとうございます。

確かに町長の言うとおり、これは国のほうのガイドラインをきちんと要綱とかをつくって、やっぱりそれを県におろしてもらって、それで市町村におりるという形が一番いいと思います。この関係についても、私、ちょっと国のほうに要請してあるんですよ。というのは、結局、還元率が高ければ一番高いところにみんな寄附しますよ、誰しも。これは当然の話ですよね。低いところにわざわざ納税するというのは一般的には考えられませんので、高いところがあって、高いところに初めてやって、やっぱりそれだけの還元を受けるということでありますので、それと同時に税金対策にもなりますし、そういう点でやっていると思うんですけれども、それが多くの形だと思うんです。

そういうことで、結局大多喜の場合だと還元率が７割ということで最高のほうだと思うんですけれども、だから結局、15年度の決算で見ますと15億何がしになるわけですけれども、

そういう点で千葉県でトップを切ったということで、新聞紙上にも載っています。それについても、やっぱり、そういうことであるから、内容的には、実際的にはそういう還元率が高いから町に納税したということに考えるのが多いんですけれども、特産品といっても、タケノコもあるんですけれども、いろいろあるとしても、その割合が結局一番多いのが何かというと、やっぱりこれはふるさと感謝券だと思うんですよね、だから、それが一番多いから、それで高還元率であって、やっぱりそれを利用した中で、みんな全国からそういうものを納税しようという形で来ていると思うんですけれども。

これはちょっと後でまた、内容的には企画財政課長に聞きたいと思うんですけれども、そういうことがありますので、やっぱり還元率が高ければ当然そういう形になろうかと思いますので、そういうところがやっぱり、全国同じ形で、国のほうからきちんとマニュアルを出してもらって、これで国がこうやれということでやるのが当然だと。私も、国のほうに問い合わせたことは、ちょっとそういう形で、地方創生の形でやるわけですので、当然、地元特産品を使った返礼品という形が、これが一番ベターだと思うんですよ。

だから、そういうことで、私も国の担当者のほうにもちょっと話しかけたんですけれども、やっぱりそういう地方創生で、これからそういうものがあれば地方が潤うということになれば、特産品とかそういう地元産品を使った中で還元するような形をとるのが一番いいんじゃないかということで、ちょっと国の担当者にも話をしたら、結局、国のほうとしても、そういうガイドラインがないから、そういうことで濁しちゃっているんですけれども、私が言ったことに対しては貴重な意見として承っておきますということで、それは言われているんですけれども、当然それを伝達してありますので、今後においては、どのような形になるかわかりませんけれども、そういう方向で担当者のほうにはお伝えしてあります。

やっぱりそういう点はないといけないので、やっぱり全国一律同じような対応でやって、そうするとやっぱり特産品があるところが一番有利になるかと思うんですが、あくまでも地元産品ということでやれば、そういう形が一番いいと思うんですよね。だから当然、そういう形で、競争になるかもわかりませんけれども、それはやっぱり地元として特産品をつくっていけばいいことであって、それが地方創生のやり方だと思うんですよ。いかに自分たちの町をよくするかということになれば、その町でタケノコならタケノコ、大多喜だとタケノコが特産品ですね。それを利用した中で、いろいろな形でそういう特産をつくっていくと、そういうことが一番、開発してもらって、それをブランド化して、それをやることが一番よくて、それをまた皆さんに還元してもらって買ってもらうと、それでやるということが一番い

いと思いますので、そういう方法で、私もちょっと国のほうへ、逆を言えばこっちから指導したような形になるんですけれども、特に国のほうも考えてなかったみたいで、だから、全体的に地方自治体の対応に任せているという形になったからこういう形になったと思うんですけれども、また当然、それが最初、やっぱり国のほうの人も、そういうことは自前でやることなんですけれども、実際現場に来てやらないから、そういうことも起こってきちゃうわけですよね。国のほうは事務的にこうやっていますけれども、やっぱり地元は地元なりのやり方がありますのでね。そういう点も踏まえた中で、国がやっぱり地元へ来て、これがこうなっているということを実感した中で、今度は規約をつくったり何かして改正するのが一番いいと思うんですが、それをやらないでいかにも事務的にこうやっているから、そういうことが起こっているんだと。

だから、結局どこもそうなんですけれども、事務的にやるとそういうことになるわけですので、そういう点がやっぱり今後においても、また注意しなくちゃいけないんじゃないか。国ばかりじゃなくて全部そうなんですけれども、そういうことだと痛感しました、私も。そういうことであります。

それと同時に、これは私の手元にたまたまふるさと感謝券、今までの、これは有効期限が平成29年３月31日になっているんですよ。今までのはこうつくってあるんですけれども、これは当然７割のときにつくったと思うんですけれども、これはやっぱり７割じゃなくて、それにイコールして、６割でも上限ではこれを使えるということですよね。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　有効期限内は使用することができるようになっております。

○議長（志関武良夫君）　３番吉野一男君。

○３番（吉野一男君）　ありがとうございます。

ついでに言いますと、もう換金についても、これ、実際に、例えばの話なんですけれども、例えば商店なんかで、実際これを持って商店で1,000円で使えますよね、1,000円ありますので。これで1,000円出しますよね。それで何か買ったりなんかしますよね。それで800円のものを買いますよね。当然、800円のものだったら200円はおつりはないですよね、これ、返金はないですから200円分は。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　ふるさと感謝券の取扱要綱の中では、つり銭の支払いはできないという規定になっております。

○議長（志関武良夫君）　３番吉野一男君。

○３番（吉野一男君）　そうですよね。わかりました。ありがとうございます。

そういうことでありますので、1,000円出して、結局800円のものを買ったとしますよね。それで、これでやってもつり銭が出ないから、800円その業者に渡します。その業者は町へ持っていくわけですよね、当然ね。返金するんですから、金にするわけですから。これで1,000円分の現金化をしますよね、その業者は。業者は返金しますので、そうすると200円分は、そのもらった業者が200円分得しますよね、200円は。1,000円使っていないんだから、800円だから、200円分は業者のもうけになりますよね。それでいいですか、課長。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　はい、値が800円で、その1,000円でいいよということであれば、そういう形になろうかと思います。

○議長（志関武良夫君）　３番吉野一男君。

○３番（吉野一男君）　一応そういうことだと思うんですけれども、そうすると当然、業者は200円のもうけになります、これはあくまでも。額は1,000円だからいいんですけれども、例えばの話で1,000円でいいんですけれども、200円のもうけになります。これを数重ねれば、200円が倍で100万円になったりなんかしますよね、そうすると大変な形になりますよね。ご存じのとおりあれですけれども、そういう形になる。結局そういう形になるんですけれども、そういうことで逆を言えば、これはあくまでも、今、各町村で使うんならいいんですけれども、これをインターネット上で流した中で、いろいろなものを買いますよね。買うと当然、原価で買うような形になりますので、原価で買えば、当然その業者に対してはメリット的に、手数料とかをもらうから、当然、金額が多くなれば多くなるほど手数料が２割とか３割になりますね。金額的に多くなりますので、実際的には、この感謝券というものは、やっぱり地元の特産品をつくった中で使ってくれということで国の指導もあると思うんですよ、これはあくまでも。だけれども、実際そういう田舎の県については、多少そういうことで実際に町の中でもやっているという例もあります。

だから、やっぱりこれはそういうことで、換金性があるとか、いろいろな関係も出てくると思うんですよ。やっぱり、こういう点は特に、感謝券についても現金化じゃないと言っているんですけれども、実質、現金化になりますので、これ、逆を言えば買わなくたって、じゃ、指定店に行って、これを1,000円で出しますから、これを800円で買ってくださいと言えば指定店でも買えますよ、800円で。そうすると、指定店がもらった中で、この券を町へ持

っていけば1,000円の換金になる。買わなくたってそういうことができるんですからね。物を買わなくたってこういう形でできるんですよ。だから、そういう点があるので、裏があるんですよ、やっぱりこういうものについては。

それと同時に、それともう一つですね。これ、感謝券なんですけれども、これは私、コピーをとったんです、コピー。原本じゃないですよ。これ、実際のものと、原本と同じなんですよ、物が実際的に。これは今コピーしちゃったんですが、高性能なんですよ、実際的に。これをコピーをとってやって指定店に持っていけば、これでどこでチェックするんですかね、課長。これをチェックするのに、これはにせものかどうかというのを。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　まず最初の１点目の現金化ということですけれども、これも禁止しております。現金との引きかえはできないということにしておりますので、もし事業者がそういう取り扱いをすれば、当然、事業者の取り消しというようなことになろうかと思います。あくまでも商品ということで限らせていただいておりますので、その辺は誤解のないようにお願いしたいと思います。

（「まあ、そういうことに規定はなっていると思うんですが」の声あり）

○企画財政課長（西郡栄一君）　それと、先ほどの関係ですけれども、やはりうちのほうとしても、非常に偽造という問題は気にしております。したがいまして、そこにホログラムを入れて、そこまでお金をかけて偽造するほどのメリットがないような形を今現在とっております。

以上です。

○議長（志関武良夫君）　３番吉野一男君。

○３番（吉野一男君）　それは、銀行なんかであるとにせ札ですぐわかるんでしょうけれども、そういう機械があるんでしょうけれども、町の場合、これはありますか、機械が。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　もし、偽造がされていた場合、そこに番号が入っていると思います。その番号については、うちのほうで誰に交付したかというのを控えてありますので、その段階で、誰がそういう形で使ったというのははっきりすると思いますし、そこまでやればもう犯罪の問題ですので、私たちのそこまでの関与というのはないのかなというふうには思っております。

○議長（志関武良夫君）　３番吉野一男君。

○３番（吉野一男君）　その場合、これを実際的に持っていって、逆に偽造したものを持っていった場合に、町である程度チェックするかって、どの程度のチェックかわからないんですけれども、それを受け取った場合に責任問題はどこにあるんですかね、そうすると。その業者ですか。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　これはあくまでも犯罪というようなものを前提としておりますので、通常はあり得ないというふうには解釈しております。したがって、故意にそういう犯罪を起こしたものであれば、当然、刑法上とかいろいろなものでの罰則の適用になるんではないかなというふうに思います。

○議長（志関武良夫君）　３番吉野一男君。

○３番（吉野一男君）　犯罪というんだから、結局この受け取った業者は、これはにせ札かどうかというのはそこで判断できないですよね、実際的に。町が判断するから、町へ持っていくんだから、指定店から町へ持っていくから。そういう場合、指定店じゃ、そういうあれをチェックをどこでするんですか。番号を一々これはあるかどうかというのをチェックするんですか。それとも、どこで、どういう形でチェックするんですかね、逆に言えば。その場合、犯罪的にその指定店がなるか、その持ってきた人がなるか、そこまでチェックしてやっているかどうかなんですけれども。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　取扱店につきましては、やはり善意の第三者ではないかなというふうに考えております。したがいまして、私のほうに来た段階で余りにもおかしなものがあれば、それは、さわった感じでもわかる場合もあるでしょうし、厚みの問題、あるいは見た感じの違い、そういうもので判断していく必要があるのかなというふうには考えております。

○議長（志関武良夫君）　吉野一男君に申し上げます。

質問の趣旨と論点を整理して、正確な質問でひとつよろしくお願いします。

○３番（吉野一男君）　いやいや、正確にやっているつもりですけれども。

そういうことで、ふるさと感謝券の途中で、時間的に大分長くなっちゃうんですけれども、ほかのものができなくなっちゃうので、大変ありがとうございます。議長の指摘に応じます。まあ、これをいつまでもやっているわけにいかないものですから、ありがとうございました。

話題を議長の指摘がないとずっとやっちゃうといけないから、じゃ、一応この辺でとめておきますのでよろしくお願いします。

続きまして、この町の、大多喜町の2015年度ふるさと納税寄附金ですね。約15億2,796万円ということで、全国で13位とあります。これは新聞紙上でもありますけれども、主なその返礼品の種類と金額について、簡単でざっぱくでいいんですけれども、結局、品物では幾らぐらい、感謝券で幾らぐらい、そういう形で、その他もあると思うんで、その３つぐらいでいいと思うんですけれども、ちょっとそれがわかりましたらお願いしたいと思います。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　昨日もご質問があったと思います。それでお答えさせていただいたと思いますけれども、主な返礼品の品物につきましては、本年１月末で取りまとめたものをお答えさせていただいております。

ふるさと感謝券が14億9,400万円、そしてほかに主要な返礼品としましては、順不同でございますが、養老牛のバーベキューセット、地酒のセット、ハーブクッキングセット、大多喜の純粋蜂蜜、養老渓谷宿泊プラン、大多喜町産タケノコ、新米コシヒカリ、れんげの里のアイスクリーム、切り餅、ムーミングッズとい鉄食品のセットでございます。

○議長（志関武良夫君）　３番吉野一男君。

○３番（吉野一男君）　ありがとうございました。きのうもちょっと発言があったのを、ちょっと私、漏らしていまして大変申しわけないと思います。

続きまして移ります。

ふるさと納税の点で、収入については地方交付税に影響ないかという質問を出したんですけれども、この点はどうでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　それもきのう、昨日お答えさせていただいたとおりのお答えになるんですけれども、よろしいでしょうか。

（「よろしいです」の声あり）

○企画財政課長（西郡栄一君）　答えたほうがよろしい……

（「もう一度、もう一度。すみません」の声あり）

○企画財政課長（西郡栄一君）　ふるさと納税の金額は、寄附金でございますので、普通交付税の収入に加算されることはございません。

需要の積算の中で、地域経済・雇用対策費という項目がございまして、その計算過程で経

常態容補正係数として使用されております。この地域経済・雇用対策費に仮に寄附金額16億円で計算すると、平成27年度普通交付税の影響額として174万4,000円減額することとなります。

○議長（志関武良夫君）　３番吉野一男君。

○３番（吉野一男君）　ありがとうございます。

この関係については、実際的にこのふるさと納税の関係で金額が多くなるという解釈でも、現金化もそうなんですけれども、やっぱり国のほうでこういう点は、こういう新聞紙上でも報道されていますので、実質とかそういう形で対応をとるんじゃないかと思われます。そういう点はあると思いますけれども、それについてやっぱり、市町村が収入が多ければ、国のほうだって借金地獄ですので、当然それは払いたくないですよ。交付税を出したくないので、収入があるところについては、当然それを削ってくると思うんですよ、いずれは。今はなくても、今後において、そういう形になろうかと思います。だから、そういう点を踏まえた中で、いかにそういうものを、収入への対応をしていかなくちゃいけないんじゃないかと思われます。

ありがとうございました。

続きまして、Ａという百貨店の実態と営業品目についてちょっとお伺いしたいと思います。簡単でいいですので。

（「どこ」の声あり）

○３番（吉野一男君）　ああ、Ａ百貨店。ある百貨店、Ｂ百貨店でもいいですよ。何でもいいんですけれども。Ａの店でいいです、Ａの店で。

○議長（志関武良夫君）　結局は固有名詞を使えないということで。

○３番（吉野一男君）　Ａ店で、Ａ店で。

○議長（志関武良夫君）　固有名詞を使えないからＡ百貨店という……。

企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　ふるさと感謝券の取扱事業者の一つかと思います。この取扱事業者かどうかわかりませんけれども、町内の住所を支店として取扱店事業者にしたものでございます。

○議長（志関武良夫君）　３番吉野一男君。

○３番（吉野一男君）　簡単でいいです。わかりました。まあいいや。それ、ちょっと前に聞こうと思ったんだけれども、いいです。時間がなくなっちゃうから、とりあえずこれで終わ

ります。

これはやっぱり商工会には加入していないわけですよね、実際的には。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　商工会には加入していない取扱事業者だと認識しております。

○議長（志関武良夫君）　３番吉野一男君。

○３番（吉野一男君）　その場合には、この会社に許可をおろした理由と、誰が許可しようと言ったのか、ちょっと、簡単でいいですのでお伺いしたいんですけれども。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　ふるさと感謝券の取扱事業者につきましては、大多喜町商工会に加入している事業者だけを対象としているものではございません。取扱事業者の登録申し込みの際に、添付する書類を省略することができると定めているものでございます。

○議長（志関武良夫君）　３番吉野一男君。

○３番（吉野一男君）　わかりました。ありがとうございます。

もう時間がなくなっちゃって、続きまして、町長の職務代理者についてをお伺いしたいと思います。

町長は、２月８日の議会全員協議会終了後、町長から、１月28日から２月１日の４泊５日の間、一応町長は自分でプライベートということで言っていますけれども、プライベートで台湾の集集鎮に行ったということが報告されました。これは実際に町長が報告したわけでございますので、そのままなんですけれども、その場合の見解をちょっとお伺いしたいんですけれども、その場合に、１つ目としては、地方自治法152条１項では、地方公共団体の長に事故があるとき、副町長がその職務を代理する規定とされている。今回、職務代理者を置かなかった理由についてをお伺いします。

○議長（志関武良夫君）　総務課長。

○総務課長（加曽利英男君）　それでは、総務課のほうからご説明させていただきますけれども、地方自治法の152条第１項は、今ご質問にありましたとおり、地方公共団体の長に事故があるとき、または長が欠けたときには、一定の職員が長の職務を代理するということを規定しているものでございまして、事故があるときの解釈でございますけれども、例えば、これが長期間、または遠隔の地への旅行、病気、その他何らかの理由によって、その職務を長がみずから行い得ない場合を指すこととされております。具体的には、例えば、長がその職務についてみずから意思決定ができない場合、また、かつその事務処理について職員

を有効に指揮監督ができない場合には、事故があるときというふうに解釈をされております。

今回の町長の不在期間でございますが、４日間ということで、このうち週休日が２日ございます。こういうことで、不在期間が短く、また出張先が台湾ということで携帯電話等による通信も十分可能なことから、地方自治法で規定する事故があるとき、そういうものに該当しないと判断をいたしまして職務代理は置かなかったというようなことでございます。

○議長（志関武良夫君）　３番吉野一男君。

○３番（吉野一男君）　それは実際的に台湾ですよね。携帯電話でやればいいんですけれども、いざ大規模災害が発生した場合、指揮官が誰かになるというと、やっぱり当然副町長とかそういう形になると思うんですけれども、そうじゃなくて、やっぱりこれは危機管理上は、実際何かあった場合が一番困るので、連絡がとれればいいってものじゃないし、本当はいれば一番いいんでしょうけれども、これはいつ大規模災害が起こるかわかりませんのでね。そういう点、やっぱりあくまでもこれは報告というか、やっぱり町長は公人ですので、私的に行ったとしても公人ですので、それは事実はわきまえてくださいね。

そういうことですので、やっぱり私的だから云々ということじゃなくて、やっぱりあける場合は、当然公人としての役目があると思うんですよ。いざ何かあった場合にすぐ連絡できるとか対応するとかというのがありますのでね。これはあくまでも私的で行ったから、あくまでもそういう職務代理者は置かないとか、または電話が通じるとかであれば置かないとか、そういう問題じゃないと思うんですよ、やっぱり。いざそういうふうになった場合には、じゃ、どうするかということになると、やっぱり多少、職務代理者を置けば各市町村にも連絡しなくちゃいけないし、県だって同じでしょうけれども、いつからいつまで町長不在だということを連絡すると思うんですけれども、そうすると、そういう形でやっておいて、当然議会のほうだって、いざ災害になればそういうものがあるから、じゃ、町長はどこへ行っているんだということになっちゃう話だしね。じゃ、どこへ行っているかわからないじゃ困るわけですので。

今回の場合だって、町長がどこへ行っているのか、私は、町長がどこへ行ったって場所はわからないし、これは当然職員に聞いたって、どこへ行っているか――私的だから、私的まではちょっとね。それはいいんでしょうけれども、最低は、あくまでも職員は、幹部職員についてはどこへ行っているというのを言ってから、私的であってもどこへ行っているかと報告するのは当然だと思うよ、これはあくまでも。やっぱりそれをやっておかないと、何かあった場合には困りますので。

それと同時に、議会も同じことなんですよ。議会は、最低議長ぐらいには、私的であっても、こういうことで４日間あけるから議会のほうをよろしくお願いしますと、町長、これを言うのは当然だと思うんだよ。職務代理者を置く、置かないは別としても、それは当然だと思いますので、それはやっぱり町長の認識だと思うんですよ。認識があるかどうかということに問われちゃいますので、やっぱり公人としての役目というのは、当然それはありますので、当然そういうものを含めた中で対応していただきたいと思うんですけれども、その点、ちょっと簡単に、町長、お願いします。

○議長（志関武良夫君）　副町長。

○副町長（鈴木朋美君）　それでは、私、副町長という立場からちょっと答弁させていただきますけれども、確かに町長は台湾のほうに行っているんですけれども、当然私には、これに行ってきますからということで、私、報告を受けています。

今、吉野議員がおっしゃっているのは、職務代理者を置くか置かないかというご質問なんですけれども、当然、私としても町長から、こういうふうで、もう海外に出るからということで報告を受けていますし、地方自治法の第152条では、置くとかそういうものじゃなくて、町長が、例えば事故があったときとか欠けた場合は副町長が職務を代理するというふうにもう決まっているわけですね。だから、当初からもう、そういう状況となれば私がやらなくちゃいけない立場なんですよ。

（「うん、それはわかっている」の声あり）

○副町長（鈴木朋美君）　ということは、私はそういう認識でおりますし、こんなことがあっちゃいけないんですけれども、町長が欠けたときとか、そういった場合には、当然私がその職務を代理するというふうに自治法の中でも決まっていますので、それを置く、置かないというのは別にして、それはもう自治法の中で、町長がそういう事故があったときとか欠けたときは副町長が職務を代理するというふうにもう決まっていますので、私もそういう認識でおりますので、ひとつよろしくお願いしたいと思います。

○議長（志関武良夫君）　３番吉野一男君。

○３番（吉野一男君）　確かに副町長、そのとおりなんですよ、実際的に。だけれどもそうじゃなくて、一般的に考えた場合に、じゃ、町長がどこに行っているんだと、プライベートだからわからないじゃ困るわけですので、これはやっぱり幹部職員に対しては、行き先とか、プライベートであっても、ちょっと口頭でもいいから言うべきだと思うんですよ、そういう点ね。

これはちょっと答弁はいいと思いますけれども、そういうことでありますので、やっぱりこれは今後においてもあると思うんですけれども、これは、どこに行くにしても、やっぱりやっておかなくちゃいけないと思うんですよ。これは大事なことですので、これはやっぱりちょっと、町長、肝に銘じて行っていただきたいと思います。

これはちょっと終わります。

○議長（志関武良夫君）　町長。

○町長（飯島勝美君）　肝に銘じろと今言われましたけれども、大体全首長さん、千葉県にも54市町村ございます。大体、職務代理者を置くという通知というのは、今お話にもありましたように、それは全市町村にみんなその通知はしますし、県のほうにも出しますけれども、こういう通知は、やはり、みずからの選挙であったり、本当に長期間、大体一週間以上の場合に大体一般的に出していますのでね。今、副町長からありましたように、それはもう既に決まっていることでありますので、既に職員には、やはりグループウェアの中でもう既に私の日程というのは全部入っていますので、職員全体も承知していますのでね。これは一般に照らしても、今言ったように、期間としては木、金の２日間を休むことによって千葉県中に毎回それを出したら、一年中私は職務代理者を置かなければいけないようになっちゃいますので、こんなことやったら大変な事務量になりますので、一般的には１週間以上というのが妥当だと思っています。

○議長（志関武良夫君）　３番吉野一男君。

○３番（吉野一男君）　わかりました。ありがとうございます。

ただ、それは当然そうなんだろうと思うんだけれども、やはり、いろいろそうなっちゃうと長くなっちゃうんですけれども、とりあえずあくまでもそれは、海外ということでありますので、その判断で、基準もありますので、ただそれを言っただけです。国内であれば別としても海外に行っていますので、そういう点も踏んだ中で、ちょっと言ったわけですので。

そういうことで、今回プライベートで視察したということであったわけですけれども、その場合に、これは誰と何人で台湾に行ったのかとか、その点ちょっと、プライベートだから、どうかと思うんですけれども、ちょっとそれを言えたらお願いしたいなと……。

○議長（志関武良夫君）　町長。

○町長（飯島勝美君）　まさにプライベートなのでね。これは、参加するのはその人の自由でありましたので５人程度で行ってきました。特に経済交流が目的でございましたので、そういうことで参加希望者だけでございます。いわゆる常々テレビや何かでそのタレント業をや

っている方はいいでしょうけれども、一般的な個人の方を、こういう公式の場で出すのは適当ではないと思いますので、５人の方で行ってきたと、そういったことでございます。

○議長（志関武良夫君）　３番吉野一男君。

○３番（吉野一男君）　その場合に、全員協議会でも一応報告があったんですけれども、結局職員も同行していますよね、実際的に言って。職員が同行して行っていると思うんですけれども、その職員の名前を言えたらお願いしたいんですけれども。

○議長（志関武良夫君）　町長。

○町長（飯島勝美君）　職員といえども、やっぱり休みをとって、自分のお金で、自費でやっぱり参加したということになりますと、それは職員の意思ではないわけですよね。あくまでも個人の自由意思の問題ですから、そういうことは控えたいと思います。

○議長（志関武良夫君）　３番吉野一男君。

○３番（吉野一男君）　あくまでもそれは当然、行ったということは、当然プライベートであっても内容的には仕事で行っていると思うんですけれども、結局集集鎮に行っているわけですので、そういう点で、これは実際的に、ざっくばらんな話を言うと、名前は出さないんですけれども、一応これ、町長は台湾から、インターネットに入っているんですよ。集集鎮から、実際にインターネットで出したんですけれども、ここを言っているんですよ。だから、実際に行って、この間来た、去年来た町長ですよね、集集鎮の町長。それと、行っているのは町長と千葉貞郎さんだと思うんですが、特使。大多喜の特使で千葉貞郎さんと、あともう一人、これ、私が言っちゃいますけれども、出ているから。これ、あれですよね、シイタケの栽培の社長ですよね。それと平林物産の社長、平林さん。これで行っているんですけれども、そうですね。それだけ載っているんですけれども、それと企画財政……

（「政策戦略室長」の声あり）

○３番（吉野一男君）　政策戦略室長。政策戦略室長が入っているんだよ、これ。後で脇に出ているんですけれども、最初のほうは出ていないんですけれども、ここで政策戦略室長が出ているんですよ、載っていない職員が。町長の言うとおり、プライベートで余り名前を出さなかったからこっちが先に言っちゃいますけれども、こういうことで名前と顔と写真が全部出ていますので。

やっぱりこれは公式行事で行っているわけでありますので、当然これは公式でいいと思うんですよ、私的じゃなくて。わざわざ私的で行った理由がわからないんですけれども、これ、公式で出張旅費を使って行けばいいんだと思うんです。その点、どういう解釈で行ったんで

すかね。

○議長（志関武良夫君）　町長。

○町長（飯島勝美君）　集集鎮の陳鎮長とは、前回行きまして、友人としての扱いの中で２人で交流を深めていますので、これは表敬訪問で、あそこに行ったのはせいぜい15分程度で、本当にこちらに来ましたということでのご挨拶だけですね。目的は全く違うものでございますので、それは、台湾に行きまして、まさかそのまま素通りというわけにはいきませんので、ちょっとご挨拶をしたと、それだけです。

○議長（志関武良夫君）　３番吉野一男君。

○３番（吉野一男君）　それは、集集鎮に行って一応表敬訪問しているわけですので、公的に行って。内容的には今度は、今実際に大規模開発をやりますよね、横山地先に。あそこにランのあれを設けるということでありますので、その会議も今、先ほど聞けばよかったんだけれども、時間がないので聞かないんですけれども、これも何回かやっていると思うんですけれども、そういう点であって、結局ランの栽培をやるということになれば、そういう業者関係もありますよね。だけれども、業者もこれに実際に載っていますので、この中に入っていますのでね。実際そういう形で、ランの関係とかそういうハウスを建てるとか、そういうのもあると思うんですけれども、やっぱりそうすると、そういう方が大規模開発に絡んだ形になると思うんですよ、これはあくまでも。

町長、私的云々と何度も言っているけれども、これは公費を使って大威張りで行ったほうがいいと思いますよ、これはあくまでも公に。実際あるんだもの。町で今進めているんですから、それをわざわざ私的で、わざわざわからないようにあれして行くこと自体がおかしいと思う。そういうふうに疑惑を持たれたことをやっちゃいけないというんですよ、町長、やっぱり。堂々と、疑惑を持たれないような形で出張すればいいんですよ、公費を使って。

○議長（志関武良夫君）　吉野一男君に申し上げます。持ち時間が５分となりますのでお願いします。

○３番（吉野一男君）　そう、ごめんなさい。

そういうわけなんですけれども、５分ということでありますので、これはそういうことで行ったんだけれども、実際的には仕事関係だと思うんですよね。これは、要は町長も言ってもいいと思うんですよ、施策、仕事で行ったって。私的に行ったんじゃなくて仕事で行ったと言っていいと思うんですけれども、当然、これは私的で行ったにしても、公費を使って行かなくたっていいんだけれども、私的といっても実際に仕事で行っているわけですから、あ

くまでもそれは公費を使って大威張りに行くべきだと思う、私は。

○議長（志関武良夫君）　町長。

○町長（飯島勝美君）　誤解のないようにしていただきたいと思いますけれども、その今の大規模開発とかそういうものは、私の町がやるわけでは全くありませんのでね。これは、民間の会社がやる話に私どもがかかわる話ではない。

今回の目的は、私どもはそういう目的ではなくて、台湾経済が今非常に活発になってきています。特に千葉県も、森田知事も初め経済使節団を連れて毎年台湾に訪れて、そして観光の皆さんを台湾から寄せるとか、千葉県の産物を売り込むとかということで、経済使節団を連れて、毎年知事も行っています。そういうことで、私どもは、たまたまやはり台湾のトップ企業の関係の皆さんと非常に交流のある方がいて、その方が経済界との交流の中で、やはり人脈関係をつくりながら、次に向けて、やはり将来大多喜に何か持ってこられないかという、そういう人的交流が最大の目的でありまして、そういう今の疑いをするようなものは一切ないことは言っておきます。

○議長（志関武良夫君）　３番吉野一男君。

○３番（吉野一男君）　それは、そういうふうに町長は言っているけれども、だから、そういう疑いを持たれるような行為をしてはいけないというんですよ。だから、やっぱりそれは自粛しなくちゃいけないと思うんです。それはあくまでも公費を使って大威張りにやることが大事だと思います。それで、実際的にはこういう形の業者も行っている話だし、じゃ、これは何で業者を連れていったんですかね。

○議長（志関武良夫君）　町長。

○町長（飯島勝美君）　業者でも何でもないんですよ。希望参加で勉強、いわゆる人的交流の中で経済交流をしようということで、やはりあくまでも勉強なんですよ。ですから、別に行きたくなければ、自費で行くんですから参加する必要はないんですよ。公費で行っているわけじゃありませんし、だから、自分でお金出してでも勉強したいから行っているので、何も参加したくなければ行かなくていいんですよ。だから、あくまでも個人の勉強のために行っているわけですから。

○議長（志関武良夫君）　３番吉野一男君。

○３番（吉野一男君）　勉強のためにはいいんですよ。勉強のために行っても、だから、公費を使って行ってもいいんですよ、それ。実際的にわざわざ私的に何か……。だから、そういう点がちょっと、同じような形になっちゃうから。実際それは、やっぱりそうだと思います

よ。だから、余りそういうのは時間なくなっちゃうので言えないんですけれども、そういうことで行っていると思うんですけれども、だから、それを私的に行ったからというふうに言っていますけれども、それはそれでいいでしょう。余りやっても同じようなことになっちゃうから。

だから町長、これ、名前が言えなかったから、何で名前を出さなかったかなと思って。だから、これをいまだに持っていたんだよ、ちゃんと。それで、私がこれを説明しましたので、あえて町長の答弁を省略しましたので、じゃ、一応そういうことでわかりました。ありがとうございました。

時間がないので簡単に、高速バスの運行計画についてちょっとお伺いします。

飯島町長は就任当時から選挙公約で、大多喜発羽田空港経由品川行きの高速バスの運行を、去年の12月17日に開業しました。大変おめでとうございます。これも開業当時から大変、町長になる当初から品川発ということを言われている。私も区長会長のところに行って、町長のところに行ったり、それで話も聞いていますので、それはご存じのとおり。それは大変おめでとうございます。今後も十分なる活躍をお願いしたいと思います。

これは一番大事なことだと思いますけれども、それで、以下の点についてお伺いしますけれども、これは、具体的なところを言うんですけれども、省きましょう。

○議長（志関武良夫君）　吉野一男君に申し上げます。時間が来ましたので、速やかにお願いします。

○３番（吉野一男君）　はい、わかりました。じゃ、１つだけ、１点だけ。

（「時間だよ」の声あり）

○３番（吉野一男君）　従来の東京行きのバス……

（「時間だからそれはパス」「それはちゃんと、もうあれしているんだからさ」の声あり）

○３番（吉野一男君）　じゃ、わかりました。いいです。

どうもありがとうございました。

○議長（志関武良夫君）　一般質問の途中ですが、ここで10分間の休憩をとります。10時10分の開会とします。

（午前１０時００分）

○議長（志関武良夫君）　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午前１０時０９分）

◇ 吉 野 僖 一 君

○議長（志関武良夫君）　一般質問を続けます。

９番吉野僖一君。

○９番（吉野僖一君）　９番吉野僖一でございます。

議長のお許しをいただきましたので一般質問を行います。

通告どおり、初めに改良土問題についてお伺いします。

この件については、今まで結構経過がたっておりますけれども、初めに、久我原地先のその後の経過についてお伺いいたします。よろしくお願いします。

○議長（志関武良夫君）　産業振興課長。

○産業振興課長（野村一夫君）　久我原地先のその後の経過ということでございますが、この件につきましては、県の出先機関であります夷隅農業事務所と協議し、今後の動向を注視することで現在に至っております。そのような状況から、町といたしましても、数度にわたり現地を見回っておりますが、現況は対象地にニンニクと思われる植物が植栽されており、農地として使用されていることは確認しており、また、周辺に目立った異変などは確認されておりませんが、今後も関係機関と協力をし、注視していきたいと考えております。

以上です。

○議長（志関武良夫君）　９番吉野僖一君。

○９番（吉野僖一君）　昨年の補正予算で、地質調査費、町が56万でしたかな、その支払いということであったんですけれども、改良土問題についていろいろ、県とかそういうあれも、町条例集とかも調べまして、3,000平米以上は県の許認可、3,000平米未満は町長の許認可ということで、改良土の地質調査、水質調査は、3,000平米以下の場合は、業者が２カ月に１遍かな、調査して町長に報告するという項目がありましたので、その辺、県のほうに言いまして確認したんですが、その後、県のほうから指導か何かあったでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　産業振興課長。

○産業振興課長（野村一夫君）　これは、農地法の関係の届け出、要するに１メートル程度の届けということで、面積に縛りはございません。それで、地質調査については、予算をとったんですけれども、埋め立てた業者のほうで行いました。

○議長（志関武良夫君）　９番吉野僖一君。

○９番（吉野僖一君）　自主的にやる、県の指導どおりということですね。その辺でよろしいですね。町長、よろしいですか。じゃ、それは、ちょっとお願いします。

○議長（志関武良夫君）　町長。

○町長（飯島勝美君）　これは、今、課長の答弁したとおりでございますので。

○議長（志関武良夫君）　９番吉野僖一君。

○９番（吉野僖一君）　町例規集、一応、県条例と右に倣えということで勉強させていただきました。

じゃ、久我原のほうは、それで今順調に行っているということで、これで締めます。

続きまして、問題の板谷地先のその後の経過についてお願いします。

○議長（志関武良夫君）　産業振興課長。

○産業振興課長（野村一夫君）　板谷地先のその後の経過ですが、板谷地先の林地開発行為については、昨年に、開発業者と地権者、町建設課による境界確定の立ち会いを行いましたが、赤道を挟むように板谷区の遊休地がありまして、その土地を含む境界の確定が進んでおらず、その後は動きがございません。

以上です。

○議長（志関武良夫君）　９番吉野僖一君。

○９番（吉野僖一君）　大多喜町もそういうぐあいに、一応地元は反対ということで動いておりまして、市原地先の石神地区ですね、そこら辺も通りますと、看板に埋め立て反対ということがあったので、市原市と大多喜町との連携はどのようになっておるか、ちょっとお伺いします。

○議長（志関武良夫君）　産業振興課長。

○産業振興課長（野村一夫君）　今のところ、特にそういう境界の問題でストップしていますので、今のところ、現在は連絡はとっておりません。

以上です。

○議長（志関武良夫君）　９番吉野僖一君。

○９番（吉野僖一君）　市原市とは、一応今は全然ノータッチということですね。

○議長（志関武良夫君）　産業振興課長。

○産業振興課長（野村一夫君）　ノータッチではなくて、今のところ境界の関係で事業が動いていないので、今現在はとっておりません。前はとっておりましたけれども。

○議長（志関武良夫君）　９番吉野僖一君。

○９番（吉野僖一君）　そういうことで、私も過去に何回か一般質問をやっておりますので、経過は今のところストップということでありますので、その辺を、じゃ、これで締めます。

続きまして、大多喜町もそういう荒廃地がいっぱいあるということで、そういう産廃とか改良土で埋め立ての申請があると思うのですが、町として今後の対応について、町長、どのようにお考えでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　町長。

○町長（飯島勝美君）　改良土につきましては、今のところ、どちらかといいますと、ほとんど法としてこういう基準というものがない状態なんですよね。ですから、この改良土につきましては、これは千葉県全体の中でも、市町村長さんもみんなこの問題については危機感を持っておりまして、市町独自でやっぱり条例をつくるところもありますし、いろいろやっております。

県は、やっぱりなかなかこの改良土については、ある意味奨励しているところもあるんですよ。というのは、やっぱりそういう出たものを改良してというか、残土とかそういうものを受け入れる部分がありまして、県としてはそういうものを奨励している部分があって、それを今度は抑えるというのは、なかなか県というのは難しいところがあるんですね。ですから、これはやはり今、それぞれ54市町村長いろいろご意見もあるんですけれども、最終的には町独自でやっぱりやらざるを得ないのかなというふうに思っています。

○議長（志関武良夫君）　９番吉野僖一君。

○９番（吉野僖一君）　今、町長から県内の各市町村の対応ということでお伺いしました。本当に皆さん、困っている状態で、県内でもプラントを聞きましたところ、県のほうに聞きましたら、６カ所プラントがあるということで、どうしてもそういうところはないと困るという、それは事実そうです。ただ、その条例の基本の上で、総務課長が「改良土は、吉野さん、これ、別枠ですよ」と言われたのでちょっと調べたんですけれども、やはり改良土は土砂に含まれるというかどうかということで、ＱアンドＡの１で土砂に含みますと。性状が土砂であれば、前述したとおり有価物、無価物にかかわらず土砂として規制の対象となっておりますということで法のＱアンドＡで出ています。

県内でも、今、町長が言いましたように対応にみんな苦慮しているところで、印西市は市条例で規制しております。大多喜町も、やはりこれだけ後継者がいなくなって荒れた荒野がいっぱいあるので、狙われるんで、今後の町の対応、町長のお考えをお伺いしたいと思います。

○議長（志関武良夫君）　町長。

○町長（飯島勝美君）　これは、今、環境水道課のほうで大多喜条例の制定について、今詰めているところでございまして、ある程度素案はできているんですが、これはやはりいろいろ後々問題にならないかどうか、そういったことも含めまして、また、いろいろ他市町村でやっている事例も見ながら、やはり大多喜町として今進めているところでございますので、その辺につきましては、環境水道課長のほうからもちょっと話が出ればと思いますので。

（「じゃ、お願いします」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　環境水道課長。

○環境水道課長（米本和弘君）　ただいま町長のほうからお話がありましたように、現状の埋立条例のほうが、先ほど吉野議員もおっしゃられましたとおり、3,000平米以上が県、3,000平米未満が町というようなところで、現在は規制しているところでございます。

ＱアンドＡの話が今出ましたけれども、3,000平米以上の規制を行っている県の条例では、現状では改良土は対象となっておりません。ですから、板谷の埋め立ての場合につきましても県の残土条例のほうで規制できないというふうな状況で、今、規制の対象となっているのは、森林法のほうでいろいろと規制の中で取り扱いをしているところです。

それで、この改良土の今後の条例等の規制につきましては、９月会議のほうでもお話をさせていただきましたけれども、まず町の条例で規制しようとすると、その3,000平米未満というようなところを撤廃しないといけません。それには県の条例の適用除外というのを受けまして、町の条例を規制すべく、現在改正に向けた事務処理を進めているところでございます。

以上です。

○議長（志関武良夫君）　９番吉野僖一君。

○９番（吉野僖一君）　今、環境水道課長が、その条例に入っていないというのがあったんですけれども、私も県庁のほうへ電話しまして、初めは、一般県民の立場で受付、フロントから、改良土問題の埋め立てに関してということで電話したんですよ。各課たらい回しで、30分、40分ぐらいかかったかな。最後、産廃の指導課に行って、ちょうど５時のチャイムが鳴ったので、その日は「じゃ、またあした、かけ直します」ということで、次の日、電話しまして、「実は、きのう電話したのは、私、大多喜の町議の吉野と申しまして、今、町内で改良土問題で埋め立てのことでちょっと聞きたいんですけれども」と言って、これ、本当に今言った、ちょっと水道課長の答弁はおかしいと思う。これに出ているんですよ。これを見て、

とにかく指導課のほうに電話しまして、指導がおかしいんじゃないかということで、もう町条例、県条例は右に倣えなので、これを見ると、その改良土も町でということになっているので、どうしてその指導をしないんだということで、それで言って、ワカツキさんが多分久我原の分で町長に会いに来たと思うんですけれども、これは、ちょっと職員にはもう少しこの条例を、もうちょっと時間がないから余り……。これに出ていますのでね、やはりちょっとその辺はしっかりしないと、やっぱりこれに沿ってやらないといけないと思う。

この件に関しては、一応これで終わります。

○議長（志関武良夫君）　環境水道課長。

○環境水道課長（米本和弘君）　それは県の条例でしょうか。

（「27年度のやつ」の声あり）

○環境水道課長（米本和弘君）　県条例。

（「町条例」の声あり）

○環境水道課長（米本和弘君）　町条例ですか。

（「うん。右に倣えだったよ」の声あり）

○環境水道課長（米本和弘君）　いや、町条例では、改良土、再生土とか、そういったものは対象外になっております。恐らく県もそういう解釈で、今回の板谷の埋め立てについても取り扱っていると思います。もしそれが対象でなっているというのであれば、これはもう県のほうが、その規制のほうに、当然3,000平米以上でありますので、対象の規制として県が取り扱うようになると思います。

もう一度、うちのほうも再確認はしてみますけれども、一応、現況ではそういうような取り扱いをしております。

以上です。

○議長（志関武良夫君）　９番吉野僖一君。

○９番（吉野僖一君）　ここで余りこれやっちゃうと時間があれなので、これ、じゃ、後ほどまた、すみませんが。ちょっと私のあれと違うので。じゃ、ここで一回これは締めます。今、じゃ、町条例の制定について動いているということで、その辺は、よろしく検討願いたいと思います。

続きまして、大多喜ダムのその後の経過報告と今後の対応についてお伺いします。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　企画財政課からお答えさせていただきます。

大多喜ダム跡地の経過報告でございますが、今までの会議でお答えさせていただきました後、新しい進展等は特にない状況でございます。

○議長（志関武良夫君）　９番吉野僖一君。

○９番（吉野僖一君）　進展がないということは、29年４月、次の三育学園の誘致ということは、これはもうだめということですね。当然、間に合わないです。

今、何か先輩議員から、何か名称が沢山川環境整備ということで名称変更になっているんですか、その関連の……。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　沢山川の環境整備は、周辺のということで、これは、地域の人に草刈りとかごみ拾いとか、そういったものはお願いしております。

○議長（志関武良夫君）　９番吉野僖一君。

○９番（吉野僖一君）　今、西部田地先ですね。河川の改修とか田んぼの増床というか、やっているんですけれども、あれはどういった補助金とかでやっておりますか。

○議長（志関武良夫君）　副町長。

○副町長（鈴木朋美君）　その件ですけれども、今お話しになったとおり、当初、大多喜ダムをつくるときに、県のほうで用地の取得だとか、そういう面で約束事で、あそこの土地を埋めると、埋めて高くするというような約束があったということです。それを今、実行しているところです。

これは、現在、沢山川周辺地域対策協議会というのがございまして、県の関係課だとか、南房総広域水道企業団と、町のほうも関係課が出席して、そういう周辺地域の整備というか、そういったものの約束事の整備の推進について関係課で今協議しておるんですけれども、そういう中でも、そういう事業の中で埋め立てをしているということです。

○議長（志関武良夫君）　９番吉野僖一君。

○９番（吉野僖一君）　それで、聞くところによりますと、やはり何か話が、初めに言ったこととあれが大分違っていて、何か地元の先輩もすごく何か困っちゃっているみたいで、その辺は町のほうは承知しておるんですか。

○議長（志関武良夫君）　副町長。

○副町長（鈴木朋美君）　その辺は、ですから沢山川周辺地域対策協議会の中で、いろいろ地元の関係者だとか県、あるいは南房総広域水道企業団との中で、お互いに話し合いをしながら事業を進めていくということで理解しております。

○議長（志関武良夫君）　９番吉野僖一君。

○９番（吉野僖一君）　ありがとうございました。今後一切、この大多喜ダムに関しての私は質問をしません。ありがとうございました。やはりこれは町長が、やっぱり29年４月とみんな町民も聞いちゃっているし、それを心配して質問を今していたことで、ご了承ください。

続きまして、町長の政策についてお伺いします。

初めに、協働のまちづくりについてどのように考えているかお伺いします。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　それでは、協働のまちづくりのほうを担当しております企画財政課からお答えさせていただきます。

総合計画の人口推計では、平成37年の町の人口、これは8,005人に減少する見込みで、高齢化率も45.5パーセントになると推計されております。町では、8,500人を維持できるようにということで目標を立てておりますけれども、この中で一般の職員数も減少するような傾向になろうかと思います。

そのため、行政主導のまちづくりは限界を迎えます。このため、住民参加や協働の重要性が増してまいります。今までも町民の皆様には、さまざまなボランティア活動や地域活動にご協力をいただいておりますが、町民と行政との協議を通じた施策形成が必要となっております。協働とは、町民と行政とが対話、協議を重ねながら連携、協力するものだと考えております。

○議長（志関武良夫君）　９番吉野僖一君。

○９番（吉野僖一君）　ありがとうございました。

やはり町民も、まちづくりにはすごく関心を持っておりますし、各議員さんも、高速バス、そしてこのふるさと納税に関しても、やはり町民の代表ということで、皆さん、今回大分質問されております。

それが２番目の質問ということで、町長と議会との二元代表制についてどのように考えているかお伺いします。

○議長（志関武良夫君）　総務課長。

○総務課長（加曽利英男君）　それでは、最初に総務課のほうから一般的な見解を述べさせていただきたいと思いますけれども、首長と議会議員がともに直接選挙で選ばれる二元代表制では、長や行政委員会の執行機関と議会が相互の牽制と調和のもとに、公正で民主的な地方公共団体の運営と地方行政の実現を図ることができるものと考えております。このためには、

議会と執行機関の双方が、それぞれの権限と機能を尊重し、お互いに干渉することなく認め合うという良識ある関係をつくることが重要だと考えております。

○議長（志関武良夫君）　９番吉野僖一君。

○９番（吉野僖一君）　まことにすばらしいお答えでございました。ありがとうございます。

やはり議員さんも各町民の代表ということで、やはり町の政策に対しチェックを入れている状態でございます。今後とも、この根本的な二元代表制、お互いに尊重して、まちづくりに今後とも頑張っていきたいと思いますので、よろしくお願いしたいと思います。

ただ、ここに来て、何かと独断と先行的な事後報告が非常に多いので、ちょっとそこら辺がもう少し、先ほどの台湾の出張の件にしても、昨年の秋は議会を通してやはり審議して、オーケーを出して大威張りで行ける。今回はプライベートで行ってと初め言って、だったらもうさっきの答弁、プライベートとあのときに報告しなければそのまま行っちゃったのかもしれないけれども、プライベートでたまたま行ったので表敬訪問したということも、これ、新聞で取り上げられて、こういう結果になって、だから、そこら辺がもう少し議会に、行く前にやはりこういうことで視察に行くと物すごくオープンにして、じゃ、議員さんも何人かということであれば、それなりの人が行ったかもしれないし、そこら辺が、今後、協働のまちづくりということで、一部の人じゃなくて、やはりオープンにしてやることがそれは、皆さんそれぞれの立場があるから、それは根回しで言ったのかもしれないけれども、だったら、もうプライベートで行ったとか、それは言わなくて、そのままにしておけばよかったのかもしれない。

その辺は、皆さんが良識がある職員であって、とめる人もいなかったし、これはちょっとやはり、職員ももう少し「これは町長、やはり議会に諮って、それから行ったほうがいいでしょう」とか、そういう、やっぱり皆さん、それなりの人格のある人が、課長さん、皆さんいますので、やはり、それは先ほど吉野さんが心配したとおりなんですよね。やはりこれは今後、考え方によると、本当にちょっとマスコミが喜んじゃうようなことになっちゃうので、その辺は、今後できるだけ皆さんと協議して事に当たってほしいというか、その辺について、町長にちょっとお伺いしたいんですけれども。

○議長（志関武良夫君）　町長。

○町長（飯島勝美君）　これは先ほどもお話しましたけれども、私にだってやっぱりプライベートの時間があるんですよ。それで、勉強する時間も必要ですよね。

ただ、今回の最大の目的は、やはり台湾の経済界の、いわゆるまさにトップ企業なんです

よ。これは、日本で言えば本当にトップ企業の方と面会をし、そして人脈づくりをし、そして、今、台湾経済も非常にいいですから、そういうことで本町とその延長線上で何かできないかなということで、これはまだ本当に、ただ人間関係づくりで行っている話であって、それを公表するとかそういう話ではなくて、まず人間関係づくりというのがなくては何事もうまくいきませんので、そういうことで進めていることでございまして、まして今度お会いする方なんていうのは通常ではお会いできない方でございますので、恐らく、なかなか普通ではお会いできない方でございますので、そんなに大勢で行けるような話じゃないわけで、そういうことで、非常に関係者のお力をいただいてやってきたところでございますのでね。

また、私も、これからもまた勉強の意味では、それを全部議会に報告して、これで行きますなんて話にはなりませんから、これは、私も、やっぱりプライベートの中でしっかりと勉強するものは勉強し、そして町に貢献できるものは貢献したいと思っていますので、それはちゃんと節度をわきまえてやっていきたいと思います。

○議長（志関武良夫君）　９番吉野僖一君。

○９番（吉野僖一君）　今、町長、そういう答弁ですけれども、やっぱり一般町民は、やはり業者さんと行ったということになると、先輩議員にも聞いて、今まで町議会で不信任案というのは出したことはあるんですかと言ったら、今まで歴史的にないと、そういうことであったんで、勉強すると、不信任案であれすると解散権もあるし、これはちょっと町が混乱しちゃうし、だから、そこまで考えちゃうと何もできないから、ちょっとここだけの話で、今のは削除してください。一応、でもおきゅうを据えないとちょっといけないかと、そういうことで、笑い話で済んでよかったと思っております。

続きまして、ふるさと納税感謝券についてお伺いします。

議長、よろしいですか。

○議長（志関武良夫君）　はい、どうぞ。

○９番（吉野僖一君）　続きまして、ふるさと納税感謝券についてお伺いします。

先ほど、今までるる議員さんが質問されましたけれども、一部業者のために、せっかく今、全国でナンバーワンの還元率で、資料を調べたらすごく注目を浴びている町でありまして、それが、たまたま一部の業者でもってヤフオクの金券ショップに出ちゃいまして、これがなければ、私は、まだまだそのまま行けたんじゃないかと思って、ただ、先ほど企画財政課長から言いましたように、何かあった場合には、ふるさと感謝券取扱店の取り消しという先ほど答弁をされましたけれども、その辺について、当初、私も町民から、このお店は商工会に

入っているんですか、入っていないんですかとか、そういうことで商工会に行って聞きましたら、商工会には入っていないと。商工会に言ったら、町が許可したみたいだからということで、じゃ、大多喜に住所があるのかなと住民課へ行ったら、それは個人情報で教えられませんということで、たまたま町長と花﨑さんがいましたので寄って、この店はどうなっているんだと言ったら、大多喜町に法人登録をしてあるので規約どおり町長が許可したというふうなことで、間違いないでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　これについては、先ほどもお答えさせていただきましたけれども、支店が大多喜町ということでございますので、取扱業者、事業者ということで町で認めたものでございます。

○議長（志関武良夫君）　９番吉野僖一君。

○９番（吉野僖一君）　ただ、この店が換金のやり方とか何とかをホームページに出しちゃったんですよね。それで、だから１月の7,000万とか、結構そういう換金目当てみたいなあれで、１月で一月で今までないでしょう、7,000万なんていうのは。11月、12月は年度末というか、駆け込みがあるからふえるんだけれども、１月もそれが続いたということは、その換金目当てがすごくやっぱり気になるんですよね。結局、総務省から指導が入って60パーセントということになったんですけれども、この一業者のために、これだけ町が混乱されちゃって、当初は、返礼品が間に合わなくて、町長さんも「ああ、これはしようがないな」と思って、そういうお店を許可したのかなといいほうに解釈したんだけれども、それはそれでいいと思ったんです。だけれども、ヤフオクのページ見ると本当に、もうすごい数が出ていまして、今まで最高42万円かな――があって、きょうもまだ消えていないんですよ。それはやはり加盟の取り消しをして、すぐヤフオクの金券ショップのあれを削除、とめてもらうようにできないでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　インターネットオークションの関係は、取扱事業者には特に関係がないのではないかなというふうに思っております。

　これは、ふるさと納税をされた方のごく一部の方が換金するためにインターネットオークションに載せたということで、その取り扱いについては、これからいろいろな方に通知をする段階で、当然のように換金は禁止ですよということを通知しているというような状況でございます。ですから、業者の方がインターネットオークションに載せているんではなくて、

あくまでもふるさと納税をされた方が、ごく一部の方が載せているんではないかなというふうに理解しております。

○議長（志関武良夫君）　９番吉野僖一君。

○９番（吉野僖一君）　それなんです。そこなんですよ。だから、そのお店が、問題のお店がヤフオクに、換金するような作業を細かくやり方が書いてあるんですよ。間違いないんですよ。それで、地元商工会のほうも心配していて、「これ、やはり問題だよ。議会で何とかしてくれよ」と言われました。

それで、中には、1,000万寄附して、前の70パーセントですと高級車が買えるというので、相当な引き合いがあったんですよ。それは聞いています、10人ぐらい。だから、それを町がオーケーというふうに言ったと言うんだけれども、それは事実ですか。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　それについては、私は特に認識しておりませんけれども。

○議長（志関武良夫君）　９番吉野僖一君。

○９番（吉野僖一君）　やはり販売業者も、心配だから町のほうへ問い合わせしたらオーケーですというふうな答えが来たというので、その辺は、さすがに金額が金額なので実際は断っている状態なんですよ。実際あるんですよ。お金持ちがやはりそういう脱税行為みたいな、名目はふるさと納税ということなんだけれども、それを大多喜町が利用されちゃうと問題だよ。結局、吉野さんが言ったように、国、総務省から県に指導があって今回の形になったと思うんだよね。だから、その許可したお店を、やはり先ほど、課長が加盟店の取り消しということをさっき言いましたよね、そう言ったよね。言ったよね。さっき確認したもん、俺、さっき。そういう不正のあれは取り消しということなので、その辺は、できるかできないかお伺いします。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　適正な取り扱いをするように、全ての業者、取扱事業者の方に通知をしております。

○議長（志関武良夫君）　９番吉野僖一君。

○９番（吉野僖一君）　それはいただきました。

だから問題は、その一部の業者のために今回こんなになっちゃって、それがなければまだ70パーセントでできたんだよ。それがヤフオクに出ちゃったのがもうすごい数でね。もう毎日出ているから、悪いけれども、それをやめさせるように指導してください。いいですか。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　私のほうで、その業者は換金の問題まで行っているのかどうか、ちょっと事実を確認しておりませんので、それがもしそういう事実があるのであれば、それは、その業者を指導していきたいというふうに思います。

○議長（志関武良夫君）　９番吉野僖一君。

○９番（吉野僖一君）　以上で私の質問を終わります。

○議長（志関武良夫君）　以上で、吉野僖一君の一般質問を終わります。

◇　根　本　年　生　君

○議長（志関武良夫君）　次に、１番根本年生君の一般質問を行います。

どうぞ。

○１番（根本年生君）　根本です。質問をさせていただきます。

まず、私、最初に、いろいろな議員の方が質問なさっている高速バスの件について、今まで聞いたこと以外のことを質問したいと思います。

これは、個人的に思っているのは、大変すばらしい事業で、これは何としても黒字化させて成功させなければならない、非常にそう思っています。近隣の市町村でも大変このことについては、この間行ってびっくりしたんですけれども、勝浦の広報の一面にこのように大きく、大多喜町で高速バスが走りますよ、皆さん利用してください、問い合わせ先は大多喜町の企画財政課ですよというふうに大きくうたわれています。ホームページにも大きくうたわれているんです。近隣市町村も含めて本当に期待しているところでございます。これは何としても黒字化させなければならない。その辺の決意を、いま一度、町長、お聞かせください。

○議長（志関武良夫君）　町長。

○町長（飯島勝美君）　これは根本議員のおっしゃるとおりでございまして、この高速バスにつきましては、やはり私どもが総合計画、いろいろ一昨年から進めておりまして、若い方の定住化ということ、こういうことの中で、いろいろ進めてきたところでございます。

特に、やっぱり若い方のご意見の中に、この地に住み続けるということは、やはり働く場所がなければいけない、あるいはまた、働く場所がなければ、この地から働けるような場所に通えるような、そんな施策、交通施策という２つの大きな課題を若い方から突きつけられました。特に、何度かお話ししておりますが、大多喜町の最大の課題、これは本町だけではないんですが、少子化という問題、その一番の原点は何かといいますと、やはり若い方が定

住をするということなんですね。そういう意味で、やはりこれから、特に定住化に向けては、この高速バスというのは必ず必要なものであります。それで、大多喜町の10年後、20年後を考えるときに、やはり必ずこのバスというのは皆さんにとって大きな足になると思います。

前日もお話しいたしましたけれども、大多喜町は歴史から学ぶべき必要があると思っています。いわゆる外房線が、なぜ今、海側に走っているか。これは、過去に最初の計画というのは、この外房線というのは、茂原から長南町、大多喜町を抜けて小湊に行く、これが最初の計画なんです。しかし、長南町、大多喜町の人が大反対をして、やはり農地がなくなる、やはり商売ができないという中で、大反対の中で余儀なくされてこの計画は変わり、外側に回ったという経緯なんですね。

ですから、この歴史から学べば、今、国が道路インフラをしっかりやっていただいた。その道路インフラの一番の享受を受けるのが大多喜町であると、そういうことでございます。ですから、私どもは、このバス路線は、今は東京便と12便になりますが、これを何としてもやはり黒字化に向けてこれをやることが、将来に向けて大多喜町にとって重要であると思っていますので、何としても、これは黒字化に向けて努力したいと思います。

○議長（志関武良夫君）　１番根本年生君。

○１番（根本年生君）　今、強い決意を示されたと思いますけれども、しかし現状は非常に綱渡りの状態であると。正直言って、来年このまま赤字が続けば、再来年、ひょっとしたら廃止になっちゃうかもわからない、そういった状況だと思うんですよ。やっぱり黒字化になれば、それだけ人口もふえるし、大多喜町の活性化にもなるし、ぜひやらなくちゃいけない。じゃ、成功させるために何が必要か。今、多くの議員の方も質問なされていましたけれども、まず赤字の問題なんですよ。赤字を何としても解消しなくてはいけない。私、１番と２番の収支計画の根拠を示しなさいというふうになっていますけれども、数字は出ているけれども、綿密な計画に基づいた、これが歳出根拠になっているのか。回答はいいです。多分、そんな綿密な計画行動に基づいた計算にはなっていないんじゃないかと。まず綿密な計画をつくってください。

それで、次に、赤字が発生してもいいという、その根本的な考えの中に、ふるさと納税がたくさん集まっていると、だからこれを使えばいいんだという安易な考えになっていませんか。仮に、どうしても必要な政策であれば一般財源から出してもいいんですよ。仮に一般財源から出せば、こんなに赤字を、１日走れば10万、20万の赤字になるわけですから、もっと一生懸命になるはずだと思うんですよ。ですから、その辺に少し甘えがあるんじゃなかろう

かと。そもそも、予算が今度示されますけれども、赤字を前提とした予算ってあるんでしょうか。一生懸命に政策をつくって、行動して、それで赤字をゼロにすると、それで一生懸命やると。その結果、1,000万赤字になったからふるさと納税を使わせてくださいよ、それなら話はわかるんですよ。最初から赤字があるのは当然だ。これ、きのうの答弁の中でも１億円赤字になると。じゃ、ちょっと計算が違っていて１億5,000万になりましたと。何かそういった数字を平然と言っているような気がしてならないんです。5,000万といったら大金ですよ。それを平然と計算間違えしましたからと言って、これで果たして信頼が得られるんでしょうか。

それと、もう一つ言いたいのは、要綱をつくりました。高速バス維持、補助、要綱、これは補助金を出すための要綱です。私、この政策は、単に補助金を出すという簡単な問題じゃないと思っているんですよ。一ボランティア団体に、申しわけないけれども40万、50万の補助金を出すということであれば、こういった補助金の要綱だけでいいでしょう。これは一つの大多喜町の大きな政策なんです。次年度においても、これにまさる政策はないと思っています。その大事な政策を一要綱だけで済まそうとしている。私はこれは、大きな政策であれば、条例にして、議会の承認も得て、正々堂々と議会と行政が一致できるような条例をつくって、ともに歩んでいかなければ成功しませんよ。どうですか、町長。

○議長（志関武良夫君）　町長。

○町長（飯島勝美君）　今、根本議員のおっしゃりましたように、今、走らせるところで、ある程度その考えが来ていたのかなというところもございます。

しかしながら、やはり人というのは、やはり私は考えるんですけれども、まず不完全なんですよね、人というのは。不完全な人がつくるものは、やっぱり不完全なものがあるんです。全部いろんなことを見ていても、そういうことがあるんです。だけど、それを修正し、修正し、最後は仕上げていく。これは一般的にどこでもそうなんですけれども、ただ、それは、それをよしとしている話ではないんですけれども、ですから、今、走らせてみて、問題点は今精査しています。非常に多くあるんです。ですから、こういったことを今一つ一つ精査しまして、協力してもらえる団体、いわゆる観光業者さん、いろいろあります。そういうことで、そういったことも含めて今やっているところでございますので、今申し上げましたようにね、やはりこの事業は何としても成功させなければいけないと私は思っています。これはやはり大多喜町にとって非常に重要なものであるということは認識していますし、そういうことを真剣になって今取り組んでいるところでございます。

○議長（志関武良夫君）　１番根本年生君。

○１番（根本年生君）　先ほど言いましたように、これは単なる補助金を出せば成功するというものじゃないと思っています。やはり大きな政策を掲げて、人口対策も必要でしょう。そのほかのいろいろな施策も必要でしょう。ですから、これは条例化して議会とともに、要綱とかじゃなくて議会の承認も得るような形で条例をつくって進めていったらどうでしょうか。条例をつくる考えはありませんか。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　補助金だけのことでお話が出てしまうとあれなんですけれども、補助金というと通常は要綱という形なんですが、私なんかも危機感を持っております。現実的にやらなければいけないというふうには認識していますけれども、ただ、そこの補助金の議論よりも、いかに乗せるかというところが一番大切なところだと思います。

ですから、そこのところでは、いろいろな方と意見交換させていただいたり、どうしたらいいのかというものを真剣になって考えていく協議する場、そういうものが必要じゃないかなというふうには考えています。

○議長（志関武良夫君）　１番根本年生君。

○１番（根本年生君）　先ほど私が言っているのは、これは政策的なものだと思うんですよ。これほど大きな政策は過去にあったでしょうか。小水力発電はちょっとうまくいかなかったが、それとかいろいろなことがあったけれども、城見ヶ丘をつくったりとかなんかしたけれども、政策的判断でやったけれども、これ以上のものはないんじゃないですか。これは政策ですよ、まさしく。

そうすると、政策というものは議会とともに歩んでいかなくちゃいけない。行政側の判断だけでうまくいくものではないんですよ。必ず議会とともに歩んでいかなくちゃいけないので、条例化して、議会の承認も得る形でやっていったほうが、成功する率はずっと上がりますよ。議会、議員のほうでは多くの町民の意見も踏まえているわけですから、皆さんが発言する中には、後ろで大きな町民の声があるから発言しているわけですから、そういった形なので、もっと議会と十分話し合って、お互いが納得できる形でやっていったほうがやりやすいんじゃないですか。

何かやるごとに、いや、議会に話が、いや、そんなことやって大丈夫なのかと言われるよりは、ちゃんと説明して、それで議会の承認を得ていると言っておけば正々堂々とできるじゃないですか。条例化しましょうよ。どうですか。

○議長（志関武良夫君）　町長。

○町長（飯島勝美君）　議会の皆さんといろいろ話し合うことは、議会全員協議会でも、私どもはこれからたびたびやっぱりそういうことは説明していきますし、それで十分協議できると思います。私は、その形をつくること、このバスを走らせることもそうなんですが、形をつくることが仕事ではなくて、やはりこれをいかに有効なものにしていくかということは、形ではないと思っているんです。ですから、やはり協議の場は幾らでも、全員議員協議会を何度でも開いてでも、議員の皆さんとは考え方を共有化していきたいと思っています。

ただ、要は、これにいかに多くの人を乗せるために何をするかということを、議員の皆さんともまたいろいろご相談をさせていただきながら進めていかなければいけないと思っています。ですから、形ではなくて、実際に何をするかだと思います。

○議長（志関武良夫君）　１番根本年生君。

○１番（根本年生君）　今の話の中で、条例はなかなか難しそうだということですけれども、物事を決めるに当たって、やっぱり根拠規定がしっかりしていないと、もちろんそれは全員協議会でもいいですけれども、それは話し合いですから、やっぱり議会でちゃんと決議して、根拠となる規定を設けて、それで進んでいくというのが正道だと思いますよ。まして、こんなに１億円、１億5,000万も使う事業なんですから。これ、100万、200万のものだったら、それでいいかもわからない。だけれども、大多喜町の将来に重要な政策について、私は条例をつくるべきだと思います。まあ、それはまた、おいおい、次からもやっていきたいと思いますので。

次に行きます。次は新婚世帯の家賃補助制度についてです。

多くの市町村の人口の推移を見ると、大多喜町を含めて、若者が転出、転入する契機になるときが結婚したときというのが多く挙げられています。大多喜町の人口ビジョンの中にも、転出するきっかけは結婚が契機だよと、そればかりじゃないけれども、そのようにうたわれています。

それで、これは、いすみ市、勝浦市、御宿町、睦沢町とやっています。勝浦市、いすみ市、御宿町は移住者のみ、睦沢町は、たしか移住者じゃなくてもいいということになっていると思います。これは、いすみ市と勝浦市の実績を見ると、７件だそうです。

それで、実際上、大多喜町から当然出るとき、結婚するときに悩むと思うんですね。じゃ、どこに住もうかと。いきなり親と住むというのはなかなか抵抗がある場合が多いようです。じゃ、とりあえずアパートに住んで、そこで何年か様子を見ようと、そうしたときに町が助

成して、大多喜町のアパートに住んでくれれば家賃の一部を補助しますよということになれば、とりあえずそこに住む方も多くいるんじゃないでしょうか。それで、その費用については、いすみ市、勝浦市、御宿町、みんな聞きましたけれども、ほとんどが補助金でやっているそうです。町の負担は幾らでもないようです。ですから、いい補助金をほかでやっているわけですから、必ずいい補助金もあるはずです。それを使って、ぜひやったらいかがかなと。

それで、別紙で計算書も、私、つくらせてもらいましたけれども、仮に年収300万の方がどこかに行かないで大多喜町に住んでくれた場合、町民税が約７万円、交付税措置が約６万7,000円、それと水道料金が２万4,000円ぐらい、それで16万円ですよね、町に落ちます。これがほかに住んじゃったらこれは落ちないわけですから、それと、統計局で出している統計の報告によりますと、大体300万だと150万は消費するそうです。そのうち約半分は地元のスーパーとかお店屋で買うそうです。そうすると、約117万、これは平均ですから、このとおりいくかどうかわからないけれども、117万円というお金が町内の業者に落ちるんですよ。そうすれば、これは補助金、仮に過疎債を使うとか、わからないですよ。ほかの補助金もあると思いますけれども、それを使っていけば、ここで出しても十分採算が合うんです。

ぜひこれはやっていただいて、それでアパートに多分１年、２年住めば、そのうち子供もできますよ。子供ができれば、今やっぱり２歳、３歳から預ける親も多いですから、保育園に預けますよね。すると、保育園に預ければ、そこで友達関係もできるし、親たちも人間関係ができてくるから、なかなかほかに引っ越すということは難しいんじゃないですか。そこで考えるんじゃないですか。やっぱり一番は子供のためというのが、大体普通、親たちの思うことでしょうから。ここでぜひやったらいいかと思いますけれども、いかがですか。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　本町の性別、年齢階級別人口移動の状況でございますけれども、15歳から19歳、20歳から24歳になるときに大幅な転出超過となっており、20歳から24歳、25歳から29歳になるときも転出超過が多くなっております。これは高校や大学等への進学や就職に伴う転出の影響が考えられます。さらに、25歳から29歳、30歳から34歳、35歳から39歳でも転出超過となっており、これは就職後の親世代からの独立や結婚を契機とした転出の影響と思われます。

根本議員のおっしゃるとおり、結婚したときに本町にとどまるのか迷う方も多いと思います。若い世代の定住化については大変重要なことと思いますが、一時的な補助では効果が薄くなることも懸念されます。効果的な事業とするには、ある程度継続的に実施する必要があ

り、財源の確保も必要と思われますので、関係課と協議してまいりたいと思います。

○議長（志関武良夫君）　１番根本年生君。

○１番（根本年生君）　それで、戻りますけれども、高速バスを走らせる事由の中に、きのうもきょうもですけれども町長が盛んに言っていたのは、流出を防ぐんだと、これが一番の目的だよということを再三再四おっしゃっていたように思います。だから、流出を防ぐのが最大の目的、高速バスで、流出を防ぐために何人かはできるでしょう。しかし、流出を防ぐということであれば、こういった政策も非常に有効だと思うんですよ。

高速バスは、それ自体、走らせることが目的じゃないと思うんですよね。それによって人口の活性化を図る、やはり流出を防ぐ有効な手段。いすみ市も勝浦市も非常に有効だと、今まで出ていった人たちがそこでとどまってくれるわけですから、これ以上のメリットはないんじゃないの。ちょっと言葉が悪くなっちゃったけれども、経費的にもさほどかかるものじゃないと思うんですよ。それで、もし金がないとなったら、今、住宅奨励金って出していますよね。大体１件平均すると80万ぐらいかな。80万ぐらいだと思うんですよ。もし何だったら、そこの部分をちょっと、じゃ、１人平均80万出しているけれども、じゃ、ちょっと下げて70万にして、浮いた分、恐らく今、15件ぐらいだったかな、年間。そうすると150万浮くわけですよ。その金を充てるとか、やっぱりうちを建てる人ばかりじゃないんですから、ぜひ、いろんな面を工夫してやってもらいたいと思います。いかがでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　先ほども申しましたけれども、財源の確保も必要だというふうには思っております。議員のご提案されたような方法もあるでしょうし、あと、いすみ市と勝浦市さんにお伺いしたところ、やはり先行型交付金を使ってやっていると。この交付金は、だんだん進化してきまして、個人的な給付には国は認めないというような方向性も出ております。ですから、ほかに方法はあろうかと思いますので、そういったものを模索しながら、関係課と協議していきながら進めていきたいと。

ただ、先ほども言いましたけれども、現実的にどのぐらいの要望があるのかというのをやはり十分把握しないと、町の中のアパートの状況とか、そういった問題もあろうかと思います。そういったものは、やはり担当課のほうで十分に把握した上で、その効果、対費用効果というものを十分確認していきたいというふうに思います。

○議長（志関武良夫君）　１番根本年生君。

○１番（根本年生君）　ぜひ検討してください。

それで、もう一つ思うのは、いろいろな関係で人口の減少を防ぐために、いろいろな補助金とかいろいろな対策を行っています。これは、恐らく毎年、半年でも、この政策でこれだけお金使ったけれども効果はどうなんだということをやっているんでしょうか。

ホームページを見ましたけれども、とある市町村だと、これは委託でやったんでしょうけれども、委託でこの効果はどうかという検証をしています。その内容を見ると、何も委託業者に出すようなほどのものじゃない。要は、転出する際にこの補助金を考えましたか、控除しましたか、この補助金を使うことによって定住の意思を固めましたか、固めませんか、そういった程度のことなんですよ。その結果、その市町村は、約６割の方がそれを使って定住してくれた。８割の人は、一応それを参考に考慮したというような回答結果になっています。ですから、何か最近見ていると、毎年毎年同じものをやっていて新たなものを検証していないから、新たなものが出てこない。町民のニーズがどこにあるのかということも把握しながら、ぜひやってもらいたいと思います。これは答弁はいいです。ぜひお願いします。

続きまして、大多喜高校の存続について。

これ、前回も私、やらせていただきました。それで、やはり、この間、ＮＨＫの朝のニュースで、皆さん、見た方も多いと思うけれども、朝のニュースで７時20分ころからかな、15分か20分くらい、これをやっていました。要は、題名が「高校を守って地域を守れ」というニュースでしたよ。それで、そこはやはり地域にとって高校が１つしかなくて、今、存続の危機に非常に立たされています。それで、これを何とか残さなくちゃいけないということで、これから一生懸命やっていると。その中で、これを使うかどうかは別にして、やっぱりふるさと納税のお金もその中に入れてやっているようです。それで、この10年間に全国で816校の高校が地域からなくなったそうです。

それで、高校の志願者も、ことし大多喜高校は定員割れを起こしました。これは、ちょっと調べましたら４年ぶり、５年ぶりだそうです。それで、県の担当者に、私、やはり電話ですけれども聞いてみました。統合の目安はどうなんですかねと言ったら、やはり志願者数が一番だそうです。まずそこにあっても行かない、定員割れだということは、もうそこに行く人がいなくなる、だんだんいなくなるということですから、これが非常に大きな要素になるよということを言っていました。確かにそのとおりだと思います。

それで、どうしてもこれを残さなくちゃいけない。それで、また私、いろいろと調べさせていただきました。それで、多くの報道機関から人口減少をとめたという先行例として挙げられています下條村、川北町ですかね。そこは本当に成功例で、子育て世代、小さな子供た

ちはふえました。しかし統計を見てみると、中学まではいいんだけれども、中学から高校になった途端にがくっとみんな流出しちゃうんです。それはなぜかというと、高校がないからですよ。子育てのときはいいけれども、ある程度教育、子育ての時期があって、これから教育していかなくちゃいけないという時期になると高校がない。そういった町はどんどん衰退していく。これはもう目に見えているわけです。

それで、川北町、下條村は、高校と、あと鉄道がないんです。大多喜町の場合、おかげさまで高校はある。ちょっとなかなか赤字で厳しい面もあるけれども鉄道はあるんです。ですから、大多喜高校の存続が大きな町の将来を担っているということは確実なんです。この辺について、いま一度、高校を残すんだという強い決意を町長のほうから、簡単で結構ですのでお願いします。

○議長（志関武良夫君）　町長。

○町長（飯島勝美君）　これは根本議員のおっしゃるとおりなんですね。やはり大多喜高校は大変伝統のある高校で、多くのすばらしい方を輩出している学校でございますので、もともと私は、この高校は何としても守るというのは、もともとの考えでございます。

それで、大多喜高校の校長先生、あるいは進路指導の先生ともたびたび、今、お話をさせていただいて、何か町として支援ができるものがあれば言ってくださいと、それは町としては出しますよと、支援いたしますよということでお話をしております。そういうことで、今、学校からも、私どもが最初に提案したものでございますが、いわゆるネットで授業が受けられるというような、そういうものも本当は２年前に提案したんですけれども、なかなか動いておりませんでしたけれども、これもいよいよ29年からやるという話をされましたけれども、実は、じゃ、今年度、28年度からやってくださいよと、出しますよという話したんですけれども、学校のほうが準備ができないということで１年置くらしいんですけれども、我々としては、そういう面では、残すという中で考えれば、町としての支援は、もう本当に強い決意で、学校を残すという思いで支援はしていくつもりでございますので。

○議長（志関武良夫君）　１番根本年生君。

○１番（根本年生君）　それで、せんだっての質問の中で、今、懇談会とかがあるやに聞いています。それをまた立ち上げるというような発言があったと思います。それで、このテレビでやっていた学校は、やはり町民を交えて、生徒も交えて、一つのそういった協議会をつくったそうです。それで皆さんの生の声を聞いて、協議会をつくって、その中で実行していこうと。

それと、何を実行するかということですね。これは大多喜高校のホームページを見ると、ここにも何をやらなくちゃいけないかって、もう書いてあるんですよ。１番が、地域イベントに地域に関連して積極的に参加しますと、これは高校が言っているんですよ。近隣の学校との交流活動を深めましょうと。これは、近隣の中学校、小学校に大多喜高校の生徒が行って、そこでいろんな生徒に勉強を教える。その中で大多喜高校のよさもアピールする。そうすると、こういったお姉さんたちがいる、お兄さんたちがいるなら行ってみようかということにもなるわけですね。あとは、先ほどインターネットで何かやるといいますと、これ、進学、進路希望の実現に向けて頑張りますと。もうこのように答えが書いてあるんですよ。これを早急に実行していくべきだと思います。

それで、大原高校のことについてもちょっと触れますけれども、この間、県の小路議員、大原高校のことについて県議会で発言していますよ、大原高校を何としても魅力ある学校にして残すんだと。どこの学校も必死なんです。その点、大多喜町は、なかなか、いまいち進んでいないような気がしてならないんです。

前にも言いましたけれども、一回テーブルの上に上がったら、これをもみ消すことはできないんですよ。大多喜高校を統合の対象にしますということが議論のテーブルに上がったら、勝浦高校なんかを見ても同じですけれども、一度テーブルに上がったら、それはテーブルに上げるまでにはいろいろな審議会を通して上げるわけですから、そうする前に手を打たないとなくなってしまうと、非常に強い危機感を持っています。

協議会の設置については、その後、どうなっていますでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　大多喜高校支援推進プラン策定懇談会において、魅力ある学校づくりに向けた地域との連携のあり方について、懇談会の中で協議しながら推進していくため、懇談会の委員を新たに選出し、来年度から実施することを大多喜高校と町教育委員会を交え協議させていただきました。その結果、町教育員会が主体となり、今後推進するということでございます。

○議長（志関武良夫君）　１番根本年生君。

○１番（根本年生君）　ありがとうございます。ぜひ、すばらしい成果が出るように願っております。

続きまして、大多喜高校の件について、大多喜町まだ十分とは言えないけれども、子育て世代の補助というんですか、政策は充実しています。生まれたときに、赤ちゃんが生まれた

ら幾らとか、保育園の何か補助とか、いろいろあります。十分じゃないと思うけれども、ある程度やっている。

しかし、子育て世代が終わって、中学、高校、大学、これは教育支援だと思うんですね。それで、いつ一番お金がかかるかというと、皆さんももう子供がいて、大学とかに行けば、一番お金がかかるのが高校生、大学なんですよ。そういったところの支援体制が、義務教育までは何とか町だからいいけれども、それ以後、高校、大学のための支援策が不十分だと思います。やはり子育て世代から教育世代になるまで一貫した充実した政策をとっていかないと、先ほどの川北町、下條村じゃないけれども、高校になったら出ていっちゃうよということになりかねませんので、この辺の教育支援を充実させるべきだと思いますけれども、どのようにお考えですか。

○議長（志関武良夫君）　教育課長。

○教育課長（野口　彰君）　大多喜高校が今後も安定して存続し続けていくには、大多喜高校の入試での志願倍率の維持が必須と考えます。そのためには、大多喜高校が地域において魅力ある学校であり続ける必要があります。教育課といたしましては、大多喜高校の魅力が本町の児童・生徒に伝わるよう、部活動や学校行事等、小・中学生と高校生との交流の機会をふやせるよう努めてまいりたいと考えております。

また、この施策により大多喜高校の人気が高まり志願倍率が上がりますと、入試の合否のラインが上がり、地元から大多喜高校に入りたくても入れないという生徒が出る可能性があります。教育課では、平成28年度大多喜町の教育の指針でも学力向上を第一の重点課題として取り組んでいくことをさきの教育委員会会議で決定いたしました。具体的には、少人数指導を生かした個に応じた指導の充実、アクティブ・ラーニング等、体験的、主体的、共同的な学習の推進、小・中一貫した英語教育の充実、読書活動の充実等に努めるとともに、知・徳・体のバランスに留意しながら、児童・生徒の生きる力の育成に努めてまいりたいと考えております。

なお、高校生、大学生の支援につきましては、高校生、大学生については奨学金制度という制度もございます。高校生については、これから高校支援という中で、先ほどその業務については教育課ということでお話がございましたので、今後、その中でしっかり検討してまいりたいと思います。

また、大学生につきましては、きのうからお話がございますように高速バスの関係で、通学につきましては、大多喜から東京までの通学については補助が出るということになってお

ります。

以上でございます。

○議長（志関武良夫君）　１番根本年生君。

○１番（根本年生君）　ぜひ、これ、私、大多喜高校の存続のために教育支援しろよと書いてあるけれども、大多喜町の活性化を図るためには、やはり政策として、大多喜からほかに通う生徒も一応対象にして、本当に皆さん、多くの課長さんたちも、皆さん、恐らくお子さんが大学に行って、そのとき大変だったな、もうちょっといい何かがあったらよかったなと思うことは山ほどあると思うんですよ。ぜひ、それを実現してもらいたいと思います。

何か教育長、言いたそうなので、一言簡単に。

○議長（志関武良夫君）　教育長。

○教育長（石井信代君）　そう言いたくはなかったんですが、今、根本議員がおっしゃるとおり、ことしは大多喜高校の倍率が0.86倍ということで、1.0までいかなかったわけです。最終的に後期試験の発表がきょうなんです、合否の発表が。これで正確に決まると思うんですけれども、やはり後期に希望している子供たちが全員受かったとしても、多分マイナス10人前後となるだろうと思います。マイナスということは、先ほど議員がおっしゃったように、学校統合、高校統合の、そのまな板にのる可能性が若干あって、今後どういうことになるかと思うと、本当に私も非常な危機感を感じております。

先ほど根本議員がおっしゃいましたように、まずは大多喜高校の存続については、やはり大多喜高校の魅力というのを、まずは大多喜の小学校、中学生が非常に大きく感じることが大事だと思っています。だから、大多喜高校のその魅力をどうこれからアップしていくかということについては、やはり小・中学生といろいろなことでかかわっていくことが一つ大きなことだと思います。

今でも、例えば吹奏楽部が、小・中・高等学校合同クリスマスコンサートとか、あるいは吹奏楽部がマラソン大会に出てくれるとか、いろいろやってくれています。そういうことも含めて、今後、進学希望者に対しても、先ほどありましたけれども、受験アプリのようなものを町として高校に支援していきたいと、進めていきたいと考えております。

○議長（志関武良夫君）　１番根本年生君。

○１番（根本年生君）　お願いします。大多喜高校の存続は、本当に大多喜高校がなくなったら、大多喜にもう住まなくなっちゃうんじゃないか、多分、大多喜高校がなくなった時点で、他の市町村と合併という話も出てくるかもわからない。非常に危機感を持っています。

続きまして、次の質問に行きます。

城下散策案内人の育成についてです。

実は、去年の１年間が約1,900人、ことしは２月後半から４月までで2,763人、もう既に、この二月半で多くの観光客が大多喜に来ているんです。これは、本当に皆さんのご尽力によりここまでになったということは、非常にうれしい限りであります。

しかし、それを案内するボランティアの方々が、もう本当に毎日のように出ているんです。それで、ボランティアと普通考えると、月に何回かの草刈りとか、多くても週に１回ぐらい、町の活性化とか美化のためとか、そういったために出ることであって、もうボランティアの域を出ているんです。もうこれは何とかしないと、それで皆さん、せっかく来てくれるんだから、本当にもてなして、また再び来てもらうように一生懸命やろうといって頑張っております。この人材を何とか確保しなければならない。

それで、いろいろ総合計画とか、いろいろなものを見ると、外国人を呼ぶんだとかいろいろ書いてありますよね。外国人が何人来るかわからないけれども、今、実質、あふれんばかりに来ているんですよ。その人たちに対する政策がいまいちできていない。もうこれは、観光協会が今やっているけれども、観光協会に任せておくようなことではないと思っています。

それで、今、観光協会もいろいろな問題に、たくさんの人が来るんだけれども、人数がいないんで非常に困っている。要は、そういったことになると、俺は月30日出たよと、おまえは１週間しか出ていないじゃないかとか人間関係の不和感も出てくる。今は一生懸命やっていますよ。そういった可能性も出てきたり、行政との関係で、一生懸命やっているんだけれども何か行政は知らんふりだなと、私たちは一生懸命やっているんだという、そういった声が出かねない。今は出ていませんよ。私が心配しているだけですけれども。

それとあと、ツアーの下請化ということが非常に問題になっているんですよ。ツアーは今なかなかお金をとれないから、少しでも安いところに来よう。そうすると、ボランティアガイドをやって、そこで１時間でも２時間でも潰せれば、そこでお金をかけずにお客を呼べる。なかなかボランティアガイドがいる観光地というのはありませんからね。そういった問題で下請化しているんです。これは悪いことではないと思いますよ、多くのお客さんが来ますから。ですが、あと、無償の限界ということもこの辺で考えられるんですよ。

そういったことになってくると、もう一観光協会でやっていくようなことじゃないんですよ。町の政策としてこれをどうするのか。正当な対価を払って、そういった人を要請していくのか否か。あと、システマチックに研修を重ねていろいろな人を育てていく、これも一観

光協会じゃ無理なんですよ。そういった方向性を、町が主導的に今後はどうするんだと、観光案内の会も町が当初は養成してつくったと聞いています。もう今後は町がもっと正面に出て、今後これをどうするんだということを考えていかなくちゃいけないと思いますけれどもいかがでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　産業振興課長。

○産業振興課長（野村一夫君）　城下案内人の育成に関するご質問ですが、まず、根本議員におかれましては、城下町案内人の会にご参加いただきましてありがとうございます。この場をかりてお礼を申し上げます。

さて、大多喜町は、城と渓谷の町を前面に出して、四季折々の町の魅力や観光情報を発信し、観光客の増加や団体旅行客の増加につながっているものと思います。また、昨年来、旅行会社がいすみ鉄道の団体乗車と大多喜城下の散策をセットにした企画プランを増加している傾向にありまして、大多喜町城下案内人の役割と期待はますます高まっていると思います。

このようなことから、根本議員のご質問の一事でありましたように、平成23年度の災害、震災以降、年間約50団体から65団体で1,700人から1,800人という大変大勢のお客を、実質４名の案内人ボランティアと案内人養成講座参加の２名の方にご協力をいただき、ご案内をしていただいておりましたので、後継者の育成を図るため、途切れておりました城下町案内人養成講座を平成25年度から開催しておりますが、なかなか後継者が育っていない現状であります。

この城下町案内人は、当初、平成９年度に房総の小江戸大多喜として城下町案内人をつくろうと第１回講座を開催し、平成10年以降、毎年講座を開催して、13名の方々に参加をいただいておりました。そして、平成15年から６名で城下町の案内人を開始したものでございます。

スタートした初年度は、３団体、77人の案内の実績でありましたものが、平成23年度の震災前には、年間65団体、2,055人を案内するまでになってきました。震災によって一時的に減少したものの、平成26年度には、67団体、1,700人をご案内するという状況になっており、しかも、城下町案内人の高齢化などによって対応が大変厳しい現状から、後継者の育成を図るため、本年度４回講座を実施したところでございます。

なお、ことし１月には、城下町案内人の会の会長からのご推薦をいただきまして、２名のボランティアの方を案内人として認定書を交付していただいたところでございます。

しかしながら、ご指摘のとおり、今月が23団体、1,582人、来月が21団体、949人という申

し込み状況から判断すると、現状の案内人だけでは対応することは大変厳しいということは十分認識しております。今年度、養成講座に参加している皆さんの中から、一日も早く案内人としてご協力いただける方が育つよう、今後とも養成講座やら実践講座のやり方を工夫して実施してまいりたいと存じます。

なお、案内や養成講座に必要な資料作成費、消耗品については、今後とも予算措置してまいります。

いずれにしましても、数十人以上の団体、グループの皆さんを１人で案内するには、相当の知識、技量を身につけなければならず、短期間で案内人が育つものでもありませんが、城下町大多喜の観光振興には欠くことのできない方々でございますので、今後とも、皆様方のご意見をいただきながら、町としても最善のことをしてまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（志関武良夫君）　１番根本年生君。

○１番（根本年生君）　ありがとうございました。前向きな意見で、何とか今後は町が前面に出て、ぜひ観光行政の一環としてやっていただければと思います。

時間が余りなくなって、本当は、これは次がメーンだったんですけれども、ちょっと時間がなくなっちゃって、すみません。

じゃ、次に行きます。

国は、女性の職場における活躍を推進する目的で女性活躍推進法を制定しました。これは今、町、国もそうですけれども、町の活性化を図るためには女性の活躍がどうしても必要だよという国の施策に基づくものであると思います。それで、時間がないので、ちょっといろんなところをはしょらなくちゃいけないんですけれども、まず、最後にもう結論を言います。女性の働き方を変えるには、もう結論が出ているんです。国の審議会、多くの審議会の中で、男性の働き方を変えないことには女性が活躍できるような仕事の体制はとれませんよと、これは、もう安倍政権の審議会の中でそういった結論が出ているんです。

それで、第４次大多喜町行政改革大綱の中にも、町もこれは何とかしなくちゃいけないと、限られた財源と人員のもとで効率的かつ効果的な行政運営の推進をするためには、時間外勤務の縮減と職員の福利厚生を向上させる必要があると、行政側も十分認識しているところだと思います。

それで調べまして、私、ここに、近隣の市町村の女性の一般事務の割合が何人いるか調べました。保育士とかその辺の、明らかにもうこれは女性だろうというところは除きました。

それを見ると、大多喜町は50歳以上の女性が１人です。管理職ゼロ。勝浦市、これも同じように50歳以上ゼロです。いすみ市は比較的多くて、50歳以上が12人、55歳以上が８人。御宿町は50歳以上がやっぱり７人います。これは何とかして女性の働きやすい職場をつくらなければいけない。

それで、その女性活躍推進法の中に、地方公共団体の責務として事業行動計画を作成しなければならないとあります。その中に、まず女性が活躍するためには、なぜ女性が早期に退職してなかなか最後までいないのか、なぜ管理職がいないのか、それについて分析しなさいと、分析して、その理由がわからなければ対策は立てられないでしょうということで、たしか、この３月までに、その分析をした結果を出して、次に、それを解消するためにどうするんだという行動、施策を策定しなさいと。それで、最後にそれを公表しなさいと、情報として公開しなさいと。これはたしか努力義務になっているけれども、これはぜひやらなくてはいけないと思っていますけれども、その辺の、どうしてもやるんだと、女性が活躍できる職場をつくるんだと、男性の働き方を見直すんだと、これについてどのようにお考えですか。

○議長（志関武良夫君）　総務課長。

○総務課長（加曽利英男君）　それでは、大多喜町が一つの事業主というような前提でお答えさせていただきますけれども、市町村では、その特定事業主行動計画というものをつくるのが、これは義務づけされておりますので……。

（「議長、すみません。時間がないので結論だけ。こういったものの内容はちょっといいので、やるか、女性が活躍する機会をこれからふやすように努力するのか、しないのかという結論だけでお願いできますか。ちょっと申しわけない。時間がないので」の声あり）

○総務課長（加曽利英男君）　それは、女性が半分おりますので、当然そういう活躍するものはつくっていかなくちゃいけない。ただ、みんな地方公務員ですから、それは地方公務員法の当然規定がありますので、例えば平等取り扱いだとか成績主義とかございますので、行動計画をつくる指針の中にも、そういうことは、そういうものに配慮しつつという文言が入っていると思います。全くそういうことはやぶさかではございません。

○議長（志関武良夫君）　１番根本年生君。

○１番（根本年生君）　すみません。途中でとめちゃって申しわけないですね。

○議長（志関武良夫君）　いえいえ、どうぞ。

○１番（根本年生君）　これは、やはり今まで女性が、もう50歳ぐらいになるとみんなやめち

ゃうということは、いろいろ障害があったんですよ。それは、先ほど言った法律的なものもあるでしょう。いろいろな障害があることは確かなんです。ただ、障害を乗り越えても何とかやっていかなくちゃいけないんですよ。

多くの場合、私も仕事柄、測量という形で、家の建築の関係で頼まれることが多いけれども、最近は、どこに住むかということを決めるのは女性なんです。ほとんど８割、９割が、大多喜町に住みましょう、いや、大多喜町不便だから茂原に行きましょうというのは、ほとんどが女性が主導権をとっているんですよ。それで、女性が活躍する場所、それは、大多喜町は女性を大切にしてくれるんだ、女性が働きやすい場所なんだという実感を持ってもらわないことにはだめなんですよ。

それにはまず役場から、皆さん、大多喜の町を見るとき、最初にどこを見るかと役場を見るんですよ。そのときに役場の職員の数が少ない、管理職がいない。これ、果たして、私、ここにいて大丈夫なんだろうかという不安になる方も多いと思うんですよ。

それで、私は多くの、申し上げちゃうと大多喜町の職場の女性の方にも聞いたけれども、やはり悩んでいますよ。子育て、介護、家事、ほとんど女性の方が背負っているんですよ。この中には、うちに帰ってそれも一切やっている男性の方もいるかもわからないけれども、私も正直言って、うちに帰れば、風呂に入って御飯を食べて寝るだけですから、ほとんどが女性の方が担っているんです。ハンデを背負っているんですよ。よく平等だ平等だと言いますけれども、ハンデを背負っているんですよ、現実的には。

そういった環境づくりを町として進めていかなくてはならない。今まで私の聞いたところ、町の中で女性が活躍するためにはどうしたらいいかと、そういった会議というんですか、そういったことが開かれたことがないんじゃないかと。いかに働き方を変える、いかに効率的な仕事をして男性の職員の働き方も変える、こういったことを具体的に会議して推進しようとしていることがありますか。

○議長（志関武良夫君）　総務課長。

○総務課長（加曽利英男君）　今、男女共同参画計画をつくりつつ懇談会を開いておりますけれども、そういう、今、議員さんが言われたことに限っての会議というのは余りないのではないかなというふうには思います。

○議長（志関武良夫君）　１番根本年生君。

○１番（根本年生君）　やはり役場で働いている方々が楽しく働けないと、やはりだめだと思うんですよね。やはり何事をやるにしても、どうせ働くんですから、楽しく生き生きと働い

てもらわないと、こんな仕事が来ちゃったけれども、こういったところ、上司から文句を言われちゃったけれどもとくよくよしているような、そういった感じで仕事をしているんじゃいけないと思うんですね。それはやっぱり、みずから考えて楽しい職場にしましょうよ。本当にそう願ってやまないんです。本当に女性が活躍する職場、活躍できる環境を整えるように、何かそういった会議というんですか、何かそういったものを重要施策に上げて何とかやったほうがいいと思うんですけれども、町長、どうですか。

○議長（志関武良夫君）　根本年生君に申し上げます。時間が５分となりましたのでお願いします。

町長。

○町長（飯島勝美君）　女性の活躍の場というのは、国の、今、方向性でもございますので、これは当然のことなんですけれども、１つには、先ほど根本議員もおっしゃったように、男性がどうしても、なかなかいろいろな家事の手伝いをしないということがあるんですけれども、私は毎日いすみ鉄道で通いながら、毎日皿洗いでも何でもやっていますので、いろいろ女房の手伝いをしていますのですけれども、要は、その１つは、一番大きな問題は、役場で考えますと、やっぱり残業の問題が非常にあるんですね。私はこれをずっと、町長になってから、とにかく早く帰れということを言っているんですが、なかなかそこに行かない。ただ、じゃ、それが本当に残業をやらなければいけない仕事かどうかという、そういうところも実はありまして、まず普通に定時で帰れるような、そういう施策をまずしていかないと、いろいろ会議を持ってもなかなか難しいんですが、まず定時で帰れるような仕事の、そういうところからまず入る必要があるかなと思っています。

ただ、そういう女性が働けるような環境づくりというものは、いろいろ皆さんからまたご意見を伺いながら、しっかりと女性の活躍できるような形をとってまいりたいと思っています。

○議長（志関武良夫君）　１番根本年生君。

○１番（根本年生君）　それで、私もいろいろなところに講習に行かせてもらっていますけれども、やはりこれを行うには、やはりトップの決断なんですよ。やっぱり、町で言えば町長が決断して、もう７時なら７時に帰れと、その中でいかに効率的な仕事をやるのか。皆さんも経験があると思うけれども、旅行で私が仮に３、４日休むとなるとなれば、それなりにちゃんと仕事していくと思うんですよ。だらだら、だらだらと言っちゃ申しわけないけれども、長時間労働が一番のいけない理由は、長時間労働をやると生産性が上がらないということが

実態で出ているんです。残業手当だって２割５分増しですか。休日は５割増し。ふだんの勤務時間なら１でいいのに、残業をやれば25パーセント増し、祝日であれば50パーセント増し、それだけ生産性を上げなくちゃいけないんですよ。それはなかなか難しいと思うんですよね。ですから、これをぜひ新しい施策の中に含んでいただいて、ぜひ実行してもらいたいと思います。

以上で終わります。

○議長（志関武良夫君）　以上で、根本年生君の一般質問を終わります。

これで一般質問を全て終わりました。

ここでちょっと休憩に入りたいと思います。次の開会時間が１時ということで、その間にお昼をいただいてもらいます。お願いします。１時です。

（午前１１時４４分）

○議長（志関武良夫君）　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後　１時００分）

◎議案第１号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（志関武良夫君）　日程第２、議案第１号　大多喜町過疎地域自立促進計画を定めることについてを議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　議案第１号の説明をさせていただきます。

議案書つづりの５ページをお開きください。

大多喜町過疎地域自立促進計画を別冊のとおり定めることについて、過疎地域自立促進特別措置法第６条第１項の規定により議会の議決を求める。

別冊の説明に入る前に、提案理由についてご説明させていただきます。

平成22年４月１日から大多喜町は過疎地域に指定されました。この指定を受け、平成22年12月に大多喜町過疎地域自立促進計画を定め、平成23年度から今年度までこの計画に基づく事業を推進してきました。過疎地域自立促進特別法は、平成24年の法改正により平成32年度までの５年間延長されております。この法律の改正、期限の延長に伴い、平成28年度から平成32年度までの大多喜町過疎地域自立促進計画を、第３次総合計画の前期基本計画に基づき、

別冊のとおりまとめさせていただきました。

それでは、大多喜町過疎地域自立促進計画の冊子について、一部割愛してご説明させていただきますので、よろしくお願いいたします。

冊子の１ページをお開きください。

第１項は、基本的な事項として、町の概況、次のページ以降続きますけれども、人口及び産業の推移と動向、町の行財政の状況、地域の自立促進の基本方針、基本計画を記載してございます。

11ページをお開きください。

第２項は、産業の振興として現況と問題点、そして13ページでは、その対策、16ページでは事業計画として18事業を定めております。以後、３項から第10項までも同様に、現況と問題点、その対策、事業計画をそれぞれ定めてございます。

18ページをお開きください。

第３項は、交通通信体系の整備、情報化及び地域間交流の促進について定めており、22、23ページで事業計画として23事業を定めております。

次のページをお開きください。

第４項は、生活環境の整備について定めております。29ページの事業計画で10事業を定めてございます。

次の30ページをお開きください。

第５項は、高齢者等の保険及び福祉の向上及び増進について定めています。34ページの事業計画では12事業を定めてございます。

第６項は、医療の確保について定めております。次の36ページでは、事業計画として１事業を定めております。

第７項は、教育の振興について定めており、40ページでは事業計画として３事業を定めてございます。

第８項は、地域文化の振興等について定めております。次の42ページでは、事業計画として１事業を定めてございます。

第９項は集落の整備について、44ページでは、事業計画として３事業を定めてございます。

第10項は、その他地域の自立促進に関し必要な事項を定めてございます。48ページでは、事業計画として11事業を定めてございます。

以上の内容のとおり、82事業を事業計画とするものでございます。また、49ページ以降で

ございますが、過疎地域自立促進特別事業分、ソフト事業分として45事業を定めるものでございます。

以上で、非常に簡単でございますが、説明を終わらせていただきます。

ご審議のほどよろしくお願いいたします。

○議長（志関武良夫君）　説明が終わりました。

これから質疑を行います。

質疑はありませんか。

１番根本年生君。

○１番（根本年生君）　６ページのところで、産業別人口の動向、それで第１次産業、第２次産業、第３次産業とありまして、平成17年の第１次産業の就業比率が11.3パーセント、平成22年の就業人口比率が6.8パーセント、約半分、６割くらいですか。それで、実数の5,430人が4,639人で、実際働いている人が800人減る中で、さらに第１次産業の比率が６割ぐらい減っていると。過疎化の大きな原因は、この数字を見るとここにあるのではなかろうかと思われます。これの対策とか、問題点とか、こちらにいろいろ書いてありますけれども、前回のやつと見比べてみましたけれども、ちょっと余り変わっているところはないように思われたんです。特に今回の計画で力を入れて、前回の計画とは違うと、ここに力を入れることによって、この第１次産業の就業比率の下降を抑えることができるんだというようなことがありましたら、ご説明願います。

○議長（志関武良夫君）　産業振興課長。

○産業振興課長（野村一夫君）　農林業関係につきましては、やはり土地の集約化とか、また、土地を有効に使って冬でも耕作する、栽培するということで収益を上げる、また土地を集約する、農地を集約するというようなことで、これからやっていかなければいけないと思っております。

○議長（志関武良夫君）　１番根本年生君。

○１番（根本年生君）　具体的に言うと、その対策の中の今のあれはどこに入ってきますか。今の答弁の対策がありますよね、農業でアからクまでありますけれども、どの中に入っていますか。

○議長（志関武良夫君）　産業振興課長。

○産業振興課長（野村一夫君）　農業の対策としまして、イの農業後継者、新規就農者の関係、またウの将来的に本町の農業を支える企業的経営感覚を持つ中核的農家、生産組織の育成、

農業生産法人の誘致ではないかと思います。

○議長（志関武良夫君）　１番根本年生君。

○１番（根本年生君）　今のイとウ、これ、文章にするのは非常に簡単と言っては申しわけないけれども、このとおりだと思うんだけれども、実際にこれを実行に移して、施策に移してくるとなるとなかなか難しい面があろうかと思います。これを実行に移す努力というのか、見通しというか、これをやれば第１次産業の活性化が図れるんだよという見通しがあればお聞かせください。

○議長（志関武良夫君）　産業振興課長。

○産業振興課長（野村一夫君）　一つには、前にも話しましたけれども、やっぱり地元に入って話を聞いて、農業関係、新農地プランとかがありますので、そういう関係で地元に入って話を聞いたり、また農業経営者との懇談会等をやって方針を決めてやっていきたいと考えております。

○議長（志関武良夫君）　１番根本年生君。

○１番（根本年生君）　いいです。

○議長（志関武良夫君）　いいですか。

ほかにございますか。

10番山田久子君。

○１０番（山田久子君）　44ページ、集落支援事業ということで、せんだってお伺いしましたところ、各地域等に入りまして区長さんのお手伝いなどというようなことで考えているということでございましたけれども、その後、何か具体的にお考えになっている案というか、そういったものはございますでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　集落支援事業のことでよろしいでしょうか。集落支援事業というのは、総務省の推進している事業がございまして、その事業で、地域の実情に詳しく、集落対策の推進に関してノウハウ、知見を有した人材が地方自治体からの委嘱を受け、町職員と連携し、集落への目配りとして集落の巡回、状況把握を実施するということで、これについては特別交付税措置なんかもあるものでございますけれども、このお話を各区長さんのところに一度お話ししたんです。そうすると、やはり区長さんの立場というものがどういう位置づけにするか、あるいは、今忙しいのにまたこれをやるのかというようなご意見もございます。ですから、その辺は地域の皆さんとお話を重ねながら推進していきたいというふう

に考えています。

○議長（志関武良夫君）　10番山田久子君。

○１０番（山田久子君）　すみません。少し事業内容が違ってしまうかどうかわからないんですけれども、ある過疎地域で、この集落の支援ということで、今ご説明をいただいたところ、区長さんをサポートするというような感覚のお話だったと思うんですが、ある過疎地域におきましては、個々の家庭をこの集落支援員さんというか、そういう立場の方が回りまして、その過程の中で、さまざま役所に対するご要望ですとか、また役所の制度とかを聞き取りながら住民の皆さんと連携をとるというような、そういう支援をしているところもあるようなんです。私もはっきり覚えていなくて申しわけないんですけれども、その方の場合は、役所の再雇用の方がそういう担当につきまして、ある程度役所の知識を持っている方が出向いて行って、役場との対応、いろいろな集落の方、各家庭と対応すると。その際に、自分の知識がないものに関しましては、タブレット端末を持ちまして、直接役所の担当課とその場でやりとりをしながら住民の人にサービスをしていくという、そういった支援をしているというところをちょっと聞いたことがございます。

大多喜町もこれから高齢化になりまして、出張所等もあるんですけれども、なかなか出向くことができない。また、さまざま町でやっていただいております事業ですとか福祉的な支援ですとか、さまざまなものが町民の皆様が知らないことによって、役場はやってくれていない、役場はないと言うんですけれども、でも、大体聞くとやっていただいているんですね。でも、それを町民の皆様が知らないということで活用できない、十分生かし切れていないということもあるように感じております。そういった中で、この支援員事業を使いまして、役場の出先機関の出先機関じゃないんですけれども、そういうようなことも事業というような形もお考えいただくことはできないかと思うんですけれども、いかがでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　私も、説明がちょっと不十分だったと思います。これは、集落支援員は区長さんに限っているわけではございません。議員のおっしゃるとおり、いろいろな集落を回っていただける方であればよろしいんではないかなというふうに思っておりますけれども、ただ、行政区がある中で、区長さんがいろいろな問題も把握してございます。そういう中で、区長さんとの位置づけが非常に微妙な問題がございますので、その辺を地域の人たちと話し合っていきたいということでございます。

○議長（志関武良夫君）　ほかにございますか。

８番渡邉泰宣君。

○８番（渡邉泰宣君）　林業のことでちょっと伺いたいのですが、今、弓木地区とか平沢も計画が入っているんですが、森林整備事業というのがあると思います。それで、南部林業の方たちの説明を聞いたところによると、間伐とかそういうものは普通に100パーセント補助金でできるような事業なんですが、今、サンブスギについては大体今が切りどきというか、製品としては余りよくない材木ですよね。今、その材木が、雪害とかそういうのもあったりして、できれば全伐して新しい苗を植えたほうがいいというようなこともあるようなんですが、その辺について、その場合には、全伐した場合、費用が自己負担というか、10パーセントの自己負担になるようなんですが、その辺を町のほうで何とかできないのかなというふうにお話がありましたけれども、その辺について伺いたいと思うんですが。

○議長（志関武良夫君）　産業振興課長。

○産業振興課長（野村一夫君）　サンブスギ林が全部悪いとかじゃなくて、溝腐病に入っている分は伐採したほうがいいんですけれども、今、弓木とかに入っている二酸化炭素吸収源対策事業という事業なんですけれども、それは10年から65年未満の木を間伐するという事業です。それで、今言われた全伐というのは今初めて聞いたんですけれども、あくまでも今、弓木でやっているのは間伐ということで、10年から65年までの木を間伐して、道路をつくって間伐して出すという事業です。10パーセントのどうのこうのというのは、今初めて聞きましたので。

○議長（志関武良夫君）　８番渡邉泰宣君。

○８番（渡邉泰宣君）　その10パーセントというのは、サンブスギについては、溝腐病って、切ってみなければわからないらしいんです。切ってから初めて芯の部分が腐りが入っていると。見たところによると、スギの雪害とかそういうものがあった場合には、ほとんど残っているのが少ないような状態のところもあるんですよね。そうした場合に皆伐して、それで植え直すと。５年間管理はやっていただけるというようなことの事業みたいです。それから、それ以外のものでも、ほかの杉以外の雑木、そういうものが入っているところも、やはりそういうようなあれで、要するに山に植えるまでの状態にするには10パーセントぐらいの自己負担が出るということなんですよ。その辺のことについて、できればそういうふうに推進しないと、今の森林も整備されないんじゃないかというようなことなんですが。

○議長（志関武良夫君）　産業振興課長。

○産業振興課長（野村一夫君）　あくまでも森林整備については、やっぱり10パーセント個人

負担はやむを得ないんじゃないかと思います。それで、サンブスギ林とか、散生とか密生とかありますけれども、やっぱり芯が腐ってくるということは表面に出てくると思うんです。切らなければわからないじゃなく、多分、自分もそういうふうにやっていますけれども、表面に出てきて、サンブスギ溝腐れみたいに病気になれば出てくると思います。それで、例えば今やっている弓木の事業については、雑木も伐採をやっていると思うんですけれども、その場合は植林までやるように聞いております。

○議長（志関武良夫君）　よろしいですか。

ほかにございますか。

９番吉野僖一君。

○９番（吉野僖一君）　過疎地域ということで、中野商店街も今回大分注目を浴びておりまして責任を感じておる次第ですけれども、今後のスケジュール等を、地元の議員といったら西畑は５人ですけれども、スケジュール表ぐらいはいただけるんでしょうか。会議には出席してはいけないというので、ちょっと私も不満を持っているんですが。その辺、ちょっと確認でお願いします。

（「せんだって西畑地区で区長さんを集めた今後のスケジュールとか何とかがわかれば」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　小さな拠点づくりの関係だと思いますけれども、小さな拠点づくりということで、中野周辺の活性化ということで今計画をしているところでございます。ただ、建物をつくるというものもあるんですけれども、その前に、いかにして地元の人たちが運営していけるかという問題がございます。ですから、今現在はお話になっているのは、どうしたら地域で運営がしていけるんだろうか、地域でどうしたらもうけることができるんだろうか、続けることができるんだろうかというようなところで意見交換をしているところでございます。まだ２回だけですけれども、何とかこの28年度中には一定の目標を定めたいというふうには考えております。

○議長（志関武良夫君）　よろしいですか。

ほかにございますか。

７番小髙芳一君。

○７番（小髙芳一君）　24ページです。生活環境の整備の中のウで、廃棄物の処理施設ということでここにうたってありますけれども、計画等もありますけれども、これはごみの減量化

や資源化に向けて取り組むということが主な内容になっていますけれども、きのうたしかお話があったと思いますけれども、広域のごみ処理のほうが休止という形になりました。今回の、これから説明があると思いますけれども、補正のほうでその基金を積み立てていくことになっておりますけれども、この過疎の計画の中に、平成32年までということだったので、この建設について方向性を、この計画を立てていくということの中で過疎債をうまく使えるような形にするには、ここに計画を載っけておく必要があるんではないかというふうに思いますけれども、過去にも広域の負担金の一部は過疎債対応になるよというお話もありました。今回、この計画の中にはその辺が載っていないんだけれども、そういうものが対応できるのであれば載せたほうがいいと思いますので、その辺はどのようなお考えなのか、お願いをしたいと思います。

○議長（志関武良夫君）　環境水道課長。

○環境水道課長（米本和弘君）　それでは、環境水道課のほうからお答えさせていただきますけれども、さきの広域のごみ処理施設の事業休止の中にも、2020年に向けて経済が安定して、事業費が安定するような形になって、各市町が財政負担の体力を備えつけて広域市町村圏が施行する枠組みを維持して、２市２町の人口動向を的確に捉えて人口に応じた施設規模とするというようなことを原則とするというようなことで、将来に向けて、まず財政の基盤をしっかりしていこうというようなことで事業の休止を決めております。今回の中には、今おっしゃられたように起債を充てていくような考え方はしておりませんけれども、広域のほうの考え方がはっきりしてきた中で、過疎計画につきましても見直し等もできると思いますので、もしそこら辺で対応できるような形になりましたら、その時点で入れていくような形にしたいというふうに考えています。

○議長（志関武良夫君）　７番小髙芳一君。

○７番（小髙芳一君）　そうすると、基本的には見直しは可能であるということでよろしいんでしょうか。

それともう一点、広域で将来的にやるということではなくて、これからの話だと補正で基金を１億2,600万ほど積むということは、大多喜町単独で、ある程度方向を考えていこうよという部分なのかなというふうに理解をしていましたけれども、それは、あくまでも将来的に広域でつくるということが前提ということでよろしいんでしょうか。２点お願いします。

○議長（志関武良夫君）　環境水道課長。

○環境水道課長（米本和弘君）　現時点では、今申しましたように、2020年以降に向けて広域

での枠組みというのはあくまでも維持しながら将来的につくっていこうということで、これまでにもありました当初建設に要します補助金、それから起債、それから残りの一般財源を各市町で負担するような形で計画しておりました。その中で、各市町の一般財源分相当を今回の基金のほうで積み立てて、それに将来の財源負担を軽減するために今回基金を積んで、それに対応していこうというような考え方で基金を予定しております。

○議長（志関武良夫君）　ほかにございますか。

10番山田久子君。

○１０番（山田久子君）　すみません。33ページ、母子保健対策でございますけれども、この内容を見ますと、今政府で進めておりますワンストップ拠点という形での子育て世代包括支援センターの内容に大変近いものがあるのかと思います。ただ、この場合ですと、ある程度一元化をして、一本で妊娠から子育てがばらばらにならないように見ていくようにという、こういった施策のものだと思うんですけれども、おおむね５年後をめどに、地域の実情なども考慮しながら、これを作成していくようにということで言われておりますけれども、町としては、これは子育て包括支援センターのめどに入れての母子保健対策というふうに考えさせていただいてもよろしいものなんでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　健康福祉課長。

○健康福祉課長（永嶋耕一君）　ただいまの質問なんですが、それ自体は一緒ということは考えておりません。

○議長（志関武良夫君）　10番山田久子君。

○１０番（山田久子君）　本町の場合ですと、今の健康福祉課関係、それから子育て支援課関係、一部学校関係ということで、お子様関係、あと保育園、あるかと思うんですけれども、やはりワンストップで、要するに情報の一元化ということになるかと思うんですけれども、そういった中で、切れ目のない子育て、また母親に対する施策というものが今後求められていくのではないかということが大切になってくるのではないかと思います。この時点では、まだそこまでのものは考えていないということでございますけれども、本町の中でも横のつながり、そういったものも含めました子育て世代包括支援センター的な、こういったものも含めながら考えていただくことができないかと思うんですけれども、いかがでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　健康福祉課長。

○健康福祉課長（永嶋耕一君）　ただいまの質問なんですが、今現在、妊娠から出産、そして子育て、そこまでの事業に関しまして、健康福祉課、教育課、あと子育て支援課、その辺の

情報の横のつながりは、保健室とか学校の養護教員とか、あと保育園の保育士さん、その辺で年間何回か情報共有をしているところでございます。ただ、今言った施設については、一元化するということはなかなか難しいところがありますので、その辺はまだ考えていないというのが実情でございます。

○議長（志関武良夫君）　ほかにございますか。

１番根本年生君。

○１番（根本年生君）　すみません。先ほどの吉野議員がやった中野商店街、小さな拠点づくりの件について、私も一議員としてぜひ、中野地区の活性化は、大多喜町のこれからを支える上で重要だと思っております。ただ、何しろ、やっぱり我々のところに情報が入ってくることが非常に少ないんですね。一議員として、やはりこれを応援したいという気持ちも強くあるんです。ですから、ある程度構想的なもの、まだこれから決めるんだということですけれども、案１とかでもいいんですけれども、こんな形を具体的に考えているよと、それにのっとって多分意見を聞いているんじゃなかろうかというような気がする。まるっきり白紙のうちでどうするんですかということを聞いているんじゃないんじゃないかと思うんですね。

ですから、議員の一人として、やっぱりこの中野の活性化のことについてはできるだけ協力したいと思っているし、情報の提供を、いろいろ答弁を聞いていると、西畑地区のところには情報が行くけれども、我々関係のない地区のところには、この情報がなかなか流れてこないというような気がしてならないんですけれども、これはある程度、やっぱり一議員としてできるだけ応援したいと思っておりますので、情報のほうはなるべく提供していただきたいと思いますけれども、その辺はいかがでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　あくまでも計画は、地方創生の先行型の交付金で計画した事業を継続してやっているということでございます。この前お話ししたのは、地域の議員さんというお話をさせていただきましたけれども、やはり議員の皆さん、当然知っていただきたいので、議会のほうにはご報告をさせていただきたいというふうに考えています。

○議長（志関武良夫君）　１番根本年生君。

○１番（根本年生君）　すみません。できるだけ情報の提供をよろしくお願いしたいと思います。

以上です。

○議長（志関武良夫君）　ほかにございますか。

（「なし」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　質疑なしと認めます。

本案については、討論を省略し、これから採決したいと思います。

ご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　異議なしと認めます。

これから議案第１号を採決します。

本件は原案のとおり決定することに賛成の方は挙手願います。

（挙手全員）

○議長（志関武良夫君）　挙手全員です。

したがって、議案第１号は原案のとおり可決されました。

◎議案第２号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（志関武良夫君）　日程第３、議案第２号　行政不服審査法の施行に伴う関係条例の整備に関する条例の制定についてを議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

総務課長。

○総務課長（加曽利英男君）　それでは、７ページでございます。

本文の説明の前に提案理由の説明をさせていただきます。

国や地方公共団体など、行政庁による違法、不当な処分により国民の権利利益が侵害された場合に、簡素で素早く、そして公平な手続のもとで不服申し立てができ、国民の権利利益の救済を図るとともに、行政の適正な運営を確保する制度として行政不服審査制度がございますが、公平性や制度の使いやすさの向上、国民の救済手段の充実、拡大を図る観点から、この行政不服審査制度を規定している行政不服審査法が大幅に改正され、本年４月１日から施行されます。

今回の主な改正点でございますけれども、不服申し立ての手続を審査請求に一本化したこと、審査請求を審理する審理員を置くこととしたこと、採決に関して有識者で構成する第三者機関を設置すること、不服申し立てをすることができる期間をこれまでの60日から３カ月に延長したこと、審査請求人は審査請求に係る証拠書類等の写しの交付が請求できることなどでございます。これらの改正に伴い、大多喜町行政手続条例を初め町条例の６件に一部改

正の必要が生じましたので、この条例でまとめて所要の改正を行おうとするものでございます。

それでは、本文の説明に入らせていただきますけれども、条文の朗読につきましては割愛させていただき、内容を説明させていただきたいと思いますのでよろしくお願いします。

行政不服審査法の施行に伴う関係条例の整備に関する条例を次のように制定する。

まず、第１条、大多喜町行政手続条例の一部を改正する条例でございますが、この改正は、異議申し立て制度が廃止され、審査請求に一本化されたことなどによる字句の修正でございます。

次に、第２条、大多喜町情報公開条例の改正でございますけれども、これは、不服申し立てが審査請求に一本化されたことによる目次の改正。第14条は、この条例中の条の改正により第14条で引用している条を改めるものでございます。

８ページにわたりますけれども、第18条は、審議会等に関する処分の審査請求に関する審理手続には審理員を置かないことから、これを条例に明記するため新たに規定しようとするものでございます。

第19条は、審査会への諮問などを定めた改正前の第18条と第19条を新たに第19条として一つの条としてまとめたこと、不服申し立てが審査請求に一本化されたことなどによる字句の修正でございます。

第20条は、不服申し立てが審査請求に一本化されたことなどによる字句の改正でございます。

次に、９ページの一番上、第３条、大多喜町個人情報保護条例の一部改正でございますが、これは不服申し立てが審査請求に一本化されたことによる目次の改正、第21条は、この条例中の条の改正により、第21条で引用している条を改めるものでございます。

第35条は、審議会等に関する処分の請求に関する審理手続には審理員は置かないことから、これを条例に明記するため、新たに規定しようとするものでございます。

第36条は、審査会への諮問などを定めた改正前の第35条と第36条を新たに第36条として一つの条としてまとめたこと、不服申し立てが審査請求に一元化されたことなどによる字句の修正でございます。

次に、10ページの第37条は、不服申し立てが審査請求に一元化されたことなどによる字句の改訂でございます。

次に、10ページの下から12行目、第４条、大多喜町情報公開・個人情報保護審査会条例の

一部改正でございますが、第４条第１項及び第９条第１項の改正は、情報公開条例及び個人情報保護条例の改正により、この条で引用している条を改めるものでございます。

第９条第４項、第10条及び第11条の改訂は、不服申し立てが審査請求に一元化されたことによる改正でございます。

次に、11ページの第12条第１項は、情報公開・個人情報保護審査会設置法に倣う改正で、大多喜町情報公開・個人情報保護審査会は、審査請求人から提出があった意見書や資料を当該審査請求人以外の審査請求人等に送付することを規定しようとするものでございます。

第２項は、不服申し立てが審査請求に一元化されたことに伴う改正と、電磁的記録の閲覧について定めるものです。

第３項は、第１項で規定する審査請求人から提出があった意見書や資料を当該審査請求人以外の審査請求人等に送付するときや閲覧させるときは、意見書や資料を提出した審査請求人の意見を聞かなければならないことなどを定めるものでございます。

第13条は、不服申し立てが審査請求に一元化されたことによる字句の修正でございます。

次に、11ページの下から９行目、第５条、大多喜町人事行政の運営等の状況の公表に関する条例の一部改正でございますが、これは、不服申し立てが審査請求に一元化されたことに伴う改正です。

次に、同じページの下から５行目、第６条、大多喜町営土地改良事業の経費の賦課徴収に関する条例の一部改正でございますが、これは、不服申し立てが審査請求に一元化されたことに伴う改正及び審査請求の期間が30日から３カ月に改められたことによる改正です。

12ページの附則は、この条例の施行期日を法の執行日からとするもの及び経過措置について定めるものでございます。

以上で議案第２号の説明を終わらせていただきます。

○議長（志関武良夫君）　説明が終わりました。

これから質疑を行います。

質疑はありませんか。

１番根本年生君。

○１番（根本年生君）　すみません。今の説明の中の11ページの第６条ですか。この参考審議資料の中でいうと10ページですかね。審議資料の10ページ、大多喜町営土地改良事業の経費の賦課徴収に関する条例新旧対照表、これの第３条の２項、これが「異議の申し立て」が「審査請求がされたとき」にかわって、今度「決定」が「裁決」になっています。町議会に

諮問してこれを裁決しなければならないとあります。これは、具体的にはどのような方法をとって、どのような形で諮問をして裁決するのか、具体的にどのような形を想定しているのか教えてください。

○議長（志関武良夫君）　総務課長。

○総務課長（加曽利英男君）　まず、異議申し立てと審査請求なんですけれども、これの違いは、これまでは不服申し立ての中に異議申し立てと審査請求というのがあったんですけれども、これが異議申し立てというのがなくなりまして審査請求に統一しましたので、これは「審査請求」に直すと。あとは、今まで異議申し立ての場合ですと、これは決定ということだったんですが、審査請求の場合ですと、法律上裁決という文字を使っておりますので、内容としては余り変わらないんじゃないかと思いますけれども、そういうものがあった場合は、必要があると思われる場合は、議会のほうに議案として提出して裁決していただくというふうになるのではないかと考えております。

○議長（志関武良夫君）　１番根本年生君。

○１番（根本年生君）　この諮問ということは、議会にかけて議案として提示をして、議会の裁決を仰ぐというようなことでいいんですか。

○議長（志関武良夫君）　総務課長。

○総務課長（加曽利英男君）　非常に例は少ないんじゃないかと思いますけれども、そういうふうになると考えております。

○議長（志関武良夫君）　ほかにございますか。

10番山田久子君。

○１０番（山田久子君）　すみません。私、よくわかっていなくて申しわけないんですけれども、この法の改正によりまして、不服審査会というのが今度は第三者協議会というのを置くような形になるんでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　総務課長。

○総務課長（加曽利英男君）　行政不服審査会、国の法律ではそうなっておりますけれども、いわゆる第三者機関ということになるかと思いますが、ただ、12月会議だったですか、夷隅広域のほうに事務委任をするということで議決をいただいたと思いますけれども、２市２町の中で、ここ10年間行政不服審査法に関する審査請求というのがないので、個々の市町村で第三者機関を置くのは余り効率的ではないんじゃないかというようなことで、議会の議決をいただいて夷隅広域のほうに委任するということをしました。それで、夷隅広域のほうも２

月会議のほうでそういう条例を制定しているということですので、町単独では設置はいたしません。

○議長（志関武良夫君）　10番山田久子君。

○１０番（山田久子君）　そうしますと確認ですが、町で何かあった場合には夷隅広域さんに今までどおりという、法の第三者委員会のほうへお願いをしていく形になるということなんでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　総務課長。

○総務課長（加曽利英男君）　夷隅広域もこれから初めてつくるわけですね。ですから、まだ人選は済んでいないと思いますけれども、町でそういう審査請求があって、それを裁決に当たっては、裁決する前に第三者機関に意見を聞くことが必要ですので、その場合は夷隅広域に２市２町の共同事務として大多喜町もお願いするというようなことになります。

○議長（志関武良夫君）　ほかにございますか。

（「なし」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

本案については、討論を省略し、これから採決をしたいと思います。

ご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　異議なしと認めます。

これから議案第２号を採決します。

本案は原案のとおり決定することに賛成の方は挙手願います。

（挙手全員）

○議長（志関武良夫君）　挙手全員です。

したがって、議案第２号は原案のとおり可決されました。

◎議案第３号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（志関武良夫君）　日程第４、議案第３号　特別職の職員の非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定についてを議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　議案第３号の説明をさせていただきます。

13ページをお開きください。

それでは、本文に入る前に提案理由の説明をさせていただきます。

学校医の報酬の改正につきましては、夷隅郡市医師会から要望があり、夷隅郡市の他の市町でも増額改正するため、大多喜町においても学校歯科医と学校眼科医の報酬の増額改正をしようとするものでございます。

また、地域おこし協力隊員につきましては、都市地域から本町に住民票を異動し、生活の拠点を移した者を地域おこし協力隊員として委嘱し、町及び地域住民と連携を密にし、産業の活性化支援、地域コミュニティーの活性化支援、地域資源の発掘、町の重要施策の推進支援等の地域おこし活動を行う者に月額報酬を支給しようとするものでございます。

なお、委嘱の期間は最長で３年間で、総務省の支援として隊員１人当たり400万円を上限に特別交付税による財政支援がございますので、その範囲内で委嘱し、報酬を支給しようとするものでございます。

それでは、本文の説明をさせていただきます。

特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例。

特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を次のように改正する。

別表に定められている学校歯科医の報酬額を年額７万3,400円から年額７万4,200円に、学校眼科医の報酬額を年額７万1,700円から年額７万4,200円に改めるものと、地域おこし協力隊員の月額報酬を20万円の範囲内で町長の定める額とするものでございます。

附則。

この条例は、平成28年４月１日から施行する。

以上で説明を終わらせていただきます。

ご審議のほどよろしくお願いいたします。

○議長（志関武良夫君）　説明が終わりました。

これから質疑を行います。

質疑ありませんか。

１番根本年生君。

○１番（根本年生君）　たびたび申しわけございません。地域おこし協力隊、20万円の範囲内ということは、20万円じゃなくて10万とか15万とかということもあり得るというというふう

に解釈しますけれども、当然これを決めるに当たって、ある程度の基準がないと決められないと思います。その基準は要綱なり何なりで決めるのか、その中に基準が明らかになるのか、その辺は何かでつくるんですか。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　20万円の範囲以内ということでございます。

これは、総務省のほから特別交付税による財政支援ということで、報償費と報酬等、それについて200万円と上限が定められております。ただ、27年度から若干隊員のスキルや地理的条件等を考慮して、最大250万円まで支給可能となりよう弾力化するというような方針が出ております。いろいろな職務があろうかと思いますが、今現在は200万円の12分の１、16万6,000円という金額を想定はしております。

○議長（志関武良夫君）　１番根本年生君。

○１番（根本年生君）　では、これは町長の定める額と書いてあるけれども、これはあくまで国の関係で決まってくるものであって、町が余りこの額について、要は総額が決まっていて、何人だから幾らということですか。今、16万幾らという数字が出ていましたね。それは、私が思ったのは、町長が定める額というから町の裁量で決められることなのかなと、そうしたら何かで決めなくちゃいけないんじゃないのというふうに思っているんですけれども、その辺をもうちょっと。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　地域おこし協力隊員について、やはり服務とか、そういう勤務形態、あるいは賃金、報酬、そういったものは定めなくちゃいけないということを考えております。したがいまして、要綱を定めさせていただいて、その中で金額を決めていくという形をとりたいと思っております。

○議長（志関武良夫君）　ほかにございますか。

（「なし」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

本案については、討論を省略し、これから採決したいと思います。

ご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　異議なしと認めます。

これから議案第３号を採決します。

本案は原案のとおり決定することに賛成の方は挙手願います。

（挙手全員）

○議長（志関武良夫君）　挙手全員です。

したがって、議案第３号は原案のとおり可決されました。

◎議案第４号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（志関武良夫君）　日程第５、議案第４号　特別職の職員で常勤のものの給与及び旅費に関する条例及び地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例附則第２項の規定によりなおその効力を有するものとされる同条例第４条の規定による廃止前の大多喜町教育委員会教育長の給与及び旅費等に関する条例の一部を改正する条例の制定についてを議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

総務課長。

○総務課長（加曽利英男君）　それでは、15ページでございます。

本文の説明の前に提案理由の説明をさせていただきたいと思います。

まず条例改正の理由でございますが、２点ございますが、まず１点目は、議案第５号で詳しく説明させていただきますが、人事院勧告及び千葉県人事委員会勧告に基づき一般職の職員の勤勉手当の支給率の引き上げが勧告されましたが、これに準じ、常勤の特別職である町長及び副町長並びに教育長の期末手当を引き上げようとするものでございます。

次に、２点目でございますが、町長、副町長及び教育長の給料に関しましては、平成17年度から削減を始め、平成23年度からは一律25パーセントの削減を行っています。この削減措置の期間が本年３月31日をもって終了しますが、引き続き厳しい財政状況が続くことから、町長の意向により、平成28年度においても、これまでどおり町長、副町長及び教育長の給料額を一律25パーセント削減しようとするものでございます。

それでは、本文に入らせていただきます。

特別職の職員で常勤のものの給与及び旅費に関する条例及び地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例附則第２項の規定によりなおその効力を有するものとされる同条例第４条の規定による廃止前の大多喜町教育委員会教育長の給与及び旅費等に関する条例の一部を改正する条例を次のように制定す

る。

まず第１条でございますが、特別職の職員で常勤のものの給与及び旅費に関する条例の一部改正。

第１条、特別職の職員で常勤のものの給与及び旅費に関する条例（昭和29年条例第８号）の一部を次のように改正する。第３条第２項中「100分の197.5」を「100分の202.5」に、「100分の212.5を100分の217.5」に改める。この改正は、町長及び副町長の期末手当の支給割合を、６月支給分及び12月支給分とも100分の５ずつ引き上げ、現在より年間にしまして100分の10引き上げようとするものです。

次に、附則第７項中「平成28年３月31日」を「平成29年３月31日」に改める。この改正は、現在実施している町長及び副町長の給料の減額措置を平成29年３月31日まで延長しようとするものでございます。

次に第２条でございますが、大多喜町教育委員会教育長の給与及び旅費等に関する条例の一部改正。

第２条、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例（平成27年条例第１号）附則第２項の規定によりなおその効力を有するものとされる同条例第４条の規定による廃止前の大多喜町教育委員会教育長の給与及び旅費等に関する条例（平成３年条例第１号）の一部を次のように改正する。

附則第４項中「平成28年３月31日」を「平成29年３月31日」に改める。この改正は、現在実施している教育長の給与の減額措置を平成29年３月31日まで延長しようとするものでございます。

附則でございますが、第１項は改正条例の施行期日を定めたもので、この条例は、公布の日から施行し、期末手当の支給率の引き上げは、平成27年４月１日にさかのぼり適用しようとするものでございます。

また、第２項は、改正前の条例により支給された期末手当は改正後の条例の規定による期末手当の内払いとすることを定めたものでございます。

以上で議案第４号の説明を終わらせていただきます。

○議長（志関武良夫君）　説明が終わりました。

これから質疑を行います。

質疑ありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

本案について、討論を省略し、これから採決したいと思います。

ご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　異議なしと認めます。

これから議案第４号を採決します。

本案は原案のとおり決定することに賛成の方は挙手願います。

（挙手全員）

○議長（志関武良夫君）　挙手全員です。

したがって、議案第４号は原案のとおり可決されました。

◎議案第５号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（志関武良夫君）　日程第６、議案第５号　大多喜町一般職の職員の給与等に関する条例の一部を改正する条例の制定についてを議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

総務課長。

○総務課長（加曽利英男君）　それでは、議案第５号でございますが、17ページをお開きください。

提案理由のご説明をさせていただきます。

人事院は、平成27年８月６日に国会及び内閣に対し公務員給与の改定を勧告いたしました。その内容は、民間の月例給の支給額が国家公務員の給与を上回っていることから給料表の引き上げを行うこと、また、特別職の支給割合が国家公務員の期末勤勉手当の支給月数を上回っていることから国家公務員の期末勤勉手当の支給月数を0.1月分引き上げることなどで、この改定は本年４月にさかのぼって適用することとしております。

千葉県の人事委員会におきましても、10月19日に国の人事院勧告にほぼ準じた内容の勧告を行っており、その勧告を受けた県では、関係する議案を県議会に提出しております。

地方公務員法では、職員の給与は、国及び他の地方公共団体の職員並びに民間事業者の給与その他の事情を考慮して定めなければならないとされておりますので、本町におきましても、国の人事院及び県の人事委員会の勧告に基づいて、町の一般職の給与条例について改正

案を提出させていただくものでございます。

それでは、内容について説明させていただきますが、一部条文の朗読は割愛させていただきますのでご了承いただきたいと思います。

大多喜町一般職の職員の給与等に関する条例の一部を改正する条例を次のように制定する。

まず、第１条でございますが、大多喜町一般職の職員の給与等に関する条例（昭和29年条例第６号）の一部を次のように改正する。

この改正でございますけれども、本年12月に支給する再任用職員以外の職員の勤勉手当の支給割合を100分の75から100分の85に、再任用職員の勤勉手当の支給割合を100分の35から100分の40に、それぞれ引き上げるものでございます。これによりまして、再任用以外の職員、一般の職員の勤勉手当が年間100分の10、再任用職員につきましては100分の５、それぞれ年間引き上げられるということになります。

次に、附則７項の改正でございますが、勤勉手当の支給率の引き上げに伴いまして、55歳以上で職務の級が７級の職員、課長級の職員でございますが、この職員につきましては現在、給料の一部が減額されておりますので、その減額されている間の勤勉手当の上限額を引き上げるものです。これを引き上げませんと、率が引き上がったときに支障が生じますので、附則第７項でこれを改めるものでございます。

次に、別表第１から別表第３までを次のように改めるということで給料表がついておりますけれども、この改正は、国や県の給料表に準じて職員の給料額を定めた給料表を改めるものでございます。平均しますと、その改定率といいますか、上昇率と言ったらいいかと思いますが、行政職（一）の給料表で平均0.33パーセントの引き上げでございます。なお、１級の主事補クラスですと0.42パーセント、７級の課長クラスで0.27パーセントの引き上げでございます。なお、各給料表の説明は割愛をさせていただきたいと思います。

次に、32ページ下のほうですが、第２条でございますけれども、初めに第６条第２項の改正ですが、これは、地方公務員法の改正によりまして、これまで規則で定めていた給料表の各級ごとの基準となる職務の分類につきまして条例で定めることが必要になりましたので、新たに33ページの下のほうに出ておりますけれども、別表第５の級別基準職務表として定めようとする改正でございます。

次に、第７条第２項の改正は、ただいま説明した別表第５の級別基準職務表を定めたことによる改正でございます。

次に、第22条の３第２項中「行政不服審査法（昭和37年法律第160号）第14条又は第45

条」を「行政不服審査法（平成26年法律第68号）第18条第１項本文」に改める。この改正は、行政不服審査法の改正により、審査請求の期間及び関係する行政不服審査法の条が改められたことによる改正でございます。

次に、第23条第２項第１号及び第２号の改正は、先ほど第１条の改正で再任用職員以外の職員の勤勉手当の支給率を100分の75から100分の85に、再任用職員の勤勉手当の支給割合を100分の35から100分の40に改め、再任用職員以外の職員については、年間の支給率を100分の10、再任用職員については100分の５引き上げるということで説明させていただきましたけれども、この改正は平成27年度のみの改正としまして、平成28年度以降は、例えば再任用職員以外の職員については、第１条で年間100分の10引き上げた支給割合の半分を、６月と12月に支給される勤勉手当に100分の５ずつ振り分けるというものでございます。支給割合の合計としては第１条の改正と変更なく、平成26年度改正前と比べて再任用職員以外の職員については100分の10引き上げられるということになります。第１条では12月分を100分の10引き上げまして、第２条のほうでは、平成28年度以降は６月と12月に100分の５ずつ振り分けるということで、トータル100分の10上がるということに変更はございません。

次に、附則第７項の改正は、第１条の改正により勤勉手当の支給割合を暫定的に引き上げましたので、今度は第２条の改正による支給割合の引き上げに伴い、55歳以上で職務の級が７級の職員の給料が減額されている間の勤勉手当の上限額を引き上げるものでございます。

次に、別表は、先ほど説明させていただいた級別基準職務表を定めるもので、それぞれの表の説明につきましては割愛をさせていただきたいと思います。

次に34ページになりますけれども、附則としまして、第１項は、この条例の施行期日を公布の日と定めるものです。

第２項は、第１条の改正は平成27年４月１日から適用することを定めたものでございます。

第３項から第５項までは、給料表の切りかえに伴う経過措置や規則への委任などを定めたものです。

以上で議案第５号の説明を終わらせていただきます。

○議長（志関武良夫君）　提案理由の説明が終わりました。

これから質疑を行います。

質疑ありませんか。

１番根本年生君。

○１番（根本年生君）　第６条２項、「その複雑困難及び責任の度に基づき」というところが

あって、「標準的な職務の内容は、任命権者が定める」とあるけれども、これを改正後は「複雑、困難」、今度は「それぞれの職務の級に分類される」というふうになっています。この複雑困難な職務の内容というのは具体的にどのようなことを指すのか。複雑困難な仕事、その仕事が課長さんだったら、課長さんの仕事が複雑困難というふうになるのか、何か具体的じゃなくて。それで、それを今まで町長が決めていたのが、何で今度はこの表のように具体的になったのか、その意味合いがよくわからない。

○議長（志関武良夫君）　総務課長。

○総務課長（加曽利英男君）　職員の給料といいますのは地方公務員法で職階制というのをとっておりまして、その職務の重要度といいますか、困難度、複雑度、そういうものについて給料表を定めなさいというふうになっております。それで、これまでは規則で定めておりました。それはそれでよかったわけですけれども、このほど地方公務員法が、これだけではございませんけれども何点か改正がございました。その中で、この級別の職務の基準表というのは条例で定めるというふうにもとの法律が変わりました。そういうことで、今まで規則で定めておったのですけれども、４月１日以降は条例で定めることが必要になりましたので、それぞれの職務の困難度、複雑性、そういうものに区分してこの表を定めました。内容としましては、これまでの規則どおりの内容でございます。

○議長（志関武良夫君）　ほかにございますか。

１番根本年生君。

○１番（根本年生君）　すみません。「複雑困難及び責任」というのが、勉強不足で申しわけないけれども、これが具体的にどのような仕事が複雑困難で、これはどのような判断で決めるのか。何か、特別またこれが複雑困難なという、こういったものは複雑で困難だよとか具体的なものがあるのか。それとも、ある程度ニュアンスじゃないけれども、申しわけないですけれども、そういった程度で決めるものなのか。

○議長（志関武良夫君）　総務課長。

○総務課長（加曽利英男君）　議案つづりの33ページから次のページに表が出ておりますけれども、例えば行政職給料表（一）ですと、１級から７級まで、そういうもので運用しております。級は上がれば上がるほど給料表は上になるということですね。ですから７級、課長級あるいは会計管理者、そういう方が一番複雑困難かなと。これはどんどん下がるに従いまして、例えば、新規採用の場合は今、34ページの主事補になりますので、これが１級で給料表として一番下になります。そういう方がそういう度合いとしては一番低いといいますか、通

常の業務というふうに理解をしていただいて、給料表が上がれば上がるほどその責任も困難さも増してくるというふうに解釈していただいてよろしいかと思います。

○議長（志関武良夫君）　１番根本年生君。

○１番（根本年生君）　すみません、最後、確認なんですけど、複雑困難及び責任の度合いというのは具体的なものはなくて、今までの経験値とか、そういったことで判断して、要はこの度合いが上がっていると。今、具体的なものがないということでしたよね。何か級が上がれば責任の度合いが上がるからというような答弁でしたでしょうか。だから、この複雑困難とか責任って、具体的にこういったものが複雑困難だとか、そういった具体的なものがあるかという質問だったんですけれども、それはないということでいいんですか。

○議長（志関武良夫君）　総務課長。

○総務課長（加曽利英男君）　特にそういうふうに決めてはございませんけれども、例えば係長ですと５級になりますね。課長ですと７級ですので、当然いろいろな外部との折衝ですとか、例えば議会でもあるでしょうし、ほかに地域での説明とか、そういうものについて、課長の言った話と担当者が言った話では、これは当然内容が違ってきますし、責任の度合いも違ってくるというようなことで決めております。

○議長（志関武良夫君）　１番根本年生君。

○１番（根本年生君）　私はてっきり、係長になるとこういった職務になって、こういった責任の度合いが出てきて、新たに１つ上がることによって、あなた、こういった職務に責任が出てきますよと、そういったものが具体的にあるのかと思って今聞いたんです。ですから、それはないということで、本来私は係長になったら、あなた、係長になりましたよと、今度こういった責任の度合いがふえてきますよという明確なものがあって本人に示すと。給料が上がるけれども、責任というか、そういったものも上がるんだよということを職員に知らせる必要があるんじゃなかろうかということで申し上げたんです。

○議長（志関武良夫君）　総務課長。

○総務課長（加曽利英男君）　それであるものは、今、来年度から少し変えますけれども職員の評価の基準がございます。その中で、１級、２級に求めるものと４級、５級の職員に求めるものは当然違ってきますので、そういうものに記載はしてございます。

○議長（志関武良夫君）　いいですか。

ほかにございますか。

（「なし」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

本案については、討論を省略し、これから採決したいと思います。

ご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　異議なしと認めます。

これから議案第５号を採決します。

本案は原案のとおり決定することに賛成の方は挙手願います。

（挙手全員）

○議長（志関武良夫君）　挙手全員です。

したがって、議案第５号は原案のとおり可決されました。

◎議案第６号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（志関武良夫君）　日程第７、議案第６号　固定資産評価審査委員会条例の一部を改正する条例の制定についてを議題とします。

本案について、提出者の説明を求めます。

税務住民課長。

○税務住民課長（市原和男君）　ただいま議題となりました議案第６号　固定資産評価審査委員会条例の一部を改正する条例の制定について、本文に入ります前に提案理由の説明を申し上げます。

議案つづり37ページをお願いいたします。

本案は、行政不服審査法及び行政不服審査法施行令が改正され、いずれも本年４月１日から施行されることに伴い、固定資産評価審査委員会条例で定めております行政不服審査法等の引用条項の改正及び審査申し出に関する書類の交付等を求める場合の手数料の規定を加える必要が生じたため、本条例を改正するものでございます。

それでは、改正内容につきましてご説明をさせていただきますが、改正条文の朗読は割愛をさせていただきます。

固定資産評価審査委員会条例（昭和29年条例第27号）の一部を次のように改正する。

第４条第２項につきましては、審査の申し出について定めたもので、行政不服審査法等の改正に伴い申し出に記載すべき事項に、第１号では「住所」の次に「又は居住」を、第２号、

審査の申し出に係る処分の内容を加えるとともに、第２号を加えたことにより、それぞれ号の繰り下げを行うものでございます。

第４条第３項につきましては書面による審査の申し出について定めたもので、審査申出人の資格証明の規定を「行政不服審査法」から「行政不服審査法施行令」に改めるとともに、第６条、審査申出人としての資格を失った場合の届け出を加えるものでございます。

第６条は、第２項ただし書きを削り、第４項、委員会は、審査申出人から反論書の提出があったときは町長に送付する規定を加えるものでございます。

第14条を第17条とし、第13条を第16条とし、第12条を第15条とする改正は、第９条の次に３条を加えることにより条を繰り下げるものでございます。

第11条第１項は決定書の作成について定めたもので、決定書に第１号の主文、第２号、事実の概要、第３号、審査申出人及び町長の主張の要旨、第４号、理由を記載し、委員会が記名押印することを加え、第14条とするものです。

第10条第１項の改正につきましては、条の繰り下げにより改めるものでございます。

第９条の次に次の３条を加える規定でございますが、第10条は、審査申し出関係書類の交付及び閲覧手数料の額について定めるもので、第１項第１号では、審査の申し出に関する書類の写しについて交付１件につき200円、写し１枚につき20円、第２号では、閲覧１件につき200円、第２項では、手数料の徴収方法を交付等の際に徴収あるいは納付書による徴収とすることを規定するもので、大多喜町情報公開条例に規定する手数料の額と同額とするものでございます。

第11条は手数料の減免について定めるもので、第１項では、経済的困難により手数料納付する資力がないと認めるときは、１件につき2,000円を限度とし、手数料を減額または減免することができること、第２項では、手数料の減免または免除を受けようとする場合は書面にて申請をすること、第３項では、生活保護法の扶助を受けている場合は、これを証明する書面を添付することを規定するものでございます。

第12条は送付による交付に係る費用の徴収について定めるもので、審査請求人は送付に要する費用の負担をしなければならないとするものです。

附則といたしまして、この条例は、平成28年４月１日から施行するものでございます。

以上で提案理由及び改正内容の説明を終わらせていただきます。

○議長（志関武良夫君）　説明が終わりました。

これから質疑を行います。

質疑ありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

本案については、討論を省略し、これから採決したいと思います。

ご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　異議なしと認めます。

これから議案第６号を採決します。

本案は原案のとおり決定することに賛成の方は挙手願います。

（挙手多数）

○議長（志関武良夫君）　賛成多数です。

したがって、議案第６号は原案のとおり可決されました。

ここで10分間の休憩をとります。２時30分の開会とします。

（午後　２時２１分）

○議長（志関武良夫君）　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後　２時３１分）

◎議案第７号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（志関武良夫君）　日程第８、議案第７号　大多喜町過疎地域固定資産税課税免除条例の一部を改正する条例の制定についてを議題とします。

本案について、提出者の説明を求めます。

税務住民課長。

○税務住民課長（市原和男君）　ただいま議題となりました議案第７号　大多喜町過疎地域固定資産税課税免除条例の一部を改正する条例の制定について、本文に入ります前に提案理由のご説明を申し上げます。

議案つづり41ページをお願いいたします。

大多喜町過疎地域固定資産税課税免除条例につきましては、過疎地域自立促進特別措置法の規定により本町が過疎地域と指定されたことに伴い、2,700万円を超える製造業等の固定

資産を取得または増築した場合、５年間固定資産税の課税免除をすることができるもので、本条例の執行日は、過疎地域自立促進特別措置法の有効期限と同じ平成28年３月31日としております。平成24年、過疎地域自立促進特別措置法の一部を改正する法律が施行し、有効期限が平成33年３月31日まで５年間延長されました。そのため、本条例につきましても執行日を５年間延長するものでございます。

それでは、改正内容につきましてご説明申し上げます。

大多喜町過疎地域固定資産税課税免除条例（平成22年条例第20号）の一部を次のように改正する。

附則第２項中「平成28年３月31日」を「平成33年３月31日」に改める。執行日を過疎地域自立促進特別措置法の有効期限と同日とするものです。

附則といたしまして、この条例は、公布の日から施行するものでございます。

以上で提案理由及び改正内容の説明を終わらせていただきます。

○議長（志関武良夫君）　説明が終わりました。

これから質疑を行います。

質疑ありませんか。

７番小髙芳一君。

○７番（小髙芳一君）　この固定資産税の免除に、今まで該当した企業は何社ありますでしょうか。年度別の金額を、まず説明をお願いしたいと思います。

○議長（志関武良夫君）　税務住民課長。

○税務住民課長（市原和男君）　それでは、年度別に対象となった法人会社数と減免額を申し上げます。

平成23年度、１社でございます。減免額43万9,754円。平成24年度、２社、153万8,131円。25年度、３社、539万983円。26年度、４社、773万9,568円。本年度、４社でございます。803万9,967円でございます。

○議長（志関武良夫君）　７番小髙芳一君。

○７番（小髙芳一君）　ありがとうございます。14社ということですよね。年々これはふえていますけれども、要は、大多喜町でそのような投資をしたり新たに新設をしたりということがふえているということの理解でよろしいんでしょうか。

それと、もう一点は、こういう免除をすることによって、やっぱり企業に対しての誘致といいますか、相当な支援になっているというような効果という部分は、こういうことからあ

るというふうに評価できるんでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　税務住民課長。

○税務住民課長（市原和男君）　説明がちょっと不足していたかもわからないんですけれども、年度ごとに申し上げた対象社数は当然ダブっておるものがおります。５年間課税免除を受けられるというふうなことで、実際対象となっているものは４社でございます。そのうち３社については、既存の法人の設備投資というふうなものに対する減免、残り１社については新規に大多喜のほうに来られた事業所というふうなことで、効果的には、固定資産税なりの設備投資、あるいは増築等をやっていただけたというふうなことの実績の軽減でございます。実際の取得価格とは異なりますけれども、課税標準額で申しますと16億5,000万ほど設備投資をされたというふうな実績でございます。

○議長（志関武良夫君）　７番小髙芳一君。

○７番（小髙芳一君）　ありがとうございます。

全部で４社で、新しく来たのは１社ということなんですけれども、免除するということで、これ、合計金額がちょっとさっとわかりませんけれども、2,000万ぐらいの金額が免除したということになろうかと思いますけれども、効果として、これだけ減免をして意味合いがあるのかどうかという部分なんです。これは過疎債ということで、後から交付税措置を70ですか、75、してくれるということの中では、その３割分ぐらいが町から実際に免除したという金額というふうに受け取ってよろしいのか。効果そのものについてはどのように考えておられるのか。ちょっとさっきと重複しますけれども、あればお願いします。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　それでは、交付税の関係ということでお答えさせていただきたいと思います。

交付税の措置といたしましては、一応0.75ですね。75パーセント交付税算入があるということでございます。ただ、これは３年間に限ってということでございますので、今現在ですと交付税に措置された額が約1,447万1,000円ということで把握をしてございます。町の負担は、その中で考えると482万5,000円というふうに認識しております。

○議長（志関武良夫君）　ほかにございますか。

（「もう一点」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　産業振興課長。

○産業振興課長（野村一夫君）　効果につきまして、１社ふえていまして、従業員も４人町内

から雇われているということで、効果はあると思います。

○議長（志関武良夫君）　町長。

○町長（飯島勝美君）　今のに補足します。

実は、その１社につきましては、既に今また増築をしているところでございますけれども、これは、実はいろいろ近隣を、どこに工場をつくるかということでいろいろ探していたということの中で、社長さんと話したときに、やっぱり大多喜が一番条件がいいということで大多喜に持ってきていただいたんです。その会社は御宿にも今工場があって、そして大網にもあったんですけれども、それを片づけて大多喜へ全部集合するということでやっていただいたので、そういう効果は十分あるのかなと思っております。今、従業員につきましては４人という話でございますけれども、社長さんは将来的には30人程度ということでお話を聞いております。今、まだ増築しているところでございますけれども、できるだけ地域の人を採用するというお話を社長さんからもいただいております。

○議長（志関武良夫君）　ほかにございますか。

（「なし」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

本案については、討論を省略し、これから採決したいと思います。

ご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　異議なしと認めます。

これから議案第７号を採決します。

本案は原案のとおり決定することに賛成の方は挙手願います。

（挙手全員）

○議長（志関武良夫君）　挙手全員です。

したがって、議案第７号は原案のとおり可決されました。

◎議案第８号の上程、説明、質疑

○議長（志関武良夫君）　日程第９、議案第８号　大多喜町一般廃棄物処理施設建設基金条例の制定についてを議題とします。

本案について、提出者の説明を求めます。

環境水道課長。

○環境水道課長（米本和弘君）　議案第８号　大多喜町一般廃棄物処理施設建設基金条例の制定について、43ページをお願いいたします。

初めに、提案理由の説明をさせていただきます。

この条例の制定は、さきの夷隅郡市広域ごみ処理施設建設事業の休止を受け、休止となった要因の一つでもある将来の財政負担の軽減を図るため、施設整備に向けた財源の確保を図るため基金を設置し、一般廃棄物処理施設建設の推進を図るものです。

それでは、本文に入らせていただきます。

大多喜町一般廃棄物処理施設建設基金条例。

設置の目的。

第１条、大多喜町の一般廃棄物処理施設建設の推進を図るため、大多喜町一般廃棄物処理施設建設基金（以下「基金」という。）を設置する。

基金の額。

第２条、基金として積み立てる額は、一般会計歳入歳出予算で定める額とする。

管理。

第３条、基金に属する現金は、金融機関への預金その他最も確実かつ有効な方法により保管しなればならない。

運用益金の処理。

第４条、基金の運用から生ずる収益は、一般会計歳入歳出予算に計上して、基金に繰り入れるものとする。

繰替運用。

第５条、町長は、財政上必要があると認めるときは、確実な繰り戻しの方法、期間及び利率を定めて基金に属する現金を歳計現金に繰り替えて運用することができる。

処分。

第６条、基金は、一般廃棄物処理施設建設及び維持管理に要する経費の財源に充てる場合に限り、処分することができる。

委任。

第７条、この条例に定めるもののほか、基金の管理及び処分に関する必要な事項は、町長が別に定める。

附則。

この条例は、公布の日から施行する。

以上で説明を終わります。

ご審議のほどよろしくお願いいたします。

○議長（志関武良夫君）　説明が終わりました。

これから質疑を行います。

質疑ありませんか。

７番小髙芳一君。

○７番（小髙芳一君）　大変申しわけないんですけれども、この第１条で、大多喜町の一般廃棄物処理建設の推進を図るということで、先ほど過疎債のところで、こういうものをつくるのであれば、そちらに計画を載っけたほうがいいよと申し上げたときに、「いや、そうではないよ。20年度に広域でやることが前提です。その積み立てですよ」というようなお話でありましたけれども、ここには大多喜町の建設ということで載っています。大変微妙な問題でしたので、余りこの辺をということは言いたくはなかったんですけれども、でも片一方で広域ですよ、片一方で大多喜町でつくりますよと、さっきと全然違っちゃうわけなので、もう少しきちんと、方向性はもう内容的にはある程度わかっていますので、でも、実際にまたこうやってここに文章できちんと載っけられちゃうと困りますので、この辺はしっかりと少し整理をしていただきたい。本当に、大多喜町でも独立してやるんだという方向を示しちゃっている話じゃないですか。であるならば、もうそういう方向でしっかりと、そっちに行くんだということを表明したほうがよろしいんじゃないですか。ちょっと答弁がいろいろ食い違うと非常に困るというふうに思いますけれども、どうなんでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　環境水道課長。

○環境水道課長（米本和弘君）　ただいまご指摘がありましたとおりですが、基本的には、この基金も町単独の処理施設の建設という意味ではございませんで、広域で建設する施設の建設に当たって必要な財源を確保するための基金というふうに考えておる基金でございます。町単独ということではございません。これははっきりと認めます。

○議長（志関武良夫君）　７番小髙芳一君。

○７番（小髙芳一君）　じゃ、それはよくわかりました。であるならば少し直したほうがいいんじゃないですか。ほかにも影響を与えると思いますよ。ちょっと誤解を招くようなことなので、せっかく出されたんだけれども、別にこれは急ぐ話じゃないし、ちょっと訂正して次に出すなり、ちょっと直したほうがよろしいんじゃないですか。これ、誰が見てもそういう

ふうに受け取りますけれども、いかがですか。

○議長（志関武良夫君）　環境水道課長。

○環境水道課長（米本和弘君）　確かに、目的のところで「大多喜町の一般廃棄物処理施設建設」という表現になっておりますので、町のごみを処理する施設というような考え方で基金のほうは一応考えておったわけなんですが、そういう考え方で、町のほうとしては基金を今後設置していきたいというふうに考えておりますが。

○議長（志関武良夫君）　３番吉野一男君。

○３番（吉野一男君）　一応これは郡内で全部やっているわけでしょう、広域で。じゃ、広域の対応で全部各町に流しているわけですか。じゃなくて、これ、単独で町という、解釈は単独なんだけれども、単独でもいいから、広域でつくっている形で、単独で町で基金をつくってくれという意味じゃないんですか、これは。

○議長（志関武良夫君）　環境水道課長。

○環境水道課長（米本和弘君）　そういう意味ではございません。広域のほうでは、５年後に備えて各市町で財政の基盤を強化して、新しいごみ処理施設を建設しましょうという約束で今回事業の休止をしておりますので、あと、基金を積み立てるとか、それを広域で各市町に同じことをやりなさいというような形で決めたものではございません。今回は大多喜町が独自に、将来の財政負担の軽減を図るために基金を積み立てていこうという形で、今回基金の設置をしております。

○議長（志関武良夫君）　６番江澤勝美君。

○６番（江澤勝美君）　今、第８号は、文言でやっぱりいろいろ考え方が違うところがあるので、この第８号については文言を差しかえさせてもらって16日の審議でやったらどうですか。やはりこのままだと、大多喜町単独でつくるよというような勘違いする文章であると思うんですよ。それだと、広域でやっている部分については、やはりほかの市町村にご迷惑をかける可能性も出てきますので、この第８号だけ今回ちょっと差しかえて、最終の16日に審議したらどうですか。議案の取り下げの動議を提出します。

（「賛成」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　ただいま議案第８号に対する議案取り下げの動議が提出され所定の賛成がありますので、動議は成立しました。

議案第８号取り下げの件を日程に追加し、議題とすることにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　異議なしと認めます。

これより、議案第８号取り下げの件を議題とします。

町長から取り下げの理由の説明を求めます。

○議長（志関武良夫君）　町長。

○町長（飯島勝美君）　それでは、この議案については一旦取り下げまして、今、江澤議員のお話にありましたように、また最終のところで文言を差しかえて出したいと思います。

○議長（志関武良夫君）　10番山田久子君。

○１０番（山田久子君）　すみません。今、差しかえて最終日にということでございましたので、もしできましたら、ここに準備基金の目標額といいますか、積立金額なども入れていただくことができないかと思うんですけれども、いかがでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　環境水道課長。

○環境水道課長（米本和弘君）　この基金の目標額を定めてということでございますけれども、この当初計画として80億の事業費でやるというようなことで、補助金28億、起債が45億、一般財源７億、この７億に対して大多喜町の負担割合が13.3パーセントというような数字でございました。そうしますと、9,300万を建設当初に一般財源として負担するような形になっておりました。ですが、事業休止を判断した時点で141億になる。財源は補助金が40億、そのうちで起債額が80億とした場合に、一般財源が21億円となりまして、大多喜町の負担が大体２億7,800万くらいの数値になるということになってきます。

このほか、当然起債をして償還をしていますので元利償還金、それから維持管理経費等も発生してまいりますので、今現在の段階で目標額をはっきりこの額という額はちょっと無理だと思いますので、限りなく予算の範囲内で少しでも多く積めればというような形を考えておりまして、金額を入れるというのはちょっと難しいんではないかというふうに考えておるのですが。

○議長（志関武良夫君）　ただいま、第８号議案につきましては、いろいろと執行部のほうでも文言につきまして誤りがあったような感じもいたしますので、今、町長のほうから取り下げる旨の説明がありました。

お諮りします。

議案第８号の取り下げを許可することにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　異議なしということでございますので、第８号議案の取り下げを許

可することを決定いたしました。

◎議案第９号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（志関武良夫君）　日程第10、議案第９号　大多喜町行政不服審査関係手数料条例の制定についてを議題とします。

本案について、提出者の説明を求めます。

総務課長。

○総務課長（加曽利英男君）　それでは、45ページをお願いいたします。

本文の説明の前に提案理由の説明をさせていただきます。

議案第２号でも説明させていただきましたが、行政不服審査制度を規定した行政不服審査法が改正され、本年４月１日から施行されます。今回の改正で審査請求をした人が、その審査請求に関する案件の書類に関して閲覧するだけでなく、写しの交付も請求できることとなりました。また、改正法では、写しの交付を受ける場合、所定の手数料を納めることが義務づけられました。この改正に伴い、大多喜町におきましても関係書類の閲覧及び写しの交付について手数料を徴収することとし、本条例を制定しようとするものでございます。

それでは本文の説明に入らせていただきますが、一部条文の朗読を割愛させていただきますのでご了承ください。

大多喜町行政不服審査関係手数料条例を次のように制定する。

初めに第１条でございますが、これは条例の趣旨を定めるものでございます。

次に、第２条でございますが、これは、手数料の額は別表に定める額とすることを定めるものでございます。別表の説明は後ほどさせていただきます。

次に、第３条ですが、手数料の徴収。

第３条、「手数料は、法第38条第１項（法第９条第３項で読み替えて適用する場合及び他の法令において準用する場合を含む。以下同じ。）の規定による交付若しくは閲覧（以下『交付等』という。）についての申請の際又は当該申請に係る書類の交付等の際に徴収する。ただし、納付書による徴収の場合は、当該納付書の指定期限までとする」ということで、これは、手数料の徴収は、申請の際または書類等の交付の際に徴収をすることを定めるものでございます。

次に、手数料の減免。第４条でございますが、「審理員（法第９条第３項に規定する場合にあっては、審査庁。次項において同じ。）は、交付を受ける審査請求人又は参加人（以下

『審査請求人等』という。）が経済的困難により手数料を納付する資力がないと認めるときは、2,000円を限度として、第２条の手数料を減額し、又は免除することができる」。これは、手数料を納付することが困難と認めるときは、2,000円を限度として手数料の減免ができることを定めるものでございます。

次に、第２項、「前項の手数料の減額又は免除を受けようとする審査請求人等は、交付等を求める際に、併せて当該減額又は免除を求める旨及びその理由を記載した書面を審理員に提出しなければならない」。これは、手数料の減免を受けようとする際は、その理由等を記載した書面を提出しなければならないことを定めるものでございます。

次に、第３項、「前項の書面には、審査請求人等が生活保護法（昭和25年法律第144号）第11条第１項各号に掲げる扶助を受けていることを理由とする場合にあっては当該扶助を受けていることを証明する書面を、その他の事実を理由とする場合にあっては当該事実を証明する書面を添付しなければならない」。これは、手数料の減免を受けようとする場合、減免を受ける理由を証する書面を添付することを定めるものでございます。

次に、送付による交付に係る費用の徴収。

第５条、「行政不服審査法施行令（平成27年政令第391号）第14条第１項の規定により、送付による交付を受ける審査請求人等は、町長が別に定めるところにより、当該送付に要する費用を納付しなければならない」。これは、不服申し立てに関する案件の書類を送付により交付を受ける場合は、その費用を納付しなければならないことを定めるものです。

次に、第６条は、条例の施行に関して必要な事項は、町長が別に定めるとしたものです。

附則としまして、この条例は、平成28年４月１日から施行するものです。

次に別表ですが、これは手数料の額を定めるもので、先ほどの固定資産評価審査委員会条例とほぼ同様でございまして、情報公開条例との整合を図っております。閲覧する場合は１件につき200円、表の２行目の欄になりますが、写しの交付を受ける場合は１件につき200円に写し１枚につき20円を加算した額とするものです。なお、写しの交付は通常の書面をコピーするほか、電磁的記録、例えばＣＤ－ＲＯＭですとか、そういったものに保存されているものをプリントする場合などを区分して、それぞれ定めております。

以上で、議案第９号の説明を終わらせていただきます。

○議長（志関武良夫君）　提案理由の説明が終わりました。

これから質疑を行います。

質疑ありませんか。

11番野中眞弓君。

○１１番（野中眞弓君）　ささやかな質問です。

第３条の手数料の支払いの件なんですけれども、一番最後、納付書による徴収の場合は、指定期限までとするとありますが、わずかなお金で、納付書というのはまた来なければならないわけで、これはその場、即決主義でやっていただけないんでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　総務課長。

○総務課長（加曽利英男君）　そういう場合は、その場で納付書を作成してそのまま、例えば会計室で納付することができますので、ご希望ですけれども、そういうふうに希望する場合は即決というふうにしたいと思います。

（「この場合がですね」の声あり）

○総務課長（加曽利英男君）　はい。

○議長（志関武良夫君）　ほかにございますか。

（「なし」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

本案については、討論を省略し、これから採決したいと思います。

ご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　異議なしと認めます。

これから議案第９号を採決します。

本案は原案のとおり決定することに賛成の方は挙手願います。

（挙手全員）

○議長（志関武良夫君）　挙手全員です。

したがって、議案第９号は原案のとおり可決されました。

◎議案第１０号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（志関武良夫君）　日程第11、議案第10号　大多喜町介護予防・生活支援事業等利用者負担金徴収条例の一部を改正する条例の制定についてを議題とします。

本案について、提出者の説明を求めます。

健康福祉課長。

○健康福祉課長（永嶋耕一君）　それでは説明に入らせていただきます。

49ページをお開きください。

本文に入る前に提案理由の説明をさせていただきます。

本条例は、介護予防・生活支援事業の利用者から負担金を徴収することに関して定めております。今回の改正は、軽度生活援助事業及び生活管理指導員派遣事業に係る事業費の単価の変更に伴い、別表中の利用者負担金の金額を改めるものでございます。これらの事業は、ひとり暮らしの高齢者の生活を支援するもので、事業費は介護報酬単価を目安に用いておりまして、その10分の１の額を利用者負担分としていただいているところでございます。今回介護報酬単価が改正になりましたことから、利用者負担金について改正するものでございます。

また、大多喜町生活管理指導員派遣事業実施要綱では、これまで支援内容は、身体介護中心の場合と生活援助中心の場合の２つに分けていましたが、身体介護中心の場合の支援内容は明らかに介護が必要であることから、この制度の支援ではなく介護保険制度での対応となる。また、国が示した介護予防生活支援事業の実施についての事業内容とは差異があり、他市町村の要綱中にも見られないことから、身体介護中心の場合の項目を削除したところでございます。このようなことから、今回、条例と要綱の整合性を図るため、別表中の身体介護中心の場合を削除するものでございます。

それでは本文に入らせていただきます。

議案第10号　大多喜町介護予防生活支援事業等利用者負担金徴収条例（平成12年条例第18号）の一部を次のように改正する。

別表中、軽度生活援助事業、１回当たりの利用時間、20分以上45分未満190円を20分以上45分未満180円に、45分以上１時間10分未満230円を45分以上１時間10分未満220円に、１時間10分以上を230円に30分ごとに80円を加算した額を１時間10分以上220円に、30分ごとに80円を加算した額に改め、生活管理指導員派遣事業の改正につきましては、軽度生活援助事業と同額の改正となります。

附則。

この条例は、平成28年４月１日から施行する。

以上で説明を終わらせていただきます。

よろしくご審議くださいますようお願いいたします。

○議長（志関武良夫君）　説明が終わりました。

これから質疑を行います。

質疑ありませんか。

11番野中眞弓君。

○１１番（野中眞弓君）　今回のこの改定は、利用者の支払う手数料ですね。事業者がもらうお金も減るわけですね。

○議長（志関武良夫君）　健康福祉課長。

○健康福祉課長（永嶋耕一君）　そうですね。事業者の金額も減るということになります。

○議長（志関武良夫君）　よろしいですか。

ほかにございますか。

（「なし」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

本案について、討論を省略し、これから採決したいと思います。

（「異議あり」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　異議がありますのでこれより討論を行います。

はじめに本案に反対者の発言を許します。

11番野中眞弓君。

○１１番（野中眞弓君）　今の質疑の答弁にもありましたように、事業者の収入も減るわけです。介護報酬のこの改定によって、特に弱小の事業所がつぶれてきている。ある事業所さんの話ですと、夷隅郡内でも小さいところが１事業所閉鎖しましたと。利用者にとっては、なれ親しんだところがなくなるというのは非常に厳しいことなんですね。ここを、表面的には利用者は利用料が減るからいいじゃないか。でも、たしか利用時間も減らされたと思うんです。今まで１時間単位だったと思うのが、それが45分で、15分も減らされている。そういう点ではやっぱり値上げではないか。事業所も困る、そこで働いているヘルパーさんも困る。利用者も、利用時間が少なくなったこと、おしゃべりもできない。今まではヘルパーさんが来ておしゃべりしながら仕事してもらうのが楽しみだったのが、それもできなくなっている。こういう介護報酬の改悪を国が持ち込んだわけです。うちのほうの担当に罪はないんですけれども、やはりこのまま認めるわけにはいきません。苦渋の反対討論といたします。

○議長（志関武良夫君）　次に、本案に賛成者の討論を許します。

発言を許します。

７番小髙芳一君。

○７番（小髙芳一君）　私は、賛成の立場から意見を言わせていただきたいと思います。

ただいまの野中議員のお話、本当に賛同できるところであります。しかし、介護保険料の、やっぱりこれをどんどん上げて、本来そういうことをやるということは上げていかなければいけない部分であります。保険料の負担も相当重くなっておるし、また、持続していく部分では、ある意味、今回のきめ細かなこういう対応というのは仕方ない部分だというふうに考えるところであります。したがいまして、本案について私は賛成をしたいと思います。

○議長（志関武良夫君）　ほかに討論はありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これから議案第10号を採決します。

本案は原案のとおり決定することに賛成の方は挙手願います。

（挙手多数）

○議長（志関武良夫君）　挙手多数です。

したがって、議案第10号は原案のとおり可決されました。

◎議案第１１号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（志関武良夫君）　日程第12、議案第11号　大多喜町企業誘致及び雇用促進に関する条例の一部を改正する条例の制定についてを議題とします。

本案について、提出者の説明を求めます。

産業振興課長。

○産業振興課長（野村一夫君）　それでは、議案第11号　大多喜町企業誘致及び雇用促進に関する条例の一部を改正する条例の制定につきまして、本文に入ります前に提案理由を説明させていただきます。

51ページをお開き願います。

提案理由でございますが、大多喜町企業誘致及び雇用促進に関する条例につきましては、過疎地域自立促進特別措置法（平成22年４月１日公布）の規定により本町が過疎地域として指定されたことに伴い、製造業などの事業者が固定資産税などの優遇措置を受けられることとなりましたが、町への企業立地をさらに促進するため、同法の対象とはならない2,700万

円以下、1,000万円までの建物や償却資産を取得した場合、新たな固定資産税についてその相当額を５カ年間助成する、また町内に住所を有する新規雇用者に対して、1,000万円を限度として１人50万円交付することができるもので、本条例の執行日は、過疎地域自立促進特別措置法の有効期限と同じ平成28年３月31日です。平成24年６月27日、過疎地域自立促進特別措置法の一部を改正する法律が公布、施行し、有効期限が平成33年３月31日まで５年間延長されました。そのため、本条例につきましても執行日を５年間延長するものでございます。

それでは、内容でございますが、大多喜町企業誘致及び雇用促進に関する条例（平成22年条例第24号）の一部を次のように改正する。

附則第３項中「平成28年３月31日」を「平成33年３月31日」に改める。

附則といたしまして、この条例は、公布の日から施行する。

以上でございます。

よろしくご審議のほどお願いいたします。

○議長（志関武良夫君）　説明が終わりました。

これから質疑を行います。

質疑ありませんか。

７番小髙芳一君。

○７番（小髙芳一君）　今までの、この条例を適用された実績を説明してください。

○議長（志関武良夫君）　産業振興課長。

○産業振興課長（野村一夫君）　今回、この後補正がありますけれども、３月補正で１件上げてありますけれども、この５年間で、その１件でございます。

以上です。

○議長（志関武良夫君）　７番小髙芳一君。

○７番（小髙芳一君）　まず、その金額を教えてください。今回が初めて、３月補正で初めてということでよろしいでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　産業振興課長。

○産業振興課長（野村一夫君）　金額につきましては、平成26年に納めた税額ということで11万7,100円です。これについては、事業所設置奨励金ということで11万7,100円の交付ということになります。

以上です。

○議長（志関武良夫君）　７番小髙芳一君。

○７番（小髙芳一君）　３回目になりますので、ゆっくり言いますので、質問が何点かありますのでメモをお願いします。

今回11万7,000円ということですけれども、これは固定資産税相当分の奨励金ということでよろしいでしょうか。それで、先ほどの過疎地域の固定資産税の減免、この企業はこれも受けているということでよろしいでしょうか。

それから、この条例なんですけれども、課長さんたちはご存じないかもしれませんけれども、これを制定するときには、提案をされて、いろいろともっと有効な内容にした方がいいんじゃないかというような話もありまして、経済福祉委員会で委員会付託をされまして、この条例の部分は議論をした経緯があります。内容につきましては、私のほうである程度、雇用したら50万ということだったんですけれども、もっと多額のことをやっていかないと企業誘致は難しいだろうと。さらなる企業誘致をしたいということで、こういう条例をつくったんですけれども、現実的にはやっと１件、それも11万という金額であります。

言いたいのは、当時は、割かし新聞報道でもそうだったけれども、いろいろな市町村でうちではこれだけの土地を用意しますよ、ぜひ企業は来てください、あるいは雇用したらこれだけやります、そういうことが結構ほかの地域でもあったんですよ。企業誘致をしたいと、そんな中でできた条例なんです。言いたいのは、これは別に私、反対する気持ちは全然ありません。言いたいのは、やっぱり当時と今と環境が大分変わっています。当時はそういうことも、まだまだ企業誘致は難しいだろうとは言われながらも、市町村ではいろいろな部分を対応していたんですけれども、今、こういう時代は、国が量的緩和をやっても、金がじゃぶじゃぶで、企業さん、ぜひ設備投資をしてくれよと言ったってどこもやらない、こういう状況なので、継続するのはいいですけれども、ここで１つ質問なんですけれども、ただ継続するじゃなくて、今の企業誘致とか雇用促進なんていうのは、本当に町の大事な問題じゃないですか。まして町長が公約で挙げた問題であります。ですから、今のこのときに、この内容をもっと充実させるとか、あるいは意味がなければ廃止するとか、こういうことを検討されて継続をするということをやられたのかどうか。せっかく条例をつくっても、効果がないものをただ切れたから次に延長ですよということでは非常に困る話で、本当にこの部分を企業誘致をどんどん進めたいということであれば、やっぱり今までのことをきちんと検証して新しい部分をつくる実績、効果がなければ、さらにいいものをつくるというような検討をしなくてはいけないだろう。ただ継続をして、切れたからまた同じことをやりますよということでは意味がないんじゃないのか。反対はしませんけれども、そういうことをきちんとやられ

たのかどうか、答弁をお願いしたいと思います。

○議長（志関武良夫君）　産業振興課長。

○産業振興課長（野村一夫君）　まず、１点目の固定資産税かどうかということでございますが、これは平成26年度に納めた固定資産税ということでございます。

それから、３点目の、充実について話し合って検討したかということでございますけれども、この条例の規則の中に委員会というものがあるんですが、残念ながらその期日が来たので、その期日の延長ということで検討はいたしませんでした。

それから、２番目については税務住民課のほうで答えてもらいます。

○議長（志関武良夫君）　税務住民課長。

○税務住民課長（市原和男君）　ご質問の２点目の過疎の固定資産の減免を受けているかというふうなご質問ですけれども、この対象になっておるというふうなことでございます。

○議長（志関武良夫君）　よろしいですか。

ほかにございますか。

（「なし」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

本案については、討論を省略し、これから採決したいと思います。

ご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　異議なしと認めます。

これから議案第11号を採決します。

本案は原案のとおり決定することに賛成の方は挙手願います。

（挙手全員）

○議長（志関武良夫君）　挙手全員です。

したがって、議案第11号は原案のとおり可決されました。

◎議案第１２号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（志関武良夫君）　日程第13、議案第12号　大多喜町水道事業給水条例の一部を改正する条例の制定についてを議題とします。

本案について、提出者の説明を求めます。

環境水道課長。

○環境水道課長（米本和弘君）　議案第12号　大多喜町水道事業給水条例の一部を改正する条例の制定について、53ページをお願いいたします。

初めに、提案理由の説明をさせていただきます。

この条例の一部改正は、大多喜町水道事業給水区域の範囲について一部改正するものです。

現在、川畑地区の一部への水道供給は、大多喜町と勝浦市の協定により、昭和49年から勝浦市の給水区域として水道の供給が行われてきました。しかし、これまで勝浦市と川畑地区をつないでいた町道黒原佐野線の滝見橋が老朽化により落橋の危険性があることから、現在全面通行どめとなり、滝見橋に添架された水道管の維持管理が困難となりました。このため、川畑地区への生活用水の安定供給を継続させるためには大多喜町側からの給水とする必要があるため、勝浦市との協議を重ねた結果、給水区域の変更を行うものです。

また、あわせまして行政区の表現を「伊藤」から「横山」に改めるものです。

それでは、本文に入らせていただきます。

大多喜町水道事業給水条例の一部を改正する条例。

大多喜町水道事業給水条例（昭和43年条例第24号）の一部を次のように改正する。

第２条中、「、川畑の一部」を削り、「伊藤」を「横山」に改める。

附則。

この条例は、平成28年４月１日から施行する。

以上で説明を終わります。

ご審議のほどよろしくお願いいたします。

○議長（志関武良夫君）　説明が終わりました。

これから質疑を行います。

質疑ありませんか。

11番野中眞弓君。

○１１番（野中眞弓君）　この条例の文からはわからないので、申しわけありませんが参考資料のほうを見させていただきます。

町の水道の給水区域として除かれる区域があります。これを見てみますと「面白の一部、大田代の一部、筒森の一部、会所、川畑の一部及び伊藤の一部を除く」とありまして、今回「、川畑の一部」が抜けて、「伊藤」が「横山」になった。ところが、実際はどうかというと、川畑について言わせてもらえば、私のところも川畑のしっかりと一部なんですが、川畑

地区の下と上に分かれて、私の住んでいるのは上のほうで、これは水道が入っておりません。今回改修されたのは下の部分の10戸分です。

それから、もう一つは、前々回ぐらいの一般質問で山田議員が行われた市部のほうも通っていないはずです。そういう面では、この給水が除かれている部分の表記というのは現実に合っていないと思うんですね。それをやはり現実に合ったものに直す必要があるんじゃないかと思いますけれども、いかがお考えでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　環境水道課長。

○環境水道課長（米本和弘君）　ただいまの給水区域の除外をしている区域ということで、川畑地区の給水につきましては、先ほど49年からと申しました。当時、話を聞いた中では、当初、申し込みというか全域にしたようでございますけれども、ただ、今、議員が住まわれている部分については高い位置にあるというようなことで、加圧ポンプなり別な設備が必要であるというような話の中で、当初の部分、下に今いらっしゃる方々についても工事費の負担というのは当然していただいているんですけれども、その部分の負担が多くなるというようなことで、上の台については給水をしなかったというふうに聞いております。ですから、そういう部分を給水をしないというわけではございませんで、小土呂の一部についてもそういうようになっております。ただ、現在として水道は通っていないんですけれども、条例の中では給水はできる区域というふうにしてあるわけです。

以上です。

○議長（志関武良夫君）　11番野中眞弓君。

○１１番（野中眞弓君）　そうすると、ここに書いてある部分は、もう町の水道からは永劫に除くよというふうに理解できるんですけれども、どうなんでしょうかというのが１点と、私が結婚して、父に水道のいきさつを軽く聞いたときには、川畑の上の台まで持ってくるにはその当時で何か１億くらいのお金が要るとかで、町のほうで堪忍してくれっていうことだったというふうに聞いたことがあるんです。今から入れろとかそういうのではなくて、やっぱり町の水道が、どこが入っていて入っていないかということをきちんとするために、町の水道の入っていない集落についてはここに明記すべきではないのかというふうに思うんです。

○議長（志関武良夫君）　環境水道課長。

○環境水道課長（米本和弘君）　最初の質問で……。

（「課長のおっしゃった言い方だと、未来永劫ここに書いてあるものはもう入れませんよというふうに……」の声あり）

○環境水道課長（米本和弘君）　未来永劫というのは表現はないわけなんですが、今給水区域から除いている理由として、面白の一部、大田代の一部、それから筒森の一部、それから川畑の一部ということで、これは、ほかの施設がその区域内にある場所について大多喜町の給水区域から除いているということですので、ここには給水しませんよというのではなくて、それなりの施設がありますので大多喜町の給水区域から除いているというようにご理解をいただければと思います。

○議長（志関武良夫君）　11番野中眞弓君。

○１１番（野中眞弓君）　そこの表現はわかりました。じゃ、本当に、今ここに書いてあるものについては、もう水道施設がそれなりに簡易水道みたいな形とかで入っているということですよね。じゃ、本当にそういう簡易水道もない、町の水道も行っていない地域について、町がきちんとやっぱり把握しておく必要があると思うので、それについてもどこかできちんと明記していただいたほうが、政策をつくっていくにも必要ではないかと思うんですけれども、いかがでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　環境水道課長。

○環境水道課長（米本和弘君）　先ほど、山田議員が、９月会議だったと思いますけれども、未給水地域にも何らかの支援をしてほしいというような話がございました。基本計画の中で給水区域に入っているんですけれども、１軒、２軒で離れているとか、そういった場所についても何らかの支援をしていくような方策を今後考えていきたいということで、そういうふうな答弁をさせていただいてあると思いますので、今言われたような地区については、そういうような形で今後検討をしていきたいというふうに考えております。

○議長（志関武良夫君）　ほかにございますか。

（「なし」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

本案については、討論を省略し、これから採決したいと思います。

ご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　異議なしと認めます。

これから議案第12号を採決します。

本案は原案のとおり決定することに賛成の方は挙手願います。

（挙手全員）

○議長（志関武良夫君）　挙手全員です。

したがって、議案第12号は原案のとおり可決されました。

◎議案第１３号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（志関武良夫君）　日程第14、議案第13号　大多喜町消防団員の定員、任免、給与、服務等に関する条例の一部を改正する条例の制定についてを議題とします。

本案について、提出者の説明を求めます。

総務課長。

○総務課長（加曽利英男君）　それでは、55ページをお開きください。

提案理由を説明させていただきます。

消防団員の確保及び活動が一部困難な状況から、火災や水害などの災害が発生したときに限り出動する団員を機能別団員として任命していますが、現在、この機能別団員の報酬は、一般の団員と同額の年額３万2,000円と定めております。機能別団員は、消防団が行う行事や、団員が平常時に行う活動には原則参加しないこととなっており、このような活動状況から、消防団の役員会におきまして機能別団員の報酬を減額してはどうかとの意見があり、協議した結果、消防団の役員会の意見として機能別団員の報酬を現行より下げてほしいというようなことになりました。役員会では１万円程度ではどうかというような意見も出たわけでございますけれども、県内の市町村の機能別団員の報酬を見てみますと、一般団員の３分の１程度としているところが多く、このようなことから、本町においても機能別団員の報酬を一般団員のおおむね３分の１程度の１万1,000円とすることとし、本議案を提案させていただくものでございます。

それでは、本文でございますが、大多喜町消防団員の定員、任免、給与、服務等に関する条例（平成２年条例第９号）の一部を次のように改正する。

第12条中「団員　年額３万2,000円」の次に「（ただし、大多喜町消防団組織等に関する規則（平成２年規則第５号）第３条第３項に規定する機能別団員については、１万1,000円）」を加える。この改正は、機能別団員の報酬を年額３万2,000円から１万1,000円に改めようとするものでございます。

附則として、この条例は、平成28年４月１日から施行する。

以上で、議案第13号の説明を終わらせていただきます。

○議長（志関武良夫君）　説明が終わりました。

これから質疑を行います。

質疑ありませんか。

１番根本年生君。

○１番（根本年生君）　すみません。ちょっと私のほうが勉強不足で申しわけございませんけれども、機能別団員というのは大多喜町に何人かいらっしゃるということですか。

それと、じゃ、仮に今までいたとしたら、この団員にはお金が支払われていなかったということになるのか、それとも、私、あともう一つ気になって、括弧書きで、ただし書きで機能別団員を、これ、団員の下か何かに、これから先、機能別団員というのは非常に重要な役割を、本当に団員が少なくて、こういった人たちに頼らざるを得ないという地区も、これから先出てくるんじゃなかろうかと思うんですけれども、何かとってつけたような、申しわけないんですけれども、機能別団員というのは、非常にこれから重要になってくるんじゃなかろうかと思うときに、何かただし書きというのがちょっと気になるんです。やっぱり重要な一員だよということを明記するための、ただし書きじゃなくて、団員の下にでもいいですから、何か団員の一員だよということでやったほうがいいような気がするんですけれども、いかがでしょう。

○議長（志関武良夫君）　総務課長。

○総務課長（加曽利英男君）　まず１点目ですが、機能別団員は現在町内に16名いらっしゃいます。報酬はこれまで、今の規定どおり年額３万2,000円をお支払いしておりました。

あと、ただし書きですけれども、機能別団員も団員でございますので、直し方の手法、改正の手法ですね。その中で、機能別団員も団員でございますので、いろいろ検討したんですが、こういうただし書きの改正の仕方の手法としては適正ではないかということで、こういうような改正の仕方をさせてもらいました。それを別に区分けしているというわけではございません。

○議長（志関武良夫君）　ほかにございますか。

１番根本年生君。

○１番（根本年生君）　この辺の町場の団員は非常に少なくて、これから先、こういったことも考えていかなくちゃいけないなという思いが強くあるんです。

それで、なぜこれを下につけちゃいけないんですか、消防団としての重要な方ですよと。「ただし」というと、何かいてもいなくてもいいんじゃないかというような、そんなニュア

ンス。機能団員の方に対して何かちょっと、一生懸命やってくれている団員に対してどうなんでしょうか。それは難しいことなんですか。

○議長（志関武良夫君）　総務課長。

○総務課長（加曽利英男君）　機能別団員は、やっぱり一人の団員の中なんですね。団員として同じですので、そこでまた機能別団員というのは、総務省の消防庁とか、そういう見解がいろいろ出ている制度を設けたものですけれども、そこで団員の中に含まれるものですので、直し方の手法としていろいろ検討はしたんですが、ここに機能別団員と入れるのは余り適当ではないんではないのかなというようなことで、ただし書きで規定をしたと、例外規定を設けたと、そういう改正の手法ということでご理解をいただきたいと思います。

○議長（志関武良夫君）　１番根本年生君。

○１番（根本年生君）　じゃ、重要な団員であるという認識は持っているけれども、条例からいうとこういうふうになると、こういったふうにすることが適当であると、重要な団員であるという認識は変わらないよと。だけれども条例から見るとこうせざるを得ないと、こうするしかないんだということでいいですか。

○議長（志関武良夫君）　総務課長。

○総務課長（加曽利英男君）　機能別団員については要綱でもはっきり定めておりますし、非常に重要なものだと思います。今回の手法、ただし書きでやる場合には、本文よりも重要なことを定めることが多いというようなことで、逆に機能別団員は重要だということも言えるんではないかなというふうに考えております。一つ、いろいろ改正の手法はあると思いますけれども、例規の担当等もありますので、そういうものと相談して一番よい改正方法を選んだつもりでございます。

○議長（志関武良夫君）　ほかにございますか。

10番山田久子君。

○１０番（山田久子君）　機能別団員さんに対する報酬の支払い方法というのは、どういうような形になっておりますでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　総務課長。

○総務課長（加曽利英男君）　報酬ですから、本来個人にお支払いするのが当然ですけれども、今現在、いろいろ団からの、それぞれの所属する部とかそういうところに本人の了承を得て一括して振り込んでいることが多いわけですけれども、機能別団員については平成28年４月以降は個人にお支払いをするというようなことを聞いております。

○議長（志関武良夫君）　ほかにございますか。

10番山田久子君。

○１０番（山田久子君）　聞いておりますということは、役所から機能別団員に直接振り込まれるのではなくて、やはり団を経由して支払われるということなんでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　総務課長。

○総務課長（加曽利英男君）　聞いておりますというのはちょっと適切な表現ではなかったと思います。要するに、本人からの承諾がない限り、私たちは本人のところに振り込むわけですね。ですから、４月以降は機能別団員からそういう同意をしてもらわないで、機能別団員の個人の口座に振り込むというふうにすると。機能別団員のほうから所属のところに振り込んでくれということであれば、それは別ですけれども、そういうふうにしないというようなことを役員会のほうでは話は出ておりました。

○議長（志関武良夫君）　11番野中眞弓君。

○１１番（野中眞弓君）　機能別団員に対する火事のときの出動手当というようなものは出るんですか。

○議長（志関武良夫君）　総務課長。

○総務課長（加曽利英男君）　機能別団員は、団員ですから全く同じでございまして、例えば出動手当だとか、公務災害とか、そういうものは全く基本的な団員と同じです。機能別団員も団員の一人ということですので。

○議長（志関武良夫君）　11番野中眞弓君。

○１１番（野中眞弓君）　そうしたら、その手当の支払いも４月以降は個人への振り込みになるんですか。

○議長（志関武良夫君）　総務課長。

○総務課長（加曽利英男君）　機能別団員から、自分のところに払うといいますか、今までのように所属する部なり班なりではなくて自分のところということでございましたら、それはもちろんそういうふうにするようになります。ですから、役員会の話ですと、機能別団員については、これから報酬も出動手当も個人に払うというような話が出ておりました。

○議長（志関武良夫君）　ほかにございますか。

（「なし」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

本案については、討論を省略し、これから採決したいと思います。

ご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　異議なしと認めます。

これから議案第13号を採決します。

本案は原案のとおり決定することに賛成の方は挙手願います。

（挙手全員）

○議長（志関武良夫君）　挙手全員です。

したがって、議案第13号は原案のとおり可決されました。

会議中ですが、ここで10分間の休憩をとります。55分の開会とします。

（午後　３時４５分）

○議長（志関武良夫君）　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後　３時５５分）

◎議案第１４号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（志関武良夫君）　日程第15、議案第14号　平成27年度大多喜町一般会計補正予算（第９号）を議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　議案第14号の説明をさせていただきます。

57ページをお開きください。

平成27年度大多喜町一般会計補正予算（第９号）は、次に定めるところによる。

○議長（志関武良夫君）　課長、座ってください。座っていいです。

○企画財政課長（西郡栄一君）　すみません。

歳入歳出予算の補正。

第１条、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ22億5,526万6,000円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ76億9,783万4,000円とする。

第２項、歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は、「第１表　歳入歳出予算補正」による。

繰越明許費。

第２条、地方自治法第213条第１項の規定により、翌年度に繰り越して使用することができる経費は、「第２表　繰越明許費」による。

地方債の補正。

第３条、地方債の追加及び変更は、「第３表　地方債補正」による。

それでは、第２表、繰越明許費から順次ご説明させていただきますので、62ページをお開きください。

第２表、繰越明許費。表内の７事業を翌年度に繰り越して事業を実施しようとするものでございます。

初めに、款２総務費、項１総務管理費の小さな拠点事業700万円は、国の補正予算、地方創生加速化交付金事業で実施するため、年度内の完了が困難なことから、翌年度に繰り越すものでございます。

次の地域おこし協力隊事業300万円は、国の補正予算、地方創生加速化交付金事業として実施する観光客誘致事業に関連して隊員を募集するため、年度内の完了が困難なことから、翌年度に繰り越すものでございます。

次の電子計算業務費2,122万1,000円は、地域公共団体情報セキュリティ強化対策として国の補正予算で実施するため、事業の年度内の完了が困難なことから、翌年度に繰り越すものでございます。

次の項３戸籍住民基本台帳費の住民基本台帳ネットワークシステム事業290万4,000円は、地方公共団体情報システム機構での個人番号カードの発行が、機器トラブル等により今年度予定された枚数の発行が年度内に完了することが困難な見込みのため、翌年度に繰り越しを設定させていただくものでございます。

次の款３民生費、項１社会福祉費の年金生活者等支援臨時福祉給付金事業4,056万5,000円は、国の補正予算により実施する臨時福祉給付金事業で、事業の年度内の完了が困難なため、翌年度に繰り越すものでございます。

次の款６商工費、項１商工費の観光客誘致事業3,664万8,000円は、国の補正予算、地方創生加速化交付金事業で実施するため、年度内の完了が困難なことから、翌年度に繰り越すものでございます。

次の款８消防費、項１消防費の地域防災対策事業67万2,000円は、役場庁舎の非常用発電設備の設計業務を年度内に完了することが困難なため、翌年度に繰り越すものでございます。

以上、７事業の合計は１億1,201万円でございます。

次の第３表は、地方債補正でございます。

１、追加、起債の目的、一般補助施設整備等事業債。この起債につきましては、先ほど繰越明許費でご説明させていただきました電子計算業務費の情報セキュリティ強化対策として、国庫支出金と同額を起債するものでございます。限度額は580万円で、起債の方法、利率、償還の方法はほかの起債と同様でございます。

次に変更でございます。過疎地域自立促進特別事業債は、限度額4,050万円を210万円増額し、4,260万円に補正するもので、過疎対策事業の出産祝い金の財源措置として要望額が許可されましたので補正するものでございます。

次の上水道出資債は、限度額2,800万円を1,660万円減額し、1,140万円に補正するもので、南房総広域水道企業団に対する加入団体としての出資債で、実績による減額でございます。

次の道路整備事業債は、限度額7,110万円を630万円減額し、6,480万円に補正するもので、町道宇野辺当月川線の用地取得費、物件移転補償費の減額に伴うもので、辺地対策事業債を減額するものでございます。

次に、事項別明細書により歳入歳出補正予算の説明をさせていただきますので、66、67ページをお開きください。

初めに歳入でございますが、款１町税、項１町民税、目１個人町民税920万円の増額補正及び目２法人町民税460万円の減額補正につきましては、徴収実績及び見込みによる補正でございます。

次の、項２固定資産税1,620万円の増額補正は、徴収実績及び見込みによる増額でございます。

項３軽自動車税20万円の増額補正は、徴収実績によるものでございます。

項７入湯税150万円の増額補正は、実績見込みによる増額でございます。

款６地方消費税交付金4,000万円の増額、款８自動車取得税交付金420万円の増額補正、款９地方特例交付金28万1,000円の増額補正は、実績見込みによるものでございます。

款10地方交付税２億3,195万2,000円の増額補正は、交付実績に基づくものでございます。

款12分担金及び負担金、項１負担金、目１民生費負担金230万8,000円の増額補正は、実績による増額でございます。

目２衛生費負担金15万6,000円の減額補正は、いすみ市負担金の減額でございます。

目５給食費負担金180万9,000円の減額補正は、給食日数の減少によるものでございます。

次のページをお開きください。

款13使用料及び手数料、項１使用料、目３商工使用料3,000円の減額補正、目４観光使用料85万6,000円の減額補正、目６教育使用料10万2,000円の減額補正は、見込みによる減額でございます。

項２手数料、目１総務手数料７万円の増額補正、目３衛生手数料107万1,000円の減額補正は、見込みによる減額でございます。

款14国庫支出金、項１国庫負担金、目１民生費国庫負担金584万9,000円の増額補正は、法改正に伴う国民健康保険基盤安定負担金の増額と児童手当交付金の実績による減額が主な内容でございます。

目２衛生費国庫負担金21万4,000円の減額補正は、実績による減額でございます。

項２国庫補助金、目１総務費国庫補助金4,954万6,000円の増額補正は、国の補正予算に基づき実施する地方公共団体情報セキュリティ強化対策費補助金と地方創生加速化交付金の増額が主なものでございます。

目２民生費国庫補助金3,726万9,000円の増額補正は、臨時福祉給付金等給付事業費補助金の増額が主なものでございます。

次のページをお開きください。

目３衛生費国庫補助金42万1,000円の減額補正は、合併処理浄化槽設置整備事業費補助金で、実績見込みによるものでございます。

目４土木費国庫補助金427万円の減額補正は、社会資本整備総合交付金事業の町道増田小土呂線歩道設置工事、耐震補助の実績による減額でございます。

款15県支出金、項１県負担金の補正額の計589万8,000円の増額は、法改正に伴う国民健康保険基盤安定負担金の増額が主なもので、各節及び説明欄記載のとおりで、交付決定等に伴う実績見込みによる補正でございます。

項２県補助金、目１総務費県補助金60万2,000円の減額補正、目２民生費県補助金16万7,000円の増額補正、次の、目３衛生費県補助金92万5,000円の減額補正、目４農林水産業費県補助金519万7,000円の減額補正は、各節及び説明欄記載のとおりで、交付決定等に伴う実績見込みによる補正でございます。

次のページをお開きください。

目５商工費県補助金23万4,000円の減額補正、目６土木費県補助金８万5,000円の減額補正は、実績による減額でございます。

次の、項３県委託金、目１総務費委託金381万2,000円の減額補正は、実績による減額でございます。

次の、款16財産収入、項１財産運用収入、目１財産貸付収入143万4,000円の増額は、町有地の貸し付けによる増額と、光ファイバーケーブルの貸付収入の増額でございます。

目２利子及び配当金5,000円の増額補正は、基金の預金利子でございます。

款17寄附金、項１寄附金、目１指定寄附金10億8,301万円の増額補正は、ふるさと納税と奨学基金への指定寄附が１件、目２一般寄附金13万1,000円の増額補正は、２件の寄附でございます。

次の、款18繰入金、項１基金繰入金、目１財政調整基金繰入金１億3,536万9,000円の減額補正は、当初予算において財源措置いたしましたが、財政資金に余裕が生じたことから減額補正するものでございます。

次の、目２交通災害共済基金繰入金から目５福祉基金繰入金は、それぞれ充当先の実績に伴う繰入額の減額でございます。

目６ふるさと基金繰入金８億6,941万1,000円は、ふるさと納税額の増額に伴う返礼品等に７億6,941万1,000円を見込むとともに、一般廃棄物処理施設建設基金に１億円充当させていただくものでございます。

次の、項２特別会計繰入金、目１国民健康保険特別会計繰入金49万2,000円の減額補正は、実績による補正でございます。

次のページをお開きください。

次の、款19繰越金5,593万1,000円の増額補正は、前年度繰越金でございます。

款20諸収入、項２延滞金、加算金及び過料、目１延滞金40万円の増額補正は実績見込みによる増額で、項２町預金利子27万7,000円と、次の、項３受託事業収入、目１後期高齢者医療広域連合受託事業収入20万1,000円の増額補正は、額の確定による補正でございます。

項４雑入、目２滞納処分費３万6,000円の減額補正は、実績による減でございます。

目３雑入1,623万6,000円の増額補正は、次のページにわたりますが、説明欄記載のとおり、それぞれ実績見込みに伴う増減でございます。

次の77ページをお開きください。

説明欄の総合賠償補償保険金は、大多喜中学校生徒損害賠償請求事件時の弁護士費用として、平成25年度に支払った金額に対する保険金等でございます。

款21町債でございますが、第３表でご説明させていただきましたので、説明を割愛させて

いただきます。

次に歳出予算につきまして、先に給与費明細書により給与改定等の補正額を説明させていただきますので、110ページ、111ページをお開きください。

１、特別職の表中、区分欄の比較で説明させていただきます。

長等の項、期末手当の11万9,000円は、給与改定に伴うものでございます。

共済費60万2,000円の減額は、給与改定分の増額１万8,000円と予算の減額に伴うものでございます。

議員の項の共済費160万5,000円の減額は、予算の減額によるものでございます。

その他特別職の項の103万1,000円の増額につきましては、地域おこし協力隊員の報酬の増と千葉県議会議員選挙時の選挙管理委員及び投票管理者等の報酬の減を相殺したものでございます。

次のページをお開きください。

２、一般職の１号、総括の表は、給与改定に係るものと育児休業に係る減額や各種手当の過不足額を見込み計上しました。比較の項の給料は40万4,000円の増額、職員手当は313万3,000円の増額、計353万7,000円の増額、共済費は74万円の増額で、合計額は427万7,000円の増額でございます。

次の職員手当の内訳の表の期末勤勉手当453万8,000円は給与改定によるもので、次に２号の給料及び職員手当の増減額の明細の表をごらんください。

給料は40万4,000円の増額で、内訳は給与改定に伴う増額分132万円と育児休業に伴う減額91万6,000万でございます。

次の職員手当313万3,000円の増額の内訳は、458万3,000円が給与改定に伴う期末勤勉手当等の増額で、その他の増減分145万円の減額は、千葉県議会議員選挙に伴う減額268万円と各種手当の過不足額123万円でございます。

次に歳出予算の説明をさせていただきます。

78ページをお開きください。

歳出予算につきましては、事業等の実績見込みによる補正や給与改定等に係る人件費の補正については一部割愛して説明させていただきますので、あらかじめご了承ください。

初めに、款１議会費、項１議会費142万7,000円の減額補正は、人件費補正が主な内容でございます。

款２総務費、項１総務管理費、目１一般管理費130万4,000円の増額補正は、人件費補正が

主な内容でございます。

次のページをお開きください。

目２文書広報費40万5,000円の増額補正及び目３財政管理費100万4,000円の減額補正は、実績による増減でございます。

目４会計管理費５万9,000円の増額補正は、支払い通知書を送付する窓つき封筒の印刷製本費でございます。

目５財産管理費１億2,037万6,000円の増額補正は、庁舎管理基金及び財政調整基金への積み立てが主な内容でございます。

目６企画費18億6,754万2,000円の増額補正は、ふるさと基金への積立金として10億8,876万円で、ふるさと納税額10億8,300万円と、前年度の出納整理期間に受領した寄附金576万円をあわせて積み立てるものでございます。ふるさと納税事業は、ふるさと納税の返礼品、受領証明書や感謝券の郵便料、代理収納システムは決済金額の１パーセントに消費税を見込んでおります。

次の小さな拠点事業は、中野駅周辺の活性化を図るため、専門業者等にアンケート調査の集計、分析、モデルコースの作成、周辺マップの作成や会議の支援業務を委託しようとするものでございます。

次の地域おこし協力隊は、次のページにも続きますが、隊員の報酬と研修時の旅費、住居借上料、研修会参加負担金等でございます。

目７電子計算費2,061万6,000円は、町の情報セキュリティ強化対策委託料等でございます。

目８諸費1,710万9,000円の増額補正は、実績による減額と地方創生先行型事業及び上乗せ交付金事業の還付費でございます。

次の、項２徴税費、目１税務総務費41万6,000円の増額補正と、目２賦課徴収費30万8,000円の減額補正は、人件費補正と実績による補正でございます。

次のページをお開きください。

項３戸籍住民基本台帳費131万1,000円の増額補正は、個人番号カード等関連事務費交付金が主なものでございます。

項４選挙費、目２千葉県議会議員選挙費380万3,000円の減額補正は、無投票のため減額するものでございます。

次の、項５統計調査費、目１統計調査総務費４万7,000円の増額補正、目２各種統計調査費9,000円の減額補正は、人件費補正と実績による補正でございます。

次のページをお開きください。

項６監査委員費９万9,000円の減額補正は、報酬の減額等でございます。

次の、款３民生費、項１社会福祉費、目１社会福祉総務費１億2,732万3,000円の増額補正の主な内容は、国保基盤安定負担金の増額、臨時福祉給付金事業の減額、そして、次のページにも続きますが、年金生活者等支援臨時福祉給付金事業は対象者一人に３万円の給付金を支給するもので、福祉基金積立金は地方消費税交付金の社会保障財源分相当額を積み立てるものでございます。

目５介護保険事業費99万5,000円の増額補正は、介護保険特別会計繰出金の増額が主な内容でございます。

目６後期高齢者医療費80万6,000円の減額補正は、実績見込みや負担金の確定等による補正でございます。

項２児童福祉費、目１児童福祉総務費170万1,000円の減額補正は、次のページにわたりますが、人件費補正と実績見込みによる補正でございます。

次の、目２児童措置費449万円の減額補正と、次の、目３母子福祉費15万7,000円の減額補正は、実績による補正でございます。

次の、目４児童福祉施設費527万1,000円の減額補正は、保育園管理運営事業は臨時職員の雇用人数の減、厨房用器具とパイプ椅子の購入、つぐみの森保育園の配膳室の空調設備工事やブランコのつり下げの購入が主な内容で、その他、実績見込みによる増減でございます。

次のページをお開きください。

款４衛生費、項１保健衛生費、目１保健衛生総務費42万1,000円の増額補正の主な内容は、国保国吉病院の負担金の増額で、千葉県医師不足病院医師派遣促進事業の実施に伴う町の負担分でございます。

次の、目２予防費57万7,000円の減額補正は、実績見込みによる補正でございます。

目３環境衛生費６万1,000円の減額補正は、電気自動車充電設備工事の増や合併処理浄化槽設置整備事業の減、その他、実績見込みによる減額でございます。

目４母子保健事業費30万円の減額補正は、実績見込みによるものでございます。

次のページをお開きください。

次の、目５火葬場費38万1,000円の減額補正は、実績によるものでございます。

目６地域し尿処理施設管理費107万円の増額補正は、コミュニティ・プラントのブロアのオーバーホールを行うものでございます。

次の、項２清掃費、目１清掃総務費１億2,621万8,000円の増額補正は、一般廃棄物処理施設建設基金に１億2,600万円積み立てるものでございます。

目２塵芥処理費391万7,000円の減額補正は、いすみクリーンセンター塵芥処理負担金の減額が主な内容でございます。

項３上水道費、目１上水道運営費1,660万1,000円の減額補正は、南房総広域水道企業団への補助金と出資金の減額でございます。

款５農林水産業費、項１農業費、目１農業委員会費13万3,000円の増額補正は、次のページに続きますが、人件費補正と耕作放棄地利用意識調査に伴う返信用切手代でございます。

次の、目３農業振興費465万1,000円の減額補正の主な内容は、青年就農者確保育成給付金事業の対象者１名の減、都市農村交流事業は移住に関する業務について減額するものでございます。

次の、目４畜産業費１万1,000円の減額補正は、県草地協会の開催に伴うものでございます。

次の、目５農地費249万5,000円の減額補正は、多面的機能支払交付金事業の面積の変更等による減額が主な内容でございます。

目６農業施設費37万1,000円の増額補正は、集落センターのブラインドの設置や味の研修館及び農村コミュニティセンターの管理運営に係る補正でございます。

次のページをお開きください。

項２林業費、目１林業総務費44万円の減額補正の主な内容は、有害鳥獣捕獲数の増加、猿が22頭、イノシシが130頭、鹿が68頭に伴う報奨金の増額と有害鳥獣被害防止実施団体補助金は実績による減額でございます。

目３大多喜県民の森運営費20万3,000円の増額補正は、人件費補正と外時計の修繕料でございます。

款６商工費、項１商工費、目１商工総務費12万5,000円の増額補正は、人件費補正と消費生活相談員謝礼の減額でございます。

目２商工業振興費44万3,000円の増額補正は、企業誘致及び雇用促進に関する条例に基づく事業所設置奨励金１社と、大多喜駅前の歓迎塔の修繕に係る補助金、商い資料館の雨どいの修繕料でございます。

次の、目３観光費3,643万6,000円の増額補正は、次のページに続きますが、中野駅のトイレの修繕と、次の101ページの観光局誘致事業は、地方創生加速化交付金を活用して、多様

な関係者と連携し、各種データに基づき戦略的に観光客の誘致を実施するため、観光協会と町でともに事業を推進する予定で、観光客誘致業務委託料は関係者との協議会の設置、アンケート調査及び分析、講演会の開催、専門人材の雇用、二次交通の計画策定、モデルコースの作成、先進地視察、宿泊型モニターツアーなど、町観光協会や専門業者へ委託して実施しようとしているもので、町の紹介動画の外国語版ＤＶＤの作成委託、町記者養成事業による情報の発信、町の観光モデルコース作成委託、備品購入費は公用車両の購入で、体験型観光の創設に向けて関係団体助成金を計上させていただきました。

次の、款７土木費、項１土木管理費は、補正総額306万2,000円の減額でございます。人件費の補正と実績見込みによる補正でございます。

項２道路橋梁費、目１道路維持費436万4,000円の増額補正は、バックホー等の特定自主点検やショベルローダーの修繕、次のページの舗装補修材料が主な内容でございます。

目２道路新設改良費1,911万5,000円の減額補正は、町道増田小土呂線、町道中野大多喜線の委託料と工事請負費の執行残の減額補正と、補償補塡及び賠償金は、船子東前線や町道宇野辺当月川線の施行区域の見直し等による減額でございます。

目３橋梁維持費336万5,000円の減額補正は、工事の執行残の補正でございます。

項４住宅費、目１住宅管理費29万7,000円の減額補正は、使用料納付書の印刷と補助金の実績による減額でございます。

目３住宅助成費231万6,000円の増額補正は、住宅取得奨励金等の実績見込みによる補正でございます。

款８消防費、項１消防費、目２非常備消防費68万円の減額補正は、実績見込みによる補正でございます。

次のページをお開きください。

目３消防施設費69万7,000円の減額補正は、小型動力ポンプ付積載車の執行残の補正でございます。

目４災害対策費73万9,000円の増額補正は、役場庁舎の非常用発電機設置工事設計業務などでございます。

款９教育費、項１教育総務費、目２事務局費２万3,000円の減額補正は、人件費補正と指定寄附金を奨学基金へ積み立てるものでございます。

次の、項２小学校費69万7,000円の減額補正の主な内容は、光熱水費の実績見込みによる減額と西小学校受水槽の塗装工事等でございます。

項３中学校費、目１学校管理費47万円の増額補正は、実績見込みによるものでございます。

目２教育振興費15万9,000円の増額補正は、女子の千葉県中学校新人駅伝大会に大多喜中学校が参加する補助金でございます。

次のページをお開きください。

項４社会教育費、目１社会教育総務費13万3,000円の増額補正と、目２項公民館費47万9,000円の減額補正は、人件費補正と実績見込みによる減額でございます。

目３図書館費37万4,000円の増額補正は、カーテンの購入でございます。

目４文化財保護費７万9,000円の増額補正は、土器の整理用のテンバコを購入するものでございます。

項５保健体育費、目２学校給食費34万2,000円の減額補正は、人件費補正と給食日数の減少による賄材料費の減額、排水処理施設の原水ポンプ、チャッキ弁の交換工事、菜皿の購入、その他実績見込みによる増減でございます。

目３体育施設費31万4,000円の増額補正は、野球場の出入口の扉の修繕やホームベースの購入などで、次のページのプールの腰洗い場の撤去や大型浄化槽の汚泥の引き抜きが主な内容でございます。

以上で、平成27年度大多喜町一般会計補正予算（第９号）の提案説明とさせていただきます。

よろしくご審議くださるようお願いいたします。

○議長（志関武良夫君）　説明が終わりました。

これから質疑を行います。

質疑ありませんか。

６番江澤勝美君。

○６番（江澤勝美君）　ちょっと教えてもらいたいんですけれども、ページが101ページ、観光客誘致事業、観光地誘致業務委託料、これはどういうものをどこに委託するのかということと、観光モデルコース作成委託料とありますけれども、どこにどういうコースをつくるのか。それと、体験型観光関係団体助成金、これは恐らく観光協会だと思うんですけれども、この助成先、できたらお願いします。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　この委託料につきましては、観光協会と、あと専門的な業者がそれぞれあります、観光業の専門の業者とか、そういうものを選択しながら委託していき

たいというふうに考えております。

それと、モデルコースの作成委託料ですけれども、これにつきましては、それぞれいろいろな施設がございます。そういう施設の方に逆に考えていただいて、町内の方にそういうモデルコースのもとを考えていただくというようなことも想定しております。ただ、実際的にはどういう形にこれからなっていくのかというのは、これから十分に検討していかなくてはならないというふうに考えておりますけれども、今の段階ではそういう考えでおります。

それと、体験型観光関係団体助成金ですけれども、これにつきましては、一つの例として、甲冑体験とか、そば打ち体験とか、タケノコ掘り体験とか、そういう体験型観光というものを想定しております。これにつきましては、例えば甲冑体験、手づくり甲冑会等がございますけれども、これは特にそういうのを目的としてつくっているわけではございませんので、そういう目的に観光体験できるようなものができるかどうか。もしやるとなればかなり費用もかかってくると思いますので、そういう面で協力していけるのであれば推進したいというふうに思っております。

また、ほかのところも、いろいろな二次交通とかの問題、あるいはＰＲする費用とか、そういうものもかかると思っておりますので、そういうものは、それぞれ団体とこれから協議を重ねていって交付するような形になろうかと思います。

○議長（志関武良夫君）　６番江澤勝美君。

○６番（江澤勝美君）　もう一点だけちょっとお願いしたいんですけれども、観光協会も社団法人になりまして、自由に収益を上げられるようになりましたけれども、年間どのくらい売り上げがあるかわかりますか。大体、おおよそで結構です。

○議長（志関武良夫君）　産業振興課長。

○産業振興課長（野村一夫君）　手元にちょっとデータがないんですけれども、去年からすると大分売り上げがふえています。

以上です。

ちょっと数字は今データがないのでわかりません。

（「では、後で結構です」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　ほかにございますか。

１番根本年生君。

○１番（根本年生君）　今と同じ関連で、町紹介外国語ＤＶＤ、これは以前町のＰＲをするということで、ＤＶＤをやっぱりこのくらいの300万円ぐらいかけてつくったと思います。そ

れは議会の中でも何回か質問したと思いますけれども、有効利用が図られていない。今、そのものがどのように有効利用されているのか。最近どこでそれを流しているのかもわからないし、どのように使われているのかもさっぱりわからない、私には。私が勉強不足で申しわけないですけれども、皆さん、ほかの議員さんたちはどこかで見ているよというのかもわからないけれども。

これもつくったはいいけれども、その後、これを要はどのように利用するんだというようなことが明確でないと、前回と同じようなことになって、つくったけれども、どこかもうたんすの中にしまいっ放しとか、そういったことになりませんか。今回は前と違って有効利用されるんでしょうね。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　今回作成しようとこちらで考えているのは、今ある日本語版を外国語版にしようということで考えております。ですから、プロモーション的な意味で作成させていただいて、国内というよりも国外の人を対象にした町の紹介というふうに考えておりますので、英語版を大多喜で流すというわけにはなかなかいかないと思いますので、それぞれほかのところでご紹介させていただく。もちろん町の中でもそういった形でいろいろな言葉で見られるふうにはしたいと思っておりますけれども、考え方としては、いろいろなところでプロモーションをやったりするときに使用させていただこうというふうには考えております。

○議長（志関武良夫君）　１番根本年生君。

○１番（根本年生君）　すみません。では、前つくった町内のＤＶＤ、今どのようにどこで活用されているのか。

私、今度高速バスが走るので、前にちょっと言ったことがあるかと思いますけれども、議会では言ってないかもわからないけれども、高速バスで走らせるときに、バスにモニターがあって、あれ、小湊バスの自分のところの宣伝とか何か、京急の自分のところの宣伝のあれは流しているけれども、そこで流したらどうだろうかと。大体大多喜発着で大多喜に来る人しか乗っていないんだから、そこで有効利用したらどうかと言ったけれども、ちょっとまだそこでは流れていないような気がします。

だから、今どこでどういった形で有効利用されているのか。それでまた、危惧しているのは、これをつくったはいいけれども、また同じようなことになるんじゃないんですかということを危惧しているんで、つくってはいけないと言っているわけじゃないんですよ。これを

本当に有効利用してもらいたいんです。さっき財政課長、こうこうと言ったけれども、それも具体的じゃなくて、ここに使いたいと思う、使いたいと思うということで具体的ではない。ここに使うんだ、こうするんだという明快な答弁がなかったような気がします。そこをもう一度お願いします。

○議長（志関武良夫君）　産業振興課長。

○産業振興課長（野村一夫君）　前につくったＤＶＤは、今、観光本陣でお客さんが来たときに流していると聞いています。それから、バスが来ますね。町内を歩くバスの中で流してもらうために、バスの人に渡していると聞いています。

○議長（志関武良夫君）　１番根本年生君。

○１番（根本年生君）　では最後の質問なんですけれども、今、課長が言ったのは、私が知っている限りやっていません。聞いたら何かテレビの都合が、あれ、テレビとか何か、そういった施設がそれにうまく合わなくて流せないということを聞いています。

それで、当初そういったようにバス会社に渡すということを言ったことを、そういった話を私も聞いています。でも実際には流れていないと思います。ですから、本当に有効利用してもらいたいんですよ。こんなことのないようにしっかりやってもらいたいんですけれども、しっかり使うよという答弁をお願いします。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　それぞれ、制作させていただいたものについてはしっかりと使用させていただきたいというふうに思います。

○議長（志関武良夫君）　11番野中眞弓君。

○１１番（野中眞弓君）　先ほどＤＶＤのことについて、英語と外国語版をつくるということでしたよね。外国語版で外国人に誘致をかける。来られたときの受け皿というのはできているんですか。それがなくて、受け皿がなくて来られて、どうやって町内を味わってもらうのか。結局、何か外国語版でつくります、外国に広げていきますと言ったって、現実は今度は人間って口コミが大きいから、あそこに行ったけれども何にも通じないと言って、何にもわからなくておもしろくなかったということになって、それが口コミでいったらかえってマイナスになっちゃうと思うんですけれども、受け皿はどうするんですか、外国人の。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　町内にも少しずつ外国人の方がふえてきております。宿泊先にもそういうお話がございます。いろいろな地域の人とお話ししたときに、例えば食事する

ときに言葉が通じなくても、指さしで言葉が、御飯が食べられるというような、そういった形でもできるというふうに伺っております。

やはり来ていただいて、言葉がもちろん通じれば一番いいんですけれども、なかなか言葉が全ての方に通じるわけではないというふうには十分理解しております。ただ、宿泊先によっては言葉が通じる場所もあるでしょうけれども、言葉が通じなくても指さしでほとんどが用は足りるんだよというのが、ほかのところで来ている外国人の方、例えば近隣の市なんかでも来ているんですけれども、そういうところにも修学旅行なんかが来ているんですが、ほとんど通じなくても大丈夫だよ。指さしでもう何が欲しいんだ、これが欲しいんだ、こういう状況なんだというのでほとんどわかるようなものがあれば、それで大丈夫ですということで伺っております。

昨年といっても今年度なんですけれども、今年度になって外国人の方、中国人の方に来ていただいて、こちらに来て商店の方とそれぞれ協議を、講習会を開催させていただいて、その中でもそういうお話で話は進んでいたところでございます。

○議長（志関武良夫君）　ほかにございますか。

10番山田久子君。

○１０番（山田久子君）　私も同じところで、情報発信業務委託料というのが700万円上がっておりますが、これはどういった情報をどういった業者さんに頼む予定でいらっしゃるんでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　この情報発信というのは町記者の養成事業ということで、町記者の大勢の皆さんにそれぞれ情報を発信していただこうということでございます。これは地域の魅力や有用な情報を発信するボランティア記者のことだということで、地元の魅力を発信する記者養成の、この目的ですけれども、やはり町の情報発信力を高めて、町を活性化すること。編集した作品を多様なメディアで紹介しながら誘客し、観光や商業振興、交流促進を図りますということで、比較的このお話を聞いたときには、発信される方というのは、大多喜に当てはめればなんですけれども、町内で事業をやられている方なんかが自分のものを発信するのも非常に大切なんだということでございます。ですから、いろいろな方がＳＮＳを活用して、それぞれの情報をそれぞれ発信していただく。それで大多喜町を紹介していただくというのが非常に大切なものだというふうに思っております。そういった事業を実施する予算でございます。

○議長（志関武良夫君）　10番山田久子君。

○１０番（山田久子君）　これは何名ぐらい、どのような方を養成するつもりでいらっしゃるのか。

今、課長がおっしゃったように、今、ＳＮＳが大変、載りますとあっという間に情報が広がります。そういう意味ではわざわざ養成をしなくとも、町に魅力のあるもの、町に魅力のある商品があれば、多くの人に来ていただいて、それがもう自動的に、大多喜町はこんなにいいものがあるわよ、こんなに楽しいものがあるわよ、こんなにすばらしいものがあるわよということで発信をしていただける時代になっているのではないかと思います。

ですから、この700万円のお金をかけて、この町記者を養成するだけのものが本当にあるのか。逆に、そこに700万円をかけて、もっと魅力ある町になるような、そういった投資のほうに回すほうがいいのか、ちょっとそういう疑問があるんですけれども、この点、いかがでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　700万円というのはまだ概算の事業費でございまして、あくまでも業者が提示してきたものでございます。それに基づいて計上させていただきましたけれども、やはりやる段階では十分に中身を絞って、果たしてそれだけのお金をかけて効果があるのかというようなことも十分検証しながら実施していきたいというふうには思っております。

（「何名ぐらい」の声あり）

○企画財政課長（西郡栄一君）　これは何回かに分けて実施するというような形になっているかと思います。１回大体20名程度でやって、あとこれを何回か開催するんですけれども、それに継続して出ていただいて、それで、やはりこういうものに興味のある人に集まっていただいて、それでみんなで大多喜町の情報を発信してもらう。いろいろなところを散策しながら自分たちでモデルコースをつくって、それを発信してもらうと、そういうところまで一応含めてというふうに考えております。

○議長（志関武良夫君）　ほかにございますか。

11番野中眞弓君。

○１１番（野中眞弓君）　モデルコースの作成みたいなものがありましたよね。先ほどの説明だと、いろいろな観光施設の方たちに考えてもらうというような内容をおっしゃっていましたけれども、具体例としてどんなふうなことを考えていらっしゃいますか。

私なんかは、ちょっと散策みたいなことをされて、自分の生活圏によその人がドヤドヤと入ってこられるというのはすごく嫌だなという思いがあるんですね。勝手に観光コースなんて決められると、観光とはかかわり合いのない生活をしている人は認めがたい気がするんです。ですから、コースを選ぶときには、やはり地元の人の承諾を得るとか、そういうことをしないと問題が起きてくるんじゃないかなと思うので、具体的にどういうことを考えていらっしゃるのか伺いたいと思います。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　それは、先ほどのちょっと700万円と切り離して一旦お答えさせていただきたいと思うんですけれども、町内にはいろいろな観光施設がございます。その中で、例えば東京から来るときにどういうコース、モデルコースが一番自分の観光施設に来てもらうのにいいのか。例えばバスで来た場合、あるいは電車で来た場合、自家用車で来た場合、こういうコースがありますよとそれぞれの観光施設自体に考えていただくというのも、これは一つの考え方ではないかなというふうに思っております。

ですから、町で全部、あるいはこの先で全部決めるんじゃなくて、やはりそれぞれの事業者の方が考えていただくというのも非常に大切なんじゃないかなというふうに考えております。それをモデルコース的なものにしていただく。それがやはり一番よろしいんじゃないかなというふうには考えていますけれども。

○議長（志関武良夫君）　ほかにございますか。

９番吉野僖一君。

○９番（吉野僖一君）　教育費の学校管理費で、せんだってＰＴＡ……

○議長（志関武良夫君）　ページ。

○９番（吉野僖一君）　ページが104ページ。ここには出ていないんですが、西畑小、老川小と一緒になるときに、あれができたときにも、プールの更衣室をつくってくれということはもう前々から要望してあって、自分もてっきりできたと思っていたんだけれども、「吉野さん、まだ更衣室ができていないんですけれども、どうなっているんですか」ということなのでちょっとお伺いしたいんですけれども、この間教育課長に聞いたら、予算請求のときにいつも何か流されちゃうと言うんだけれども、そういうあれじゃちょっと困るんで、やっぱり約束事はちゃんと守ってくれないと困る。ちょっとお願いします。条件つきなの。

○議長（志関武良夫君）　教育課長。

○教育課長（野口　彰君）　西小学校のプールに関します更衣室、それについては伺っており

まして、プールも大分建設してからたちますので、そういうこともございまして、今後こういう更衣室、どういうものを、どういう方向でつくったらいいかということを、また財政とも相談しながら協議していきたいと思っております。

○議長（志関武良夫君）　９番吉野僖一君。

○９番（吉野僖一君）　やはり老川小と統合するときに、それが条件に入っておるので、それはもうとっくにできているつもりでおったんですけれども、ＰＴＡの会員から来られまして、中学校の統合の問題の当日だったかな、来まして、「吉野さん、それは約束事で、まだできていないんだけれども、どうなっているんですか」ということで、今、老川地区の委員、正木さんがいないので、多分私にということだったと思うんですけれども、できるだけ善処をして現場の声を聞いて、ＰＴＡと学校と前向きに早急に善処してください。お願いします。

○議長（志関武良夫君）　ほかにございますか。

11番野中眞弓君。

○１１番（野中眞弓君）　地域おこし協力隊事業、事業内容の説明をお願いします。

先ほどちょっと観光誘致と関連してというふうなことを触れられておりましたけれども、お願いします。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　この観光施設の誘致事業でございますけれども、やはり人材が不足しているというのは否めないところでございます。これだけのものをやるのに、今の人材の中で全てやろうというと、やはり非常に厳しいものがございます。

そういう中で、スタッフ人材の一人として、この地域おこし協力隊員が活用できないかということで、これから募集してみようということでございます。

○議長（志関武良夫君）　11番野中眞弓君。

○１１番（野中眞弓君）　どんな人、人材を募集するんでしょうか。

既に勝浦市とかいすみ市では取り入れていると思うんです。これは勝浦の広報なんですけれども、多分地域おこしの方がつくったページが１ページ毎月載っている。それから、同じかと思ったら、いすみ市の場合は何か９人くらいの地域おこし隊の方が順番に執筆して報告をしている。目的をきちんと持って、それに沿った優秀な人材に来ていただかないと、力にはそうなり得ないんじゃないか。地域おこし隊の町民への訴え方なんかを見ても、片方はぐんと人を引きつけるような報告がしてある。片方は行政がやるのと大して変わりのないような町民への働きかけしかできていない。その辺で何か不安があります。安くないお金で、し

かも何かばたばたと大して検討しないものに取り組んでいるような気がして不安でなりません。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　地域おこし協力隊にはいろいろな方がいらっしゃいます。それこそ多種多様で、一切町にも来ないような方もいらっしゃれば、場所によっては町の移住促進の担当をやったり、あるいは観光の担当をやったりされている方もいらっしゃいます。ですから、今回は仕事をいずれ３年先につくってもらわなくちゃいけない。３年間は地域おこし協力隊ということで報酬を払うような形ですけれども、４年目は定住していただかなくちゃいけないという形になろうかと思います。したがいまして、町で雇用して、ある程度安定的な仕事につく中で、地域との触れ合いを大切にしていきながら、地域でいろいろな活動ができるようなものも今は考えているところでございます。

ですから、全てが、例えば先ほど議員が言われたように、勝浦市なんかは本当に宣伝、ＰＲということで専門的にやられている方だと思いますし、いすみ市さんあたりだと、逆に行政の中に入っていろいろなことをやられているというような側面もございます。広報に載せるというのは、やはり地域の人と連携感を持つという意味では非常に大切だと思いますので、そういった面は町としてもこれから推進していきたい。もし地域おこし協力隊員の希望者がいるようであれば、それは地域の人を皆さんにやはり知っていただかなくちゃいけないので、それについては積極的に広報等でＰＲしていきたいというふうに思います。

○議長（志関武良夫君）　ほかにございますか。

10番山田久子君。

○１０番（山田久子君）　81ページ、小さな拠点事業についてお伺いをいたします。

今も中野駅周辺の拠点事業ということで、検討委員会等でお話をしていただいているかと思いますが、この各種事業支援業務委託料ということで先ほどちょっとお話があったんですけれども、私どもが聞いているところによりますと、地域の皆さんのお声が大事である、地域の皆さんのお力が大事である、地域の皆さんのそういったものを踏まえてというふうに伺っております。その中で、この業務委託というのが出てきていることについて、ちょっと矛盾を感じてしまっているところもあるんですけれども、この辺の考え方といいますか、もう少しこの辺を詳しく教えていただきたいんですけれども。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　これにつきましては、やはり今行っている会議の支援とか、

そういう側面的なものをお願いしたいと。例えばアンケート調査もやります。アンケート調査の項目は皆さんが決めるんですけれども、それの集計とか分析、そういったものは専門の業者にお願いしたいというふうに考えております。あるいは、関係する皆さんで先進地に行かれたりする、そういう計画なんかもやっていただいてもいいのではないかなというふうに考えています。やはり22名の委員がいらっしゃいますので、１日２時間の会議で全員の方の意見を細かく集約することがなかなかできないので、いろいろなワークショップとか、そういう運営方式も指導していただきながら、いい方向に持っていければいいなということで、あくまでも主体は地域の皆さんというふうに考えております。

○議長（志関武良夫君）　10番山田久子君。

○１０番（山田久子君）　先進地の視察の費用を出していただけるということであれば、それは大変ありがたいことだと感じます。

業者さんへ今、アンケート調査、集計、分析ということでありますけれども、これは、どのくらいのお金を業者さんに払う金額としてこの中から見積もっていらっしゃるのか、教えていただきたいんですが。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　委託する項目も多分、その段階で十分検討する必要があろうかと思いますけれども、一応２者から見積もりをいただきまして、安いほうの金額がおおむねこのぐらいの金額でございます。

○議長（志関武良夫君）　10番山田久子君。

○１０番（山田久子君）　それは私どもは参加していないのでわからないんですけれども、この検討委員会の委員の中からそういう話が出ているのか、そういったことも了承いただいているのかどうか、その辺はどうなんでしょうか。

私が思いますのは、確かにまとめていくのは大変難しいと思います。しかし、業者さんが入りまして立ち上がりました。その後、今度まとめる人がいなくなりました、続きませんということでは、やはりこの事業を継続していくという部分では非常に難しいのではないかなと思います。

そういった部分におきましては、逆にその業者さんを入れるのであれば、そういう地域の皆さんが自分たちでこういったものを立ち上げていく、まとめていく、また継続をしていくための、そういうコンサルティング的な能力といいますか、そういうものを培っていけるような、そういう指導をしてくださる業者さんを使ってもらいたいなと思うんです。業者さん

が来ました、立ち上がりました、いなくなりました、解散しちゃいましたというのでは困っちゃうんですね。その地域の人たちが今度自分で自主運営をしていけるような、そういう人材を育てるための業者さんというのを活用していただくような、そういうふうな形のほうが私はありがたいのではないかなと思うんですけれども、その辺というのはいかがなんでしょうか。

◎会議時間の延長

○議長（志関武良夫君）　議員の皆さんにちょっと申し上げます。

間もなく５時になりますが、議事の都合により延長といたします。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　地域の人たちには、この前の会議、２月に行った会議のときに一応、そういう形で予算がつけば実施してみたいんですけれどもというお話はさせていただきました。そうしたら、ぜひお願いしたいということでございました。

あと、自主運営できるような人材育成ということでございますけれども、やはり人材育成をするものとは若干違うのかなというふうには思っておりますけれども、ただ、地域の人たちがあくまでも最終的に自主運営ができるように、類似のものも結構日本全国あると思いますので、そういうものの事例をアドバイザーとしていろいろ教えてあげて、一番いい方向に持っていけるような、専門的なノウハウを生かしていただければというふうに思っております。

○議長（志関武良夫君）　ほかにございますか。

11番野中眞弓君。

○１１番（野中眞弓君）　業者選定なんですけれども、どういうふうな形でコンサルティング事業をするのかという内容についてはプレゼンテーションを受けているんですか。幾ら安くても、何か中身がざっぱくだったら、結局は安物買いの銭失いになっちゃうと思うんです。こういう知的なものというのは、やはり内容をきちんと精査していくことが必要なんじゃないかと思うんですけれども、どうでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　この地方創生の加速化交付金ですけれども、まだ内示があったわけでも何でもございません。現実的には1,000億円に対して1,253億円の要望があるとい

うことでございます。そういう中で大多喜町が要望したのがどのぐらい認められるかというのがまだまだ不明確な状況でございますけれども、一つは、委託する場合には、やはりプレゼンテーションとか、あるいは町が何をお願いしたいんだ、あるいは地域の人が何をお願いしたいんだというのはやはり明確に出さなければならない。それは議員のおっしゃるとおりだと思います。そういう中で、しっかりしたものに対して、町のコンセプトをつくって、それに対してプレゼンテーションをしてもらう、そういう中で業者を決定していく。手法としては、そういう議員のおっしゃるとおりの方法をこれからとっていこうというふうには考えております。

○議長（志関武良夫君）　ほかに質疑ありますか。

９番吉野僖一君。

○９番（吉野僖一君）　先ほど、ちょっとページ数はあれなんですけれども、中野駅のトイレの改修ということで言われたんですけれども、今丸いトイレなんですけれども、水洗で多分なっていると思うんですが、どのような改修。

○議長（志関武良夫君）　産業振興課長。

○産業振興課長（野村一夫君）　中野のトイレに関しては、センサーが１カ所壊れて直しましたけれども、特に今はあのトイレを改修するというようなことは考えておりません。

○議長（志関武良夫君）　ほかにございますか。

１番根本年生君。

○１番（根本年生君）　すみません、観光客誘致事業というのは何ページでしたっけね。これは収入の繰越明許……

○議長（志関武良夫君）　101ページだ。

○１番（根本年生君）　すみません、観光客誘致業務の関係ですね。誘致事業3,664万円、これは加速化交付金を充てるということで確か２月の初めに県の報告で、２月の半ばごろ国に申請ですかね。これは採択が決まったのかどうか、ちょっとその辺、本当は調べればわかるんでしょうけれども、採択が決まったのかどうかということと、この内容。以前、全員協議会か何かのときにその内容については説明があったと思います。それで、これが10分の10という説明だったのかなと思います。それで、これをやるに当たって、この3,664万円のほかに、あと町のまた支出も考えられるのか。

それと、これは見てみると大変すばらしいことなんだけれども、これはなかなか大変な事業だと思います。簡単にできるものではない。ですから、この体制づくりがどうなっている

のか。何か一部では観光協会のほうにお願いしたいというお話もあるようですけれども、今の状況では観光協会でもなかなかこれは難しい、一観光協会でできるような事業ではないと思っています。

それで中身を見ると、結構やっぱりボランティアさんの活動、観光ガイドだけじゃないですよ。そのほか全てのことについてはボランティアの活用を図らないと、やはりなかなかできない事業であると思っています。この採択を受けたかどうかということと、採択を受けて、どのような体制をつくって、どのように実行していくのか。

これは、その101ページのほかのやつもありましたよね、情報発信委託料、町記者とか、モデルコース作成、これは町の人にやってもらう。体験型観光団体助成金は、甲冑とか、タケノコの人とか、ありますよね。こういったものの受け皿というんですか、体制づくりというのはある程度もう話ができて、これが通れば、そのある程度の人たちがやってくれるという見通しがあるのか、通ってから新たに話してやるようにするのか。やはり町の職員ではとてもできないことですから、全てが。やはり体制づくり、受け皿をしっかりつくっておかないと、なかなかちょっと有効なものができないんじゃないかと思いますけれども、いかがでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　まず初めに採択の関係ですけれども、今月中旬にならないと採択されるかどうかわからないということでございます。

それと、人員的に非常に難しいということで、これは今まで地方創生をやりながらいろいろとうちのほうも痛感しているところでございます。これは観光協会も同様でございまして、全くこれだけをやるのに人手がないということでございますので、これについては、この委託料的な中に人員もやはり含めてお願いするしかないのかなというふうに考えています。

今いるスタッフプラス２名ぐらいの今考えは持っております。１人は観光協会主体でやっていただくような形を想定してございます。やはりこういう事業をやっていくに当たっては、専門人材的な人が１人と、やはりあとスタッフが何人かいないとということで、最低でも２人、先ほどの地域おこし協力隊、もし来てくれるのであれば、やはり３人ぐらいで体制が組めれば一番理想的なのかなというふうに思っております。

今、観光協会とその辺の細かなところについては、これから詰めていくような形でございます。概要については大体観光協会とお話をさせていただいておるんですけれども、やはり細かなところでいろいろとまだこれから詰めていかなくてはならないところはあろうかと思

います。

それと関係団体のほうですけれども、これについては、今後実施していくような形をとりたいというふうに思っております。時間的な余裕がなかなかなかったというのも正直なところでございます。一応１年間かけて実施していくということでございますので、そういう趣旨をお話しさせていただいて、ご協力していただけるのであれば、一緒になって推進していきたいというふうに思います。

○議長（志関武良夫君）　１番根本年生君。

○１番（根本年生君）　この内容を調べさせてもらうと、本当にすばらしいことですね。これができれば本当に町の活性化がまた十分果たせるなと思っています。

もし観光協会に任せるのであれば、私の個人的な意見だけれども、もう観光協会で物品の販売とか、別に観光協会が物品販売してもうける必要ないわけですよ。その辺も含めて、今物品の販売というのが、先ほど観光客もたくさん来ているし、いろいろな面で大変なことになっているんです。私、何も観光協会が利益を上げる必要はないと思っていますよ。ほかで観光協会が利益を上げるのなら、ほかの一般の商店の方々がその分利益を上げてくれれば、そのほうが十分いいと思っていますよ。観光協会は観光協会のちゃんとした仕事があるわけですから、それ以上の仕事があるわけですから、このもし観光、地方創生加速化でやるんであれば、これに特化してやらないと、片手間でやるような内容の仕事ではないと私は思いますけれども、いかがでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　議員のおっしゃるとおり、やはり片手間でできるような仕事ではないというふうには認識しております。したがいまして、今の人材の中でこれらを全てやっていこうというのは非常に厳しい問題がございます。

ただ、物品販売については、これについてはまたちょっと別の議論になろうかなと思いますけれども、じゃ、全てやめてしまって、次どうするんだというような問題もあろうかと思いますので、それについてはまた別に考えさせていただきたいと思います。

○議長（志関武良夫君）　１番根本年生君。

○１番（根本年生君）　ですから私言ったように、物品の販売をやめたほうがいいんじゃないかというのは、別にやっていてもいいんですよ。こういった新たな仕事、大きな仕事が来たときに、二足のわらじを履いて、果たしてこれができるんだろうかという危惧をしているんです。これが完成したら本当にすばらしいと思っていますよ。だから二足のわらじでやるよ

うな仕事ではないと、私が勉強した中ではそう思っていますので、新たに観光協会の体制から見直して、もしやるのであれば見直して、しっかりやっていくべきだというふうに思っていますけれども、いかがでしょう。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　私から、企画財政課のほうで観光協会の体制までお話しするのはちょっといかがなものかなと思いますけれども、ただ、私どもではあくまでもＤＭＯありきでお話ししているのではなくて、あくまでも観光客の誘致というものを、理想や感覚じゃなくて、各種データだとかを収集分析して、戦略的に観光客を誘致して町の価値を上げるというふうに考えております。

ですから、そのために多様な関係者と組織づくりを行ったりして地域の稼ぐ力を引き出すとともに、地域の誇りや愛着を醸成するということで思っておりますので、あくまでもこのＤＭＯの考え方というのはすごくいい考え方だと思っています、このもうけるというようなことに関しては。ただ、それはあくまでも地域によっていろいろな差があると思いますし、ただ果たして大多喜町に合うのかという問題もあろうかと思います。そういう意味で、そういったものを含めてやはり検証する。１回やってみて、本当に必要なものなのかどうかというのも必要ではないかなと。

現実的にここまで、ＤＭＯをもっと大きな夷隅郡市でやろうよとか、千葉県南部でやろうよというものがいいのか、あるいは大多喜町だけがいいのかというような、そういう問題もいろいろあると思いますけれども、とりあえずは、町がそういう考え方に基づいて観光客の誘致をやっていこうということでございます。

○議長（志関武良夫君）　ほかにございますか。

10番山田久子君。

○１０番（山田久子君）　すみません、89ページ、地域包括支援センター運営事業の予防ケアマネジメント業務委託料、これの件についてもう少し詳しく教えていただけますでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　健康福祉課長。

○健康福祉課長（永嶋耕一君）　ただいまの質問の地域包括支援センター運営事業の中の予防ケアマネジメントの業務委託料の関係でございますが、これは、要支援認定を受けた方、要は要支援の１と２の方がおりますが、その方が介護保険を使う場合のケアマネジメント、要するに計画の策定ですね。その辺の業務の委託料を、地域包括支援センターの職員だけではできませんので、それ以外の事業所とか、そういうところに委託しているものでございます。

○議長（志関武良夫君）　ほかにございますか。

９番吉野僖一君。

○９番（吉野僖一君）　ページが71ページ、中ほどに国土調査費県負担金117万2,000円がマイナスになっていますけれども、これはどういうわけなんでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　建設課長。

○建設課長（末吉昭男君）　これは実績見込みによるものでございます。

（「見込み」の声あり）

○建設課長（末吉昭男君）　ええ。国調を今、老川地区、小沢又地区でやっておりますけれども、その分の実績の見込みを残して残額でございます。

（「マイナスになっているよ」の声あり）

○建設課長（末吉昭男君）　減額で、相応減額しているものでございます。これにつきましては国が２分の１、県が４分の１、その分ですね。歳入ですよね、これ。土木費の国と県の分が117万2,000円減額すると。

（「国と県の」の声あり）

○建設課長（末吉昭男君）　そうです。

○議長（志関武良夫君）　９番吉野僖一君。

○９番（吉野僖一君）　今の地籍調査なんですけれども、中野も今開発でやっておるんですけれども、できればどうしてもそういう開発に絡んで中野を特別扱いというわけにはいかないでしょうかね。計画どおり。要望。

○議長（志関武良夫君）　建設課長。

○建設課長（末吉昭男君）　それにつきまして、計画を皆さんにお配りさせていただいていると思いましたけれども、それで一応進んでいく予定となっております。

○議長（志関武良夫君）　９番吉野僖一君。

○９番（吉野僖一君）　せんだって、歩道の件も解決しまして、ついでというか、できればやっていただければ、５カ年かけて小さな拠点事業もスムーズにいくんじゃないかと思うので、よろしく検討をしていただきたい。よろしくお願いします。答えはいいです。

○議長（志関武良夫君）　11番野中眞弓君。

○１１番（野中眞弓君）　89ページ、臨時福祉給付金等給付事業が多額計上されています。１人３万円ということはわかりました。対象人数とか、対象の方の条件とか、説明してください。

○議長（志関武良夫君）　健康福祉課長。

○健康福祉課長（永嶋耕一君）　89ページですよね。年金生活者等の支援の臨時福祉給付金でございますけれども、この対象者は昨年の臨時給付金の対象者で、本年度というか平成28年度、65歳以上になる方が対象となります。ですから、それで一応今回予定では1,260名見込みまして、３万円の支給ということになります。

（「去年の人の条件。臨時福祉給付金をいただいた人の条件」の声あり）

○健康福祉課長（永嶋耕一君）　去年の臨時福祉給付金の対象者ですけれども、低所得者ということで、町民税の非課税、課税で分けております。非課税の方になります。

○議長（志関武良夫君）　ほかにございますか。

（「いやいや、今の関連で、ちょっとついで」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　11番野中眞弓君。

○１１番（野中眞弓君）　一軒の世帯の中でも、旦那さんは課税されていて奥さんが課税されていなかった場合は、奥さんだけもらえるとかというふうに考えていいんですか。

○議長（志関武良夫君）　健康福祉課長。

○健康福祉課長（永嶋耕一君）　その件ですけれども、ちょっと私、ど忘れしているんですけれども、たしか一軒のうちで１人課税者がいればもらえないというふうになっておりますと思われます。

（「全く非課税世帯」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　健康福祉課長。

○健康福祉課長（永嶋耕一君）　そのとおりになります。

○議長（志関武良夫君）　１番根本年生君。

○１番（根本年生君）　97ページの都市農村交流推進委託料150万円の減額、この減額になった理由ですよね。多分これ、前年度300万円であったのが、今年度150万円に減額されて、それで何かいろいろなことがあって委託ができなかったというふうに聞いております。その経緯と、ただこれ、多分その前まで契約していたみらい塾さんのほうは、老川地区が中心だと思いますけれども、こういう事業はやっているし、この間移住者懇談会もやりましたよね、新聞にも大きく載りました。これがどうしてだめだったかの理由と、今後これをどのようにしていくのか。

都市交流事業、非常に大切な事業だと思います。移住者懇談会をやれと言っても、いきな

り移住者懇談会に来てくれと言っても、なかなか来るものじゃないんですね。都市交流事業で、そこでいろいろな形で地元と触れ合いながら、じゃ、今度移住者懇談会があるから来てみませんかという声かけをして初めて来てくれるのであって、いきなり移住者懇談会をやると言って来てくれる人はいないんですよ。だから、交流会をやって、地元の人と顔なじみになって、大多喜もちょっといいな、じゃ、今度懇談会に行ってみんなの話を聞いてみたいなという、そういった形で来てくれる方が多いと思うんですけれども、この都市農村交流事業と移住者の関係と、これが減額になった理由と、今後の予定というんですか、来年度に向けてどのようにするのかを……。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　農業振興費に入っておりますけれども、都市農村交流推進委託料につきましては、平成27年度では移住についてということで一つのテーマを設定させていただきましたので、企画のほうで推進していたところでございます。

移住について一緒にやっていただけませんかと、いろいろな条件をこちらから出して要望が通ったわけなんですけれども、当然相手方の意向というものもございますので、その中でなかなか条件的に一致するものがなかったということでございます。ですから、今回のやつは、あくまでも都市農村交流事業とはちょっと切り離してお考えいただければと……。都市農村交流事業については、産業振興課のほうで所管しておりますので、それはそちらのほうで課長のほうから答弁させていただきたいと思います。

○議長（志関武良夫君）　産業振興課長。

○産業振興課長（野村一夫君）　都市農村交流事業、ＮＰＯ法人、今まで実績、農業体験だとか林業体験、炭焼き、シイタケの原木を打つ体験とか、いろいろやってきて、農業関係にしてみればすごく実績があるんですけれども、今のところ、農業関係職員一体で、やっぱりかつてのように、こちらで応援をするというような、職員がついて応援をするというようなことは今のところできません。

以上です。

○議長（志関武良夫君）　１番根本年生君。

○１番（根本年生君）　ですから、職員が一緒にやるとかそういうことではなくて、この都市農村交流推進事業、これは大切な事業だと思います。これを今後町はどのように考えているのか。要は、今年度これはやらなかったわけですよね、それで減額。移住者に特定したということだけれども、それも都市農村交流事業の一環でしょう、移住者の問題も。広く考えれ

ば、いろいろなことが都市交流事業なわけですよ。じゃ、なぜ減額になったの。やればよかったじゃないですか。150万円、別にこれは補助金をつけなくてもいいわけでしょう。これは補助金をつけなければいけないの。自分たちでやってもいいわけでしょう、これ。都市農村交流事業は役場がある程度企画してやってもいいわけでしょう。何も委託する必要はないと思いますよ。

○議長（志関武良夫君）　産業振興課長。

○産業振興課長（野村一夫君）　私のほうで、産業振興課のほうで、ＮＰＯ法人のやったことはちょっと今のところは、事業自体は大事だと思いますけれどもできないということです。

○議長（志関武良夫君）　１番根本年生君。

○１番（根本年生君）　すみませんね。できないというか、やる必要がないと、それとも体制的に無理だと。ぜひ何かの形でやらなくちゃいけないと思いますけれども。

○議長（志関武良夫君）　産業振興課長。

○産業振興課長（野村一夫君）　できないというのは、先ほども言いましたように大切だと思います。それで農業関係にすれば、ＮＰＯ法人がいてくれて、随分今まで３年間やってもらってよかったと思いますけれども、体制的にできないということです。

○議長（志関武良夫君）　ほかにございますか。

４番麻生勇君。

○４番（麻生　勇君）　99ページの有害鳥獣駆除対策事業なんですが、きょう弁当でイノシシのコロッケを食べたんですが、肉は食べさせていただきましたけれども、前にもこの話はしたと思うんですけれども、とった皮とか牙とか、骨はどうかわかりませんけれども、ほかではそれを活用してやっているところがあるんですよ。そういうことは考えたことはないんでしょうかね。

○議長（志関武良夫君）　産業振興課長。

○産業振興課長（野村一夫君）　骨とか牙とか皮は今まで捨てていましたので、余りそういうことは考えませんでした。

○議長（志関武良夫君）　４番麻生勇君。

○４番（麻生　勇君）　資源としてはすごくいい資源だと思うんですよね。産地ですからね、イノシシの。ぜひそれを活用できればいいなと思うんですよ。今度市原で何か開発しましたよね、イノシシの肉で、イノシシを使ったもので。やっぱり、せっかくどこに行っても大多喜はイノシシの産地だよという話されますので、捨てることなく使えるような技術を開発し

たらどうかなと思うんですけれども、この中に研究費を入れてもらえませんかね。

○議長（志関武良夫君）　産業振興課長。

○産業振興課長（野村一夫君）　今までほとんど捨てていたんですけれども、例えばイノシシの牙とか皮についてはまた、骨はわかりませんけれども、調べてみたいと思います。

○議長（志関武良夫君）　４番麻生勇君。

○４番（麻生　勇君）　今、牙の話が出ましたけれども、牙をキーホルダーとして持っている人がいるんですよ、実を言うと。それを見ていますのでそんなことを、何百頭もとるわけですから、みんな雌ばかりじゃないでしょう。いろいろ押さえるわけだから、できたらその牙を道の駅で売ったらどうかなと思います。それは返答は要りません。

○議長（志関武良夫君）　ほかにございますか。

11番野中眞弓君。

○１１番（野中眞弓君）　69ページですが、衛生手数料でごみの指定袋代が107万1,000円減額になっています。袋代としてはこれはかなりのお金と量ではないかと思うのですが、去年と比べてごみ袋代がどのくらい変化があるのかということと、このこととごみの減量ということはどのくらい結びついているのか、説明していただきたいと思います。

○議長（志関武良夫君）　環境水道課長。

○環境水道課長（米本和弘君）　まず、袋代の昨年度との比較ですけれども、昨年度1,159万円ほどありまして、今年度の見込みが1,068万9,000円……

（「すみません、ちょっと大きい声でお願いします」の声あり）

○環境水道課長（米本和弘君）　昨年度が1,159万1,000円でした。今年度の収入見込みが1,068万9,000円です。90万2,000円ほど減額の見込みです。

これを現在の収集量と比べてみますと、１月末現在で5,870キロ、約６トンぐらいの量は減っておりますけれども、ごみの袋は、これは指定販売店があるわけなんですけれども、そちらのほうでまとめて買って保存している部分も多分あると思いますので、多少年度間のところで差が出てくると思いますので、量的には確かに減っているのは減っているという事実もございます。

以上です。

○議長（志関武良夫君）　会議中でございますが、ここでしばらく休憩をとります。40分から開会します。

（午後　５時２８分）

○議長（志関武良夫君）　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後　５時３８分）

○議長（志関武良夫君）　先ほどの野中議員の臨時福祉給付金の質疑に対し、健康福祉課のほうから訂正したい旨の申し出がありますので、答弁を許します。

健康福祉課長。

○健康福祉課長（永嶋耕一君）　先ほどの臨時福祉給付金の関係で、平成27年度の対象者の関係でちょっと間違った回答をしましたので訂正させていただきます。

野中議員から、同じ世帯で課税者と非課税者がいた場合は出るか出ないかということで、出ないとお答えしましたが、課税者が非課税者を扶養している場合は出ません。ただ、課税者が非課税者を扶養していなければ、その非課税者には給付金は出るということになります。

以上です。

○議長（志関武良夫君）　質疑を続けます。

１番根本年生君。

○１番（根本年生君）　81ページの文書管理事業、例規集データ更新等に係る業務委託料、この件で質問します。

これは更新というのは年何回やるんでしょうか。例規集といいますと、それで、これで要綱とかが変わったというのが我々一般の人にはわかると。何か掲示版にも提示されるということですけれども、私なんかも朝パソコンをつけて、また帰るとパソコンをつけて、大多喜町のホームページを見て、何かということを必ず見るんだけれども、年何回やって、そうすると、それでもう一つ、例規集とかが変わったといったときに、何が変わったと例規集一つ一つを見るわけにいかないので、例規集とかが変わったときに、新しく例規集が一部変わりましたよとかという何かちょっと表示をしてもらえると、そこですぐクリックして、何が変わったのかなと。一般質問のときに野村議員も言っていましたけれども、いつ何がどう変わったのかが全然わからない。掲示板を見に来いと言えばそうでしょうけれども、一々掲示板を毎日見に来るわけにはいかないと思うんですよね、実務上は。その辺を詳しく。

○議長（志関武良夫君）　総務課長。

○総務課長（加曽利英男君）　例規集のデータの更新は年４回行っております。それで、あと、この例規が変わりましたということを表示できるかということですけれども、それがまた余

りほかの方が見て見づらくならないかどうか、ちょっと内部のほうで協議させていただきたいと思います。

○議長（志関武良夫君）　１番根本年生君。

○１番（根本年生君）　それと、こういうところで言っていいのか、例規集が変わったときに、議会事務局のほうにでも何か通知というんですか、１枚こういったものが変わりましたよという何か連絡とかがあって、もし事務局のところに置いておいてもらえると行ったときに見られるものですから、そういったことというのは大変な手間になるんでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　総務課長。

○総務課長（加曽利英男君）　例えば新旧対照表を置くというのは、それはコピーするだけですので全然手間にならないと思いますので、例えば例規がこう変わったといっても、例えば条例とかを出したら非常にわかりづらくなりますので、できれば新旧対照表を議会のほうに備えつけておくというのはまた協議したいと思います。

　また、新規の制定の場合は、それをコピーするだけですので、またそんなに手間にはならないというふうに思います。

○議長（志関武良夫君）　１番根本年生君。

○１番（根本年生君）　私が言っているのは新旧対照表ではなくて、要綱とかが変わると、要綱って大体多くていいところ４ページか５ページぐらいですか、少なければ１ページ、２ページで済んでいると思うんです。だから、そういったもののコピーを事務局のほうにちょっと１部、変わったよということで置いておくことが、総務課だけじゃなくていろいろな課があるかもわからないけれども、そういう議会事務局のほうに何か知らせておくというのはできないんですか。

○議長（志関武良夫君）　総務課長。

○総務課長（加曽利英男君）　置くことはコピーするだけですので、例えば議員全員に配るとなると、これはまた大変ですから、議会事務局のほうに例規を必ず告示等をしますので、それはそういうふうにできるようにしたいと思います。

　ただ、いろいろわかりやすく、膨大な量になっちゃうと余計わからないと思いますので、その辺は適宜こちらのほうの判断でやらせていただきたいと思います。

○議長（志関武良夫君）　ほかにございますか。

　11番野中眞弓君。

○１１番（野中眞弓君）　83ページ、プレミアム商品券発行事業還付費の説明をお願いいたし

ます。

○議長（志関武良夫君）　産業振興課長。

○産業振興課長（野村一夫君）　プレミアム商品券ですけれども、今年度事業は9,000冊で、9,000万円と２枚のプレミアムをつけましたので1,800万円、これが国・県の補助金になります。合わせて１億800万円ということで、この１億800万円の売れ残りが18万9,000円ありました。その18万9,000円の国・県分が、国が２万3,500円、県が8,000円、合わせて３万1,500円。それから、この1,800万円のプレミアムのほかに事務費として845万9,000円。事務費が来たんですけれども、これは商工会のほうで使う手数料とか、賃金、印刷費なんですけれども、この事務費が201万9,500円、商工会のほうで使わなかったので、これとさっきの３万1,500円、合わせた205万9,000円の補助金を返還ということになります。

以上です。

○議長（志関武良夫君）　ほかにございますか。

（「なし」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

本案については、討論を省略し、これから採決したいと思います。

ご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　異議なしと認めます。

これから議案第14号を採決します。

本案は原案のとおり決定することに賛成の方は挙手願います。

（挙手多数）

○議長（志関武良夫君）　挙手多数です。

したがって、議案第14号は原案のとおり可決されました。

◎議案第１５号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（志関武良夫君）　日程第16、議案第15号　平成27年度大多喜町鉄道経営対策事業基金特別会計補正予算（第１号）を議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　議案第15号の説明をさせていただきます。

121ページをお開きください。

平成27年度大多喜町鉄道経営対策事業基金特別会計補正予算（第１号）は、次に定めるところによる。

歳入歳出予算の補正。

第１条、歳入歳出予算の総額から歳入歳出それぞれ1,608万2,000円を減額し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ4,039万7,000円とする。

第２項、歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は、「第１表　歳入歳出予算補正」による。

それでは、事項別明細書により説明させていただきますので、124、125ページをお開きください。

２、歳入。

款１財産収入、項１財産運用収入、目１利子及び配当金5,000円の減額補正は、基金利子の実績によるものでございます。

款２繰入金、項１繰入金、目１繰入金1,607万7,000円の減額補正は、大多喜町鉄道経営対策事業基金からの繰入金を減額するものでございます。

３、歳出。

款１鉄道経営対策事業費、項１鉄道経営対策事業費、目１事業費5,000円の減額補正は、基金利子の減額により基金への積立金を減額するものでございます。

目２助成費1,607万7,000円の減額補正につきましては、車両購入に関する額の確定による減額補正でございます。

以上で、平成27年度大多喜町鉄道経営対策事業基金特別会計補正予算（第１号）の提案説明とさせていただきます。

よろしくご審議くださるようお願いいたします。

○議長（志関武良夫君）　説明が終わりました。

これから質疑を行います。

質疑ありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

本案については、討論を省略し、これから採決したいと思います。

ご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　異議なしと認めます。

これから議案第15号を採決します。

本案は原案のとおり決定することに賛成の方は挙手願います。

（挙手全員）

○議長（志関武良夫君）　挙手全員です。

したがって、議案第15号は原案のとおり可決されました。

◎議案第１６号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（志関武良夫君）　日程第17、議案第16号　平成27年度大多喜町国民健康保険特別会計補正予算（第４号）を議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

税務住民課長。

○税務住民課長（市原和男君）　それでは、議案第16号の説明をさせていただきます。

議案つづり127ページをお願いいたします。

平成27年度大多喜町国民健康保険特別会計補正予算（第４号）は、次に定めるところによる。

歳入歳出予算の補正。

第１条、第１項、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ5,303万8,000円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ16億2,280万6,000円とする。

第２項、歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は、「第１表　歳入歳出予算補正」による。

なお、詳細につきましては、事項別明細書によりご説明いたします。

132、133ページをお願いいたします。

歳入からご説明を申し上げます。

款１国民健康保険税、項１国民健康保険税、目１一般被保険者国民健康保険税、補正額1,997万7,000円の減額。目２退職被保険者等国民健康保険税、補正額349万円の減額。合計で2,346万7,000円の減額でございます。加入者の減少、あるいは軽減世帯の増加等によるも

のでございます。

款４国庫支出金、項１国庫負担金、目１療養給付費等負担金、補正額1,287万3,000円の増額。医療費等の増加による国庫負担金の増額によるものでございます。

目２高額療養費共同事業負担金、補正額29万6,000円の減額。高額療養費共同事業拠出金の実績により減額するものでございます。

目３特定健康診査負担金、補正額２万8,000円の減額。交付決定によるものでございます。

款５、項１、目１療養給付費交付金、補正額1,256万円の減額。退職被保険者等加入者及び医療費の減少によるものでございます。

款７県支出金、項１県負担金、目１高額医療費共同事業負担金、補正額29万6,000円の減額。国庫負担金と同様に、高額療養費共同事業拠出金の実績により減額するものでございます。

款８、項１、目１共同事業交付金、補正額1,900万9,000円の減額。交付金の確定によるものでございます。

款９繰入金、項１他会計繰入金、目１一般会計繰入金、補正額2,044万7,000円の増額でございます。内訳につきましては、133ページをごらんいただきたいと思います。

節１は保険税軽減分に対する繰入金で、248万6,000円の増額、節２は保険者支援に対する繰入金で1,774万6,000円の増額。いずれも制度改正に伴う対象者の拡大等によるものでございます。

節３職員給与費等繰入金は、職員人件費と同額を補正するものでございます。

次のページをお願いいたします。

款10繰越金、項１繰越金、目２その他繰越金、補正額7,493万9,000円の増額は、補正財源として前年度繰越金を充てるものでございます。

款11諸収入、項１延滞金及び過料、目１一般被保険者延滞金、補正額14万円の増額は、収納実績によるものでございます。

項２雑入、目６雑入、補正額29万5,000円の増額。前年度、特定健康診査負担金の精算による追加交付によるものでございます。

続きまして、歳出についてご説明をいたします。

次のページをお願いいたします。

款１総務費、項１総務管理費、目１一般管理費21万5,000円の増額。137ページ、説明欄記載の人件費の増額によるものでございます。

款２保険給付費、項１療養諸費、目１一般被保険者療養給付費、補正額6,000万円の増額。目２退職被保険者等療養給付費、補正額486万円の減額でございます。医療費の実績見込みによりそれぞれ補正するものでございます。

款２保険給付費、項２高額療養費、目１一般被保険者高額療養費、補正額はございませんが、財源内訳の変更によるものでございます。

項５葬祭費、目１葬祭費、補正額15万円の増額。実績見込みにより３名分を補正するものでございます。

款３後期高齢者支援金、項１後期高齢者支援金、目１後期高齢者支援金、補正額はございませんが、財源内訳の変更によるものでございます。

款７、項１共同事業拠出金、目１高額療養費共同事業拠出金、補正額118万4,000円の減額。目２保険財政共同安定化事業拠出金、補正額855万1,000円の減額でございます。いずれも拠出金の確定による減額でございます。

款８保健事業費、項２特定健康診査等事業費、目１特定健康診査等事業費、補正額はございませんが、財源内訳の変更によるものでございます。

次のページをお願いいたします。

款９諸支出金、項１償還金及び還付加算金、目３償還金、補正額726万8,000円の増額でございます。前年度、療養給付費等負担金の確定に伴います返還金が生じたことによるものでございます。

以上で、平成27年度大多喜町国民健康保険特別会計補正予算（第４号）の説明を終了させていただきます。

ご審議のほどよろしくお願いいたします。

○議長（志関武良夫君）　説明が終わりました。

これから質疑を行います。

質疑ありませんか。

11番野中眞弓君。

○１１番（野中眞弓君）　２点質問します。

ちょっと聞きそびれちゃったんです。国民健康保険税が減額になっています。その理由を教えてください。

そして、もしかして人数の加入者の減だとしたら、ここでは何人くらい減っているのか教えていただきたいと思います。133ページ。

同じく133ページなんですけれども、この違いをもう一度教え直してください。一般会計繰入金ですが、基盤安定繰入金、２種類あります。軽減措置に対する繰り入れなのはわかるんですけれども、上のほうの単純な軽減分と保険者支援分のこの違いについて、すみません、覚えやすく説明してください。

○議長（志関武良夫君）　税務住民課長。

○税務住民課長（市原和男君）　保険税の減額理由というふうなことで、野中議員のおっしゃるとおり、まず加入者の減少がございます。平成27年度と26年度の平均を比較しますと107名減少しております。さらに１人当たり保険料が27年度と26年度、4,500円ほど１人当たり保険料も減少しております。それらの数値を掛け合わせて、今回補正で計上いたしました2,300万円相当というふうなことでございます。

次に、繰入金の保険基盤安定繰入金の保険税軽減分と保険者支援分の違いですけれども、まず保険税軽減分につきましては、平均保険料、軽減しなかった場合の保険料と比べ、実際の賦課の保険料額が幾らかなど、その差に対しての繰入金、さらには支援金のほうは軽減を受けている方の人数等に応じて支出されるものです。

ちなみに、節１の保険税軽減分は負担が県が４分の３、町が４分の１、保険者支援分、これにつきましては、負担割合が国が２分の１、県が４分の１、町が４分の１というふうなことでございます。

（「すみません。保険税軽減分は、県と町の割合、もう一度教えてください」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　税務住民課長。

○税務住民課長（市原和男君）　節１の保険税軽減分は県が４分の３、残り４分の１が町でございます。

○議長（志関武良夫君）　ほかにございますか。

（「なし」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

本案については、討論を省略し、これから採決したいと思います。

ご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　異議なしと認めます。

これから議案第16号を採決します。

本案は原案のとおり決定することに賛成の方は挙手願います。

（挙手多数）

○議長（志関武良夫君）　挙手多数です。

したがって、議案第16号は原案のとおり可決されました。

◎議案第１７号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（志関武良夫君）　日程第18、議案第17号　平成27年度大多喜町後期高齢者医療特別会計補正予算（第１号）を議題とします。

本案について、提出者の説明を求めます。

税務住民課長。

○税務住民課長（市原和男君）　では、議案第17号の説明をさせていただきます。

議案つづり149ページをお願いいたします。

平成27年度大多喜町後期高齢者医療特別会計補正予算（第１号）は、次に定めるところによる。

歳入歳出予算の補正。

第１条、第１項、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ137万6,000円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ１億1,026万7,000円とする。

第２項、歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は、「第１表　歳入歳出予算補正」による。

なお、詳細につきましては事項別明細書によりご説明いたしますので、154、155ページをお願いいたします。

歳入からご説明申し上げます。

款１後期高齢者医療保険料、項１後期高齢者医療保険料、目１特別徴収保険料、補正額74万3,000円の増額でございますが、実績見込みによるものでございます。

款３繰入金、項１一般会計繰入金、目２保険基盤安定繰入金、補正額63万3,000円の増額、繰入金額の確定によるものでございます。

続きまして、歳出のご説明をいたします。

次のページをお願いいたします。

款２、項１、目１後期高齢者医療広域連合納付金、補正額137万6,000円の増額。納付金に

つきましては、受け入れした保険料及び基盤安定繰入金を後期高齢者医療広域連合に納付するもので、歳入で補正しました額と同額を補正するものでございます。

以上で、平成27年度大多喜町後期高齢者医療特別会計補正予算（第１号）の説明を終了させていただきます。

ご審議のほどよろしくお願い申し上げます。

○議長（志関武良夫君）　説明が終わりました。

これから質疑を行います。

質疑ありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

本案については、討論を省略し、これから採決したいと思います。

ご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　異議なしと認めます。

これから議案第17号を採決します。

本案は原案のとおり決定することに賛成の方は挙手願います。

（挙手全員）

○議長（志関武良夫君）　挙手全員です。

したがって、議案第17号は原案のとおり可決されました。

◎議案第１８号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（志関武良夫君）　日程第19、議案第18号　平成27年度大多喜町介護保険特別会計補正予算（第４号）を議題とします。

本案について、提出者の説明を求めます。

健康福祉課長。

○健康福祉課長（永嶋耕一君）　それでは、大多喜町介護保険特別会計補正予算について説明いたします。

159ページをお開きください。

議案第18号　平成27年度大多喜町介護保険特別会計補正予算（第４号）。

本文に入ります前に、提案理由の説明をさせていただきます。

今回の補正内容でございますが、歳入では、保険給付費等の実績見込みに伴う国・県支払基金等からの支出金の精算及び前年度の繰越金の精算となります。

また、歳出におきましては、主なものといたしまして、給与改定に伴う職員人件費の増額、保険給付費等の実績見込みに伴う増減及び基金への積み立てを行うものでございます。

それでは、本文に入らせていただきます。

平成27年度大多喜町介護保険特別会計補正予算（第４号）は、次に定めるところによる。

歳入歳出予算の補正。

第１条、第１項、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ5,458万5,000円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ11億3,805万9,000円とする。

第２項、歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は、「第１表　歳入歳出予算補正」による。

それでは、事項別明細書によりご説明いたしますので、164ページをお開きください。

まず、歳入からご説明いたします。

款４国庫支出金、項１国庫負担金、目１介護給付費負担金、補正額74万9,000円の増額補正でございますが、介護給付費等の実績見込みに伴う国法定負担分の補正でございます。

項２国庫補助金、目１調整交付金、補正額７万7,000円の減額補正は、介護給付費等の実績見込みに伴う交付金の補正でございます。

款５支払基金交付金、項１支払基金交付金、目１介護給付費交付金、補正額26万9,000円の減額補正でございますが、介護給付費等の実績見込みに伴う法定負担分の補正になります。

款６県支出金、項１県負担金、目１介護給付費県負担金、補正額106万2,000円の減額補正でございますが、介護給付費等の実績見込みに伴う県法定負担分の減額補正になります。

款７繰入金、項１他会計繰入金、目１一般会計繰入金、補正額76万1,000円の増額補正ですが、介護給付費等の実績見込みに伴う町法定負担分の減額、給与改定に伴う職員人件費の増、認定調査関係費用の増に伴う事務費の増額及び低所得者保険料軽減対象者の増による増額補正でございます。

項２基金繰入金、目１介護給付費準備基金繰入金、補正額35万1,000円の減額補正は、介護給付費等の実績見込みに伴う減額補正でございます。

款８繰越金、項１繰越金、目１繰越金、補正額5,483万4,000円の増額補正は、前年度繰り越し分の精算分の増額でございます。

歳入は以上でございます。

次に、歳出についてご説明いたしますので、166ページをお開きください。

款１総務費、項１総務管理費、目１一般管理費、補正額23万6,000円の増額補正は、給与改定に伴う職員人件費の増、事務費は、実績に伴う減額補正でございます。

項２徴収費、目１賦課徴収費、補正額３万円、保険料等通知実績の増に伴う補正でございます。

項３介護認定審査会費、目１介護認定調査等費、補正額45万2,000円の増額補正につきましては、実績に伴う増減でございます。

項４運営協議会費、目１運営協議会費、補正額１万円の減額補正は、実績に伴う減額でございます。

款２保険給付費、項１介護サービス等諸費、目１居宅介護サービス給付費でございますが、主に訪問入浴、訪問リハビリ及び短期入所のサービス利用者の増でございまして、補正額1,000万円の増額でございます。

目２地域密着型介護サービス給付費、補正額184万1,000円の増額補正につきましても、利用者の増に伴う増額でございます。

目３施設介護サービス給付費、補正額2,000万円の減額補正、次の、目５居宅介護住宅改修費、補正額60万円の減額補正につきましては、利用者の減に伴う減額でございます。

168ページをお開きください。

目６居宅介護サービス計画給付費、補正額140万円の増額補正は、実績等に伴う増額でございます。

項２介護予防サービス等諸費、目１介護予防サービス給付費、補正額500万円の増額補正は、主に介護予防に係る訪問入浴、通所介護、通所リハビリ及び福祉用具の貸与の利用者の増に伴う増額補正でございます。

項４高額介護サービス等費、目１高額介護サービス費、補正額20万円、次の、項６特定入所者介護サービス等費、目１特定入所者介護サービス費、補正額120万円の増額補正につきましては、事業対象者の増に伴う増額でございます。

款３基金積立金、項１基金積立金、目１介護給付費準備基金積立金、補正額5,483万4,000円の増額補正は、前年度繰り越し分を準備基金に積み立てるものでございます。

款４地域支援事業費、項２包括的支援事業・任意事業費、目２包括的支援事業、補正額2,000円の増額補正は、給与改定に伴う職員人件費の増でございます。

以上で、平成27年度大多喜町介護保険特別会計補正予算（第４号）の説明を終わらせていただきます。

よろしくご審議くださいますようお願い申し上げます。

○議長（志関武良夫君）　説明が終わりました。

これから質疑を行います。

質疑ありませんか。

11番野中眞弓君。

○１１番（野中眞弓君）　166ページ、一番下の枠ですが、介護サービス等諸費の中で、３の施設介護サービス給付費が2,000万円の減になっています。この原因はどこにあるのか説明してください。これが１点目。

２点目は、168ページの基金積立金5,483万4,000円がありますが、これを積み立てると、積立総額は幾らになるのでしょうか、２点目。

３点目は、去年の８月から利用者の負担、現役並み負担、収入のある方は２割負担でしたっけ、自己負担が２割になりました。それを見込んで当初予算は立てられていたのでしょうか。うかつな質問ですけれども、その３点お願いします。

○議長（志関武良夫君）　健康福祉課長。

○健康福祉課長（永嶋耕一君）　１点目の施設介護サービス給付費、給付事業で2,000万円の減額ということで、原因は何かということでございますけれども、まず正式にまだ調査したわけではありませんが、一つ考えられるのは老人福祉施設、要は特別養護老人ホーム、その利用者が大分減った。当初見込んだより大分減ったものでございます。

それと、２点目の介護給付費準備基金積立金事業の5,400万円の関係ですけれども、これは過去２年、ちょっと積み立てのほうをしておりませんで、繰越金を財源で不足分を充てておりましたけれども、今回5,483万4,000円ということになりましたので積み立てるもので、基金の総額なんですけれども、ちょっとはっきりした数字はわからないんですが、おおよそでよろしいでしょうか。

（「もちろんです」の声あり）

○健康福祉課長（永嶋耕一君）　それでは、この5,400万を入れると約１億ぐらいになると思います。ただ、歳出のほうで基金を取り崩すということで、2,000万取り崩すことにしてありますので、総額では大体8,000万前後の基金があると思われます。

○議長（志関武良夫君）　ほかにございますか。

（「なし」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

本案については、討論を省略し、これから採決をしたいと思います。

（「ちょっと、答弁が１つ抜けている。当初予算に２割のあれを掛けるのか」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　健康福祉課長。

○健康福祉課長（永嶋耕一君）　失礼しました。

当初予算に２割軽減は見込んでいると思っております。

○議長（志関武良夫君）　これで質疑を終わります。

本案については、討論を省略し、これから採決したいと思います。

ご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　異議なしと認めます。

これから議案第18号を採決します。

本案は原案のとおり決定することに賛成の方は挙手願います。

（挙手多数）

○議長（志関武良夫君）　挙手多数です。

したがって、議案第18号は原案のとおり可決されました。

◎議案第１９号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（志関武良夫君）　日程第20、議案第19号　平成27年度大多喜町水道事業会計補正予算（第３号）を議題とします。

本案について、提出者の説明を求めます。

環境水道課長。

○環境水道課長（米本和弘君）　議案第19号　平成27年度大多喜町水道事業会計補正予算（第３号）について説明させていただきます。

181ページをお願いいたします。

総則。

第１条、平成27年度大多喜町水道事業会計の補正予算（第３号）は、次に定めるところに

よる。

収益的収入及び支出。

第２条、予算第３条に定めた収益的収入及び支出の予定額を、次のとおり補正する。

収入。第１款水道事業収益、既決予定額５億116万7,000円、補正予定額51万1,000円の減、計５億65万6,000円。

第２項営業外収益、既決予定額１億8,292万7,000円、補正予定額51万1,000円の減、合計１億8,241万6,000円。

支出。第１款水道事業費用、既決予定額４億9,951万1,000円、補正予定額567万2,000円、計５億518万3,000円。

第１項営業費用、既決予定額４億6,069万4,000円、補正予定額309万7,000円、計４億6,379万1,000円。

第２項営業外費用、既決予定額3,691万7,000円、補正予定額407万5,000円、計4,099万2,000円。

第３項特別損失、既決予定額150万円、補正予算額150万円減、計ゼロ円です。

資本的収入及び支出。

第３条、予算第４条本文括弧書き中「１億3,097万2,000円」を「１億3,092万1,000円」に改め、資本的収入及び支出の予算額を次のとおり補正する。

なお、本文括弧書き中の金額につきましては、資本的収入が資本的支出額に対して不足する額の変更となっております。

収入。第１款資本的収入、既決予定額9,131万8,000円、補正予定額6,300万円減、計2,831万8,000円。

第２項企業債、既決予定額8,600万円、補正予定額6,300万円の減、計2,300万円。

支出。第１款資本的支出、既決予定額２億2,229万円、補正予定額6,305万1,000円減、計１億5,923万9,000円。

第１項建設改良費、既決予定額１億4,001万7,000円、補正予定額6,305万1,000円減、計7,696万6,000円。

企業債。

第４条、予算第５条に定めた起債の目的、限度額、起債の方法、利率及び償還の方法を次のとおり変更する。

起債前の起債の目的、施設拡張事業、限度額6,300万円を削除し、変更後の起債の目的を

配水管布設事業、限度額2,300万円と変更するものです。

議会の議決を経なければ流用することができない経費。

第５条、予算第７条中「6,226万7,000円」を「6,195万8,000円」に改める。この第７条は職員給与費の額の変更となります。

たな卸資産購入限度額。

第６条、予算第９条中「346万6,000円」を「358万2,000円」に改める。

詳細につきましては、184ページ、185ページの水道事業会計補正予算積算基礎資料によりまして説明をさせていただきます。

収益的収入及び支出の収入ですが、目３県補助金60万6,000円の増額は、水道総合対策事業補助金の増額によるものです。

目５雑収益42万9,000円の増額は、工事負担金等の増額によるものです。

目６消費税還付金154万6,000円の減額は、平成27年度分仮受消費税、仮払消費税の精算見込みに伴う減額によるものです。

次に支出ですが、項１営業費用、目１原水及び浄水費82万3,000円の減額は、給与改定、浄水場施設修繕及び浄水場用電気料金等による96万円の増額と、浄水場勤務臨時職員賃金及び面白浄水場汚泥処理委託料による178万3,000円の減額によるものです。

目２配水及び給水費253万1,000円の増額は、給与改定、配水管漏水修繕工事費及び加圧ポンプ所用電気料金による313万3,000円の増額と、漏水調査臨時職員賃金及び舗装本復旧費による60万2,000円の減額によるものです。

目３総係費138万9,000円の増額は、給与改定、貸倒引当金繰入額による171万6,000円の増額と、公用車用燃料代及び印刷製本費による32万7,000円の減額によるものです。

項２営業外費用、目２雑支出23万5,000円の増額は、特定収入消費税額相当額の増によるものです。

目３消費税384万円の増額は、平成27年度分仮受消費税及び仮払消費税の精算見込みに伴う増額によるものです。

項３特別損失、目１過年度損益修正損150万円の減額は、当初予算で特別損失として見込んでいた分を制度見直しにより貸倒引当金繰入額に組み替えするものでございます。

続きまして188ページ、189ページになります。

資本的収入及び支出の収入ですが、目１企業債6,300万円の減額は、施設拡張事業の減額に伴う企業債借入金の減によるものです。

次に支出ですが、目３配水施設費７万5,000円の増額は、給与改定等によるものです。

目５施設拡張費6,312万6,000円の減額は、汚泥乾燥床建設工事の建設延期に伴う工事費の減によるものです。

190ページから197ページの給与費明細書につきましては、記載のとおりとなっておりますので、割愛をさせていただきます。

以上で、水道事業会計補正予算（第３号）の説明を終わります。

よろしくご審議のほどお願いいたします。

○議長（志関武良夫君）　説明が終わりました。

これから質疑を行います。

質疑ありませんか。

11番野中眞弓君。

○１１番（野中眞弓君）　２点になります。

１点目は、何カ所かにあるんですけれども、183ページの一番下、特別損失がゼロになったということ、過年度の損失がゼロになったということは、今までの赤字が解消されたということなんでしょうか。教えてください。

それから、187ページの汚泥乾燥床の工事がおくれている。これ早くやれば汚泥の委託料が減るわけで、おくれている理由を教えてください。

○議長（志関武良夫君）　環境水道課長。

○環境水道課長（米本和弘君）　まず１点目の184、185ページの特別損失の過年度損益修正損の減ですが、この減につきましては、過年度分の未収金の水道料金、それを特別損失として当初予算では計上しておりましたが、それを制度改正によりまして、５行上のところ、貸倒引当金繰入額150万円、そちらのほうに組み替えをするものでございます。

それから、189ページの汚泥乾燥床の建設工事ですが、面白浄水場の改修工事の基本設計を今年度実施しております。その中で、全体の施設のレイアウト等を考えますと、汚泥乾燥床を先行してやった場合に、後々全体の中の位置的なものが、先行してやることによって後でいろいろと不便にならないように、全体の施設の改修と合わせてレイアウトを組んでいったほうがよろしいのではないかというふうなことで、事業のほうの延期をしたところです。

以上です。

○議長（志関武良夫君）　ほかにございますか。

（「なし」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

本案については、討論を省略し、これから採決したいと思います。

ご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　異議なしと認めます。

これから議案第19号を採決します。

本案は原案のとおり決定することに賛成の方は挙手願います。

（挙手全員）

○議長（志関武良夫君）　挙手全員です。

したがって、議案第19号は原案のとおり可決されました。

◎議案第２０号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（志関武良夫君）　日程第21、議案第20号　平成27年度大多喜町特別養護老人ホーム事業会計補正予算（第２号）を議題とします。

本案について、提出者の説明を求めます。

特別養護老人ホーム所長。

○特別養護老人ホーム所長（君塚道朋君）　議案第20号　平成27年度大多喜町特別養護老人ホーム事業会計補正予算（第２号）について説明いたします。

199ページをお開きください。

総則。

第１条、平成27年度大多喜町特別養護老人ホーム事業会計の補正予算（第２号）は、次に定めるところによる。

収益的収入及び支出。

第２条、予算第３条に定めた収益的収入及び支出の予定額を、次のとおり補正する。

収入。科目、第１款特別養護老人ホーム事業収益、補正予定額1,009万4,000円の減、計２億9,053万1,000円。

科目、第１項営業収益、補正予定額1,021万3,000円の減、計２億7,974万2,000円。科目、第２項営業外収益、補正予定額11万9,000円の増、計1,078万9,000円。

続きまして支出。科目、第１款特別養護老人ホーム事業費用、補正予定額７万1,000円の

減、計２億9,099万2,000円。

詳細につきましては、202ページ、203ページの基礎資料について説明をいたします。

収益的収入の補正についてですが、第１項営業収益1,021万3,000円の減額です。実績見込みによる減額でございます。

第２項営業外収益11万9,000円の増額ですが、寄附金の実績見込みによる増額でございます。

続きまして収益的支出ですが、第１項営業費用、第１目総務管理費112万9,000円の増額ですが、給与改定による増額でございます。

第２目施設管理費30万円の増額ですが、光熱水費の実績見込みによる増額でございます。

第４目施設介護事業費150万円の減額ですが、実績見込みにより、おむつ等の使用料が43万円の増額、賄材料費が193万円の減額でございます。

以上で、大多喜町特別養護老人ホーム事業会計補正予算の説明を終わらせていただきます。

ご承認くださいますようよろしくお願いいたします。

○議長（志関武良夫君）　説明が終わりました。

これから質疑を行います。

質疑ありませんか。

１番根本年生君。

○１番（根本年生君）　すみません。収入が1,000万円減ったということでいいんでしょうかね。

○議長（志関武良夫君）　特別養護老人ホーム所長。

○特別養護老人ホーム所長（君塚道朋君）　当初見込みました予定の人数より、今のところ500人ぐらい少なくなっておりますことと、介護報酬の加算の変更がありまして、その分が減った分でございます。

○議長（志関武良夫君）　１番根本年生君。

○１番（根本年生君）　じゃ、その加算の変更がなければ赤字ではないと、当初見込んだとおりだということでよろしいんですか。それで、今後介護保険の改正って結構頻繁に行われるようですけれども、今後の見通し、要はそれによってはかなりのまた赤字がふえるという見込みなんでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　特別養護老人ホーム所長。

○特別養護老人ホーム所長（君塚道朋君）　介護報酬の改定は３年に一度ということで、今年

度改正になりましたので、しばらくはございません。

現状でございますけれども、収入と支出、まだ２カ月分がございまして、それを考えると何とかとんとんにおさまるんではないかというような見込みでございます。

○議長（志関武良夫君）　ほかにございますか。

（「なし」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

本案については、討論を省略し、これから採決したいと思います。

ご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　異議なしと認めます。

これから議案第20号を採決します。

本案は原案のとおり決定することに賛成の方は挙手願います。

（挙手全員）

○議長（志関武良夫君）　挙手全員です。

したがって、議案第20号は原案のとおり可決されました。

◎散会の宣告

○議長（志関武良夫君）　以上で本日の議案日程は全て終了しました。

次の会議は３月７日月曜日ですが、午前９時30分からの会議を開きますので、ご参集願いたいと思います。

これをもちまして、本日の会議を閉じます。散会します。

長時間にわたり大変ご苦労さまでございました。

（午後　６時３７分）

第１回大多喜町議会定例会３月会議

（ 第 ３ 号 ）

平成２８年第１回大多喜町議会定例会３月会議会議録

平成２８年３月７日（月）

午前　９時３０分　開議

出席議員（１０名）

１番	根本年生君	３番	吉野一男君
４番	麻生　勇君	６番	江澤勝美君
７番	小髙芳一君	８番	渡邉泰宣君
９番	吉野僖一君	１０番	山田久子君
１１番	野中眞弓君	１２番	志関武良夫君

欠席議員（１名）

５番　野村賢一君

地方自治法第１２１条の規定による出席説明者

町長	飯島勝美君	副町長	鈴木朋美君
教育長	石井信代君	代表監査委員	滝口延康君
総務課長	加曽利英男君	税務住民課長	市原和男君
健康福祉課長	永嶋耕一君	子育て支援課長	吉野敏洋君
建設課長	末吉昭男君	産業振興課長	野村一夫君
環境水道課長	米本和弘君	特別養護老人ホーム所長	君塚道朋君
会計室長	三上清作君	教育課長	野口　彰君
生涯学習課長	関　晴夫君	企画財政課財政係長	麻生克美君

本会議に職務のため出席した者の職氏名

事務局長	渡辺八寿雄	書記	田中雅人

議事日程（第３号）

日程第　１　議案第２１号　平成２８年度大多喜町一般会計予算（提案説明）

日程第　２　議案第２２号　平成２８年度大多喜町鉄道経営対策事業基金特別会計予算（提案説明）

日程第　３　議案第２３号　平成２８年度大多喜町国民健康保険特別会計予算（提案説明）

日程第　４　議案第２４号　平成２８年度大多喜町後期高齢者医療特別会計予算（提案説明）

日程第　５　議案第２５号　平成２８年度大多喜町介護保険特別会計予算（提案説明）

日程第　６　議案第２６号　平成２８年度大多喜町水道事業会計予算（提案説明）

日程第　７　議案第２７号　平成２８年度大多喜町特別養護老人ホーム事業会計予算（提案説明）

◎開議の宣告

○議長（志関武良夫君）　皆さん、おはようございます。

議員各位を初め、町執行部の皆さんには先日の会議に続きまして、本日出席いただきまして、まことにありがとうございます。

欠席議員ですけれども、野村議員のほうから体調が悪いということで、今日は欠席するという連絡がございましたので、ご承知おき願いたいと思います。

それと、渡邉議員のほうから、所用のためちょっとおくれるということでございますので、もう少したったら来られるかなというふうに思いますので、よろしくどうぞお願いしたいと思います。

なお、執行部説明員ですが、企画財政課長が体調不良のため本日欠席するということでございまして、企画財政課財政係長の麻生君が出席しております。

次に、議案修正について申し入れがあり、これを許可しました。議案の修正について説明願います。

環境水道課長。

○環境水道課長（米本和弘君）　それでは、平成28年度の水道事業会計予算書の中で、お手元のほうに正誤表が配付されていると思いますけれども、２カ所の訂正をお願いしたいと思います。

最初に、33ページになります。上から10行目、節の１有形固定資産減価償とありますが、これが、１有形固定資産減価償却費となります。

それから、37ページになります。下から５行目、備考欄、認可変更申請業務委託とありますが、これが面白浄水場改修工事詳細設計業務委託となりますので、よろしくお願いいたします。

以上です。

○議長（志関武良夫君）　ありがとうございます。

ただいまの出席議員は９名です。したがって、定足数に達しておりますので、会議は成立いたします。

これより本日の会議を開きます。

（午前　９時３０分）

◎議案第２１号～議案第２７号の一括上程、説明

○議長（志関武良夫君）　日程に入ります。

日程第１、議案第21号　平成28年度大多喜町一般会計予算から日程第７、議案第27号までの各特別会計予算及び各事業会計予算までを一括議題とします。

なお、各議案は議事日程にお示ししたとおり、本日は議案説明までとします。

議案第21号から順次説明を求めます。

なお、説明員の皆さんには着席にて説明することを許可します。

初めに、日程第１、議案第21号　平成28年度大多喜町一般会計予算について説明願います。

企画財政課財政係長、麻生君。

○企画財政課財政係長（麻生克美君）　それでは、議長様のお許しをいただきましたので、座ったままご説明させていただきます。

議案第21号の提案説明をさせていただきます。

平成28年度大多喜町予算書に沿ってご説明させていただきます。

１ページをお開きください。

平成28年度大多喜町一般会計の予算は、次に定めるところによる。

第１条、歳入歳出予算の総額を56億9,200万円と定めるものでございます。

第２項は、歳入歳出予算の款項の区分及び当該区分ごとの金額は、第１表歳入歳出予算によることを定めるものでございます。

第２条は、地方債について、起債の目的、限度額、起債の方法、利率及び償還の方法は第２表地方債によることを定めるものでございます。

第３条は、一時借入金の借り入れの最高額は１億円と定めるものでございます。

第４条は、歳出予算の各項の経費の金額を流用できる場合として、各項に計上した給料、職員手当及び共済費（賃金に係る共済費を除く。）に係る予算額に過不足を生じた場合における、同一款内でのこれらの経費の各項の間の流用を定めるものでございます。

次に、６ページをお開きください。

第２表、地方債。平成28年度の地方債について、起債の目的、限度額、起債の方法、利率、償還の方法を定めるものでございます。

過疎地域自立促進特別事業債4,120万円は、大多喜町過疎地域自立促進計画に計上した事業のうち、ソフト事業に係るものでございます。上水道出資債2,260万円は、南房総広域水道企業団への出資債でございます。道路整備事業債8,110万円は、辺地対策事業及び過疎対

策事業の町道改良事業、橋梁長寿命化事業の小土呂、原橋の改修工事に充当するものでございます。消防施設整備事業債1,690万円は、消防車両の更新に充当するものでございます。臨時財政対策債１億8,000万円は、地方交付税交付額の不足に対応するために許可されている地方債を見込み、計上しております。

起債の限度額の合計は３億4,180万円でございます。

次に、事項別明細書の歳入をご説明させていただきますので、予算書の10ページをお開きください。

２、歳入。

款１町税、項１町民税、目１個人町民税は３億2,293万6,000円で、景気の低迷及び納税義務者の減少を見込み計上しました。

目２の法人町民税4,846万3,000円は、税制改正に伴う法人税割の減額を見込み計上しました。

次の、項２固定資産税、目１固定資産税は５億4,188万8,000円。目２国有資産等所在市町村交付金は407万9,000円を計上しました。

次の、項３軽自動車税は、税改正に伴う増額を見込み2,831万4,000円を計上しました。

項４たばこ税は8,010万円、項５鉱産税は198万円、項６特別土地保有税は滞納繰越分として10万円、項７入湯税は600万円を見込みました。

款２地方譲与税、項１地方揮発油譲与税は1,700万円、項２自動車重量譲与税は4,050万円を計上しました。

次のページをお開きください。

款３利子割交付金は100万円、款４配当割交付金は500万円、款５株式等譲渡所得割交付金は250万円、款６地方消費税交付金は１億7,000万円、款７ゴルフ場利用税交付金は１億500万円、款８自動車取得税交付金は1,000万円、款９地方特例交付金は210万円を計上しました。

款10地方交付税は14億7,454万8,000円と、普通交付税の増額と地籍調査事業の増額を特別交付税で見込み計上しました。

款11交通安全対策特別交付金は150万円を計上しました。

次のページをお開きください。

款12分担金及び負担金、項１負担金、目１民生費負担金は5,108万5,000円で、節１高齢者在宅生活支援事業負担金の外出支援サービス負担金、節４児童福祉施設費負担金、節５学童保育負担金が主な内容でございます。

目２衛生費負担金435万2,000円は、いすみ市の火葬場運営費負担金でございます。

目３農林水産業費負担金45万円は、土地改良施設維持管理適正化事業負担金でございます。

目４教育費負担金24万2,000円、次の目５給食費負担金3,620万円は、児童・生徒数の減少を見込み計上しました。

次の、款13使用料及び手数料、項１使用料、目１衛生使用料731万6,000円、目２農林水産業使用料126万7,000円、目３商工使用料602万3,000円、目４観光使用料443万2,000円、目５土木使用料3,628万円、目６教育使用料367万6,000円は、それぞれ節または説明記載欄のとおりでございます。

次のページをお開きください。

項２手数料、目１総務手数料635万4,000円、目２民生手数料の１万2,000円。次の目３衛生手数料3,483万6,000円は、清掃手数料の条例改正による増額を見込み計上しております。

目４農林水産業手数料１万3,000円、目５土木手数料14万4,000円は、それぞれ節欄に記載のとおりでございます。

次の、款14国庫支出金、項１国庫負担金、目１民生費国庫負担金１億7,790万2,000円で、障害者自立支援給付費等負担金及び国民健康保険基盤安定負担金の増額が主な内容でございます。

目２衛生費国庫負担金30万円でございます。

次の、項２国庫補助金、目１総務費国庫補助金は、社会保障・税番号制度システム整備費補助金の減額を見込み171万7,000円を計上しました。

目２民生費国庫補助金は、前年度比較1,947万4,000円増額の2,423万4,000円を計上しました。この増額は、臨時福祉給付金等給付事業補助金及び、次のページにいきますけれども、子ども・子育て支援交付金の増額でございます。

次の、目３衛生費国庫補助金174万9,000円、目４土木費国庫補助金2,345万円、次の目５教育費国庫補助金98万円は、節欄及び説明欄のとおりでございます。

次に、項３国庫委託金、目１総務費委託金17万円、目２民生費委託金232万3,000円は、それぞれ節欄に記載のとおりでございます。

款15県支出金、項１県負担金、目１総務費県負担金は17万円で、次の目２民生費県負担金１億3,175万6,000円は、国庫負担金と同様の内容でございます。

目３衛生費県負担金は15万円で、次の目４土木費県負担金9,205万5,000円は、地籍調査に係る県負担金で前年度より8,331万円の増額でございます。

目５教育費県負担金は存目でございます。

次のページをお開きください。

項２県補助金、目１総務費県補助金210万円で、目２民生費県補助金2,691万8,000円は、節１重度障害者医療費補助金及び節12子ども・子育て支援補助金が主なものでございます。

目３衛生費県補助金1,609万3,000円は、節１子ども医療費助成事業補助金が主なものでございます。

目４農林水産業費県補助金6,393万9,000円は、節５青年就農者確保育成給付金事業補助金や、次の23ページの、節10多面的機能支払交付金、節11野生獣管理事業補助金、節12鳥獣被害防止総合対策交付金が主なものでございます。

次の、目５商工費県補助金83万円、目６土木費県補助金８万5,000円、目７消防費県補助金658万6,000円は、それぞれ節欄に記載のとおりでございます。

次に、項３県委託金、目１総務費委託金2,934万7,000円は、節２県税取扱委託金、節７参議院議員選挙費委託金、節５千葉県知事選挙費委託金が主なものでございます。

次のページをお開きください。

目２民生費委託金10万9,000円、目３農林水産業費委託金2,950万円、目４土木費委託金70万1,000円、目５消防費委託金260万円は、それぞれ節欄に記載のとおりでございます。

次に、款16財産収入、項１財産運用収入、目１財産貸付収入2,032万1,000円は、土地建物貸付収入と物品貸付収入でございます。

目２利子及び配当金７万8,000円は、株式の配当金を見込み計上しました。

次の、項２財産売払収入、目１不動産売払収入4,015万5,000円は、土地売払収入を見込み計上しております。

款17寄附金、項１寄附金、目１指定寄附金３億円は、ふるさと納税を見込み計上しております。

次の、款18繰入金、項１基金繰入金、目１財政調整基金繰入金１億1,799万5,000円は、財源不足を補うための繰り入れでございます。

目２交通災害共済基金繰入金から目５福祉基金繰入金までは、各基金の設置目的に応じた事務事業に充当するために繰り入れるものでございます。

次のページをお開きください。

目６ふるさと基金繰入金７億5,565万6,000円は、高速バス運行補助金、ふるさと納税の返礼品等に充当するものでございます。

目７土地開発基金繰入金２億5,160万7,000円は、基金条例の廃止により繰り入れるものでございます。

目８環境基金繰入金82万5,000円は、基金の設置目的に応じ説明欄の事業に充当するものでございます。

項２特別会計繰入金は41万2,000円で、説明欄等に該当する場合に各特別会計から繰り入れるものでございます。

款19繰越金、項１繰越金は、前年度から暫定的な繰越金として１億円を計上しております。

款20諸収入、項１延滞金、加算金及び過料、目１延滞金30万円は、税金等の延滞金収入でございます。

次に、項２町預金利子は、歳計金の預金利子を見込み計上しております。

次の、項３貸付金元利収入、目１高額療養費貸付償還金は100万円を計上しました。

次の、項４受託事業収入、目１後期高齢者医療広域連合受託事業収入289万7,000円は、後期高齢者の健康診査委託金でございます。

次の、項５雑入、目１滞納処分費は２万2,000円を計上し、次の目２雑入は、次の28、29ページにもわたりますが、4,075万4,000円を計上しました。内容につきましては説明欄記載のとおりでございます。

それでは、28、29ページをお開きください。

目欄の高額療養費貸付償還金につきましては、項３に計上しておりますので廃目とするものでございます。

款21町債、項１町債、目１総務債4,120万円は、過疎地域自立促進特別事業債でございます。

目２衛生債2,260万円は、南房総広域水道企業団への出資債でございます。

目３土木債8,110万円は、道路整備事業債で、辺地対策事業、過疎対策事業等に充当するものでございます。

目４消防債1,690万円は、消防車両の更新に充当するものでございます。

目５臨時財政対策債は１億8,000万円を計上しました。

次に、歳出予算のご説明をさせていただきますので、30、31ページをお開きください。

３、歳出。

款１議会費、項１議会費7,410万円で、議員人件費、議会事務局職員の人件費、会議録作成、政務活動費補助金、議会関係団体の負担金が主なものでございます。

款２総務費、項１総務管理費、目１一般管理費は３億2,725万7,000円で、この目は特別職及び総務、企画財政職員、次のページ33ページの会計関係職員の人件費、一般事務費として行政連絡員、産業医への報酬、共済費の追加費用等負担金、町長交際費、職員健康診断の委託料、関係団体への負担金や補助金でございます。

次の、35ページをお開きください。

一般事務費の管財管理費につきましては、役場内事務消耗品や電話料などで、職員研修事業、入札関係の電子調達管理事業、男女共同参画推進事業に係る経費でございます。

目２文書広報費849万2,000円で、文書管理事業は法規集追録代、例規集データ更新などの経費でございます。

次の、37ページの広報おおたき発行事業は、広報おおたきの印刷製本費や、ホームページのシステム使用料等でございます。

次の、目３財政管理費892万7,000円は、公会計仕訳整備支援業務委託料の増と、財務会計システムの保守点検及びソフトなどの借上料が主な経費でございます。

目４会計管理費42万5,000円は、会計室での事務用品、郵便料及びパソコンソフトの使用料等でございます。

目５財産管理費4,052万8,000円は、公共施設等総合管理計画策定業務委託料の増額や、旧老川小学校の活用が増額の主なもので、公有財産管理事業は町有車両、町有建物の保険料や町有財産管理の経費でございます。

次のページをお開きください。

庁舎管理費は役場庁舎の光熱水費及び各種委託料や使用料、借上料を計上し、町有林管理事業は町有林の保険料や管理委託費等で、旧老川小学校活用事業は地元のやまゆりの会への補助金でございます。

次の、目６企画費は14億64万2,000円を計上し、前年度比較12億1,723万3,000円の増額で、ふるさと納税の増額、返礼品の増額、定住化基金、積立金の増額が主なものでございます。

企画事務費は、次のページの夷隅郡市広域市町村圏事務組合企画関係団体の負担金、町国際交流補助金やまちづくり提言事業助成金等でございます。定住化対策事業は、空き家改修事業と家財道具撤去補助金を計上しております。地域情報通信基盤維持管理事業は、光ファイバー網の施設の保守管理、東京電力やＮＴＴ柱へのケーブルの添架利用料の経費でございます。

大多喜ダム対策事業は、大多喜ダム跡地の環境管理事業の補助金。結婚活動支援事業は、

年２回イベントを開催する経費。ふるさと基金積立事業は、ふるさと納税を基金に積み立てる経費でございます。大多喜高校支援推進費は、助成金を計上しております。

地域公共交通対策事業は、次の43ページになりますが、地方バス路線維持助成金やいすみ鉄道利用増大対策事業補助金を初め、いすみ鉄道基盤維持費補助金、地域公共交通活性化協議会負担金、鉄道輸送対策事業費補助金など、地方公共交通支援対策に係る経費を計上しました。

ふるさと納税事業は、町のふるさと納税の返礼品の経費や代理収納システムの利用料などでございます。総合戦略推進事業は、総合戦略推進会議の経費で、次の公共交通政策事業は高速バス運行補助金等でございます。次の小さな拠点事業は、中野駅周辺検討委員会の運営に関する経費でございます。

次のページをお開きください。

おためし居住は、移住相談会や、おためし居住用住宅借上料で、地域おこし協力隊事業は、１名分の報酬と活動経費等を見込みました。

次の、目７電子計算費6,375万6,000円は、電子計算機の保守委託料や借上料、マイナンバー制度導入に伴うシステムの改修経費等でございます。

目８諸費は1,001万6,000円を計上しました。総合賠償保険事業は、町主催行事の賠償保険や交付金の損害保険、自衛隊協力会の補助金、税務事業の還付費、次の47ページの交通安全対策事務費には、交通安全の啓発、防犯灯維持管理費を計上してございます。コミュニティ育成事業補助金は、宇野辺集会所改築工事を見込み計上してございます。

次の、項２徴税費、目１税務総務費6,991万8,000円は、税務関係職員人件費と税務総務事務費でございます。

目２賦課徴収費2,371万5,000円は、平成30年１月評価替えに向けた標準宅地の鑑定委託料が増額しております。

次の、49ページをお開きください。

徴収事務費は、収納に伴う通信運搬費が主なものでございます。地図情報システム管理事業は、地図情報データの維持管理経費が主な内容でございます。

項３戸籍住民基本台帳費、目１戸籍住民基本台帳費3,720万円は、戸籍関係職員人件費と、戸籍事務費は、臨時職員の賃金、戸籍システムの保守委託料や借上料等で、次の51ページの住民基本台帳ネットワークシステム事業は、パソコンの借上料が主なものでございます。

次の、項４選挙費、目１選挙管理委員会費68万5,000円、委員報酬、事務費は、定時登録

事務処理委託、関係団体への助成事業が主なものでございます。

次の、目２参議院議員選挙費814万5,000円及び次のページの目３千葉県知事選挙費570万4,000円、次の目４大多喜町議会議員選挙費705万円は、それぞれ選挙の執行経費を計上しました。

次の、54、55ページをお開きください。

目、千葉県議会議員選挙費は廃目でございます。

次の、項５統計調査費、目１統計調査総務費827万4,000円は、統計関係職員人件費及び統計事務費でございます。

次の、目２各種統計調査費65万7,000円は、国勢調査費の減額が大きな要因でございます。

次の、項６監査委員費、目１監査委員費47万円は、次のページにわたりますが、監査委員の報酬、次の57ページになりますが、研修に係る経費が主な内容でございます。

次に、56ページの款３民生費、項１社会福祉費、目１社会福祉総務費４億5,577万5,000円は、町社会福祉協議会補助金の減額、国民健康保険特別会計繰出金及び障害者福祉事業の増額、臨時福祉給付金等事業の増額を相殺し、前年度比較4,217万7,000円の増額となっております。この目の事業は、社会福祉関係職員人件費、社会福祉事務費、社会福祉関係団体助成事業は社会福祉協議会補助金が主なもので、障害者福祉事業は、前年度比較1,802万3,000円を増額しており、次の59ページの節20の扶助費の重度心身障害者医療費補助金、障害児通所給付費が主な増額でございます。

民生委員活動事業は、研修補助金が増額で、国民健康保険特別会計繰出金は、制度改正により前年度より1,381万3,000円の増額でございます。

次のページをお開きください。

少子化対策事業は、出産祝い金でございます。臨時福祉給付金等事業は、対象者１人当たり3,000円の給付と、65歳未満の障害・遺族基礎年金受給者には３万円を給付するものでございます。

次の、目２国民年金費390万9,000円は、国民年金事務に係る職員人件費と事務費でございます。

目３老人福祉費2,168万5,000円は、次のページにわたりますが、高齢者在宅生活支援事業が1,657万6,000円で、緊急通報システム業務委託料や外出支援サービス委託料が主な経費でございます。敬老祝事業費は、敬老祝い品等の報償費が主なもので、老人福祉団体助成事業は、次のページの老人クラブ活動費補助金等が主なもので、ほかに老人日常生活用具給付事

業、地域福祉ボランティア事業、介護予防事業を計上し、老人ホーム施設措置事業は老人ホーム入所判定委員の報酬と老人保護措置費を計上してございます。

次の、目４青少年女性対策費115万7,000円は、青少年健全育成事業として、青少年相談員への報酬や活動費、補助金などで、若い人たちが集まる場をつくるために結婚支援事業補助金を計上しました。

目５介護保険事業費１億8,605万1,000円は、介護保険特別会計繰出金が主で、その他、地域包括支援センター運営事業の予防ケアマネジメント業務委託料や、社会福祉法人等利用者負担額軽減事業でございます。

次の、65ページをお開きください。

介護保険特別会計繰出金は、前年度より500万円の増額で、低所得者保険料軽減繰出金は、対象者675人分でございます。

目６後期高齢者医療費１億8,839万4,000円は、療養給付事業の療養給付費負担金が主な支出で、その他、後期高齢者医療広域連合負担金及び後期高齢者医療特別会計繰出金などでございます。

次の、項２児童福祉費、目１児童福祉総務費5,634万9,000円は、子育て支援関係職員人件費、子ども医療対策事業は、子ども医療費の補助が主なものでございます。

66、67ページをお開きください。

目２児童措置費１億669万6,000円は、事務費と児童手当支給事業でございます。

目３母子福祉費100万8,000円は、ひとり親家庭等医療費等助成金でございます。

目４児童福祉施設費２億5,406万1,000円は職員人件費と、保育園管理運営事業は、保育園２園の施設管理費のほか臨時職員の賃金、賄材料費、送迎バスの委託料が主なもので、次のページの児童クラブ運営事業は、臨時職員賃金と車両借上料、子育て支援センター運営事業は、職員人件費及び臨時職員賃金等で、特色のある教育の展開事業は、英語教育に加え、スポーツによる体力向上や音楽などの情操教育を実施するものでございます。

款４衛生費、項１保健衛生費、目１保健衛生総務費１億465万3,000円は、衛生関係職員の人件費で、次の71ページの保健衛生事務費の国保国吉病院負担金及び養育医療給付事業では、発達が未熟な子供の入院費を助成する扶助費が主な内容でございます。

目２予防費4,111万1,000円は、次のページにわたりますが、がん検診事業の検診委託料、予防接種事業は医療材料費、予防接種委託料、肺炎球菌ワクチン接種助成金が主なもので、健康増進事業につきましては、次の73ページの健康診査委託料や集団運動指導講師委託料が

主なもので、感染症予防対策事業は、消毒作業用の動力噴霧器の保守経費で、防疫対策事業は、狂犬病予防法に基づく予防経費でございます。

次の、目３環境衛生費6,340万2,000円は、職員人件費、環境衛生事務費の夷隅環境衛生組合負担金、環境保全事業のごみ不法投棄防止や、次の75ページの住宅用太陽光発電設備導入促進補助金や、合併処理浄化槽設置整備事業補助金を計上し、資源循環事業は、バイオディーゼル燃料の製造に係る経費、小水力発電所管理運営事業は、環境基金積立金が主なものでございます。

次の、目４母子保健事業費804万6,000円は、母子保健協力医報酬及び母子保健事業に係る事務経費、乳幼児健康診査委託料等で、次のページの妊婦歯科健康診査費と不妊治療費は新規事業として計上してございます。

目５火葬場費1,339万3,000円は、斎場無相苑の燃料費等の施設運営費と火葬炉運転業務委託料、工事請負費の火葬炉改修工事は火葬炉内の耐火材の交換とバーナー設備の交換でございます。

目６地域し尿処理施設管理費145万3,000円は、城見ヶ丘団地のコミュニティプラントの維持管理経費でございます。

次の、項２清掃費、目１清掃総務費3,705万9,000円は、清掃関係職員人件費と環境センターの臨時職員賃金や管理経費などでございます。

次のページをお開きください。

目２塵芥処理費、予算額１億1,838万1,000円は、環境センターの運営経費やごみ収集委託料、粗大ごみ処理委託料、一般廃棄物処分業務委託料、ごみ袋作製委託料、いすみクリーンセンターへの塵芥処理負担金でございます。

次の、項３上水道費、目１上水道運営費１億1,024万4,000円は、上水道高料金対策事業と南房総広域水道企業団への補助金及び出資金でございます。

次に、款５農林水産業費、項１農業費、目１農業委員会費1,016万6,000円は、農業委員会事務局職員の人件費や、次の81ページの農業委員会委員の報酬や委員会の事務経費等でございます。

目２農業総務費5,889万6,000円は、農業関係職員人件費及び農家組合長の報酬が主な内容でございます。人事異動による人件費の増額が、主な増額の理由でございます。

目３農業振興費1,170万8,000円は、前年度比較418万6,000円の減額で、主な減額は、青年就農者給付金受給者が１名減少し５名分になったことや、都市農村交流事業の減少、中山間

地域等直接支払交付金の目の変更によるものなどでございます。農業振興事業は、農林業振興協議会委員報酬、農業関係団体等への補助金、交付金等でございます。次の83ページの施設園芸就農者支援事業は、ビニールハウス等への施設園芸農家育成補助金と旧上瀑小学校の調理室等の維持管理経費で、農業生産法人等誘致事業は、事業協力者への支払いでございます。

目４畜産業費34万8,000円は、畜産関係団体への補助金等でございます。

目５農地費3,340万2,000円は、前年度比較1,025万2,000円の増額で、多面的機能支払交付金事業の対象地区を12地区見込み、増額となっております。この目の鉱毒ダム対策事業は平沢ダムと八声観測所の維持管理経費を、基幹農道の維持管理経費、農道等の補修用原材料費、関係団体負担金が主なもので、次のページの多面的機能支払交付金は、集落の農地維持共同活動及び農業用施設の維持、管理への支援交付金で、12組織分でございます。中山間地域等直接支払交付金事業は４組織分で、環境保全型農業直接支払交付金は１組織分でございます。

目６農業施設費774万9,000円は、次のページにわたりますが、集落センター、味の研修館、農村コミュニティーセンターの施設運営経費、施設管理臨時職員の賃金等でございます。

86、87ページをお開きください。

項２林業費、目１林業総務費4,836万2,000円は、林業関係職員人件費、事務経費、関係団体の負担金、また有害鳥獣駆除対策に係る経費で、有害鳥獣被害防止実施団体補助金に県から直接補助をしていた額が、町を経由するため補助金が増額しまして、前年度より1,176万4,000円を増額しております。

目２林業振興費33万7,000円は、県単森林整備事業委託料及び竹粉砕機の修繕料と保険料でございます。

次のページをお開きください。

目３大多喜県民の森運営費3,624万円は、職員の人件費及び県民の森施設の管理運営費でございます。

款６商工費、項１商工費、目１商工総務費2,618万7,000円は、商工関係職員人件費及び事務費でございます。

目２商工業振興費1,611万2,000円は、次の91ページの久保駐車場の全自動料金システム保守管理委託料、商工会への補助金、街路灯電気料金補助金、中小企業経営改善資金等利子補給金及び商い資料館の維持管理経費でございます。ほかに、就職情報案内事業では就職説明会の開催などの経費で、空き家を活用した起業支援事業は本事業に係る補助金でございます。

目３観光費2,726万4,000円は、観光施設管理事業として、町営住宅、公衆用トイレの維持管理経費、公園管理などの経費で、次の93ページの観光案内板修繕工事は、中野駅前の観光案内、観光看板の改修工事で、観光センター管理運営事業は、観光本陣の維持管理費等で、観光振興事業につきましては、お城まつり実行委員会や町観光協会への補助金、大河ドラマ誘致実行委員会等への補助金などでございます。

次の95ページの天然ガス記念館の管理運営経費、いすみ鉄道沿線観光推進事業は、モデルコースの作成ともみじの苗木代でございます。

次の、款７土木費、項１土木管理費、目１土木総務費5,559万8,000円は、土木関係職員人件費、事務経費のほか、道路台帳の更新業務委託料、関係団体負担金及び次のページの国県道維持補助金等でございます。

目２登記費1,514万円は、登記関係人件費、登記推進事業の経費などでございます。

目３国土調査費１億2,679万4,000円は、前年度比較１億656万6,000円の増額で、地域調査費等実施計画に基づく地籍調査業務委託の増によるもので、対象地区は森宮、船子、新丁、上原地区の一部1.96キロ平方メートル、小沢又地区の一部0.23キロ平方メートルを予定しております。

次のページをお開きください。

目４道の駅管理費343万5,000円は、道の駅トイレ及び無料休憩室の維持管理経費でございます。

次の、項２道路橋梁費、目１道路維持費2,553万3,000円は、前年度比較501万9,000円の増額で、調査設計業務委託料は、補正修繕計画の策定事業が主な増額でございます。この目は、道路維持のための臨時職員賃金、建設機器、燃料及び修繕費、その他道路補修用原材料費などでございます。

目２道路新設改良費１億2,287万5,000円は、職員人件費と委託料及び工事請負費は、増田小土呂線の歩道整備工事、中野大多喜線の道路改良工事、宇野辺当月川線の道路改良工事、弓木西下線の道路改良工事、船子東前線の道路改良工事で、公有財産購入費、補償補塡及び賠償金が主な経費でございます。

次の、100、101ページをお開きください。

目３橋梁維持費1,210万円は、橋梁長寿命化修繕計画策定業務と、小土呂の原橋の橋梁補修工事でございます。

目４交通安全対策費205万4,000円は、道路区画線工事費、カーブミラー、ガードレールな

どの交通安全対策用原材料費などでございます。

項３都市計画費、目１街路事業費309万2,000円は、歴史的景観審議会委員報酬及び街なみ整備助成事業補助金が主な経費でございます。

項４住宅費、目１住宅管理費1,076万8,000円は、前年度比較498万6,000円の増額で、町営住宅補修計画策定業務委託料が主な増額の理由でございます。この目は町営住宅入居者選考委員報酬、町営住宅に係る修繕料や借地料及び戸建て住宅の耐震診断費用補助金が主なものでございます。

次の、目２宅地造成費1,044万7,000円は、次の103ページの城見ヶ丘団地分譲地の仲介手数料及び定住化補助金が主なものでございます。

目３住宅助成費1,500万円は、定住化対策住宅助成事業として住宅所得奨励金、住宅リフォーム補助金でございます。

次に、款８消防費、項１消防費、目１常備消防費２億2,610万6,000円は、広域常備消防に係る負担金でございます。

目２非常備消防費3,166万6,000円は、消防団員346人分の報酬と、消防団員出動手当、健康診査委託料、退職報償金支給事務負担金が主な内容でございます。

目３消防施設費2,726万7,000円は、次の105ページの防火水槽のフェンス改修工事及び消火栓改修工事及び消防車両等の車両の修繕や燃料費、その他４分団１部のポンプ車及び２分団１部２班の小型動力ポンプつき積載車の購入費などが主な理由でございます。

目４災害対策費703万1,000円は、防災会議委員等の報酬、災害時の職員の時間外勤務手当、久保排水機場等の管理委託費、防災行政無線施設の保守委託料などが主な内容でございます。

次の、106、107ページをお開きください。

次の、款９教育費、項１教育総務費、目１教育委員会費107万4,000円は、教育委員報酬、その他教育委員会に関係する経費でございます。

目２事務局費6,546万円は、教育長や職員の人件費、登下校待機児童支援員や特別支援教育支援員の賃金、委員会事務経費、教育関係団体への負担金及び補助金、委員会施設管理経費が主なものでございます。

次のページをお開きください。

項２小学校費、目１学校管理費3,997万4,000円は、小学校の管理経費と送迎バス委託料が主なものでございます。この目は小学校医、薬剤師の報酬、送迎バスの委託料、小学校２校の学校管理事務経費や、施設管理経費、パソコンの使用料等でございます。

次の、110、111ページをお開きください。

目２教育振興費778万円は、小学校２校の教育活動で使用する教材やクラブ活動助成補助金、遠距離通学費補助金や、次のページの英語教室業務委託料、要保護・準要保護児童学用品費等補助金が主な内容でございます。

項３中学校費、目１学校管理費2,166万7,000円は、次のページにも続きますが、中学校医、薬剤師等の報酬、中学校２校の学校管理、事務経費や校舎等の施設管理経費のほか、パソコン借上料などが主なものでございます。

次の、114、115ページの目２教育振興費1,032万4,000円は、２中学校の教育活動で使用する教材費、クラブ活動助成費補助金、中学校遠距離通学費補助金や、次のページの外国語指導助手の委託料、要保護・準要保護生徒学用品費等補助金などが主なものでございます。

項４社会教育費、目１社会教育総務費4,137万5,000円は、関係職員人件費、社会教育委員の報酬、関係協議会の負担金や補助金が主なものでございます。

次のページをお開きください。

目２公民館費1,697万2,000円は、公民館運営審議会委員報酬や中央公民館の光熱水費、施設夜間警備や清掃委託料などの施設管理費のほか、公民館バス運行管理委託料などが主なものでございます。

次の、目３図書館費606万円は、図書館の光熱水費と、次のページの施設の警備委託、パソコン借上料、図書の購入経費、団体負担金と、大多喜の冊子発行事業につきましては、観光ガイドとは異なる冊子の作成業務が主なものでございます。

次の、目４文化財保護費67万6,000円は、文化財審議会委員報酬や消耗品、文化財に関係した補助金、負担金でございます。

次の、目５視聴覚教育費30万5,000円は、いすみ市・夷隅郡視聴覚教材センターへの負担金でございます。

次の、項５保健体育費、目１保健体育総務費2,300万8,000円は、職員人件費や事務費、保健体育振興事業は、スポーツ推進委員の報酬や、次のページの町体育協会補助金、郡体協への負担金が主なものでございます。

次の、目２体育施設費1,459万9,000円は、海洋センター体育館やプール、野球場及びテニスコートの光熱水費や施設管理業務経費などが主なものでございます。

次の、124、125ページをお開きください。

目３学校給食費１億658万1,000円は、職員人件費や学校給食センター運営委員報酬、臨時

職員の賃金、共済費、光熱水費や賄材料費、給食配送業務委託料、調理用備品、フライヤーの購入などが主なものでございます。

次の、126、127ページをお開きください。

款10災害復旧費、項１公共土木施設災害復旧費、目１道路橋梁災害復旧費180万円及び目２河川災害復旧費130万円は、災害発生時の緊急復旧費として予算計上しているものでございます。

款11公債費、項１公債費、目１元金４億3,356万6,000円は、起債償還の元金分で、次の目２利子5,401万4,000円は、同じく起債償還の利子分でございます。

款12予備費、項１予備費は、前年度同額の500万円を計上させていただきました。

次の、128ページから137ページまでは、給与費明細書でございますので、説明を割愛させていただきます。

138、139ページをお開きください。

この調書は、債務負担行為に関する調書で、限度額、前年度までの支出見込み額、当該年度以降の支出予定額、財源内訳を記載したものでございます。

次のページをお開きください。

この調書は、地方債に関する調書で、区分ごとの年度末の現在高及び現在高の見込みに関するものでございます。

以上で、議案第21号　平成28年度大多喜町一般会計予算の提案説明とさせていただきます。

よろしくご審議くださるようお願いします。

○議長（志関武良夫君）　ご苦労さまです。

次に、議案第22号　平成28年度大多喜町鉄道経営対策事業基金特別会計予算についての説明を願います。

企画財政課財政係長。

○企画財政課財政係長（麻生克美君）　それでは、座ったまま説明させていただきます。

議案第22号の提案説明をさせていただきます。

予算書の143ページをお開きください。

平成28年度大多喜町鉄道経営対策事業基金特別会計の予算は、次に定めるところによる。

第１条、歳入歳出予算の総額は、歳入歳出それぞれ21万円と定めるものでございます。

第２項、歳入歳出予算の款項の区分及び当該区分ごとの金額は、第１表、歳入歳出予算によります。

次に、歳入歳出の内容につきまして、事項別明細書によりご説明させていただきますので、150、151ページをお開きください。

２、歳入。

款１財産収入、項１財産運用収入、目１利子及び配当金21万円を基金の利子として計上しております。

款繰入金、項繰入金、目繰入金は、いすみ鉄道の車両の更新が完了いたしましたので廃目でございます。

次のページをお開きください。

３、歳出。

款１鉄道経営対策事業費、項１鉄道経営対策事業費、目１事業費21万円を計上しました。基金利子を基金に積み立てるものでございます。

次の目、助成費につきましては、いすみ鉄道の車両の更新が完了しましたので廃目でございます。

以上で、議案第22号　平成28年度大多喜町鉄道経営対策事業基金特別会計の提案説明とさせていただきます。

よろしくご審議くださるようお願いします。

○議長（志関武良夫君）　ご苦労さまです。

ここで10分間の休憩をとります。

10時40分からの開会とします。

（午前１０時３１分）

○議長（志関武良夫君）　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午前１０時４０分）

○議長（志関武良夫君）　次に、議案第23号　平成28年度大多喜町国民健康保険特別会計予算についての説明を願います。

税務住民課長。

○税務住民課長（市原和男君）　それでは、説明につきましては着席でご説明をさせていただきます。

議案第23号　平成28年度大多喜町国民健康保険特別会計予算につきましてご説明をいたし

ます。

予算書155ページをお願いいたします。

本文に入ります前に、予算編成状況につきましてご説明を申し上げます。

平成28年度予算につきましては、加入者の減少及び高齢化の進展並びに医療費の動向等を勘案し編成をいたしました。歳入歳出予算の総額は15億8,114万2,000円となり、前年度と比較し1,662万円の増加でございます。国民健康保険を取り巻く状況は、被保険者の高齢化、医療技術の高度化等に伴う医療費の増加、所得水準が低いなどの構造的な問題等から、依然として厳しい財政状況が続いております。

それでは、本文に入らせていただきます。

平成28年度大多喜町国民健康保険特別会計の予算は、次に定めるところによる。

歳入歳出予算。第１条第１項、歳入歳出予算の総額は、歳入歳出それぞれ15億8,114万2,000円と定める。

第２項、歳入歳出予算の款項の区分及び当該区分ごとの金額は、第１表、歳入歳出予算による。

なお、詳細につきましては、事項別明細書によりご説明をさせていただきます。

162、163ページをお願いいたします。

款１国民健康保険税、項１国民健康保険税、目１一般被保険者国民健康保険税３億2,004万8,000円、目２退職被保険者等国民健康保険税875万2,000円、退職被保険者等の対象者の減少を見込み、前年度比718万6,000円の減でございます。合計で３億2,880万円、前年度比500万3,000円の増を計上いたしました。現年度課税分で３億1,678万6,000円、滞納繰越分で1,201万4,000円となり、明細は163ページ記載のとおりでございます。

款２項１目１一部負担金につきましては、前年度と同額1,000円で存目程度でございます。

款３使用料及び手数料、項１手数料、目１督促手数料、前年度と同額５万5,000円でございます。

款４国庫支出金、項１国庫負担金、目１療養給付費等負担金２億6,400万1,000円は、医療に要する費用、後期高齢者支援金及び介護納付金等に対する国庫負担金でございます。

目２高額医療費共同事業負担金1,009万3,000円は、高額療養費共同事業拠出金の４分の１を国が負担するものでございます。

目３特定健康診査負担金140万円につきましては、特定健康診査費用に対する国の負担金で、負担率は国基準の３分の１でございます。

項２国庫補助金、目１財政調整交付金7,480万6,000円は、国保財政の平準化を図るため国から交付されるものでございます。

次のページ、164、165ページをお願いいたします。

款５項１目１療養給付費交付金4,163万3,000円でございますが、退職被保険者等の医療費に対する交付金で、被保険者数の減少に伴い交付金の減少を見込んでおります。

款６項１目１前期高齢者交付金２億5,000万円は、65歳から74歳の前期高齢者の給付実績等に応じて交付されるものでございます。

款７県支出金、項１県負担金、目１高額医療費共同事業負担金1,009万3,000円でございますが、高額療養費共同事業拠出金の４分の１を県が負担するもので、国庫負担金と同額を計上いたしました。

目２特定健康診査負担金140万円は、特定健康診査費用に対する県負担分で、国庫負担金と同額でございます。

項２県補助金、目１財政調整交付金5,500万円は、国保財政の平準化を図るため、県から交付されるものでございます。

款８項１目１共同事業交付金３億9,400万7,000円でございますが、165ページ中段の節１高額医療費共同事業交付金は、レセプト１件当たり80万円以上、節２保険財政共同安定化事業交付金は、80万円未満の医療費を対象とするものでございます。

款９繰入金、項１他会計繰入金、目１一般会計繰入金１億4,832万8,000円でございますが、内訳といたしまして、右側165ページの節１保険基盤安定繰入金から節５財政安定化支援事業繰入金は法定繰入金、節６財政調整繰入金、節７特定健康診査等事業費繰入金は法定外繰入金となり、予算額はそれぞれ記載のとおりでございます。

款10繰越金、項１繰越金、目１療養給付費交付金繰越金1,000円、目２その他繰越金100万円とも、前年度と同額を計上いたしました。

次のページをお願いいたします。

款11諸収入、項１延滞金及び過料、目１一般被保険者延滞金１万円、目２退職被保険者等延滞金1,000円は、それぞれ前年度と同額を計上いたしました。

款11諸収入、項２雑入、目１延滞処分費から目５退職被保険者等返納金につきましても、前年度と同額の計上でございます。

目６雑入40万円は、167ページ記載の節１特定健康診査徴収金、節２一般被保険者指定公費分でございます。

以上が歳入でございます。

続きまして、歳出のご説明をさせていただきます。

次のページ、168、169ページをお願いいたします。

款１総務費、項１総務管理費、目１一般管理費3,442万8,000円の主な内容につきましては、右側169ページ説明欄記載のとおり、職員人件費及び事務費で、主な委託料といたしまして基幹系システム大量一括処理委託料、レセプト電算処理委託料、レセプト点検業務委託料、また団体助成事業として県国保連合会負担金等でございます。

項２運営協議会費、目１運営協議会費６万3,000円は、国民健康保険運営協議会委員９名分の報酬でございます。

款２保険給付費、項１療養諸費、目１一般被保険者療養給付費７億4,400万円、目２退職被保険者等療養給付費3,200万4,000円、目３一般被保険者療養費785万円、目４退職被保険者等療養費30万円、療養給付実績あるいは被保険者数の推移等を考慮し、計上をそれぞれいたしました。

次のページをお願いします。

目５審査及び支払手数料162万7,000円は、レセプト審査手数料となり、手数料単価は前年度と同額でございます。

療養諸費の合計は、７億8,578万1,000円となり、前年度と比較し122万1,000円の増でございます。

項２高額療養費、目１一般被保険者高額療養費１億956万円、目２退職被保険者等高額療養費504万円、目３一般被保険者高額介護合算療養費及び目４退職被保険者等高額介護合算療養費につきましては、前年度と同額５万円でございます。

高額療養費の合計で１億1,470万円、給付実績等を考慮いたしまして、前年度と比較し649万8,000円の増でございます。

項３移送費、目１一般被保険者移送費及び目２退職被保険者等移送費とも、前年度と同額の５万円でございます。

項４出産育児一時金、目１出産育児一時金420万3,000円は、１件42万円の10件分及び支払い手数料3,000円でございます。

項５葬祭費、目１葬祭費125万円は、１件５万円の25件分でございます。

款３項１目１後期高齢者支援金１億7,700万円。

次のページをお願いいたします。

目２後期高齢者関係事務費拠出金１万3,000円。合計で１億7,701万3,000円は、後期高齢者の医療実績等に応じて納付するものでございます。

款４項１前期高齢者納付金等、目１前期高齢者関係事務費拠出金23万円は、65歳以上の医療費に係る事務費拠出金でございます。

款５項１老人保健拠出金、目１老人保健事務費拠出金５万3,000円は、老人保健医療に係る整理事務費でございます。

款６項１目１介護納付金8,300万円は、介護給付費の国庫負担分でございます。

款７項１共同事業拠出金、目１高額療養費共同事業拠出金4,037万5,000円は、レセプト１件当たり80万円以上の医療費に対する拠出金、目２保険財政共同安定化事業拠出金３億2,039万円は、レセプト１件当たり80万円未満の医療費に対する拠出金、目３その他共同事業拠出金2,000円を含め、合計で３億6,076万7,000円でございます。

款８項１目１保健事業費354万1,000円は、右のページ説明欄に記載の事業費は、ジェネリック医薬品啓発用消耗品、国保制度パンフレット、役務費は、ジェネリック差額通知代等、また人間ドック経費補助金70件分で294万円が主な内容でございます。

次のページをお願いいたします。

款８保健事業費、項２特定健康診査等事業費、目１特定健康診査等事業費1,176万1,000円は、右のページの説明欄記載の特定健康診査委託料及び特定保健指導委託料等の経費が主な内容でございます。

款９諸支出金、項１償還金及び還付加算金でございますが、目１一般被保険者保険税還付金120万円、目２退職被保険者等保険税還付金５万円、目３償還金として存目程度2,000円、合計125万2,000円、前年度と同額の計上でございます。

款10項１目１予備費300万円は前年度と同額でございます。

以上をもちまして、平成28年度大多喜町国民健康保険特別会計予算について説明を終わらせていただきます。

ご審議のほどよろしくお願いいたします。

○議長（志関武良夫君）　ご苦労さまでした。

次に、議案第24号　平成28年度大多喜町後期高齢者医療特別会計予算について説明を願います。

税務住民課長。

○税務住民課長（市原和男君）　それでは、座って説明をさせていただきます。

議案第24号　平成28年度大多喜町後期高齢者医療特別会計予算につきましてご説明を申し上げます。

予算書187ページをお願いいたします。

本文に入ります前に、平成28年度の予算編成状況につきましてご説明をさせていただきます。

本予算につきましては、医療保険者であります千葉県後期高齢者医療広域連合で賦課されます保険料等の数値を基に予算編成をさせていただきました。

なお、平成28年度は保険料率の改定を実施しております。

それでは、本文に入らせていただきます。

平成28年度大多喜町後期高齢者医療特別会計の予算は次に定めるところによる。

歳入歳出予算。第１条第１項、歳入歳出予算の総額は、歳入歳出それぞれ１億1,849万4,000円と定める。

第２項、歳入歳出予算の款項の区分及び当該区分ごとの金額は、第１表、歳入歳出予算による。

なお、詳細につきましては、事項別明細書によりご説明をさせていただきます。

194、195ページをお願いいたします。

歳入でございますが、款１後期高齢者医療保険料、項１後期高齢者医療保険料、目１特別徴収保険料5,601万2,000円は、年金からの特別徴収による現年度保険料、目２普通徴収保険料2,083万9,000円は、現年度分及び滞納繰越分保険料でございます。合計で7,685万1,000円、前年度比421万6,000円の増を計上いたしました。

平成28年度保険料率でございますけれども、均等割高が現行の３万8,700円から1,700円増の４万400円に、所得割率は現行の7.43パーセントから0.5パーセント増の7.93パーセントの改正となります。

款２使用料及び手数料、項１手数料、目１督促手数料２万円は、前年度と同額でございます。

款３繰入金、項１一般会計繰入金、目１事務費繰入金94万円は、後期高齢者医療事務費に係る繰入金、目２保険基盤安定繰入金4,026万3,000円は、保険料の軽減状況に応じての繰入金となり、合計で4,120万3,000円でございます。

款４項１目１繰越金10万円でございますが、前年度よりの繰越金でございます。

款５諸収入、項１償還金及び還付加算金は、目１保険料還付金31万9,000円、目２還付加

算金、存目程度1,000円、合計で前年度同額の32万円でございます。

続きまして、歳出についてご説明を申し上げます。

次のページをお願いいたします。

款１総務費、項１総務管理費、目１一般管理費64万3,000円は、197ページ説明欄記載の事務的経費で、主なものは、基幹系システム大量一括処理委託料でございます。

項２徴収費、目１徴収費31万8,000円は、説明欄記載の事業費及び役務費の保険料徴収事務費でございます。

款２項１目１後期高齢者医療広域連合納付金１億1,721万2,000円は、被保険者から納付いただきました保険料と基盤安定繰入金を合わせて広域連合へ納付するものでございます。

款３諸支出金、項１償還金及び還付加算金、目１保険料還付金32万円は、転出や所得更正等により減額となった方の保険料等の還付金でございます。

項２繰出金、目１他会計繰出金1,000円は、存目程度を計上いたしました。

以上をもちまして、平成28年度大多喜町後期高齢者医療特別会計予算の説明を終わらせていただきます。

ご審議のほどよろしくお願い申し上げます。

○議長（志関武良夫君）　ご苦労さまでした。

次に、議案第25号　平成28年度大多喜町介護保険特別会計予算についての説明を願います。

健康福祉課長。

○健康福祉課長（永嶋耕一君）　それでは、座らせて説明させていただきます。

議案第25号　平成28年度大多喜町介護保険特別会計予算につきまして提案説明をさせていただきます。

予算書199ページをお開きください。

平成28年度予算につきましては、介護保険事業を円滑に推進するため、前年度の各種介護サービスの利用実態と給付費の実績をもとに、前年度比0.6パーセント増の10億7,573万9,000円の予算額を推計し、予算編成を行いました。

それでは、本文に入らせていただきます。

平成28年度大多喜町介護保険特別会計の予算は、次に定めるところによる。

歳入歳出予算。第１条第１項、歳入歳出予算の総額は、歳入歳出それぞれ10億7,573万9,000円と定める。

第２項、歳入歳出予算の款項の区分及び当該区分ごとの金額は、第１表、歳入歳出予算に

よる。

歳出予算の流用。第２条、地方自治法第220条第２項ただし書の規定により、歳出予算の各項の経費の金額を流用することができる場合は、次のとおりと定める。

第１号、保険給付費の各項に計上された予算額に過不足を生じた場合における、同一款内でのこれらの経費の各項の間の流用。

なお、詳細につきましては、事項別明細書によりご説明いたしますので、206ページ、207ページをお開きください。

まず、歳入でございますが、款１保険料、項１介護保険料、目１第１号被保険者保険料につきましては、65歳以上の第１号被保険者数3,674名を推計し、１億8,826万2,000円、前年度比5.1パーセント増を計上いたしました。

款２分担金及び負担金、項１負担金、目１介護予防教室事業参加者負担金25万8,000円を計上いたしました。

款３使用料及び手数料、項１手数料、目１事務手数料４万6,000円、目２督促手数料２万8,000円をそれぞれ計上いたしました。

款４国庫支出金、項１国庫負担金、目１介護給付費負担金につきましては、介護給付費等に係る国の法定負担分として１億7,067万4,000円を計上いたしました。

項２国庫補助金につきましては、目１調整交付金に7,191万円、目３地域支援事業交付金、包括的支援事業・任意事業分として385万5,000円、目４地域支援事業交付金、介護予防・日常生活支援総合事業分として342万7,000円を、それぞれ国の法定負担分として計上いたしました。

款５支払基金交付金、項１支払基金交付金、目１介護給付費交付金２億7,965万3,000円、目２地域支援事業支援交付金383万8,000円を、法定負担分として計上いたしました。

款６県支出金、項１県負担金、目１介護給付費県負担金につきましては１億5,392万3,000円を、介護給付費等に係る県法定負担分として計上させていただきました。

208ページ、209ページをお開きください。

項２県補助金でございますが、地域支援事業交付金として包括的支援事業・任意事業に対し192万7,000円、介護予防・日常生活支援総合事業に対し170万7,000円を、それぞれ県の法定負担分として計上いたしました。

款７繰入金、項１他会計繰入金、目１一般会計繰入金につきましては、町の法定負担分として介護給付費12.5パーセント、地域支援事業のうち包括的支援事業・任意事業分として

19.5パーセント、介護予防・日常生活支援総合事業分として12.5パーセント、職員人件費、事務費及び低所得者保険料軽減の繰り入れとして合わせて１億8,198万8,000円を計上いたしました。

項２基金繰入金、目１介護給付費準備基金繰入金につきましては、介護給付費の被保険者負担分の不足分を補うための財源として繰り入れるもので、本年度1,346万9,000円を計上いたしました。

款８繰越金でございますが、前年度からの繰越金として4,000円を予定し計上いたしました。

款９諸収入、項１延滞金、加算金及び過料でございますが、延滞金1,000円を存目程度に計上いたしました。

項２雑入でございますが、生活保護者の介護認定調査等手数料、介護予防支援、日常生活支援、ケアプラン作成に係る介護報酬、運動教室等の参加者負担金であり、76万9,000円を計上いたしました。

以上が歳入でございます。引き続き歳出の説明をさせていただきます。

210ページ、211ページをお開きください。

款１総務費、項１総務管理費、目１一般管理費でございますが、介護保険職員の人件費分と介護保険業務用の事務費で3,578万9,000円を計上いたしました。

項２徴収費、目１賦課徴収費でございますが、介護保険料賦課徴収に係ります事務費で100万7,000円を計上いたしました。

項３介護認定審査会費でございますが、目１介護認定調査等費、介護認定に係る調査員賃金及び医師意見書作成手数料などで524万円、目２介護認定審査会共同設置負担金346万円、あわせて870万円を計上いたしました。

次に、212ページ、213ページをお開きください。

項４運営協議会費でございますが、介護保険運営協議会委員12名の報酬１回分として４万2,000円を計上いたしました。

款２保険給付費、項１介護サービス等諸費でございますが、要介護１から５の認定を受けた方の在宅介護、地域密着型介護、施設介護、福祉用具購入、住宅改修、居宅介護サービス計画等の給付費で９億884万円を計上させていただきました。

項２介護予防サービス等諸費でございますが、要支援１、２の認定を受けた方への在宅介護、地域密着型介護、福祉用具購入、住宅改修、居宅介護サービス計画等の給付費で1,953

万8,000円を計上いたしました。

項３その他諸費につきましては、介護給付に係る審査支払手数料として64万9,000円を計上しております。

214ページ、215ページをお願いいたします。

項４高額介護サービス等費、利用者負担の限度額を超えた場合に支給するもので、高額介護サービス費1,933万9,000円、高額介護予防サービス費を前年度と同額の６万円、あわせて1,939万9,000円を計上いたしました。

項５高額医療合算介護サービス等費につきましては、医療費と介護給付費の自己負担額の合算が年間の限度額を超えた場合にそれぞれの会計から支給されるもので、高額医療合算介護サービス費と介護予防サービス費について昨年度と同額の221万6,000円を計上いたしました。

項６特定入所者介護サービス等費でございますが、低所得者の施設入所に係る食費、居住費の自己負担の軽減に伴う補助及び交付金で、特定入所者介護サービス費、介護予防サービス費について4,811万9,000円を計上いたしました。

款３地域支援事業費、項１介護予防事業費、目１総合事業費精算金でございますが、住所地特例者が総合事業の提供を受けたときの精算金として10万円を計上しております。

項２包括的支援事業・任意事業費、目１任意事業費でございますが、不必要なサービスが提供されていないか検証する介護給付費等費用適正化事業、寝たきり高齢者へのおむつの支給及び成年後見人制度の利用者支援等で239万6,000円を計上いたしました。

216ページ、217ページをお願いいたします。

目２包括的支援事業でございますが、地域包括支援センター職員の人件費、事務費等で1,381万1,000円を、合わせて1,620万7,000円を計上いたしました。

項３介護予防・日常生活支援サービス事業費につきましては、要支援者等の介護予防訪問介護、介護予防通所介護の経費として1,013万6,000円を計上いたしました。

項４その他諸費につきましては、介護予防訪問介護、介護予防通所介護に係る審査支払手数料として２万円を計上いたしております。

項５一般介護予防費、目１一般介護予防事業費につきましては、介護予防活動の普及啓発を行う事業として143万5,000円を、218ページ、219ページをお開きください。地域における住民主体の介護予防活動の育成、支援を行う事業として299万2,000円、地域における介護予防の取り組み機能を強化するため、住民主体の介護予防活動へのリハビリテーション専門職

の職員を派遣する事業として14万4,000円を、合わせて457万1,000円を計上いたしました。

款４基金積立金でございますが、介護給付費準備基金への積立金で3,000円を計上いたしました。

款５諸支出金につきましては、国県支出金等の精算に伴う返還金、保険料の過年度還付としまして30万3,000円を計上いたしました。

款６予備費につきましては、前年度と同額の10万円を計上いたしました。

以上で、平成28年度大多喜町介護保険特別会計予算の提案説明を終わりにさせていただきます。

よろしくご審議くださいますようお願い申し上げます。

○議長（志関武良夫君）　ご苦労さまでした。

次に、議案第26号　平成28年度大多喜町水道事業会計予算についての説明を願います。

環境水道課長。

○環境水道課長（米本和弘君）　議案第26号　平成28年度大多喜町水道事業会計予算について説明いたします。

別冊の水道事業予算書の１ページをお開きください。

それでは、座って説明させていただきます。

総則。第１条、平成28年度大多喜町水道事業会計の予算は、次に定めるところによる。

業務の予定量。第２条、業務の予定量は、次のとおりとする。

１号、給水戸数は3,800戸。

２号、年間総給水量は104万5,787立方メートル。

３号、１日平均給水量は2,865立方メートル。

収益的収入及び支出。第３条、収益的収入及び支出の予定額は、次のとおりと定める。

収入、第１款、水道事業収益４億9,680万4,000円。第１項、営業収益３億1,513万2,000円。第２項、営業外収益１億8,167万2,000円。

支出、第１款、水道事業費用４億8,959万3,000円。第１項、営業費用４億5,527万4,000円。第２項、営業外費用3,391万9,000円。第３項、予備費40万円。

資本的収入及び支出。第４条、資本的収入及び支出の予定額は、次のとおりと定める。

資本的収入額が資本的支出額に対し不足する額１億4,546万5,000円は、当年度分損益勘定留保資金１億4,546万5,000円にて補塡するものとする。

収入、第１款、資本的収入5,408万5,000円。第１項、負担金207万4,000円。第２項、企業

債5,200万円。第３項、固定資産売却代金１万1,000円。

支出、第１款、資本的支出１億9,955万円。

２ページをお開きください。

第１項、建設改良費１億1,471万1,000円。第２項、企業債償還金8,483万9,000円。

企業債。第５条、起債の目的、限度額、起債の方法、利率及び償還の方法は、次のとおりと定める。

配水管布設事業、限度額3,600万円。施設拡張事業、限度額1,600万円。両事業とも、起債の方法、利率、償還の方法については記載のとおりとなっております。

予定支出の各項の経費の金額の流用。第６条、予定支出の各項の経費の金額を流用することができる場合は、次のとおりと定める。

１号、第１項営業費用、第２項営業外費用との相互。

議会の議決を経なければ流用することのできない経費。第７条、次に掲げる経費については、その経費の金額を、それ以外の経費の金額に流用し、又はそれ以外の経費をその経費の金額に流用する場合は、議会の議決を経なければならない。

１号、職員給与費5,148万1,000円。

３ページに入ります。

一般会計からの補助金。第８条、一般会計からこの会計へ補助を受ける金額は、7,300万円である。

たな卸資産購入限度額。第９条、たな卸資産の購入限度額は、392万7,000円と定める。

続きまして、予算に関する説明書につきまして説明させていただきます。

５ページから７ページの平成28年度大多喜町水道事業会計予算実施計画、９ページの平成28年度大多喜町水道事業予定キャッシュ・フロー計算書、10ページから17ページの給与費明細書につきましては、記載のとおりとなっておりますので割愛をさせていただきます。

19ページの平成27年度大多喜町水道事業予定損益計算書は、平成27年度の大多喜町水道事業の諸活動の経営成績の見込みをあらわしたものです。経常損益では342万3,000円の経常利益が生じ、この342万3,000円が平成27年度の純利益となる見込みです。

次に、20ページ、21ページの平成27年度大多喜町水道事業予定貸借対照表（前年度分）、22ページ、23ページの平成28年度大多喜町水道事業予定貸借対照表（今年度分）につきましては、それぞれの年度末現在の財政状態をあらわした表となっております。

24ページ、25ページの注記、重要な会計方針については、記載のとおりとなっております

ので割愛をさせていただきます。

続きまして、予算の明細につきまして、水道事業会計予算積算基礎資料によりご説明させていただきます。

26、27ページをごらんください。

初めに、収益的収入及び支出の収入より説明いたします。

款１水道事業収益、項１営業収益、目１給水収益の予定額３億1,432万円は、前年度比151万8,000円の減となります。有収水量104万5,787立方メートルに対する水道料金収入となります。

目２その他営業収益の予定額81万2,000円は、前年度比１万円の増となります。主な内訳は、資材等の売却による材料売却収益47万5,000円、設計審査、工事検査等の手数料20万円、資材等の売却、給配水管修繕工事代、水道料金督促料等の雑収益13万7,000円です。

項２営業外収益、目１受取利息及び配当金の予定額67万5,000円は、前年度比67万4,000円の増となります。預金利息です。

目２他会計補助金の予定額7,300万円は、前年度比64万3,000円の減となります。一般会計からの高料金対策補助金です。

目３県補助金の予定額6,900万円は、前年度同額の水道総合対策補助金です。

目４長期前受金戻入の3,853万8,000円は、前年度比43万3,000円の減となります。

目５雑収益の予定額45万9,000円は、前年度比18万1,000円の増となります。

次のページをごらんください。

支出、款１水道事業費用、項１営業費用、目１原水及び浄水費の予定額２億2,098万4,000円は、前年度比84万4,000円の減となります。主なものといたしまして、職員１名分の人件費616万8,000円、浄水場管理臨時職員賃金903万3,000円、水質検査、浄水場警備、汚泥処理等の委託料995万9,000円、浄水場薬品費309万5,000円、南房総広域水道企業団からの受水費１億7,835万3,000円です。

目２配水及び給水費の予定額2,954万4,000円は、前年度比43万8,000円の増となります。主なものといたしまして、職員１名分の人件費763万円、次のページをごらんください、給配水施設の修繕費972万円、舗装本復旧費や常温合材費の路面復旧費452万円、加圧ポンプ所電気料の動力費466万6,000円、施設補修用の材料費117万4,000円です。

目３総係費の予定額4,736万6,000円は、前年度比63万4,000円の増となります。主なものといたしまして、職員４名分の人件費3,156万8,000円、検針業務、地図情報、水道料金、会

計等のシステム保守にかかわる委託料634万8,000円、水道料金及び会計システム等の賃借料350万5,000円。

次のページをごらんください。

水道料金等の貸倒引当金として計上するための貸倒引当金繰入額153万6,000円です。

目４減価償却費の予定額１億3,368万5,000円は、前年度比10万7,000円の増加となります。

目５資産減耗費の予定額2,332万8,000円は、前年度比165万8,000円の増となります。主なものといたしましては、構築物、機械及び装置、工具及び備品の固定資産除却費として2,331万8,000円です。

目６その他営業費用の予定額36万7,000円は、前年度同額となります。

項２営業外費用、目１支払利息の予定額3,124万7,000円は、前年度比306万8,000円の減となります。

目２雑支出の予定額255万8,000円は、前年度比４万4,000円の減となります。

目３消費税の予定額11万4,000円は、今年度当初予算で新たに消費税の支払いを見込みました。

項３予備費、目１予備費の予定額40万円は、前年度同額です。

次のページをごらんください。

資本的収入及び支出ですが、収入、款１資本的収入、項１負担金、目１加入負担金の予定額207万4,000円は、前年度比８万6,000円の減となります。

項２企業債、目１企業債の予定額5,200万円は、前年度比3,400万円の減となります。

項３固定資産売却代金、目１固定資産売却代金の予定額１万1,000円は、前年度比1,000円の増となります。

次のページをごらんください。

支出、款１資本的支出、項１建設改良費、目１取水施設費の予定額108万円は、前年度同額です。

目２浄水施設費の予定額108万円は、前年度同額です。

目３配水施設費の予定額5,860万4,000円は、前年度比2,630万4,000円の増となります。主なものといたしまして、職員１名分の人件費609万円、配水管布設替工事用材料費675万円、配水管布設替工事等の工事請負費4,482万円です。布設替工事につきましては、町道中野大多喜線、県道大多喜一宮線、県道大多喜君津線の３カ所を予定しております。

目４固定資産取得費の予定額588万7,000円は、前年度比82万円の増となります。内容につ

きましては、浄水場用取水ポンプ購入のための機械購入費115万8,000円、水道メーターの新規設置や検定満了に伴う取り替えのための量水器費472万9,000円です。

目５施設拡張費4,806万円は、前年度比4,962万8,000円の減となります。内容につきましては面白浄水場改修工事詳細設計業務委託料として2,700万円、栗又第２加圧所設置及び川畑地先基幹農道の舗装本復旧に伴う工事請負費2,106万円です。

項２企業債償還金、目１企業債償還金の予定額8,483万9,000円は、前年度比256万6,000円の増となります。

以上で、平成28年度大多喜町水道事業会計予算の説明を終わります。

ご審議のほどよろしくお願いいたします。

○議長（志関武良夫君）　ご苦労さまでした。

次に、特別養護老人ホーム事業会計予算。

特別養護老人ホーム所長。

○特別養護老人ホーム所長（君塚道朋君）　議案第27号　平成28年度大多喜町特別養護老人ホーム事業会計予算について、説明させていただきます。座って説明させていただきます。

別冊の大多喜町特別養護老人ホーム事業会計予算書の１ページをお開きください。

総則。第１条、平成28年度大多喜町特別養護老人ホーム事業会計の予算は、次に定めるところによる。

業務の予定量。第２条、業務の予定量は、次のとおりとする。

第１号、利用定員、施設介護サービス80人、居宅介護サービス４人。

第２号、年間利用予定者数、施設介護サービス２万7,000人、居宅介護サービス1,450人。

収益的収入及び支出。第３条、収益的収入及び支出の予定額は、次のとおりとする。

収入、第１款、特別養護老人ホーム事業収益２億9,269万8,000円。第１項、営業収益２億8,189万2,000円。第２項、営業外収益1,080万6,000円。

支出、第１款、特別養護老人ホーム事業費用２億9,194万2,000円。第１項、営業費用２億9,094万1,000円。第２項、営業外費用1,000円。第３項、予備費100万円。

資本的収入及び支出。第４条、資本的収入及び支出の予定額は、次のとおりと定める。

資本的収入額が資本的支出額に対して不足する額385万5,000円は、当年度分損益勘定留保資金で補塡するものとする。

支出、第１款、資本的支出385万5,000円。第１項、建設改良費385万5,000円。

２ページをごらんください。

一時借入金。第５条、一時借入金の限度額は、1,200万円と定める。

予定支出の各項の経費の金額の流用。第６条、予定支出の各項の経費の金額を流用することができる場合は、次のとおりと定める。

第１号、第１項営業費用、第２項営業外費用との相互。

議会の議決を経なければ流用することができない経費。第７条、次に掲げる経費については、その経費の金額をそれ以外の経費の金額に流用し、又はそれ以外の経費をその経費の金額に流用する場合は、議会の議決を経なければならない。

第１号、職員給与費２億1,179万4,000円でございます。

続きまして、９ページは平成28年度予定キャッシュ・フロー計算書でございます。10ページから19ページにかけましては、給与費明細書でございます。21ページは、平成27年度予定損益計算書でございます。22、23ページにかけましては、平成27年度予定貸借対照表でございます。24、25ページにかけましては、平成28年度予定貸借対照表でございます。27ページから37ページにかけては、注記と平成28年度の積算資料でございます。これらにつきましては、記載のとおりですので、説明につきましては割愛をさせていただきます。

以上で説明を終わらせていただきます。

よろしくご審議のほどお願いいたします。

○議長（志関武良夫君）　ご苦労さまでした。

特別養護老人ホーム事業会計予算の説明が終わりました。

以上で、一括議題とした議案第21号から議案第27号までの平成28年度大多喜町一般会計予算及び特別会計予算それに各事業会計予算の提案説明を終わります。

以上で、本日の議事日程は全て終了しました。

なお、既に通知したとおり、新年度予算案の細部説明及び議案調査のため、明日８日及び10日の午前９時から各常任委員会協議会が役場第１、第２会議室で開催されますので、よろしくお願いいたします。

この常任委員会協議会は傍聴ができますので、都合のつく議員の方は傍聴されるようお知らせいたします。ご出席できる方は事務局までご連絡をお願いいたします。

また、最終日である３月16日は午前10時から本会議を開きますので、時間のお間違えのないようにご参集願いたいと思います。

◎散会の宣告

○議長（志関武良夫君）　これをもちまして、本日の会議を閉じます。散会します。

ご苦労さまでした。

（午前１１時３８分）

第１回大多喜町議会定例会３月会議

（ 第 ４ 号 ）

平成２８年第１回大多喜町議会定例会３月会議会議録

平成２８年３月１６日（水）

午前１０時００分　開議

出席議員（１１名）

１番	根本年生君	３番	吉野一男君
４番	麻生　勇君	５番	野村賢一君
６番	江澤勝美君	７番	小髙芳一君
８番	渡邉泰宣君	９番	吉野僖一君
１０番	山田久子君	１１番	野中眞弓君
１２番	志関武良夫君		

欠席議員（なし）

地方自治法第１２１条の規定による出席説明者

町長	飯島勝美君	副町長	鈴木朋美君
教育長	石井信代君	代表監査委員	滝口延康君
総務課長	加曽利英男君	企画財政課長	西郡栄一君
税務住民課長	市原和男君	健康福祉課長	永嶋耕一君
子育て支援課長	吉野敏洋君	建設課長	末吉昭男君
産業振興課長	野村一夫君	環境水道課長	米本和弘君
特別養護老人ホーム所長	君塚道朋君	会計室長	三上清作君
教育課長	野口　彰君	生涯学習課長	関　晴夫君

本会議に職務のため出席した者の職氏名

事務局長	渡辺八寿雄	書記	大竹義弘

議事日程（第４号）

日程第　１　議案第２１号　平成２８年度大多喜町一般会計予算（質疑～採決）

日程第　２　議案第２２号　平成２８年度大多喜町鉄道経営対策事業基金特別会計予算（質疑～採決）

日程第　３　議案第２３号　平成２８年度大多喜町国民健康保険特別会計予算（質疑～採決）

日程第　４　議案第２４号　平成２８年度大多喜町後期高齢者医療特別会計予算（質疑～採決）

日程第　５　議案第２５号　平成２８年度大多喜町介護保険特別会計予算（質疑～採決）

日程第　６　議案第２６号　平成２８年度大多喜町水道事業会計予算（質疑～採決）

日程第　７　議案第２７号　平成２８年度大多喜町特別養護老人ホーム事業会計予算（質疑～採決）

追加日程第　１　議案第２８号　大多喜町一般廃棄物処理施設建設基金条例の制定について

追加日程第　２　議案第２９号　平成２７年度大多喜町一般会計補正予算（第１０号）

◎開議の宣告

○議長（志関武良夫君）　おはようございます。

町長を初め執行部職員の皆さん、そして議員各位には、第１回議会定例会３月会議に出席をいただきまして、ご苦労さまでございます。

本日は、審議期間の最終日となりますが、よろしくお願い申し上げます。

また、吉野議員のほうから私用があるためちょっとおくれるという報告がありましたので、ご報告申し上げます。

ただいまの出席議員は10名です。定足数に達しておりますので、会議は成立します。

これより本日の会議を開きます。

（午前１０時００分）

◎行政報告

○議長（志関武良夫君）　日程に先立ち、町長から行政報告があります。

町長。

○町長（飯島勝美君）　おはようございます。

平成28年第１回議会定例会３月会議の最終日に当たりまして、一言ご挨拶申し上げます。

本日は、議長さんを初め議員各位には年度末の大変お忙しいところ、ご出席をいただきましてまことにありがとうございます。

行政報告につきましては、３月会議初日以降のものでございますので、お手元に配付した報告書でご了承をいただきたいと思います。

さて本日の会議は、平成28年度当初予算に係る質疑と採決となっておりますが、先般の議会初日で予算編成方針をお話しさせていただき、また先週の常任委員会協議会において、関係各課から各種事業の詳細な説明をさせていただいたところでございます。

限られた予算の中で、第３次総合計画や過疎地域自立促進計画などの着実な推進を図るため、少子化や定住化対策事業、妊婦歯科健診や不妊治療費の助成、町道改良や深刻化している有害鳥獣対策の推進など、人口減少社会に対応していくための諸政策を盛り込んだ予算とさせていただいたものと考えております。

このようなことから、議員各位におかれましても、状況を十分ご理解いただき、ご審議のうえ可決くださるようお願い申し上げ、行政報告にかえさせていただきます。

○議長（志関武良夫君）　これで行政報告を終わります。

◎諸般の報告

○議長（志関武良夫君）　次に、諸般の報告でありますが、３月４日開催の本会議以降の議会の主な事項はお配りした印刷物によりご了承いただきたいと思います。

◎日程の追加及び順序の変更

○議長（志関武良夫君）　これより日程に入ります。

本日の会議は、会議初日に配付いたしました議事日程第４号により進めてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

なお、議員の皆様にお図りします。

町長から、議案第28号が提出されております。この議案を本日の日程に追加し、追加日程第１とし、日程の順序を変更し直ちに議題としたいと思います。

ご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　異議なしと認めます。

よって、議案第28号を日程に追加し、追加日程第１とし、日程の順序を変更し直ちに議題とすることに決定しました。

◎議案第２８号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（志関武良夫君）　追加日程第１、議案第28号　大多喜町一般廃棄物処理施設建設基金条例の制定についてを議題とします。

本案について、提出者の説明を求めます。

環境水道課長。

○環境水道課長（米本和弘君）　議案第28号　大多喜町一般廃棄物処理施設建設基金条例の制定について、説明させていただきます。

初めに、提案理由ですが、この条例の制定は夷隅郡市広域ごみ処理施設建設事業の休止を受けまして、休止となった要因の一つでもあります将来の財政負担の軽減を図るため、施設整備に向けた財源の確保を図ることを目的とした基金を設置し、一般廃棄物処理施設建設の推進を図るものです。

それでは本文に入らせていただきます。

大多喜町一般廃棄物処理施設建設基金条例。第１条に設置の目的を定めるものです。

大多喜町の一般廃棄物の適正な処理の推進を図るため、一般廃棄物処理施設建設に要する経費の財源に充てることを目的に、大多喜町一般廃棄物処理施設建設基金、以下基金という、を設置する。

基金の額、第２条、基金として積み立てる額は、一般会計歳入歳出予算で定める額とする。

管理、第３条、基金に属する現金は金融機関への預金、その他最も確実かつ有効な方法により保管しなければならない。

運用益の処理、第４条、基金の運用から生ずる収益は、一般会計歳入歳出予算に計上して基金に繰り入れするものとする。

繰替運用、第５条、町長は、財政上必要があると認めるときは、確実な繰り戻しの方法、期間及び利率を定めて、基金に属する現金を歳計現金に繰り替えて運用することができる。

処分、第６条、基金は、一般廃棄物処理施設建設及び維持管理に要する経費の財源に充てる場合に限り処分することができる。

委任、第７条、この条例に定めるもののほか、基金の管理及び処分に関し必要な事項は、町長が別に定める。

附則、この条例は公布の日から施行する。

以上で、説明を終わります。

ご審議のほど、よろしくお願いいたします。

○議長（志関武良夫君）　説明が終わりました。

これから質疑を行います。

質疑ありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

本案について討論を省略し、これから採決したいと思います。

ご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　異議なしと認めます。

これから議案第28号を採決します。

本案は原案のとおり決定することに賛成の方は挙手願います。

（挙手全員）

○議長（志関武良夫君）　挙手全員です。

したがって、議案第28号は原案のとおり可決されました。

◎議案第２１号の質疑、討論、採決

○議長（志関武良夫君）　日程第１、議案第21号から日程第７、議案第27号までの、平成28年度大多喜町一般会計予算各特別会計予算及び各事業会計予算については、既に一括議題として提案理由の説明が終わっております。

３月７日の会議に引き続き、これより各会計ごとに質疑、討論、採決を行います。

議員各位には、既にご承知のとおり、事前に配付されている予算にかかわる予算説明資料などは予算審議を円滑に進めるための参考資料ですので、質疑に当たっては平成28年度の各歳入歳出予算書の内容から質疑されますようお願いします。また、質疑に当たっては、歳入については全般にわたって行います。また歳出については款ごとに行います。

なお、質疑の際は予算書のページを必ず示してくださいますようお願い申し上げます。議題外にわたり、またその範囲を超えることのないようにご留意願いたいと思います。また、質疑については１項目ずつ質疑されるようお願いします。

それではこれより質疑に入ります。

歳入については全般です。

歳出の質疑については、初めに款１議会費、款２総務費の質疑からお願いします。

質疑はありませんか。

１番根本年生君。

○１番（根本年生君）　15ページの中段ごろの地域し尿処理施設使用料、コミュニティプラント使用料、これは、今度、川崎病院さんの立派な施設ができて、全部埋まるとなるとかなり使用量がふえると思いますけれども、その辺はどのような積算、この中に入っているんでしょうか。確認します。

○議長（志関武良夫君）　建設課長。

○建設課長（末吉昭男君）　その分については、54万9,000円、昨年と比べまして増額させていただいております。

○議長（志関武良夫君）　１番根本年生君。

○１番（根本年生君）　それ、54万円というのは何戸分というか、どういった積算の基準で54万になりますか。

○議長（志関武良夫君）　建設課長。

○建設課長（末吉昭男君）　横山の風鈴花さんの使用料を一応参考にさせていただいて、その分と、あと新規の住宅２戸分を計上させていただいております。

○議長（志関武良夫君）　ほかにございますか。

11番野中眞弓君。

○１１番（野中眞弓君）　10ページの町民税です。

マイナスの984万9,000円となっております。個人、法人とも減少しています。このことにあらわれる町民経済をどんなふうに見ているのか、伺いたいと思います。

○議長（志関武良夫君）　税務住民課長。

○税務住民課長（市原和男君）　町民税の予算の減に伴う経済というふうなことでありますけれども、まず当初予算につきまして、ちょっと若干説明させていただきますけれども、町民税につきましては、平成27年度予算と比較しまして個人町民税で36万6,000円、法人町民税では948万3,000円、それぞれ減収を見込んでおります。

主な要因といたしましては、個人町民税につきましては、人口の減少、働き盛りと申しますか、20代から60代の減少による減収、さらに法人町民税は、法人税率の引き下げ、あるいは設備投資等による収益の減少が考えられます。

経済についてというようなことで、ちょっとうちのほうからは難しいんですけれども、税務住民課の立場から所得状況の推移からちょっとご説明をさせていただきます。

平成27年度の１人当たり平均所得でございますけれども190万3,700円、前年度と比較しますと１万2,000円ほど減少しております。これは毎年減少傾向が続いておるというふうなことでございます。

内訳を見ますと、給与所得者は1.4パーセント増加しております一方、営業所得、あるいは農業所得は減少というふうなことでございます。こういう所得の推移を見る限りでは、やはり景気が好転している状況は余り感じられないというふうに感じております。

○議長（志関武良夫君）　よろしいですか。

ほかにございますか。

11番野中眞弓君。

○１１番（野中眞弓君）　28年度予算は前年度比32パーセントのびっくりするような予算です

が、その中で、ふえた中の大半を占めるのはふるさと納税関係だと思われます。今回、26ページでふるさと基金からの繰入金が７億5,500万円あります。どういうことに配分されているのか、その事業名について教えていただきたいと思います。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　この７億5,565万6,000円でございますが、歳出のほうのページでいいますと43ページになります。43ページの上から２段目のところでございますが、ふるさと納税事業、こちらが返礼品等を取り扱うということで、こちらに６億9,299万9,000円でございます。

それとそのもう２段下になろうかと思いますが、公共交通政策事業、これは高速バスの関係等でございますが、こちらに6,265万7,000円を充当させていただくということで、合計で７億5,565万6,000円でございます。

○議長（志関武良夫君）　よろしいですか。

ほかにございますか。

７番小髙芳一君。

○７番（小髙芳一君）　25ページです。財産貸付収入の光ファイバーケーブルの貸し付け収入でありますけれども、この収入の内訳といいますか、内容と、ＮＴＴの契約はどのようになっていますでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　光ファイバーケーブルの貸し付け収入でございますが、件数として1,891件を予定しております。それの１件当たり18円に365日、それの1.08、消費税分ですね、それを加算したものが1,341万7,780円でございます。

契約のほうでございますが、ＮＴＴとはその単価で契約してございます。また管理等につきましても、ＩＲＵの契約ということで平成33年の３月31日までを一つの契約として、維持管理等を含めた上で契約を締結していると、そういう状況でございます。

○議長（志関武良夫君）　７番小髙芳一君。

○７番（小髙芳一君）　これは町が事業主体でやったんですけれども、当初なぜ町が、これを計画して実際に光ファイバーを引いたか、その当時のことはわかりますでしょうか。

それから、契約の見直しというのはできるんでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　この町内全域の光ファイバーの敷設というのは、やはりいろ

いろなこの情報社会の中で必要なものだということで、平成22年に着手させていただいたものだというふうに理解しておりますけれども、その中で、10年間のこの契約についてということで、この方法を町が主体となったというのは、一つは国の政策としてこの町が主体にならなければ補助金が出ないというような形があったのかなというふうに考えております。

これにつきましては、一応10年間の契約ということで国の補助金をいただいて事業を実施しておりますので、光ファイバーケーブル製のものについては最低でも10年は処分ができないというふうには考えております。

したがいまして契約のほうも、長期的に10年間の契約というような形で事業を進めてきておりますので、10年たった段階でその後どういう形にするか、このまま続けていくか、あるいはその全てを第三者に譲渡するか、そういったものはまたそこでの議論が必要ではないかなというふうに考えております。

○議長（志関武良夫君）　７番小髙芳一君。

○７番（小髙芳一君）　今回、大分、申し込み件数が上がって1,341万7,000円ということであります。一方、経費といいますか、維持管理の事業ということで1,178万7,000円ということで、黒字になってきました。

当初は、町が光ファイバーを引くということは、若者定住から時代におくれてはいけないということで、どうしてもやりたい事業だということで事業主体でやったと思うんですけれども、本来はＮＴＴが当然整備をして、通常都市部ではみんなそうですから、ＮＴＴ自体が事業主体でやってもらいたいという中で、なかなかこういう町では採算がとれないだろうということで、ＮＴＴのほうはなかなかやってもらえないという状況の中で町がやった経緯があると思うんですね。一応、黒字にだんだんなってきました。ＮＴＴの電柱の使用料も180万円ほどですか、お支払いをしているということであると、ＮＴＴ側から見れば、相当黒字に、引き受けても、なる話だと思うんですよね。

やっぱり将来的なことを考えると、あるいは町が維持管理をずっとやっていくということを考えると、やっぱりこの辺で、黒字になっている時点で、ＮＴＴに譲渡を、今してしまうというか、これから先になるとその辺も非常に難しくなるという思いがあるんですけれども、そういう部分というのは、今、課長のほうから難しいのではないかというお話がありましたけれども、その辺のところは、私はできればＮＴＴにすぐ、もう一番いいときに譲渡すれば向こうも引き受けてくれるんだろうという思いがあるんですけれども、その辺は再度確認をしながら、そういうことは難しいのかどうか、検討していただいたほうがいいと思うんです

けれども、いかがでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　一つは、国庫補助事業で実施しているということがあろうかと思います。町の事業費の精算といたしましては、当時２億6,670万円かかっております。そのうち国庫補助金、交付金とか含めまして約２億6,298万4,000円ぐらいかかっておりますので、そのほとんどが国の支出金で賄われているというようなことでございます。

このお金のほうの問題は、これを途中で譲渡してしまうと、やはり補助金の関係上何らかの返還手続等が必要になってくるのではないかなというふうに考えております。ですから、ＮＴＴさんがもし協議して、その金額で譲渡を受けますよということであればよろしいんですけれども、その辺が余りにも費用の負担が大きくなってくると、その辺は難しいところがあるんじゃないかなと思っております。

ですから一つは、国のこの補助金の処分期間といいましょうか、その処分を制限する期間がございますので、それを経過した後あたりに検討するのが一番よろしいのではないかというふうに今考えておりますけれども。

○議長（志関武良夫君）　ほかにございますか。

１番根本年生君。

○１番（根本年生君）　固定資産税の関係で、10ページ。今回、地籍調査、ずっとやっているんですけれども、地籍調査によって面積がふえても、当面全部終わるまではそれに伴う固定資産税の課税はしませんよということになっていると思います。その根拠と、そういうふうにしたときに何か正式な文書というんですか、なあなあと言っちゃ申しわけないけれども、そのときの判断でそのようになってしまっているのか、それとも当初地籍調査を始めたときにもうこうするんだという町の方針を示したような書類があるのかどうか。

それと、今後、地籍調査で課税しなくても、それは当然全部終わってから課税でいいんですけれども、将来人口減少によって、仮に6,000人とか7,000人とか、10年後、20年後、なる可能性があるかもわかりません。その際、当然税収がかなり落ち込むと思うんですね。そういったときに果たしてこのままでいいのかと、正直言っていろんなところで常に登記簿の面積と同じだけで課税されている宅地もありますし、特に分譲して新しくやったところなんかは、やはり100坪あれば100坪で課税されているわけですよね。それも含めて、当面は私もこれでいいと思うんだけれども、その辺でこの考え方についてはどのように考えていますか。だから、このままでいいのかということですよね。もっと将来的にわたってこのままでいい

のかということ。

○議長（志関武良夫君）　税務住民課長。

○税務住民課長（市原和男君）　地籍調査を行ったところの土地の課税の問題ですけれども、これにつきましては、町の固定資産につきましては、自治省で定められております固定資産評価基準にのっとって土地家屋等、課税をしておるところでございます。

その中で、地籍調査を行って面積が、当然これ増減する場合がございますけれども、ふえても従前の土地、地籍調査をする前の面積で課税するというふうなことがこの中で定められておりますので、それに基づきまして現在行っておるというふうなことでございます。

今後というふうなことでございますけれども、やはりこちらのほうの評価基準等が見直しされれば、それに基づいて町のほうでも、準じて課税をしていく形になろうかと思います。

当時の文書というふうなことでございますけれども、特に確認はしてはございませんけれども、やはり今申し上げた国からの固定資産の評価基準にのっとっておるというふうなことですので、特段文書的なものはなくて、この規定に基づいて事務をしているというふうに考えております。

○議長（志関武良夫君）　１番根本年生君。

○１番（根本年生君）　今のお話ですと、国の評価ハンドブックですか、評価基準に基づいて、じゃ、これ毎年毎年、この評価基準というのは多分国のほうから出ているんじゃなかろうかと思うんですけれども、それによって要はふやすとかふやさないとかを決めると。ここで、ある程度、町の方針で決めていいよみたいなことも多分あると思うんだけれども、毎年毎年この評価基準が発表されるたびにどうなっているのかというと、控除して、評価基準が変われば課税することもあり得ると。

私はそうじゃなくて、やっぱりある程度一貫性を持たないと、町のほうとして、いけないんじゃないかと思っているんですよ。毎年毎年またどうしましょうかと考えるというのはちょっとおかしいんじゃなかろうかと。町の方針として何か文書とか残しておいて、こういうふうにやるんだよということを明確にしておくべきだと思いますけれども。

○議長（志関武良夫君）　税務住民課長。

○税務住民課長（市原和男君）　やはり固定資産税については、地方税法にのっとってある程度公平な立場で当然課税していると思われます。それはちょっと町の判断だけで基準をつくるというふうなものはちょっと、課税する立場としてはちょっと難しいのかなというふうには考えております。

○議長（志関武良夫君）　１番根本年生君。

○１番（根本年生君）　じゃ、今後はそのときに考えると。毎年毎年この金額、年々目減りしているようですけれども、そういった形で固定資産税がもう少なくなってきてもしようがないんだよという考え方でいくということですか。

○議長（志関武良夫君）　税務住民課長。

○税務住民課長（市原和男君）　確かに、税収の中で固定資産税というとやはり半分近くを占めているだけに重要な町の税金だと思っておりますけれども、税金が減っていいというふうな判断ではなくて、やっぱりそれを課税するにはそれに課税するための基準というものをしっかり町のほうでも持っておくべきであります。その基準が、今申し上げた固定資産評価基準というふうなことで、それに基づいて実施をしていきたいというふうなことでございます。

○議長（志関武良夫君）　ほかにございますか。

今やっているのは、歳入について全般ですが、初めは、款１と款２総務費の質疑です。

11番野中眞弓君。

○１１番（野中眞弓君）　37ページの財務事務費、公会計仕訳整備支援業務。このことについての内容説明をお願いいたします。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　これは公会計制度を推進するためのものなんですけれども、平成27年１月に総務大臣から通知がありました。統一的な基準による地方公会計の整備促進に基づき、公会計制度を実施することが求められております。

このため町の財務会計システムの、現在は現金主義、単式簿記というような形で行っておりますけれども、このデータを取り込んで、発生主義、複式簿記のデータに変換して財務書類を作成する業務を専門業者に委託して実施しようとするものでございます。

○議長（志関武良夫君）　５番野村賢一君。

○５番（野村賢一君）　10ページの、先ほど税務住民課長さんから町税のところで個人と法人税の減額のことで説明を受けたんですが、法人税に関してはちょっと私なりには納得できていないところがあるんですが、もう一度説明を、できたらお願いしたいと思うんですけれども。

○議長（志関武良夫君）　税務住民課長。

○税務住民課長（市原和男君）　法人町民税につきましては、前年度と比較いたしまして948万3,000円で減少を見込んでおります。均等割につきましてはほぼ同額程度で推移をすると

いうふうに見込んでおります。また、税割部分につきましては、税率の引き下げが平成26年10月以降の会計年度のものから現行が9.7パーセントに改正になりました。その前は12.3パーセントというようなことで2.6パーセント、率にしますと改定率が21パーセントほど低くなっているというふうなことです。

ですから、その辺の引き下げによる影響、あるいは、当然収益等が出ると法人等についても設備投資等を行っていることもございます。そうすると、その辺が減収、収益が少し減るんではないかというふうなことも見込みまして、平成28年度予算をちょっと組ませていただきました。その結果、ただいま申し上げました法人町民税の予算といたしまして948万3,000円の減を見込んでおるというふうなことでございます。

○議長（志関武良夫君）　５番野村賢一君。

○５番（野村賢一君）　それと、町のふるさと納税の件なんですけれども、ただ、これ款ごとに質問するということになると、ちょっとまた踏み込んだような、別款みたいなことで質問になっちゃうんですけれども、そのふるさと納税の基金を町内のお店、個人、法人、ことしの３月までの、これは多分、基づいての予算だと思うんですけれども、大分潤った金額が入っているわけですよね。そこら辺を鑑みて、こういう町税が、マイナスが、計算が出たのかどうか、そこら辺はどうなんでしょうか。

ただ、ふるさと納税を支払ったこととなると、歳出のほうでいろいろかかわってくるんですけれども、今、私が質問しちゃって、ことしの企画財政課がふるさと納税を町内業者にどのくらい支払ったのかというのは、わかれば一番早い話なんですけれども、だけど、今ここで質問しちゃまずいんでしょう、款ごとにやっている中で。絡んでくるから……。

（「いいんじゃないの」「関連だからいいでしょう」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　大丈夫ですよ。

○５番（野村賢一君）　じゃ、そういう、絡んでいることで皆さんから今オーケー出ましたので質問させてもらいますが、例年と違ってその分が、非常に町の中にお金が落ちているわけですよね。そこら辺をひっくるめてこの町税のマイナスができたのかどうか。

また企画財政課長、どのくらい払ったのか、払った分に関しては例年以上にその分は多く町のほうの業者に入っているわけですから、当然税収は上がってこなければ意味がないわけですね。そのためのふるさと納税だと思うんですよ。そこら辺をちょっと含めて答弁していただければと思います。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　ふるさと納税につきましては、感謝券にするか、いろいろな謝礼にするかということで、まず第１段階でそこで幾らぐらい、例えば観光協会、たけゆらの里、いすみ鉄道さんだとかございますけれども、そういったものを経由するのが大体7,500万円、さっきの金額になろうかなと思っております。

あとはふるさと感謝券でございますけれども、ふるさと感謝券につきましては町内のいろいろな業者で使えるということで、法人だけに限っているものではございませんので、ですから個人の収入となる場合もございますでしょうし、法人でこれだけ確実に上がっているよというのが、それがプラスアルファとして入っているのか、あるいはこちらに来たときに使ってくれている、今までも使っていた中でのふるさと感謝券に変わったというところがいまいち不透明なところもございますので、ですから税の見込みといたしましては、今回はその辺は全く見えないような中で推計をしているということになりますので、現実的にはそれなりの効果は出ているとは思いますけれども、税のほうの判断としては、今までどおりの収入で把握せざるを得ないというようなことが言えるんじゃないかと思います。

○議長（志関武良夫君）　５番野村賢一君。

○５番（野村賢一君）　私、頭があんまりよくないんでよくわからないんですけれども、誰しも考えても１カ月何百万円、年間何千万円、商店に行っているお金があるわけですよね。旅館、電器屋さん、いろんなところに。行っていますよ、これ、事実なんですよ。それを私だけが本当に不思議に思いますかね。やっぱりそこら辺、町全体が潤っているんですから、当然税収は上がってきて当たり前だと思うんですけれども。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　ご指摘のとおり、かなりの金額のふるさと納税をいただいておりますので、当然のように上がっていただきたいというのが私どもの感じでもございます。

ただ、それが先ほど申したように、設備投資ですとかそういうものにもし仮にした場合に、税には直接は影響が出ないという場合も中にはあろうかと思いますので、その辺のところは十分にうちのほうとしても把握できていないということでございますので、当初予算については今までどおりの形でございますけれども、この後、税の推移を見ながら、もし上がっていただけるのであればそれは物すごい効果があったんだなというふうに感じを持っておりますので、これからそれぞれの決算期を迎えたり、法人の場合ですと決算期を迎えたりしますので、それらの推移をやはり十分確認してみたいというふうに思っております。

○議長（志関武良夫君）　ほかにございますか。

９番吉野僖一君。

○９番（吉野僖一君）　今のふるさと納税の件なんですけれども、１事業者のために、ちょっと大多喜町のふるさと納税は総務省から指導があったりということで、まずはヤフオク、町長さんにもお願いしたんですけれども、その業者に指導を、まだ12件ぐらい、けさのネットに出ていますので、昨日なんかは140万円、200万円寄附して、だから７割140万円ですか。そういう高額なふるさと感謝券がヤフオクにも出てきているので、やはりその業者を取り消しするとかしないと、ちょっとほかの人に迷惑かかっちゃうので、町長さんその辺どう思いますか。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　私のほうでよろしいでしょうか。

ふるさと感謝券のそのヤフオクでの取り扱いというものについては、うちのほうとしても非常に遺憾な思いでございます。取り扱い、転売を禁止するんだというようなことで通知をそれぞれ、今回、券にももちろん表示もしますし、いろいろな形で対応策を考えておるところでございますけれども、業者さんが直接関与しているのかどうかというものがあるのかどうか。ふるさと寄附されるということは、法人ではなく個人でございますので、個人の方が、ごく一部の方がそういう形でヤフーのオークションでしょうか、そちらに提示されているというふうに理解しておりますので、特定の業者の方がそれを率先してやっているというふうにはうちのほうとしては理解していないところでございます。

○議長（志関武良夫君）　９番吉野僖一君。

○９番（吉野僖一君）　課長さんもすごく苦労しているんでしょうけれども、その方がこういうふうにやればこういうふうだというやり方までネットに出てきちゃうんですよ。その辺はやはりちょっとまずいと思うんですよね。

その１事業者のために、ほかの大多喜町のそういう商工会とか農産物の生産者とか、ほかに迷惑かかるので、やはりそういうルールに従わない業者は取り扱いのあれを停止するとか、それはこの前相談に行ったときには、副町長さんのところに行ったんですけれども、必ずそれは町長さんが、法人登録、町にしてあるのでそれは許可せざるを得なかったということなんだけれども、やはりそういういいほうに行ってくれればいいんだけれども、それがたまたま全国すごい注目を浴びちゃって、70パーセント還元率、全国ナンバーワンということですごい注目を浴びて、ああいう全国13位ということになったんだけれども、たまたま返礼品が少なくて、百貨店、ちょっと今名前言っちゃったら申しわけないけれども、百貨店というこ

とで、それで町長さんもそういう対応したのかなと思って、いいほうに初めは解釈したんですよ。

だけれども、それがヤフオクに、その出店の仕方とかどういうふうにやれば換金できるとか、やり方までその業者は出しちゃっているんですよ。それで総務省から指導が入ったと思うんだけれども、その辺はやはりちょっとルールに違反しているのであれば、町長さん、これはやはり取り扱いを、加盟店のあれを取り消しした方が今後のためにもいいと思うので、その辺は町長さんどうですか。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　そのお話、この前にもお伺いしているところだと思いますので、うちのほうでそこまでちょっと事実を確認していないというところもあるんですけれども、そういう事実が確認できるようであれば、直ちにその事業者には指導していきたいというふうに思います。

○議長（志関武良夫君）　９番吉野僖一君。

○９番（吉野僖一君）　確かに指導、町の連絡は自分のところにもそれを出してありますし、重々知っていて、まだ12件もけさの時点で出てくるということは、もういっときはすごかったですよ、すごいもうばあっと出ちゃって何百件て出ちゃうんですよね。それがけさの時点で12件出ていましたので、やっぱりちょっとまずいと思うんですよね。もう半月たちましたのでね。やはりこれ、皆さん注目していますので、いいこと悪いこと判断、それは最終的には町長さんが許可したんであれば町長さんが指導しないとこれはちょっとまずいと思うんで。

○議長（志関武良夫君）　町長。

○町長（飯島勝美君）　ちょっと考え方として２つあると思うんです。一つは、例えば感謝券を換金するというのは業者はやらないんです。これはふるさと納税をやった方が感謝券を持っていますから、その方が転売ということでやっているということで、業者さんは感謝券を持ってきていただいて、その商品を交換する話であって、話がちょっと一緒になっちゃっていますけれども、感謝券の転売というのは全く逆に寄附をした方がやっているということなんですよね。

あくまでも業者さんの場合は、高額な品物、例えば高額な寄附をした方が感謝券を持っていて、それでこの品物を、高額なものを交換するという、その２つがありまして、その１人の人が全部やっているわけじゃないということで、それぞれその業者さんのほうと、先ほど言いましたようにその転売についてはもう禁止ということでございますので、その人という

のは実際ネットの中にいて、その人の本人の特定というのは実は難しいんです。その人のところに買いに行って初めて、その辺で出てくるという話であって、なかなかそこは確認しづらいところなんですけれども、間違いなく転売禁止ということでございますので、その方はもう当然違反をしているということでありますけれども、それはあくまでも寄附した方なんですね。業者さんはまた別の話になります。業者さんは業者さんで指導しているという形になります。

○議長（志関武良夫君）　ほかにございますか。

１番根本年生君。

○１番（根本年生君）　33ページの行政連絡員報酬。せんだってこの資料はいただきまして、２万1,500円が均等割ですかね。あと世帯割があって、世帯数があって、それ掛ける63人分と書かれています。この金額は、いつごろからこの金額なのか。

それとあと、ある程度の期間がたてばこの金額についてもこれが適正であるかどうかというのは見直しを行うべきだと思っています。直近ではいつ見直しを行ったのか。

ですから戸数の多いところはそれなりの金額があって、正直言って小さいところ、どんどん世帯数が減ってくるところは区長さんの仕事とするとそんなに大差ないんじゃなかろうかという気がしているんですけれども、その辺はどういった根拠で、今回これ上げたのか。さっき言ったように見直し等はいつやったのか。これもまた見直す必要があるんじゃなかろうかと思いますけれども、どうでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　総務課長。

○総務課長（加曽利英男君）　それではお答えしますけれども、これの報酬が、見直しがいつかということですが、少なくとも15年程度はもう変えていないと思います。また必要であれば、さかのぼっていつこの金額にしたか調べて回答させていただきたいと思います。

あと、この根拠ですが、これは条例の中で非常勤の特別職の方の報酬を定める条例がございますので、その中で均等割と世帯割というようなことで定めてありますので、その条例に基づいて予算計上させていただいております。

○議長（志関武良夫君）　１番根本年生君。

○１番（根本年生君）　15年間ないということです。15年たつと当然、当初出した根拠があるはずなんですね。均等割が２万1,500円、世帯が1,510円にした根拠。算出根拠は当然あってこれを算出していると思います。その算出根拠が、仮に今の情勢と合わなくなってきていれば、当然これは見直しを行うべきだと思いますけれども、その算出根拠と、今後情勢が合わ

なかったら見直しをやるんだという方向がないとまずいんじゃないかと思いますけれども、いかがでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　総務課長。

○総務課長（加曽利英男君）　区長さんにはボランティアというような要素が強い中で、本当に非常に大変な仕事をやっていただいていると思うんですけれども、報酬に関しましては区長さん以外にもたくさんございますので、それを見直しますといろいろな全般的に見直しが必要になることもあると思います。

また金額は、それは多いほうが実際やっていただく区長さんはそれは助かると思いますけれども、ある程度ボランティア的な要素も強い、集落によっては必ずその世帯の方が、誰かがやるというようなこと、場合によっては２回、３回とやっていただける区長さんもいらっしゃるということで、それはお互いの助け合いといいますか、そういう中でもそういうふうになっているのかなと思いますので、現在これを見直すということは今の段階ではちょっと考えておりません。

○議長（志関武良夫君）　１番根本年生君。

○１番（根本年生君）　見直すと相当な手間になるというような発言のような趣旨に受け取りました。

これ、皆さん本当に一生懸命やっているんですね。果たしてこれが適正なのかどうか、それは検討する必要があるんじゃないですか。検討した結果、適正であればこれはこれでいいと思いますよ。15年前と今じゃ、極端に言って千葉県の最低賃金だって上がっていることですし、当然その辺で適正であるかという見直しは、手間とか何とかという問題より、皆さんそれで一生懸命町のためにやってくださっているわけですから、誠意は見せてやるべきじゃなかろうかと思います。

それでこの後でいいですけれども、この算出根拠、均等割２万1,500円にした根拠、世帯が１件当たり1,510円にした根拠、これについて、これ後で結構ですので、根拠を教えていただければと思います。

それで今の件で、適正であるかどうかという見直しは手間とかいう問題とは関係なくやるべきだと思いますけれども。

○議長（志関武良夫君）　総務課長。

○総務課長（加曽利英男君）　手間といいますのは、要するに職員、私の説明が悪ければ大変申しわけないんですが、職員の手間ということではなくて、ほかに非常勤の特別職の方とい

うのは大勢いらっしゃいます。条例見ていただければおわかりになると思いますけれども、大勢いらっしゃいますので、そういう方にもそういう影響もあるのかなということで申し上げました。職員の手間とかそういう意味ではございません。

○議長（志関武良夫君）　ほかに質疑ありますか。

11番野中眞弓君。

○１１番（野中眞弓君）　35ページの職員研修事業ですが、この内容説明、お願いいたします。

○議長（志関武良夫君）　総務課長。

○総務課長（加曽利英男君）　職員研修事業ですけれども、これに関しましては、町の当然、職員の研修ですけれども、例えば電話応対研修、それとあと、人事評価研修をそれぞれ予定しております。その講師の謝礼、あるいは委託料ですね。そのほか負担金としまして、自治研修センターというのが千葉にございますが、そこで職員はいろいろ研修をするわけですけれども、そこに職員延べ40名分の研修費としての負担金を計上させていただいております。

以上です。

○議長（志関武良夫君）　11番野中眞弓君。

○１１番（野中眞弓君）　その最後のほうの40名分という、どういう内容の研修を行うのでしょうか。

最近、電話応対についてはかなり改善されているんではないかと思います。役場というのは住民に対する徹底したサービス機関ですから、住民に対して失礼のないような、そういう心ばえと、それからそれに見合う技量を身につけるということは大事なことだと思うんです。

そのほかにもっと大事なことは、この町の町民がどうしたら幸せになれるか、きちんとした収入が得られて、それから安心していろいろな福祉サービスが受けられて、そういうまちづくりに対する素養というか、その人全体が持っている総合的な力というのはすごく強いと思うんです。今、目先でやっている、来ている、上からおりてくる仕事をこなすだけの技量ではなくて、もういろんなものを学び取ってそれを住民に反映させてあげる職員の技量が求められていると思うのですが、何か私の勝手な感覚では、そういう点でまだまだ職員全体の力量が不足しているのではないかと思う場面に間々行き当たります。

そういうことで、この最後の40名を送っている研修の内容というのはどういうものなのか、説明してください。

○議長（志関武良夫君）　総務課長。

○総務課長（加曽利英男君）　研修は、専門的な研修がやはり多いわけですけれども、一番多

いのは、例えば税の研修ですとか、例えば広報の作成の研修、あと条例とか規則、規定、そういうものをつくりますけれども、そういう例規の法制実務といいますか、法制実務の研修、というようなものでございます。

あとそのほかに、今、野中さんの質問の中でありましたまちづくり研修というものもございます。これは、多分平成26年度だと思いますけれども、１人職員を派遣研修に出しておりますので、そういう研修もございますので、これからその研修を受ける職員を募集するわけですけれども、またぜひそういうまちづくり研修というものも考慮して、職員に受講させたいというふうに考えております。

○議長（志関武良夫君）　11番野中眞弓君。

○１１番（野中眞弓君）　職員に、自分の今携わっている業務以外に個人の見聞を広めて、いろんな情報が、何か敏感にキャッチできるというか、職員の政策に対するアンテナの感度を上げる、そういう研修。感性の、こんなことがありますよ、あんなことがありますよというだけではなくて、積極的に、例えば５年目の職員には計画書を出させて、町が研修費の幾らかを補助して積極的に職員の資質を高めるというような考えというのはないですか。27年度か28年度からそういうようなものを取り入れるという考えはありませんか。

○議長（志関武良夫君）　町長。

○町長（飯島勝美君）　職員の指導というのは、最終的には本人に帰するんですね。ですからなかなか、じゃ、こういうプログラムをやって勉強しなさいと言っても、本人がやる気がなければどうにもならないわけですよ。ですから、いかにそのやる気を起こさせるかというのが我々の仕事なんですね。最終的には本人が勉強しようとしなければどうにもなりません。

そういう中で、今年度もやはり係長職全員に研修をやらせました。研修というのは、講師になって職員がそれを聞くという形で、全職員に、この係長の研修を聞きたい、この係長の研修というのを実は今年度は全係長に１時間の講演をやらせました。それでそれは職員が希望の人のところの講演に行くと。そこで質疑応答ということの中でやってきましたけれども、要は、いかにどんなプログラムを用意したとしても、最終的には本人がやる気があるかないか、そこに帰するものですから、我々が今やるべきことは、やはり本人のやる気を起こさせる、そういったところにやはり力を入れていかなければいけないと思います。

ですから、どんなにいいものを見せたって本人がやる気がなければ、それはただ絵に描いた餅になりますので、そういったところで、まず本人の気持ちを、やる気を起こさせるところにやはり重点を置きたいと思っています。

○議長（志関武良夫君）　11番野中眞弓君。

○１１番（野中眞弓君）　やる気を起こさせるというのは私の質問ではありません。本人のやる気って、やっぱり周りからそういうシステムの中に入れさせられることとか、きちんと財政的な餌というか、やっぱりあってもいいんじゃないかと。役場の職員は、町民にとって優秀な職員は財産なんです。その財産を大きく育てていただきたい。研修費に対してはもう決まった業務上の問題だけではなくて、そういうものについても予算化していくべきだと思いますので検討してください。研修するかどうかは本人の意思だというようなことを、町長おっしゃいましたけれども、そういう場に投げ込むのも、システムの義務だと思います。

次の質問なんですけれども、37ページ、広報おおたき発行事業があります。

広報、情報を住民に伝えること、それから住民に大事な情報を啓蒙することというのは広報の大きな仕事だと思いますが、今、私たちの町の広報おおたきはこんなことがありました、あんなことがありましたという報告に対してのページ数が比較的多くて、周知、啓蒙に対してまだまだだという感覚があります。

来年度予算もふえました。担当の研修もそうなのですが、町内で各課、やはりどういうものを広報に載せていくかということを話し合って、総務課の担当と一緒に広報を町民にとって本当に役に立つおもしろいものにしていく計画というのはないでしょうか。

それから、担当課自身も、広報には載せきれないものに対して独自に町民に知らせることって必要だと思います。ことしだったか去年だったか、ちょっと忘れちゃったんですけれども、補助金絡みで何か町民には知らせないで、役場にしょっちゅう来る人に声がけをするという傾向に対して、きちんと周知活動をするようにというのを、町長が議会の場で一度答弁されたことがありました。

これは健康福祉課が、もうかなり前から出しているものですけれども、まだまだほかの課でもこれに似たようなものがつくれないだろうか。同じような内容なんですけれども、うちのほうはちょっと文字が多くてなかなか見づらい。これはよそ様のなんですけれども、ちょっとやっている事業の多いせいあるのですが、もう要点だけぴっぴっぴっとあって非常にわかりやすい。こういう工夫も、各課で住民への周知活動として取り組むという点についてどう考えるか伺います。

○議長（志関武良夫君）　総務課長。

○総務課長（加曽利英男君）　広報につきましては、字数も字の間隔も広くして、字も少し大きくして、予算は若干多くなりましたけれども、本当に見やすいというようなことがよく耳

に入ります。それなりに改善されているということは、そういうふうには私たちも思っております。

それと、今年度、例えば子育てですとか産業振興とか、そういう各課で依頼して毎月１回シリーズで各課の取り組みを掲載させていただきました。ですから、そういうものも引き続いてまた新年度も実施をしたいと思います。

また、いい情報も、いい事業も、情報提供がなければ、これは全く町民の方、知らないということになりますので、各課でつくるものについてはそれはまたちょっと別冊にして、一緒に広報に折り込むと、広報配布と一緒に配布するというような方法もあるかと思いますので、そういうものは各課と調整をして協議してみたいというふうに考えております。

○議長（志関武良夫君）　ほかにございますか。

７番小髙芳一君。

○７番（小髙芳一君）　41ページ、43ページになります。地域公共交通対策事業のいすみ鉄道関係であります。

予算に対して、私の質問の趣旨がちょっと合わないかもしれませんけれども、答弁できるようでしたらお願いをしたいと思いますけれども、まずいすみ鉄道のこのような補助金が幾つか出ていますけれども、これを審議するに当たりまして、いすみ鉄道の経営が全くわからない。

今回といいますか、いすみ鉄道のぜひ経営内容を報告していただきたいということで一回お願いしたことがあるんですけれども、これは内輪の問題かもしれませんけれども微妙なところだからちょっと待ってよということだったので、基本的に経営内容、全くわかりません。会社の決算内容はネットを見ても大ざっぱにはわかります、大体収入がこのくらいで、経費がと。もっと細かな詳細について議会のほうに報告をしていただきたいというふうに思いますけれども、いかがでしょうか。

それから26年度については決算出ています。27年度の決算の、もし見込み、どのくらいの経営内容であるかわかれば、簡単で結構ですからご報告をいただければというふうに思います。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　補助金の関係ということで、その前にいすみ鉄道のその経営状況というようなご質問でございます。

今現在、ちょっとこちらに、手元に資料がない状況でございますけれども、今年度の決算、

あるいは見込みにつきましては、この後、いすみ鉄道の関係の会議がございますので、その段階では明らかになるんではないかなというふうに考えております。

それと前の決算について、うちのほうでも決算の内容については書類としては一応お預かりしているような形がございますので、その決算の公表している数字でございましたら、議会のほうにもご報告させていただきたいというふうに思います。

○議長（志関武良夫君）　７番小髙芳一君。

○７番（小髙芳一君）　ありがとうございます。

会社の概要といいますか、たけゆらもそうですけれども、年々その詳しい内容はどんどん簡素化されて、でかい項目だけで幾らというふうになってしまいますので、それを見ても全く内容は理解できない話です。人件費とか、あるいは車両の更新とか、いろいろな部分がいっぱいあるわけですけれども、できるだけ、見て、どこがどうしてこのような決算になったのかということがわかるくらいまでの、できれば詳細な資料をお願いしたいと思います。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　決算の段階の細かな資料はどこまで出せるのかというのは、これは直接いすみ鉄道の関係でもございますので、そちらともお話をしたいと思いますけれども、中身を全部100パーセントうちのほうでご説明できるかというと、決してそういう内容でもございません。かなり奥の深いところもございますし、決算書として皆さんにお渡しするということでご理解していただければと思います。細かな内容については、もしご質問等ございましたら、うちのほうからいすみ鉄道に確認するなりしてご回答するとか、そういう形をとりたいと思いますのでよろしくお願いしたいと思います。

○議長（志関武良夫君）　ほかにございますか。

１番根本年生君。

○１番（根本年生君）　35ページの行政連絡員研修費、研修費補助金ですかね。ここで、去年行かなかったというように聞いています。その理由が、参加人数が少なかったから行けなかったんだというようなことであろうかと、区長さんのほうから聞いています。

これは、理由があって、当然目的があって、こういった研修費というのは計上しているはずでございますので、ですからこういったものが、行かなかったから、去年やらなかったからなくなるというのはおかしいと思うんです。ことしはまた上がってきているということは、それなりに分析して、去年の結果はどうだったのか、それでことしはもう絶対に行っていただけるんだという確信が持てたからここにこう上げたと思うんです。

だから去年行かなかったことを十分分析して、それを反省して、今回、来年はどうしても行くんだと。必要があるからやっている研修でしょうから、その辺をしっかりとした根拠をもって上げてきたと思いますので、その根拠を示して、また来年、行く人が少なかったからまたやりませんでしたなんてことのないように、ここに予算書に上げるということは必ずやるんだという強い意志があるわけでしょうから、その辺を回答してください。

それと前回私が質問した時、行政連絡員の報酬の根拠、これについて報告してくれと言ったんですけれども、その答弁がなかったと思いますので、そちらも調べて報告をお願いしたいと思いますので、その答弁もあわせてお願いします。

○議長（志関武良夫君）　総務課長。

○総務課長（加曽利英男君）　答弁、逆になりますけれども、その根拠はちょっとあるかどうかは定かではありませんけれども、調べて報告はさせていただきたいと思います。

それとあと、区長会の研修ですが、これは補助金という形ですので、本来実施するところは区長会が実施するわけです。区長会が実施するものに対して補助金を出します。昨年度は、議員さんのおっしゃるとおり、最初、区長会長会議のときに実施しましょうというようなことで、いろいろ、しなくてもいいんじゃないかという意見もあったんですけれども、結論としては区長会長会議で実施しましょうというようなことで募集をしたんですが、例年30名近くの区長さんに来ていただけるんですが、昨年は16名ですね。町としては、視察先は町のほうでということでしたので山梨県でデマンド交通を視察しようとしたんですが、16名ということで、区長会長さんに協議をした結果、区長会長さんのほうがことしはやめましょうというようなことで、今年度は取り消させていただきました。

また来年度、これ区長会長さんも当然変わりますので、その中で区長会の行事としてやるということになった場合に予算措置必要になりますので、それで予算を計上させていただきました。実施主体は区長会というようなことで、町はそれに補助するというようなスタイルになっております。

○議長（志関武良夫君）　１番根本年生君。

○１番（根本年生君）　今の答弁ですと、あくまでもこれ区長会が決めることであって、町のほうがこれを補助金使ってどうこうしようという趣旨のものではないという答弁だと思いますけれども、町が予算化するということは、それなりの理由があって目的があって、予算化して補助金を上げていると思うんです。

それを、町が目的を達成するために区長さんとしてはこういった研修をやってもらいたい

というような目的があって実施するものについて、区長会のほうで反対だから行かないよということであるのであれば、当初のこの予算のところに果たして載せるべきなのか。強い意志を持って、これを予算書に載せるということはもう絶対やるんだと、よっぽどの理由で、大きな災害とかがあったりなんかして行けない場合もあるでしょう。それ以外は、今みたいに、補助するので区長会のほうで何て言うかわからないけれども、とりあえず上げといてみたいな答弁では、どうなんでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　町長。

○町長（飯島勝美君）　これは、先ほど課長が答弁したように、補助金という形で出しています。今回14名の方が参加ということで、これは中止になりましたけれども、その前の３年前ですかね、３年前か４年前にまたやっぱり中止した経緯がございます。そのときは区長会の皆さんで相談して、区長さんが荷物を、いろいろ配り物の袋を買ったりとか、区長さんが日常使うようなものを、じゃ、それぞれの区長さんに配りましょうということで、そういう使われ方もしていますので、必ずしも旅行で使わなければいけないということではなくて、そのときの区長さんの考え方があっていいと思うんですね。

ですから、一つの目安としては、旅行ができる程度の予算を補助しているところでございますので、そのときの区長さんによって、いやいや今回は参加しないから、こういうものに使おうかという考え方も実はあるんですよね。ですから、そういう実例もありますので。

○議長（志関武良夫君）　１番根本年生君。

○１番（根本年生君）　すみません、ちょっと、じゃ、私思い違いをしていました。これはてっきり、どこかに研修に行くための補助金ということで解釈していましたけれども、そうではなくて、先ほど町長の話だと、いろんな入れ物とかそのほかにも使えるんだというようなことでしたけれども、じゃ、あくまでも補助金とは研修でどこかに行くということではなくて、区長さんが活動しやすいような経費というんですか、その補助金もこの中に入るということでよろしいですか。

○議長（志関武良夫君）　総務課長。

○総務課長（加曽利英男君）　今、町長が答弁させていただきましたときには区長会の研修をやらないので、その分ほかのものにというようなお話がございました。今回、研修の負担金ですので、研修いろいろあると思いますけれども、例えば町内も研修ですし、例えば１泊でも研修だと思いますけれども、今回は研修の負担金ですね。今年度は、そういう区長会長さんにもそういうお話はしたんですけれども、ほかに使い道はというお話もしたんですが、区

長会長さんのほうでそういうのは結構ですというような丁重なお断りがありましたので、今回は、平成27年度については、執行を全くなしで、ほかのものにも振りかえることなくやったと、そういう経過がございます。

○議長（志関武良夫君）　ほかにございますか。

３番吉野一男君。

○３番（吉野一男君）　今、根本議員の関連質問なんですけれども、一応これは私も区長会長をやって、22、23だったかな、２年間区長会長やったんですが、そのときもちょっと、１回は確かにこういう形で研修、人数が少ないからということでやらなかった経緯があるわけですけれども、実際これは研修っていうことは、補助ということがあるんですけれども、実際に何人と言ったら人数は、じゃ30人だから、定員が30人だから、バス満タンに行けばいいんでしょうけれども、30人だから研修をやるというか、逆を言えば少なくたって別に小型バスであれば研修できる。

今回14人ですか、14人の出席があって、一応行けなくなったわけですけれども、実際に14人でも行けると思うんですよ、これ、実際的に。１泊でも、どこの日帰りでもいいし、研修、その人たちが、という人たちで研修すればいいわけです。全員が行けばいいんですが、なかなか全員というのは難しいと思うんですけれども、だから行ける範囲で、そういったものは研修の補助金も組んでありますので、それはやっぱり有効利用した中で使ったほうがいいと思いますので、だからその根拠が14人だから行けないという、それはちょっと根拠を示してください。

○議長（志関武良夫君）　副町長。

○副町長（鈴木朋美君）　区長会の視察研修の関係でいろいろ論議されておりますけれども、私も過去に区長会の旅行を引率して行った経緯もあるんですけれども、主な目的はやはり町内63集落ですか、の区長さんが全員参加していただいて、できればいいんですけれども、なかなか今ここに来て区長さんも若返ってきて、研修そのものも平日にやるということで、なかなか参加者も減ってきちゃっています。

主な目的はやはり区長さん方の地域の情報交換だとか懇親会だとかそういったことで、懇親を深めることも一つの目的にあります。それに限らず、やはり今、人口増対策だとか福祉政策の中で参考になるような市町村を選んで１泊２日で研修に行っております。今、少ないからやらないのか多いからやるのかということじゃなくて、やはりうちのほうとしてはやるということで募集をかけるんですけれども、やはり参加人数が少ないということで、区長会

長さん方にお話をして募集した結果こんな状況ですということで、じゃ、実際にやるのは区長さん方なので、参加していただくのは区長さん方なので、もう区長さん方にご相談をかけて余り人数が少ないからことしはやめましょうよというようなことをいただけば、それを無理して、うちのほうで、じゃ、やりましょうということもなかなか言えないものですから、事業の実施については区長さん方のご意見をいただきながら事業を進めているということでございます。

ですから、今後、その事業のやり方も、例えば１泊じゃなくても日帰りでもいいんじゃないかというようなこともありますので、その辺、研修のやり方については、またこれから区長さん方とご相談をさせていただいて、できる限り研修ですので、また親睦という意味もありますので、継続して実施していきたいということで予算計上をしてあるということでご理解をいただければと思います。

○議長（志関武良夫君）　質疑途中ですが、ここで10分間休憩します。11時30分からの開会とします。

（午前１１時２０分）

○議長（志関武良夫君）　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午前１１時２９分）

○議長（志関武良夫君）　総務課長。

○総務課長（加曽利英男君）　先ほどの根本議員の区長会の、要は行政連絡員の研修費の補助金の中で１点訂正させていただきたいと思いますが、今年度16名の参加予定と申し上げましたけれども、区長さんは14名、事務局２名入れて16名ということですので、区長としては14名の出席予定だったというようなことで訂正させていただきたいと思います。失礼しました。

○議長（志関武良夫君）　３番吉野一男君。

○３番（吉野一男君）　引き続いてお願いしたいと思います。

その関係につきましては、確かに区長さん方は１年間というか、２年のところもありますけれども、１年間の区長さんが多いと思うんですよ。やっぱりできるだけ、次あるかというとなかなか多いところがなかなか区長さんできないと思うんですよ、１回でその場で終わっちゃいますので、できればこういうときこそ町と連携を保つのが一番重要だと思いますので、そういう点でやっぱりそういう懇親を深めることもいいし、またそこで町の行政とかそうい

うものを視察するのもいいし、そういうものをやって初めてこういう区長さん方にも骨を折ってもらっているわけですので、１年間協力してもらったわけですので、ぜひそういうものでやっぱり多少何らかの方法でそういう区長さん方に対して対応していただきたいと思うんですよ。

それは区長さんがやることなんですけれども、それに対して区長さんがやらないということであれば、それはそれなりにまた１年間の労として、そのときだけしか補助金出ませんので、その次からということではまた出ませんので、とりあえずその１年間の区長さんに終わった段階では多少区長さんのためのそういう研修の補助金だと思いますので、できればそういうものに対して補助を出してもらうということで、何らかの方法で出していただければよろしいんじゃないかと思いますのでよろしくお願いしたいと思います。

次は、別の質問をさせていただきます。

37ページですね、公有財産管理事業で、賃金があるんですけれども、賃金についてちょっと質問しますので内容についてお伺いしたいと思います。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　この賃金につきましては草刈りを実施するということで、一応庁舎７回、旧総元小３回、旧二の丸公園１回です。それとあと薬草園のほうの管理をお願いしている人が２人いらっしゃいますのでその方の賃金を含めております。

以上です。

○議長（志関武良夫君）　３番吉野一男君。

○３番（吉野一男君）　その総元小学校の草刈りという話なんですけれども、これ年３回ということなんですけれども、草刈りだけでこれ、あとは植木とかそういうものがあるんですけれども、そういうのもやるんですか。もう当然それで組んであるということでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　植木の関係ですね。植木の関係については役務費の手数料の中でその分は計上してございます。

○議長（志関武良夫君）　３番吉野一男君。

○３番（吉野一男君）　じゃあ手数料の中のこれが73万5,000円ということですか。この中に入っているということなんですけれども、これ植木の手入れと同時に駆除の関係でやるということだと思うんですけれども、その点年何回ぐらいやるわけでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　総元小の松の関係でございますか。

○３番（吉野一男君）　関連して、松もそうだけど全体的な中で植木ありますよね。

○企画財政課長（西郡栄一君）　松の関係は年１回、必ずやるということでお願いする予定でおります。

○議長（志関武良夫君）　ほかに。

３番吉野一男君。

○３番（吉野一男君）　ありがとうございました。

それと39ページの19の負担金補助交付金で旧小学校テレビ共同受信施設組合の負担金なんですけれども、旧小学校、この１万2,000円という内容についてお願いしたいと思うんですけれども。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　テレビのその負担金でよろしいんでしょうか。

（「はい」の声あり）

○企画財政課長（西郡栄一君）　これにつきましては、旧老川小と旧総元小ということで計上してございます。

○議長（志関武良夫君）　３番吉野一男君。

○３番（吉野一男君）　わかりました、どうもありがとうございました。ちょっと私勘違いしていましたのでわかりました、ありがとうございました。

それと、このその下の旧老川小学校活用事業ということで300万円計上されているんですけれども、この空き家校舎の活用事業補助金ということで300万円ということですけれども、その内容についてちょっと詳しくお願いしたいと思います。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　この旧老川小学校の活用事業につきましては地方創生の先行型事業としてスタートしたものでございます。旧老川小学校の有効活用と地域の活性化を図るため事業者を公募して、ｅｆｃｏを提案した事業者に体育館等を貸すこととなっておるんですけれども、町が３年間管理、運営するということになっております。その間の施設の管理等を地域の団体にお願いしようということでございます。

その中でこの運営管理費として誰かにその管理をお願いしたいというものと日額的なものですね。それと施設の整備ということで、やはりかなり老朽している箇所もございますので地域である程度直していただければということで、含めて300万円を計上させていただきました。

○議長（志関武良夫君）　３番吉野一男君。

○３番（吉野一男君）　その場合に運営管理のほうなんですけれども、その点についてちょっと聞いたんですけれども、やまゆりの会、それがやるような形だと思うんですけれども、これ具体的にどの程度までやるか、結局やまゆりの会が一応300万円ということで丸々300万円使うわけですよね。その内容について具体的にどういうふうな形でやるのか。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　これはこれからやはりやまゆりの会とも協議をしていかなくてはいけないというふうには考えております。その中で先ほど言いましたように一応運営管理ということで月20日程度をその誰かに行ってもらうというものと、あとは施設の整備経費ということで予算を計上したものでございます。これにつきましては予算が可決されましたら、やはりその団体と協議をしていかなくてはならないというふうには思っております。

○議長（志関武良夫君）　ほかにございますか。

８番渡邉泰宣君。

○８番（渡邉泰宣君）　35ページの下から２番目ですか、男女共同参画推進事業について、事業の内容についてちょっと伺いたいと思います。

○議長（志関武良夫君）　総務課長。

○総務課長（加曽利英男君）　男女共同参画事業の内容ですけれども、まず総合計画にも掲載させていただきましたけれども、男女共同参画推進するための研修をやろうということでその講師に伴う費用、またはその講師の昼食代等、そういうものを計上させていただいております。

○議長（志関武良夫君）　８番渡邉泰宣君。

○８番（渡邉泰宣君）　その研修というか、この前公民館で何月ごろだったかありましたけれども、そういうような内容で行うのか、一般の人が講習受けられるのか。

この前の公民館の内容ですと、人生、終活を迎えた家庭が介護に対してあの講習を受けると大分体の負担がないようなやり方というのが講習の中にありましたけれども、やっぱりああいうことが、情報が入ると介護の仕方も大分楽になると思うんですよね。その辺でちょっとそういう方面でやるのかどうか。

○議長（志関武良夫君）　総務課長。

○総務課長（加曽利英男君）　昨年公民館で実施した事業ですけれども、これは県の主催事業ということで、町の費用は入っておりません。講師の選考も県のほうがしたわけですけれど

も、また今回は町が実施しますのでいろいろな意見を聞きながら、どういう講師がいいのか、選択して実施をしたいというふうに考えております。

○議長（志関武良夫君）　ほかにございますか。

10番山田久子君。

○１０番（山田久子君）　41ページ、結婚活動支援事業ということで、ここのところだけじゃなくて、さまざまなところで結婚活動の事業を取り組んでいただいておりますので、ここでちょっとこの項をかりましてご質問させていただきたいと思います。

町ではこういった形でさまざまな結婚活動のご支援の活動をしていただいております。その中には男性も女性も結婚を望んで相手の方を見つけるためにご参加いただいていると思うんですけれども、なかなか婚姻までいかないという状況になっているかと思います。そこにはそれぞれの男性あるいは女性の方の、男性、女性に対する自分とはマッチングしない何らかの理由があるのではないかと思うんですけれども、そういったところまで町では確認といますか、把握はしていただいているんでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　町のほうとしてはそこのプライバシー的なものについては把握はしていない状況でございます。

○議長（志関武良夫君）　10番山田久子君。

○１０番（山田久子君）　やっぱりお互いの情報という部分でやっぱりわからないと、ある程度結びつけてあげるという部分というのもないと難しいのかなという、そんな感じも最近は受けております。

そういう中でそういった情報をある程度把握していただくことによって、場合によっては社会福祉協議会で民生委員さんが結婚相談なんかもしていただいていると思うんですね。そちらのほうにご相談になる方とかそういったところとも結びつけながら、この結婚支援というか結婚に対する力というものをまた活動していくことができるのではないかなというようなそんな思いもするんですけれどもいかがでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　町長。

○町長（飯島勝美君）　この婚活につきましては、今いわゆる社協ですよね、もともと社協がずっとやっていたんですよ。全く動かなかったもんで町のほうで腰を上げてこれをやった話なんですね。ですからもともとは社協さんで本来やっていただくことになっていたもんですが、それが全く動かなかったもんですから町で進めたと。そういうことで今だから逆に社協

さんのほうも協力していただいて一緒にやるということでやっていまして、一番もともとはそういうスタイルだったんですね。ですからその辺はご理解いただきたいと思います。

それで何組かは、３組か４組だったかな、もう結婚した方もいますので全くないわけではなくて、地道にやはり続けることが大事だと思うんです。やっぱり、進めているうちに実際に結婚された方がもう４組にもなっていますんで、これはまたお互いの考え方の問題があるでしょうけれども、やっぱり気持ちが合えば結婚されると思いますんで、そういう機会というのは我々がつくっていきながら、また社協の皆さんと協力しながらやっていくということだと思います。

○議長（志関武良夫君）　10番山田久子君。

○１０番（山田久子君）　今、協力してやっていただいているということでその辺よろしくお願いしたいと思うんですけれども、実は私ある別の町の方から大多喜町で、その結婚支援のことがよくわからないので、こちらの町に参加させていただいてますということでお見えになっている方がいますよという、ちょっとそういう話を耳にいたしました。

それで行政区によりましては民生委員さん等お力をかりながら昔のお見合いじゃないんですけれども、そういった形でお互いを結びつけさせてあげるというところまでご尽力をいただいているところもあるようなんです。お互いがマッチングしなければそれで終わりなんですけれども、そこから先はあれなんですけれども、とにかくお見合いの場を持たせてあげるというんでしょうか、そんな改まったものじゃなくてちょっと顔合わせの場をつくってあげるというものなんですけれども、やはりそういったお互いのニーズを把握しながらそういった形でやはり踏み込んでいくこともやはりしていかないとなかなか難しいのかなという、そういった思いもするんですけれどもいかがでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　総務文教常任委員会の中でもやっているんだよね。総務文教常任委員会の中でこれ婚活問題やっているから簡単に言ってよ。

企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　先ほども町長のほうからお答えがあったと思いますけれども、社会福祉協議会とも、もちろん昔からやっているものがございます。町のほうとしてもそれを、婚活の機会をやはりふやしていく。なるべく多くの人に参加していただくということで計画はしていきたい。いろいろなニーズに合ったような形のものを考えてはいきたいんですけれども、ただそこをプライベートな部分で町が全部そこまで管理するべきものなのかということも非常に難しさがございます。本人の要望があればなんですけれども、ただそれがい

ろいろなところにそのプライベートな話が伝わるような形になりますので、その辺の個人情報的なものも十分考えさせていただきたいと思います。

また、あるいは本来であれば結婚相談所というような専門的な場所もございますので、どこまで行政ができるかというものもできる限りはやりたいとは思っているんですけれども、ただ当然本人の意志というものがございますのでその辺も十分確認しながら慎重に進めていきたいと思います。

○議長（志関武良夫君）　ほかにございますか。

５番野村賢一君。

○５番（野村賢一君）　同じく41ページの下から２項目めに、大多喜高校支援推進事業というのが100万円、復活予算というんですか、復活されています。

この件に関しては大多喜高校、非常に根本君が一般質問で力説していました。大多喜町町民とか議会とか行政が一生懸命になって大多喜高校を何とかしなきゃいけないと思っているのに、大多喜高校の肝心な職員の先生方が意外に動きが悪いんです。こういう形をどういうふうに、盛り上げると言ったらおかしいですけれども、何か特別な事業を組んでいるとか夏休みのゼミを大々的に開くとか、何かこの事業を普通の一般的な補助的な事業ではだめだと思うんです。何かお考えあるでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　今回の100万円の補助ということで、議員さんおっしゃるように昔出しておりましたので、復活というような意味合いもございますけれども、今まではお金を出しますから何をしますかという方向性があったと思うんです。

今回はこの１年間をかけて学校とも大分協議をしてきまして、やはり進学校という位置づけもございますので、そういう意味ではいろいろな進学するための授業のためになるようなものがいいんじゃないかということで、スタディサプリというような普通の自宅でもできるようなものがあるんですけれども、そういったものをこの１年生から実施していきたいんだと、それをやるのはスマートフォンだとかタブレットなんかでもできるということなんですけれども、そういったものの整備というものもございます。ですからそういったものの整備もある程度学校の中でできるぐらいの、予算は一応この100万円という中で学校のほうに主体性を持たせてそれで実施していただきたいということで、この補助金は使用する予定でおります。

あとはその学校との常にやはり協議が必要だと思っておりますので、それにつきましては

今まで過去に議員さんも含めてあったと思うんですけれども、それをまた教育委員会のほうを主体としてそういう形を継続していこうということで話はしているところでございます。

○議長（志関武良夫君）　５番野村賢一君。

○５番（野村賢一君）　ぜひよろしくお願いしたいと思います。また、全国のネットなんかで見ますと成功事例が結構多いですよね。高校に負担金を支援事業を出してその高校が非常によくなってきている、内容がよくなってきているそんなような事例が結構あります。ぜひそこら辺も参考にしてお願いしたいと思います。答弁は要りません。

○議長（志関武良夫君）　ほかにございますか。

９番吉野僖一君。

○９番（吉野僖一君）　たびたびすみません。ふるさと納税の件ですけれども、町のホームページは本当に見やすくてすばらしいんです。ただ、報告が10月寄附者でとまっちゃって、11月、12月確かに忙しかったからそこも載っていないと思うんでその辺もできるだけ早く載せてください。

それと、一番今ちょっと気になっていることは、町長さんが商工会の新年会のときに、おかげさまでふるさと納税のあれが15億5,000万円ということを皆さんの前で公言しちゃったんで、それで新聞発表の数字がこれ２月18日、15億2,796万円ということで出ていまして、町長さんが商工会の新年会で言ったことは15億5,000万円で、私がホームページで毎月のやつ集計したのが15億5,140万452円で差額が2,344万452円ということなんで、その辺は先ほど監査委員の人に聞いたら時間的なあれもあるだろうからということなんだけれども、町だより毎月出ますよね、今月のふるさと納税の金額が。それプラス累計幾らということでうたっておけばこういうことがないと思うんで……

○議長（志関武良夫君）　ちょっと吉野僖一君に申し上げます。

ただいまの発言が議題外の発言になっていますのでそれ注意していただきたい。議題に沿った形でお願いしたい。

○９番（吉野僖一君）　ふるさと納税のことで関連じゃないですか、数字。そこら辺をちゃんとしないとやっぱり町民も見ていますので。まずいの……。

○議長（志関武良夫君）　だから注意してやってください。

企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　ホームページのほうの計上がおくれているということでございますけれども、ちょっとあとで確認してみますけれども、それであれば大変申しわけない

なと思っております。

それと先ほど言われた数字の関係ですけれども、私のほうは月末の締めとかいろいろなものでご報告させていただいておりますので、その点が多分その中間としてはそういうときがあり得るということで、多分町長さんは一番最新のデータを皆さんにお伝えしたかったということだと思いますので、いつ現在というものがやっぱりはっきりある程度していないといけないのかなというふうには考えておりますけれども、そういう趣旨でご発言されたものだと思っております。

○議長（志関武良夫君）　９番吉野僖一君。

○９番（吉野僖一君）　できましたら毎月広報に掲示してあるんですから、今月は幾ら、累計幾らということで表示すれば皆さん安心しますんで、できるだけそういうふうにお願いしたいと思います。

以上です。

○議長（志関武良夫君）　ほかにございますか。

１番根本年生君。

○１番（根本年生君）　ページ41ページの、先ほど野村議員さんの質問の関連なんですけれども、今度教育課のほうに４月以降はこの支援推進事業が行くというやに聞いています。それで教育課のほうに行くということは私も大変いいことだと思っています。当然中学校との関連も出てきますでしょうし一つの目的を持ったものは一つの課でやったほうがいいんじゃなかろうかと思っています。

その中で教育課さんのほうは今までこの推進事業等、過去も全然やってきたことがないわけですね。だから新しいことをやるような形になるんじゃなかろうかと思うんですけれども、その辺でやはり目的とすると来年度は絶対定員割れを起こしてはいけないという強い意志のもとにやらなければいけないと思っているし、２年、３年と定員割れが続けば必ず統合の話になってきます。その意味から言うと教育課さんの担う責任は大変大きいと思っています。

大多喜の将来を教育課さんが大多喜高校の支援でやるということは大変重要な強い意味を持っていると思うんですけれども、教育課さんのほうではどのような考え方でこれを進めていこうとしているのか、いろいろなこういったことをやったほうがいいよという案もたくさんあると思いますので、今教育課さんのほうで考えている先ほど言ったインターネット、パソコンでやる以外に、お金をかける業務よりもそのほかの支援事業というのも大変たくさんあると思いますのでどのようなことを考えているのか。

○議長（志関武良夫君）　教育課長。

○教育課長（野口　彰君）　先ほど、高校支援につきましては今後４月以降は教育課のほうでということで、企画課長のほうから話がございました。その中で、大多喜高校の平成28年度予算の中で大多喜高校支援推進事業100万円、これはスタディサプリ、こういうものをやっていくんだというお話がございました。これは今後教育課ということでございますので、新年度早急にこれ高校支援に関するその組織を立ち上げまして、その中で検討をしてまいりたいと考えております。

○議長（志関武良夫君）　１番根本年生君。

○１番（根本年生君）　やはり重要な問題ですので、これを受けるに当たっては相当な決意、やっぱり考えがないと受けなかったんじゃなかろうかと思うんですよ。やはりそれなりにちゃんとした計画があって絶対来年は定員割れを起こさないんだという強い思いがあるから私は受けたんだと思っています。

それでこれから委員会を立ち上げてどうこうするという前に、やはり行政としては今度はこういった方向性なんだよと、それを審議会に諮ってどういう場合があればこういった方向で支援を進めていきたいんだよと。それは先ほど言いましたようにお金をかけることだけじゃなくて、県のホームページにも書いてありますように、地域に根差した学校というのは統合しないんだというふうにはっきり書いてあるわけですから、その辺も含めて今考えている支援事業を教えてください。

○議長（志関武良夫君）　教育課長。

○教育課長（野口　彰君）　これは先ほども申し上げましたように、４月に入りまして早急に組織を立ち上げまして、その中で検討してまいりたいと思いますけれども、今年度定員割れを起こしております、大変危機感を持っておりますので、その高校支援については一生懸命取り組んでまいりたいと考えております。

○議長（志関武良夫君）　教育長。

○教育長（石井信代君）　補足で申し上げます。根本議員さんおっしゃいましたようにこの間の一般質問でありましたように、今大多喜町から大多喜高等学校がなくなるということは大変大きい、やっぱり町全体が沈んでいくような危機感を持っております。

先ほど支援事業につきましては全く教育課初めてとおっしゃったんですが、私はこの前の支援事業のときにメンバーに入っておりまして、議員の代表の方あるいは学校長、それから学識経験者、そういう方で企画財政課さんが主管で持っていたんですけれども、やはりそこ

がちょっと今途切れてしまったんですけれども、今私が考えていることは先ほど野村議員もおっしゃいましたように、何か今までとは違った形でやっていかないとこれはうまくいかないだろうということで、この間、平野大多喜高校の校長とも話したんですけれども、今度は会議を大多喜高校でやりたいですよと。

ここで会議をやっても、先ほど野村議員さんおっしゃいましたように、大多喜高校の先生方がどのぐらい危機感を持っているかというのは非常に、私も疑問点がございますので、この会議そのものを大多喜高校の中でやって、私冗談に話しましたんですけれども、大きな看板を玄関前にかけて大多喜高等学校がこのままでは危険だよということをまず勤めている先生方にも認識していただきたいと。

そういう形であらゆる形の人とプラス、私は大多喜高等学校の生徒代表の声を聞きたいと、これも校長に申し上げてあります。放課後の会議であれば高校の生徒たちも、自分たちが今何を一番困っているかとか、あるいは友達の中で話し合っている中で、例えば一番困っているのは何か、例えば遠いところから通ってくることでもう少し交通が便利になったらもっと大多喜高校の子供たちがふえるとか、そういう具体的な話を高校の実際の子供たちの声を聞いていきたいなということです。

あとは先ほど言いましたように、来年度からやるのは企画財政課長が申し上げましたスタディサプリという、個人個人が画面を見ながら自分のやりたい勉強が個人個人でできる、そういうことについては財政的な支援をしていきたいと。今のところそのようなことを考えています。

○議長（志関武良夫君）　１番根本年生君。

○１番（根本年生君）　力強い答弁をありがとうございました。それで、27年度魅力ある取り組みということで大多喜高校でこういったのを発行していますよね。これ28年度もつくると思うんです。多分もう考えているかもわからない。これが恐らくもう教育課さんで受けると言ったのならばこういった情報も入っているでしょうから、これが何年に、28年に入って何月ごろこれができるのか、まずこれができないと先に行かないんじゃないかと思うんですけれども、ここに書いてあるんですけれども、地域のイベントに積極的に参加、近隣学校との交流活動、進路希望の実現に向けてという３つの大きな柱を書いてあります。これは28年度の何年ごろつくってこれを町民に発信してやっていくのか、それの情報がありましたら教えてください。

○議長（志関武良夫君）　教育課長。

○教育課長（野口　彰君）　今の件につきましては高校のほうに確認したいと思います。

○議長（志関武良夫君）　質疑の途中ですが、ここでしばらく休憩をとります。１時からの再開としますので、その間に昼食をとっていただきたいと思います。

（午後　零時００分）

○議長（志関武良夫君）　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後　１時００分）

○議長（志関武良夫君）　その前に議員の皆さんにちょっと申し上げます。

各所属委員会の中で十分議論されたことについては、この本会議の中ではちょっと遠慮していただいて、進行に支障がないようにしていただきたいというふうに思います。また、そのほかに聞きたいことがあるようでございましたら、各担当のほうに行って聞いていただくということにしていただきたいというふうに思います。ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

それと午前中の根本君の質疑について答弁が保留されているものがありますので、これについて総務課長のほうからご答弁があると思いますのでお願いします。

総務課長。

○総務課長（加曽利英男君）　それでは午前中の根本議員の質問で答弁ができませんでしたものについてお答えしたいと思いますが、まず行政連絡員の報酬の改定時期、直近ということで平成８年４月１日に現在の額になっております。

その改定の根拠ということですけれども、当時の資料を見ますと例えば常勤の特別職、当時の三役ですけれども、それと議会議員の報酬改正、それと一般職の職員の給与改定に伴いましてその率が2.0パーセントということですので、その後議会議員または常勤特別職の金額は上がってはいないと思いますけれども、当時2.0パーセント上げたということでその率で行政連絡員だけでなくてほかの非常勤の特別職についても改定をしております。

以上です。

○議長（志関武良夫君）　続きまして教育課長のほうからご答弁があります。

どうぞ、教育課長。

○教育課長（野口　彰君）　午前中の最後に根本議員さんからご質問のありました大多喜高校を紹介する、ホームページに載っていたものですが、大多喜高校に確認しましたところ５月

中旬までには作成しますということでございました。

○議長（志関武良夫君）　よろしいですか。

（「はい」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　ありがとうございました。

では、ただいまより午前中に引き続きまして質疑を行います。

質疑どうぞ。

11番野中眞弓君。

○１１番（野中眞弓君）　43ページの地域公共交通対策事業の中に地域交通活性化協議会補助金というのがあります。全員協議会の中でマスタープランを作成という説明がありましたけれども、それだけではどういうことかわかりません。説明していただきたいと思います。私も含めた多くの住民は地域公共交通、デマンドタクシー、乗り合いタクシーをやってくれるのかという幻想を抱いておりましたけれども、27年度は高速バスの運行になってしましました。この乗り合いタクシーの件、今の段階でどの程度の位置づけがなされているのか説明してください。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　この地域公共交通の活性化協議会ですけれども、今年度は前にご説明したとおり公共交通網形成計画ということで、地域にとって望ましい公共交通網の姿というものを明らかにするマスタープランでございます。これをことし定めようということで、これに基づいて来年度は再編実施計画を定めようという予定ではおります。これ、マスタープラン、公共交通網形成計画を実現するための実施計画の一つというふうにお考えしていただければと思います。

今回補助金で計上させていただきました583万2,000円、これについては本来であれば国の補助金を充当して実施するべきところで、全額をここに掲げているわけではないんです。国の補助金も非常に厳しいというお話も伺っております。ですから、もし国の補助金が最低でも２割程度でもついていただければということで、そういうことであれば再編実施計画に進みたいというふうには考えております。

それとその中身につきましては、地域公共交通の活性化協議会で定めていただくようなことになろうかと思いますので、最終的にはその予算の範囲内でどのような事業をやっていくかというものを、その活性化協議会の中で審議していただくということになるかと思います。

それと乗り合いタクシーだとかの関係でございます。これについては今現在マスタープラ

ンの原案という中なんですけれども、幾つかある目標を達成するための実施事業として、山間部と交通不便地域における多様な交通システムへの取り組みというものを定めて、その中でデマンド型の乗り合いタクシーやグループタクシー、あるいは地域による交通空白地有償運送などを、地域による交通システムの取り組みの検討ということで位置づけしてございますので、直ちに来年度から実施するかというとこれも事業者とか交通事業者との協議、法定協議会との協議というのは非常に大切なものになってきますので、それらを経た上でどのような取り組みをするかというようなことになろうかと思います。

○議長（志関武良夫君）　ほかにございますか。

11番野中眞弓君。

○１１番（野中眞弓君）　交通網云々ということよりも、今高齢になって車の運転ができない人、あるいはもういつ免許証を返納しようかと悩んでいらっしゃる方ってたくさんいらっしゃいます。本当に喫緊の要望、実現要望だと思います。のんびりしたことは言わないでできるだけ早く、これ交通網ができなくてもできないわけではないと思いますので、できるだけ早い実現を希望します。

○議長（志関武良夫君）　企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　やはり公共交通ということでこの法定協議会を経る必要はあろうかと思っております。一つは高齢者の福祉という問題にもなろうかと思いますので、それらについては外出支援サービスとかそういったもののあり方というものもやはり別の議論としてはあるのではないのかなというふうに考えております。

○議長（志関武良夫君）　ほかにございますか。

（「関連です」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　関連ですか。

11番野中眞弓君。

○１１番（野中眞弓君）　外出支援の中でも考えられるというような答弁でしたけれども、外出支援の担当課長に伺います。この近辺でこの大多喜のようなマンツーマンのタクシーではなくて、もうデマンドタクシーみたいなものを外出支援でやっているところがあるのか、それから外出支援とは関係なくデマンドタクシーを走らせていないところは大多喜以外にあるのか承知してらっしゃいますか。

○議長（志関武良夫君）　健康福祉課長。

○健康福祉課長（永嶋耕一君）　ただいまの質問ですが、私の範囲では管内２市２町の中では、

大多喜だけがこのデマンドというのはやっていないと記憶しております。ただ、それと大多喜みたいにやっている市町村というのはちょっと私のほうは把握していませんので、多分大多喜ぐらいだと記憶しております。

○議長（志関武良夫君）　ほかにございますか。

１番根本年生君。

○１番（根本年生君）　37ページの広報おおたきの関係で、去年たしかホームページ上でアンケート調査を行って今まで多分やったことがないんじゃなかろうかと思っています。画期的なことですね、大変いいことだとは思っています。ただその結果、アンケートやった結果が公表されておりません。もう締め切っているんじゃないかと思います。そのアンケート結果の公表と、あともう一つ、この中で町長への手紙3,700部を年２回発行しています。これはどの程度費用がかかっているのか、これの町長の手紙の効果についてはどのような判断をされているのか。

○議長（志関武良夫君）　総務課長。

○総務課長（加曽利英男君）　まず初めに広報おおたきのアンケートということですけれども、インターネット上でやったということで件数が非常に少なくて、４件ということですので、ですからこれがまたその内容を公表するかどうかは、４件ですとその傾向というのもどうかと思いますので、現在は広く公表するということは考えておりませんが、必要であれば個々のどういうことかというのは、例えばもっと子育ての記事をふやしてほしいとか、福祉関係の記事をふやしてほしいとか、あとレイアウトですね、レイアウトを変えたらというような意見がございました。また必要であれば個々はお渡ししたいと思いますが、いずれにしても４件ということで、余り広く知らせてその傾向を見るというようなことではないかなと思います。

それと、あと町長への手紙ですが、金額にしますと10万9,490円ということで、積算はしております。その効果なんですけれども、大体年間30件から20件の前半ということでありまして、効果といたしましてはいろいろな意見がありますが、建設的なものは残念ながらちょっと少ないのかなということで、あとは例えば道路を修繕してほしいとか近隣でごみを燃やして困るとかそういうものが多い状況でございます。

今後、今までこれは公表はしておりませんでしたけれども、ことしの３月分からその内容を取りまとめて、質問と回答の趣旨が変わらない程度に要約して、また個人情報等に配慮してインターネット上で公表はしたいというふうに考えております。

○議長（志関武良夫君）　１番根本年生君。

○１番（根本年生君）　町長への手紙3,700、年２回ということで町民の意見を反映する大変いいものだと思っております。ただ年々この町長の手紙の件数というのが、さほどふえていないんじゃないかというような気がしているんですけれども、もっと効果を上げるために、この町長の手紙のやり方とか何かいろいろな面で工夫改善をする考えがあるのか、この予算で計上したような従来の方法と同じものなのか、それともすごい工夫してもっと町民の意見が来るような形を考えているのか。

○議長（志関武良夫君）　総務課長。

○総務課長（加曽利英男君）　手元にある資料ですと、平成20年から平成27年までで一番多いときが48件ございました。先ほどちょっと触れましたけれども、このことしの３月からそのいただいた内容について、それがですから、例えば町民の生の声ですので、こういうことを町民の皆さんが考えているというのは町民だけじゃなくて役場の職員も知らない場合が非常に多いので、担当課意外はわからない場合が非常に多いので、そういう生の声を公表といいますかインターネット上ですけれども公表して、できるだけこういうことがあるんだと、こういう内容でもまた手紙出せるというようなことで、そういうきっかけになればというふうに考えております。

○議長（志関武良夫君）　１番根本年生君。

○１番（根本年生君）　ほかの方法で町民の声を聞くような形を考えているのかどうか、町長への手紙、今のところ具体的には何か、いろいろな会合があれば別ですけれども、一般的には町長への手紙だけだと思うんですけれども、そのほかのことも考えているのか。

○議長（志関武良夫君）　総務課長。

○総務課長（加曽利英男君）　そのほかは今現在考えておりませんけれども、ただ町長の考え方として、なるべく関係する団体の役には余りつかないで在庁、常に在庁するように、直接意見があれば町長室にどんどん来てほしいというようなスタンスでやられておりますので、またそういう意見があれば町長にじかにお聞きすることも可能だと思いますので、そういう方法でいろいろ町民の声は取り入れていきたいというふうに考えております。

○議長（志関武良夫君）　ほかにございますか。

１番根本年生君。

○１番（根本年生君）　51ページの選挙の関係です。今度18歳の投票権が与えられることによって、公選法のそのほかの面でもいろいろな面が改正になると思うんです。12月からこれ国

のほうで審議されておりまして、この３月にほぼこれは成立する見込みだと思います。

その内容が共通投票所の開所とか、あと今まで同伴が幼児しか認めていなかったのが、もう18歳未満であれば同伴して投票していいですよとか、あといろいろあると思うんですが、投票率を上げるために何らかの方法を考えないといけないと思っていますけれども、今回の予算ではそういったものが反映されているんでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　総務課長。

○総務課長（加曽利英男君）　間もなく法律が成立するんではないかということで、今回予算にはそういうものが入っておりませんけれども、ただ、予算にはないわけですが、例えば18歳以上の選挙権というのが大きな改正点だと思いますが、そういうものにつきましては、２月から３月にかけて大多喜高校の１年生から３年生まで全員模擬投票というような形でやっていただきまして、これは県選管と市町村の選挙管理委員会でも協力するような形でやらせていただきました。そういうもので非常にＰＲになったのではないかなというふうに考えております。

あと、その改正の中でその共通投票所ですとか、２つ以上の期日前投票所というようなこともあるようですが、ただそれをする場合には二重投票というのはどうしても防止しなくちゃいけませんので必ずオンラインにしなくてはいけない。あとは秘密を守れる投票所といいますか、それを例えば商業施設だとかそういうところにつけた場合、現在そういうところがあるかというようなことがまた一つ大きな支障になろうかなということで、都市部でそういうのを進めているところも新聞報道等ありますので、そういうものも参考にして今後できるようであれば、そういう取り組みも必要ではないかなというふうに考えております。

○議長（志関武良夫君）　ほかにございますか。

11番野中眞弓君。

○１１番（野中眞弓君）　47ページの交通安全対策事務費です。街灯のＬＥＤ化で光熱費が下がってはいます。今まで各地区に配られていた補助金がなくなって光熱費という形で一本化されました。大分電気代安くなるのではないかと思っていたのですけれども、26年度決算の光熱費から比べると３分の１しか安くなっていないんです。

これ料金体系がどうなっているのかというのが１点、それと日常的な維持とか管理とかについては全員協議会の中で地元にお願いするというその辺はわからないわけでもありません。もう１点確認したいことは、壊れてしまったときの修理についてはもちろん町が持つことになりますよね。そのことを確認したいと思います。

○議長（志関武良夫君）　総務課長。

○総務課長（加曽利英男君）　それではお答えしますけれども、26年度はまだ地元に補助金というような形で出しておりましたので電気料そのものは町としては町の防犯灯でということですから余り支出はしておりません。今回全てＬＥＤ化というようなことで、例えば今まで20ワット契約だったのがほとんどですが、今回10ワット契約が1,163基ほどあります。あと20ワット契約というのが140ぐらいあります。またそのほかにそれ以上というのも若干ありますけれども、そういうような形で電気料が非常に、総額でも予算残り246万5,000円ということでかなり抑えられているのではないかなというふうに考えております。

それとあと維持管理ということですけれども、これ10年間のリースをしておりますので当然それが壊れればその中で町といいますか、町のほうが借りておりますので、そのもともとの所有している会社のほうで修繕をしていただくというような形になりますので、地元にご迷惑をかけることはございません。

以上です。

○議長（志関武良夫君）　11番野中眞弓君。

○１１番（野中眞弓君）　10年が終わってからはどうなりますか。

○議長（志関武良夫君）　総務課長。

○総務課長（加曽利英男君）　それはＬＥＤ化するときに内部では検討したんですけれども、多分今その補助金を出した初めが平成15年ぐらいだと思うんです。ですから約10年ちょっと前ですから10年たつと、10年というのは非常に長い年数になりますので、そのときにはまたそれなりの判断をするようになるんではないかなと思いますけれども、ただ今まで地元に負担をかけてなくてその後それを地元でまた地元に返すというようなことは、10年後はどうなるか定かではありません、はっきりとはここでは言えませんけれども、それをそういうふうに逆行することはないんではないかなというふうには考えております。

○議長（志関武良夫君）　ほかにございますか。

（「なし」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　質疑なしと認めます。

ないようですので、次に款３民生費、款４衛生費の質疑を行います。歳入についても質疑を行っていきたいと思います。

質疑どうぞ。

１番根本年生君。

○１番（根本年生君）　77ページのコミュニティプラント管理事業。これ城見ヶ丘団地の共同下水施設のことだと思います。これが、支出が145万円、それでこれに対する収入がたしか308万円ほど収入が上がっていると思います。この差額が実際皆さんは納めているのは308万円、それで支出が145万円というとここに差額が出ちゃうんです。それで町民の方に聞くと当初城見ヶ丘ができたときには戸数も少ないんで、戸数がふえてくれば当然維持管理する費用というのは１人でも10人でも大して変わらないと思いますので、人がふえてくれば安くなるよというようなことを説明を受けたということを何人かの方から聞いております。

それで、ですからこれは人数がふえてくればある程度見直しが必要であると思われます。前回の補正か何かで、たしかこれが100万円ぐらい補正で工事費が、維持管理費が計上されていたと思います。そうすると何かあったときには補正でやるんだということではなくて、当然この300万円は維持費のために最初からここにしか使わないよというような形で修繕費と上げておくべきではないかと、ここで上がっていないと補正でどこに使われるかわからないわけです。

だから納めている方々にしてみると、何か300万円収入あるのに実際にかかったのは145万円じゃないかということになると、ちょっとどうかなという疑問の声が上がってくると思うんですけれども、その辺はどのようにお考えですか。

○議長（志関武良夫君）　建設課長。

○建設課長（末吉昭男君）　この予算書を見ますと議員さんおっしゃるとおりに、歳入は約300万円、歳出のほうが150万円ということで150万円ぐらいの差は出てきているんですけれども、実際には先ほど議員さんおっしゃっておりますように、修繕費のほうが３月でも補正させていただきましたけれども107万円ぐらいの補正はさせていただいています。昨年もやはり修繕、浄化槽の中の壁が壊れましてやはり修繕費が五十何万とかだったですかね、ぐらいの費用はかかっておりまして、最終的に決算時期、決算でいくと歳入と歳出が同額近くになるかなと。とんとんぐらいにはいっちゃうなという感じはしています。

そしてこれはまたコミュニティプラントも平成９年から稼働していますので、さらに今後その辺の費用、修繕費が見込んでいかないときついかなというのは確かにおっしゃるとおりかなと思いますので、その辺は関係課財政のほうと協議させていただいて今後やっていきたいと思います。

○議長（志関武良夫君）　１番根本年生君。

○１番（根本年生君）　できれば、よく去年の前年度の実績とかで上げることもあろうかと思

いますので、できるだけこれを均等を図るようにしておいていただいたほうが、納めているほうからすると非常に理解しやすいのかなという気持ちになりますのでよろしくお願いしたいと思います。

○議長（志関武良夫君）　ほかにございますか。

11番野中眞弓君。

○１１番（野中眞弓君）　63ページの老人ホーム施設措置費、措置事業の中で、老人ホーム入所判定委員報酬というのが計上されております。この入所判定委員会の内容説明と町営住宅の入居判定のときも言ったんですけれども、これ役所内のメンバーで構成された委員にすることってできないのでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　健康福祉課長。

○健康福祉課長（永嶋耕一君）　それでは老人ホーム施設措置事業の中の、老人ホーム入所判定委員の報酬の委員の関係の説明をさせていただきますが、まずこの委員は、65歳以上の者で環境上の理由または経済的な理由で住宅において看護ができない、またはそういう方の養護老人ホームに入所するための判定する委員でございます。その関係で、委員会の委員の構成でございますけれども、医師と老人福祉施設の職員、あと民生委員・児童委員、それと地域包括支援センターの職員並びに保健所の職員ということで、その中から５名以内を選出しております。

今質問がありましたそれが役所の中の委員ということでよろしいんでしょうか。この委員会はここ数年開催しておりません。それというのも事例がここ数年ありませんので、委員自体を、こういうふうに決まってはいるんですけれども、その中の誰々をということではまだ委員を選任しておりませんので、これを役場の職員の中だけとなると、やはりいろいろその判定する方のかかわっている方、医師とかあとその当初の老人ホームとかで、そういう担当の意見とかそういうものを聞かなくちゃいけませんので、役場の職員だけということはちょっと無理かと考えております。

○議長（志関武良夫君）　ほかにございますか。

10番山田久子君。

○１０番（山田久子君）　77ページ、火葬場管理運営事業建物調査業務委託料ということで耐久性の調査のためということで伺ったんですけれども、もし私の記憶が間違っていたら申しわけないんですが、以前アスベストの問題がありましたときに、もしかしたら火葬場にもその可能性があるかもしれないということだったんですけれども、今回そういったような調査

というものもここにかかわってくることが考えられるんでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　環境水道課長。

○環境水道課長（米本和弘君）　来年度実施するその調査につきましては、建物の耐久性の調査を計画しておりまして、アスベスト等のそういった関係の調査は予定をしておりません。あの建物が建設が約30年近くなりますので、そこら辺で今後の改修計画等を立てるに当たって、その耐震等を調査して今後の計画を立てていきたいという目的で調査のほうを進めていきたいと思っております。

○議長（志関武良夫君）　ほかにございますか。

11番野中眞弓君。

○１１番（野中眞弓君）　71ページの健康増進事業で、健康づくり推進協議会が計上されております。この推進協議会の説明をお願いします。

○議長（志関武良夫君）　健康福祉課長。

○健康福祉課長（永嶋耕一君）　それでは健康づくり推進協議会の説明ということですので、この協議会は町民の総合的な健康づくり対策を推進するために、健康増進事業の推進に関すること、母子保健事業に関すること、その他町民の健康づくりの目的達成に必要なことを審議する協議会でございます。協議会の委員は医師会、歯科医師会の代表を２名、関係行政機関の代表を１名、教育機関の代表１名、事業所の代表１名、ボランティアの代表１名、その他町長が必要と認めた者２名ということで、計８名で組織されております。

○議長（志関武良夫君）　よろしいですか。

○１１番（野中眞弓君）　もう少し。今まで開いているとか年何回開いているとか。

○議長（志関武良夫君）　健康福祉課長。

○健康福祉課長（永嶋耕一君）　それで、具体的には各事業の実施状況の報告並びに次年度の実施計画その辺を審議していただいております。これは年１回毎年行っております。

○議長（志関武良夫君）　ほかにございますか。

11番野中眞弓君。

○１１番（野中眞弓君）　健康づくりにとって、いろいろな健診をやってその結果を住民に戻してそれぞれが対策に取り組んでいただくという形になっていると思うんですけれども、本町ではその健診の受診率が横ばいというか、高くないところで伸び悩んでいるという実態があるのではないかと思います。それは普通の国保の人を対象にした健診もそうだし、同時にやっていただいている後期高齢者の受診率も何と10パーセント、後期高齢者は10パーセント

台なんですよね。それをどうやって健診の受診率を高めて、町全体で健康づくりをしていくかということって重要だと思っているんです。

ここに社会保障推進千葉県協議会というところが、毎年行政に国保のこととか介護保険どうなっているのというような、福祉関係の調査を依頼してそれをまとめたものなんですけれども、隣の長南町のそのデータに目がいきました。後期高齢者の受診率がわあんと高くなったんです。それと同時に国保の、関係ないかもしれない、国保の保険料も下がっているし千葉県内の順位も下がっているんです。普通の健康保険の受診率がちょっとわからないんですけれども、後期高齢者の受診というのは大体若い人と一緒に連れていってもらったりするので、国保の健診と何となく比例しているんじゃないかなと勝手に思い込んでいます。

どうやって住民が健康づくり、予防ということに関心を持つことができるのかということが、これからの課題ではないかと思うんです。これ専門家集団が話し合っても何かちょっと見えないと思うんです。今そちらの執行部の席にいらっしゃる方は、その当時はそこに座ってらっしゃらなかったかもしれないですけれども、長野県は保健委員制度というのをつくってあって、各地区から１人、２年か３年の任期で強制的に出してもらって、そこで健診があるとその保健委員さんに引き出して連れていってもらうとか、保健委員さんがお勉強をして何となくアドバイスするとかというのをやっている中で、病気に、疾病率がずっと下がって、国保は多分保険料は全国一、二の安さというのを保っていると思うんです。そういうような委員づくりというものは考えていませんか。28年度の間に検討していくというようなつもりがあったら。

○議長（志関武良夫君）　健康福祉課長。

○健康福祉課長（永嶋耕一君）　ただいまのご質問で保健委員というものを考えているかということなんですが、なかなかこの健診につきましてはうちのほうも努力しておるんですが、受診率につきましては本当に低い中で横ばい、ここ何年かは少しずつはふえてきておるんですけれども、やはり県平均、全国的には低い状態でおります。その関係でこの健康づくり推進協議会の中でもそういう協議もしていますし、また多分国保の協議会のほうでもそういうことも話も出たと記憶しております。ただ、この健康委員とかそういうものについてはまだ考えてはおりません。

○議長（志関武良夫君）　11番野中眞弓君。

○１１番（野中眞弓君）　考えるようになるために、やっぱり先進地の視察とかそういう土づくり、土壌づくりに取り組むという考えもありませんか。

○議長（志関武良夫君）　健康福祉課長。

○健康福祉課長（永嶋耕一君）　そうですね、一応そういう先進地、そういうところもありますので、その辺はうちのほうで調査研究はしていきたいとは思います。

○議長（志関武良夫君）　ほかにございますか。

11番野中眞弓君。

○１１番（野中眞弓君）　79ページの環境センター運営事業ですが、ごみ処理に全体で１億1,800万円が計上されております。環境センターの方たちも大変頑張ってくださって、いつでもあそこがここ数年きれいに片づいていることには敬意を表しております。

ただ、ごみはふえるばかりです。ごみの減量ということをうたっておりますが、具体的に数値目標を設定して頑張るという考えはありませんか。それともう一つ、生ごみの水切り機、この前課長が全員協議会で見せてくださいましたけれども、それの導入方法というのはどんなふうに考えてらっしゃるでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　環境水道課長。

○環境水道課長（米本和弘君）　１点目の数値目標を設定してやられたらいいのではないかということですけれども、このごみの減量の数値目標につきましては、総合計画の中で一般廃棄物の排出量を現状の数値から５年後に減らしていくと、具体的な数値は挙げてございます。具体的に言いますと、現状3,243トンから2,791トン、452トンを減らしていこうという目標は設定してあります。

それから生ごみの水切り機の導入方法ということですけれども、この水切り機につきましては、来年度で試験的に実施してその効果を測定する目的で予算のほうに計上させていただいてございますが、やり方につきましては現状の収集経路等を考慮しまして、今現在考えているその方法といたしましては、老川地区全域と西畑地区の一部それから総元の一部と、これは１台の収集車が通るルートになっているんですが、その収集車を秋ごろに、やる前の量と水切り機を配布した後のその量を測定した中で、どれぐらいの効果が出てくるのかというようなことを検討して、今後に生かしていきたいというような考え方で現在おります。

以上です。

○議長（志関武良夫君）　11番野中眞弓君。

○１１番（野中眞弓君）　生ごみの実験するのに老川、西畑、総元の一部ということですけれども、ここは生ごみがあんまりもしかしたら出ない地区ではないかと思うんです。できれば生ごみって畑に埋めたりして土壌改良材もどきに使いたいという意向って案外とあると思う

んです。畑とかそういうところがない町場でやるといったほうが、効果は見えるような気がするんですけれどもどうなんでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　環境水道課長。

○環境水道課長（米本和弘君）　今のご意見も今後の参考にさせていただきたいと思いますけれども、ただ先ほども申しましたとおり、車がやっぱり通るルートでないとはっきりしたその差がわからないので、この町場をやれればいいんですけれども町場というのはいろいろな車が入ってきて１台が決まった水量とかというのができないというのがあります。

それと一度計量するに当たって、環境センターのほうで計量してからいすみのクリーンセンターのほうに持っていこうという、そういう考え方をしておりますので、どうしても向こうのほうのごみを集めてそれから環境センターに寄っていすみのクリーンセンターに持っていくというそういうやり方をちょっと考えておりまして、町場というのはちょっと今のところはまだ無理かなと、今後検討もしたいと思います。

以上です。

○議長（志関武良夫君）　ほかにございますか。

１番根本年生君。

○１番（根本年生君）　61ページの外出支援サービス委託料ということで、これ前々から大体これ使うとなると多分旧大多喜地区に、役場とか買い物とか病院なんかもこの辺が多いですから来ると思うんですけれども、近場の人は本当に低料金で使えるんだけれども、遠い人は１回来ると往復使うとかなりの金額を使ってしまって不公平じゃなかろうかという声が上がっていたと思うんですけれども、それは今回の予算の中である程度、１人の人が使うに当たってはある程度近い金額で使えるような改定の見直しが行われるべきだと思いますが、今回はそれは行われているんでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　健康福祉課長。

○健康福祉課長（永嶋耕一君）　ただいまのご質問ですが、今年度の予算にはその辺は含まれておりません。それというものも、地域公共交通活性化協議会のほうで今交通体系とかその辺のを協議しているところでありますので、その結果、状況とかその後を見きわめてこの辺についても改良が必要であればする、そういう形で今検討しているところでございます。

○議長（志関武良夫君）　１番根本年生君。

○１番（根本年生君）　じゃあ今の件は公共交通の、今は何かやっていますよね、その中で考える方向でいるということでよろしいですね。

○議長（志関武良夫君）　健康福祉課長。

○健康福祉課長（永嶋耕一君）　それを含めていろいろなどういうものがあるか、先ほど言ったように今の外出支援サービスをこのまま続けるのか、それとも今まで出ているようにデマンド交通とかそういうのを取り入れるのか、その辺も今全てに対して今協議しているところですので、そういうことでございます。

○議長（志関武良夫君）　１番根本年生君。

○１番（根本年生君）　それで、そのさっき言った地域交通活性化協議会のときにこの外出支援サービスを使うほうが一般の公共交通を使うより格安なもんですから、こちらを使うというようなことがあったような気がするんですけれども、普通じゃ、いすみ鉄道を使うとか、老川西畑地区のバスを利用していすみ鉄道に乗ってこっちに来るより、こちらのほうが安くなっちゃうんで、その辺のバランスがどうかということもあったと思うんですけれども、それも含めて検討するということでいいですか。

○議長（志関武良夫君）　健康福祉課長。

○健康福祉課長（永嶋耕一君）　ただいまの質問ですけれど、これは外出支援サービスを使った場合、例えば老川の方が大多喜に来る場合、逆に公共交通を使ったほうが安くなります。ただそれについてはなぜこちらのタクシーを使うというのは、やはり利便性の問題と思います。ですから、そういうところもやはり含めて今その協議会のほうでは協議をしているところでございます。

○議長（志関武良夫君）　よろしいですか。

ほかにございますか。

（「なし」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　ないようですので、質疑を次に進めたいと思います。

次に款５農林水産業費、款６商工費、款７土木費の質疑を行います。

どうぞ。

１番根本年生君。

○１番（根本年生君）　91ページの下のほうですね、観光費の公園等管理委託料86万円、これ以前答弁の中で、これ夷隅川の今淡水組合のほうで管理しているあそこの施設の管理委託料だよということで説明があったと思います。これについては前回のときに、実際何をやっているのか、草刈りを年何回やっているのかとか、実態がどうかということではっきりした答弁いただけなくて、その後調査するということになっていたと思います。調査した結果有効

であるので86万円ここに計上したと思うんですけれども、実際この内容はどのようなことを頼んで、草刈りだとすれば、じゃあ年何回草刈りをやるのか、年何回あそこの土をさらったりなんかするのか、その業務内容をはっきり教えていただきたいと思います。

○議長（志関武良夫君）　産業振興課長。

○産業振興課長（野村一夫君）　公園の管理の草刈り事業の86万円ですけれども、草刈りが年２回、あと土砂の撤去が年３回、あと飛び石のところにごみがつかえたりするんですけれども、それをつかえたときに随時撤去するということです。

以上です。

○議長（志関武良夫君）　１番根本年生君。

○１番（根本年生君）　それは先方を疑って申しわけないんですけれども、これ着実にこれだけやっていると、それで土砂の撤去についてもかなりあそこたまっていますよね、駐車場のところとかかなりたまっていると思うんですけれども、それをやるとするとこの金額ではとてもできないような気がするんですけれども。

○議長（志関武良夫君）　産業振興課長。

○産業振興課長（野村一夫君）　これ草刈り、土砂撤去、ごみ除去はやっていますけれども、この間現地のほうを歩いてみて建設課長とも歩いたんですけれども、最近というか森林が機能していないということで、大雨が降るとすぐ上まで来ちゃってすぐ堆積しちゃうと。それで夏場になるとやっぱり水が少なくて温度が上がって魚も死んでしまうと、例えばコイだったら、大きいコイはいるけれども小さいのはないというような状況なんですけれども、土砂の撤去については現状も、えぐれているようなところが、人が座るようなそういうところがどうしてもたまっちゃうんですけれども、一応土木事務所とも相談して、その撤去をしてくれるかどうかわからないんですけれども、うちのほうは公園の管理のほうで掃除したりしていますけれども、その土木事務所ともまた相談してみたいと思います。

○議長（志関武良夫君）　１番根本年生君。

○１番（根本年生君）　この施設できた当初はかなりの集客もあってきれいですばらしいところができたなと思っていたんですけれども、度重なる大雨とかで現在はほとんど使う人もいないような状況ではなかろうかと思います。せっかく費用をかけてやっているわけですから、今後これやっぱり皆さんが使い勝手がいいように使えるような施設にすべきだと思いますけれども、それにはこの86万円じゃとても足りないと思うんで、その辺の将来的なことも含めてどうですか。

○議長（志関武良夫君）　産業振興課長。

○産業振興課長（野村一夫君）　せっかくお金を十分かけてつくっていますのでなるべく使えるようにはしたいと思うんですけれども、先ほども言った、魚がもういない、放流してもすぐ死んでしまうんで放流量もだんだん減ってきているという、そういう自然的な条件もありますんで、なるべくみんなが使えるような、当初はバーベキューしたりいろいろやっていましたけれども、もう本当に魚がいない状況で放流しても死んでしまうというような状況も考えながら検討したいと思います。

○議長（志関武良夫君）　よろしいですか。

（「はい」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　ほかにございますか。

10番山田久子君。

○１０番（山田久子君）　すみません、93ページ上段の工事請負費の観光案内板修繕工事ということで、中野駅前の案内看板というふうに伺ったんですけれども、これはどのような形で直していただく予定になっているんでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　産業振興課長。

○産業振興課長（野村一夫君）　これについては書いてあるものが大分古いということで、もうはげてしまっているようなところもあるので、裏表書いてあるので裏表つくるような形で、最新の情報を入れてつくるような形で考えています。

○議長（志関武良夫君）　10番山田久子君。

○１０番（山田久子君）　看板なんですけれども、最近いろいろと新しく直していただいているところもあるんですけれども、大多喜町は距離が、町の距離が長くて看板を見ただけでそこまでの、要するに例えば目的地までの距離とか時間がちょっとわからないために、どの程度の時間を所有したらいいのかという、ちょっと迷ってしまうような看板もあるのが見受けられております。できましたら距離なり、ここからここまでが何キロぐらい、ここからここまでは何キロぐらいとか、おおよその目安ですね、そういったものも看板の中に盛り込んでいただけるといいのかなというような気がするんですけれどもいかがでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　産業振興課長。

○産業振興課長（野村一夫君）　その距離等は十分入れられるんじゃないかと思います。今後やるときにはかって入れたほうがいいんじゃないかと思います。

○議長（志関武良夫君）　10番山田久子君。

○１０番（山田久子君）　よろしくお願いいたします。

それと91ページのほうの町営駐車場管理業務委託料の関係に入るのかどうかわからないんですが、駅下のセブンイレブンのところの裏というんですか、町の町営駐車場があると思うんですけれども、あの町営駐車場の案内看板がセブンイレブンさんの前についていると思うんですけれども、電柱で町なかを走ってきますと看板が重なってしまっていまして町営駐車場の入り口の看板が全く見えない状況になっているんです。町へ何回か訪れていただいた方は町営駐車場はあそこから入ってこの裏にあるというのはわかると思うんですけれども、訪れたことがない方ですと町営駐車場がどこにあるのかが町なかを走っていただけでは、ちょうど看板が重なってしまうんです。あれもう少しずらすか何かしたほうがちょっと親切かなという気がするんですけれどもできますでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　産業振興課長。

○産業振興課長（野村一夫君）　そういうことであれば、ちょっと現地を確認したいと思います。

○議長（志関武良夫君）　ほかにございますか。

11番野中眞弓君。

○１１番（野中眞弓君）　91ページには商工会、93ページには観光協会への補助金が記載されております。この２つの団体に対する補助金というのは毎年額が変わっています。商工会は24年から順番に言いますと730万円、710万円、760万円、460万円、636万円と。観光協会はできたばっかりかと思いましたけれども、24年から150万円、324万円、469万円、534万円、534万円というふうになっています。

ちなみに社会福祉協議会ですけれども、26年からちょっと読みますと、予算です、途中で補正が入った年もあります。26年は1,972万円、2,481万円、今回が2,052万円となっていますが、こういう外の団体に対しての補助金の基準というか算定基準、そういうものは決められているんでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　産業振興課長。

○産業振興課長（野村一夫君）　商工会の補助金なんですけれども、これ交付要綱に定められておりまして、経営改善普及事業職員設置事業分ということで県の補助金があるんです。その県の補助金を抜いた分でこれ人件費になるんですけれども、その２分の１以内ということで。あと、経営改善普及支援事業分ということで、これは研修とか福利厚生分とかでやっぱりこれも県の補助金の抜いた分の２分の１以内ということになっています。

それとあと商工会ですけれども、観光振興事業とか商工振興事業とかいろいろ事業をやっておりまして、その分の事業の２分の１ということです。

年度別に金額が変わるということなんですけれども、ちょっと平成26年度からしか調べていなかったんですけれども、平成26年から27年にかけて減っているんですけれども、これ地のもの、特産品というか特産品じゃなくて商品開発で補助金やってた部分もあって、それとあと27年はプレミアム商品券、これが国の事業になったんで町の単独の事業としたということで減っています。それで27年から28年にかけてはプレミアム商品券、国の事業がなくなったんで今度町の事業を復活させたのでふえているということです。

それから観光のほうですけれども、これも26年からしか調べていないんですけれども、26年から27年に移るときに、ポスター、紅葉まつりのポスター、それとさくらまつりのポスターを観光協会のほうに頼んだんでその分がふえていまして、あとは人件費分ということで、正職員の人件費と臨時職員の人件費で、26年から27年から28年にかけては変わっていません。それでこれも交付要綱により金額が決めてあります。

以上です。

○議長（志関武良夫君）　ほかにございますか。

10番山田久子君。

○１０番（山田久子君）　91ページ、商い資料館管理運営事業ということで、シルバー人材センターさんにお願いをいたしまして今施設管理をしていただいているということだと思うんですけれども、もう少しここの資料館を町なかの中で活性化に活用できないかと思うんですけれども、例えば指定管理としてここを使っていただく、そういった形で管理をして運営していただくというようなことというのはできないものなんでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　産業振興課長。

○産業振興課長（野村一夫君）　今現在シルバー人材センターに頼んでいるんですけれども、それできないということはないと思うんですけれども、一応あれはああいう施設なんで見学したりする施設なんで、シルバー人材センターの人に頼んでやっているということで、その辺はまた考えてみたいと思います。

○議長（志関武良夫君）　10番山田久子君。

○１０番（山田久子君）　観光客の皆様もふえている中で、町の中のにぎわいを創出していただくのにも大変、場所的にも大変いいところではないかなと思っております。ぜひもう少し何か有効活用していただけるようにご検討いただければと思いますのでよろしくお願いいた

します。

○議長（志関武良夫君）　ほかにございますか。

７番小髙芳一君。

○７番（小髙芳一君）　83ページです。上のほうの農業生産法人等の誘致事業ということで21万計上がありますけれども、これは農業生産法人を誘致しようということでその協力金ということだと思いますけれども、これ農地を使う部分があると思うんですけれども、話は大体どこまで公表されているのかよくわかりませんけれども、ある程度農地を集積するということであれば、人・農地プランの中の農地集積の協力金が農家のほうに入る話だと思うんですけれども予算には載っていません。

この辺の活用をきちんとすれば対象になるんであれば、農家にそれだけまたメリットがあるし、また町でこういうものを誘致しようということであれば、交渉段階で相当有利に、農家と相手の企業での契約の中で有利な関係で交渉ができると思うんですけれども、その辺はどのようになっていますでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　産業振興課長。

○産業振興課長（野村一夫君）　この農業生産法人などの誘致事業の報償費ですけれども、これは現在横山で進めたときの横山とか地元の方に協力してもらって、例えば現場を案内してもらうとか、例えば夜交渉に行ってもらうとかというときの報償費になります。それで先ほど言われた交付金の関係なんですけれども、該当になれば今間に合いますんで、別に補正でも対応はできると思いますんで、該当になればそれは予算はとっていきたいと思います。

○議長（志関武良夫君）　７番小髙芳一君。

○７番（小髙芳一君）　それはぜひお願いしたいのと、例えば農家を貸すことによって、農家にこれだけさらに企業と農家の契約以外に、集積協力金としてさらに上乗せがあるんだよということを前もって調べておけば、農家との企業が交渉するときに有利にといいますか、スムーズにその契約が進むでしょうということを申し上げたんで、その辺も十分に準備をして、町のほうが誘致ということで挙げているわけですから、有利にこういう事業があるということで使ったらどうですかということでちょっと申し上げました。

○議長（志関武良夫君）　よろしいですか。

ほかにございますか。

10番山田久子君。

○１０番（山田久子君）　83ページの基幹農道整備事業なんですけれども、ここに基幹農道で

せんだって崩落がありました。早急な対応をしていただきましておかげさまで早目に通行できることができました。ありがとうございました。

それでこの基幹農道なんですけれども、町の地域防災計画の中に、交通緊急時の輸送の交通規制の対象となる輸送道路の中に、一般農道ということで含まれているのかなというふうに思っているんですけれども、せんだっての崩落のところの対応はしていただいたんですが、その後もいつ崩れてもおかしくないような状況になっております。今後何かあったときにそういった部分で緊急輸送に大きく活用される道であるということになりますと、そのままでもいいのかどうかというところがちょっと気になっているんですけれども、町はどのように思いますでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　産業振興課長。

○産業振興課長（野村一夫君）　この間、崩落しまして一応片づけたんですけれども、まだ上のほうに大きな石があるということで、それは現地、そばに行きまして危ないということで業者依頼して石の撤去はいたしました。

以上です。

○議長（志関武良夫君）　よろしいですか。

10番山田久子君。

○１０番（山田久子君）　そうしますと、あそこの道は結構そういった部分では、ほかのところよりも崩落をして通行どめになる可能性が大きいような気がするんですけれども、とりたてて何かの対策をするとか、そういった考え方というのはお持ちになっていないということなんでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　産業振興課長。

○産業振興課長（野村一夫君）　その中でも、この間崩落したところは特に危険でうちのほうも看板をやってあるんですけれども、そこはすぐにどうのこうのというわけではないんですけれども、定期的に見回って必要であれば何か施さなくてはいけないなとも考えております。

以上です。

○議長（志関武良夫君）　よろしいですか。

ほかにございますか。

１番根本年生君。

○１番（根本年生君）　去年のページで言うと77ページで、ことしで言うと80ページだと思うんですけれども、去年は都市農村交流事業ということで189万計上してあって、この事業必

要だからやるんだよということで計上しています。去年は委託してやるんだけれどもちょっと委託先とうまく調整が図れなくてできなかったと。

その中でこれ去年は大変重要な事業、私も大変重要な事業だと思っていますけれども、去年やろうとしてできなくてことしはもうまるっきり予算上からもその項目も抜けてしまっている。定住化に向けて移住者懇談会等もこれから、総合計画か戦略のほうにも載っていましたけれども、やっていくんだという中で、都市交流事業がないとなかなか移住者懇談会をやろうとしても人が集まってこないんじゃなかろうかと思っています。

別に委託する必要もないんで、役場の職員でできるところはやるし、周りでもこういった交流事業を個人的にやっている方々もたくさんいらっしゃると思うんです。やっぱりそういったところと町が協力できるような体制、それには多少広告とかチラシとか何らかの予算立てをしていかないと、役場の職員の方がボランティアで何もかもやるということでもいいのかもわからないけれども、やっぱり役場としてそういったところを応援していくという体制が必要じゃないかと思うんですけれどもいかがでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　産業振興課長。

○産業振興課長（野村一夫君）　都市と農村の交流というか都会の人が農村を理解してもらうというのは大変大事なことだと思っていますし、また移住定住につながるんじゃないかと思っています。それで24年から３年間委託してやってもらってたんですけれども、ことしは予算は、交流事業は上げていないんですけれども、産業振興課とすれば農業とか林業関係で、そういうところで職員がお手伝いができるのであればそういうのは考えていきたいと思います。

以上です。

○議長（志関武良夫君）　１番根本年生君。

○１番（根本年生君）　役場の施策を行うに当たって必ず予算がついてくるものだと思っております。予算を計上していないということは、重要度が低い、やってもやらなくてもいいということになると思うんです。やはり優先順位をつけて予算をつけていると思います。予算づけしていないということは、都市交流事業は大多喜町にとってはさほど重要ではないんだというふうに見られたと思うんです。ここで何とか行政が、行政として、個人としてではなくて、行政としてこの交流事業に携わっていくんだという姿勢を見せるべきだと思いますけれどもいかがでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　産業振興課長。

○産業振興課長（野村一夫君）　先ほど申したんですけれども、やはり都市と農村の交流というのは大事なんです。それは大事なのはわかっていますけれども予算は計上しませんでした。それで、だからできる範囲で応援できるところはしていきたいというふうに思います。

○議長（志関武良夫君）　１番根本年生君。

○１番（根本年生君）　じゃあ、本当は予算を計上してこういうことをやるんだということを明確にして行ってもらえればベストだと思いますけれども、じゃあできるものはやるという答弁でしたけれども、できるものというのは具体的にどのようなもの、それで効果が上がるものなのか。

○議長（志関武良夫君）　産業振興課長。

○産業振興課長（野村一夫君）　できるものというか、産業振興課のほうでこういう事業をやるとかというのはことしはないんですけれども、ＮＰＯ法人が平成24年から３年間やってきた中で、例えば体験、田植えの体験とか林業の体験とか、そういうものは都市と農村、都会の人が農村を理解する上では大事なことだと思いますんで、そういうことの中でお手伝いできることがあればしていきたいというふうに考えています。

○議長（志関武良夫君）　ほかにございますか。

11番野中眞弓君。

○１１番（野中眞弓君）　99ページの町道改良事業ですが、ことし宇野辺当月川線の改良が行われるということです。当初この宇野辺当月川線、私が通りかかったときにはトンネルから会所のほうへ行く県道まで測量が入っていたのではないかという記憶があります。実際今度去年あたりでしたでしょうか、この線はトンネルを、宇野辺からいえばトンネルの手前のその急な細い部分だけになったということを聞いたと思います。そうすると実際工事をするところは測量した中のどのくらいに当たるのか。測量費のどのくらいが無駄になったのか説明してください。

○議長（志関武良夫君）　建設課長。

○建設課長（末吉昭男君）　宇野辺当月川の関係ですけれども測量は粟又側から宇野辺のトンネルのところまで、約1,600メートルございます。それで今回、今お話にありました狭小部分ですね、狭い部分に工事入るわけですけれどもそれが400メートルございます。そうしますと全体の４分の１という形になるんですけれども、その手前を全くやらないということではなくて、その買収とかそういうのは一応予定はしていないんですけれども、現道の補修を要するところ、例えばＵ字溝ですとか、路肩の補修ですとか通常の補修の範囲では一応補修

はしていく予定でいます。改良でやるのはその４分の１の400メートルでございます。

金額的にでございますけれども、そのざっくりといいますか、全体の測量費が全部無駄になったということではなくて、それはまた測量したものについてはまた後々それをまた改良しなくてはいけないという話になれば、またそれは使えるということでご判断はいただきたいとは思いますけれども、24年に路線測量を756万円、あと道路詳細設計で1,407万円、擁壁の詳細設計で924万円、測量費と設計で24年度に支出してございます。25年度に用地測量で964万6,000円でございます。測量と設計でただいまの額でございます。

それで、だからどのぐらい無駄になったかというと、その辺はちょっと幾らということ等ちょっと判断できませんけれども、これからやっていく上ではまた活用はできるものと考えております。

○議長（志関武良夫君）　ほかにございますか。

11番野中眞弓君。

○１１番（野中眞弓君）　かなりのお金が、3,500万円くらいのお金が工事に入る前に使われているわけです。庶民の感覚から言うと、やっぱり何でこんなことになったのが解せないですけれども、住民からこういう要望がありましたからやりますと言って、それを全部うのみにして吸い上げるわけにはいかないと思うんです。役場の方だったらあそこが限界集落に近い状況で、今通っているだけでもちょっと待機場所があれば十分に車の通行量なんか考えれば使える、別に、初め説明があったときには５メートル幅の道路にするんだ、５メートルないところはもう切り立ったところでこれ積み上げたら大変なお金になると思っておりました。やっぱり大きなお金がかかるものについては本当に計画段階から精査をしていただきたい。

もう一つは、小土呂増田線の小土呂からこちらのほうも、議会に提出されたときには子供の通学路として歩道が欲しいということでしたのでやりますということでした。でもそれから間もなく工事が始まって学校がなくなることになりました。町全体のやっぱり計画の中でばらばらだと思うんです。住民の方たちはほとんどあそこを徒歩で通るのは見ません。

ないよりあったほうがましかというと、今本当に少子高齢化抱えていて、町はお金をかけなきゃいけない課がたくさんある。先ほどほかの方からも出ましたけれども外出支援サービスの件だって何とかしてくれと。そうするとお金がありません、必ず言いますけれども、こういうところに使うお金はあっても、住民のそういう切実な目に見えないソフト面の事業に使うお金がないというのはおかしいなと、心の芯の芯から憤りを覚えますけれども何でこういうことになったのか、再発防止を防ぐにはどうしたらいいのか、どのように考えているか

伺いたいと思います。

○議長（志関武良夫君）　町長。

○町長（飯島勝美君）　まず宇野辺当月川線ですけれども、これはただその路線だけの測量ではなくて、それはいわゆる川畑から平沢を抜けてそして田代に抜けて、田代からいわゆるその宇野辺を抜けるこの最初の計画なんです。どうしても当月川線のあのいわゆる狭いところ、非常に急峻なところをやるには莫大なお金がかかる。そういうことで今のようにいわゆるその集落、限界集落ということを考えたときに、それでは今の集落の中でとにかく通行できるような道路を直したらいいのではないかということで、急峻な莫大なお金のかかるところは計画として中止をしたところでございます。ですからその当初はいわゆる川畑からずっと一本で抜く計画の中でやっている工事であります。

そういうところの中で確かに無駄があるかもしれませんけれども、ただ全体の中では大きな工事の中でやってきたところでございます。その計画変更の中でしているんです。

もう一つは今言った上瀑の道路につきましても、確かに子供さんの危険があるから歩道ということで学校は統合したということになりますが、決して無駄ではなくて、やはりあそこの道路ではもう既に死亡事故が起きているわけですね、車にはねられて。ですから、それは必ず無駄ということではなくて、ただできるだけ私どももそういうことのないように精査はしますが、ただ最初に上げた計画を全部全て進めるんじゃなくて、段階的にこれは必要でなくなれば、やはり中止するということも必要であると思っています。

ですから、そういう全体計画の中で進めたものを途中から減らした中で、確かに無駄な工事があるかもしれませんが、ただ全体の中ではお金を節約したということになるんだと思います。

○議長（志関武良夫君）　11番野中眞弓君。

○１１番（野中眞弓君）　私の記憶力にも自信がありませんけれども、田代から上ってきて粟又のほうの道路に抜けるという話は聞きましたけれども、それは田代側のほうはやらないというのはかなり前から聞いたような記憶があって、もうこちらを、どう言えばいいんだろう、田代側をやらないと決めた後で測量は始まったと思うんですけれども、そういうことを考えると、本当に計画性に欠けているんじゃないかと思うんです。

捨てるほどたくさんのお金があるのなら、いつのことになるかわからないけれどもはかっておこうという、それはわからないわけではありませんけれども、これ自分のお金だったらそういう仕事は絶対にしないというふうに私は思います。公のお金を使う大事さというのが

何か薄らいでいるのではないかというふうに、特に土木関係ではそんなふうに感じることがままあります。何としても再発は避けていただきたいと思います。

○議長（志関武良夫君）　野中さん、先ほど小土呂から下大多喜間の道路要らないような発言あったけれども、あれは今から５年前はまだ学校が開校していたわけですから、子供さんたちのためにあれは私のほうから言って、あそこへ歩道をつくってもらうように言ったんですよ。そんなこと今になってそんなこと言ったってだめだよ、そんなのは。

はい、次。

８番渡邉泰宣君。

○８番（渡邉泰宣君）　すみません、休憩近くなってきているんですけれども。

87ページのこれに関することだと思うんですが、森林整備事業なんですが、今田代とか弓木とか平沢も一部始めるようになっています。この前一般質問でちょっとお話ししましたが、やはり全伐でやる事業というのが町の補助が必要な事業なんですが、この辺まだ考えていないというようなお話がありましたけれども、やはり今植えてある森林もそうですが、雑木というかそういう山、管理していない山もそういう関係で整備すればやはりいろいろな災害とかそういうものも少しでも防げるんではないかと思いますので、その辺を今後考えていただけたらと思うんですがどうでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　産業振興課長。

○産業振興課長（野村一夫君）　今山にお金をかけるというのはなかなか大変だと思うんです。それで例えば植林する、植林した場合のその間伐とかは個人負担なしでやっていますけれども、例えば植林した場合の応分の負担というのはやっぱり地主さんは必要ではないかと考えます。

○議長（志関武良夫君）　８番渡邉泰宣君。

○８番（渡邉泰宣君）　町の負担が10パーセントでやっているし、あるいはまた個人であるいはその負担を考えないこともないような人もいるような話も聞きましたけれども、その辺でできるだけ災害を防ぐような事業と思いますので、そのまま放置しておけば大木になれば例えばこの前の、二、三年前ですか、大雪では倒れる可能性が十分にあるんです。そういうものを防ぐために、やはりそういう事業も必要ではないかと思いますのでどうでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　産業振興課長。

○産業振興課長（野村一夫君）　森林関係の事業も国庫補助事業等もいっぱいありますんで、また精査して調べてみたいと思います。

○議長（志関武良夫君）　ほかにございますか。

（「なし」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　ないようですので次に移りますが、その前にここで10分休憩をとります。２時30分からの開会とします。

（午後　２時２１分）

○議長（志関武良夫君）　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後　２時３１分）

○議長（志関武良夫君）　次に款８消防費、款９教育費、款10災害復旧費、款11公債費、款12予備費の質疑を行います。

はい、質疑どうぞ。

１番根本年生君。

○１番（根本年生君）　111ページの外部サーバー使用料というところですね。中学校のホームページがおかげを持ちまして、しばらく休止していたんですけれども、やっと立ち上がりまして、立ち上がったと同時にすばらしい内容で毎日のように中学校の出来事が更新されていまして、大変うれしいなと思います。

ただ、ちょっと学校のほうに聞きますとこれについて、どうしても人材的なものがあると、たまたま担当する方が教頭先生とか教務主任の方とかがやるのかなと思いますけれども、こういうことに詳しい方があればできるんだけれども、そういったものに詳しくないと、こういったことがなかなか難しいというようなことも聞いています。

それとあと、セキュリティーの関係を随分心配なさっていましたので、これのセキュリティーの関係とか人材の問題とか、こういったことを何とか解決する方法を、安全面を考慮した形でやっていかないといけないと思いますけれども、その辺はどのようになっていますかね。

○議長（志関武良夫君）　教育課長。

○教育課長（野口　彰君）　ただいまのご質問にありましたパソコンのセキュリティーに関しては、資料の中のパソコン資料に含まれております。

それから、ホームページにつきましては、議員さんおっしゃられたとおり、外部サーバー使用料の中でホームページ掲載用サーバー使用料ということで、中に含まれております。

で、なかなか先生方、難しいという話でございますけれども、学校内で研修を行っているということでございますので、その中で対応できればなと思っております。

○議長（志関武良夫君）　１番根本年生君。

○１番（根本年生君）　これは平常的に充実させていく必要があると思いますけれども、その辺の考慮は予算内で継続的に持続的にやっていくような措置はされているんでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　教育課長。

○教育課長（野口　彰君）　ホームページの充実ということでございますけれども、予算には特に措置はされておりません。

○議長（志関武良夫君）　１番根本年生君。

○１番（根本年生君）　あと一つの考え方として、これ、各学校でやるのが基本的なあれなんでしょうけれども、人材的な面とかセキュリティーの面とか考えて、どこか町の部署、教育課がなるか、総務課がなるかわからないけれども、どこかで一元化で管理してこういったものを管理、運営していくという方法は考えられないんでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　町長。

○町長（飯島勝美君）　基本的には、学校でやっていただくことで、いろんなニュースを一々聞いて回るわけにはいきませんので、学校側がやるのが基本でございますので、ですから、それぞれの学校でやっていただくということ。

それから、セキュリティー等につきましては、これは防衛省でも入られてしまいますので、これはやっても、また優秀なやつが出ますので、最低限やれることはやっていくということで、基本的なニュースの発信はやはり学校で出すというのが基本だと思います。

○議長（志関武良夫君）　よろしいですか。

（「はい」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　ほかにございますか。

11番野中眞弓君。

○１１番（野中眞弓君）　117ページの中学校教育振興事業ですけれども、要保護・準要保護生徒補助金です。何度か一般質問でもやったんですが、小学生は全く新規の方が４月に今の段階だと応募してくるということが考えられますが、中学生の場合は、今だったら小学校から継続して受けるという状況の生徒さんにとっては、入学金を入学前に、制服とか何か、かばんとか、いろいろたくさんのお金がかかりますので、入学金として支給するのは可能ではないかと思うんですけれども、どうでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　教育課長。

○教育課長（野口　彰君）　就学援助の前倒しにつきましては、やはり、認定要件が収入が関係しますので、答弁が繰り返しになって申しわけないんですけれども、やはりいろんな職業の方がおりまして、ですから収入がはっきりするのが翌年度４月以降になってしまいますので、仮に前倒しした場合にやはり返還という、もし該当しない場合には返還というようなことになってしまいますので、これはまた迷惑おかけするような形になりますので、前倒しというのは考えていないところでございます。

○議長（志関武良夫君）　11番野中眞弓君。

○１１番（野中眞弓君）　何で中学校と言ったかというと、もう多分中学校で前もって欲しいという人は６年生、少なくとも６年生のときには受けている人であろうと考えられるからです。その人たちは、収入を厳密にチェックされるということは承知しているだろう。もしも甘かったら返さなきゃいけないということは承知するだろう。ですから、中学生の場合だったら、３月中に出してくれたら、すぐに入学準備金を支給するということができるんじゃないか。

今、全国的にそういうふうに、小学校は無理でも中学生の場合の要保護・準要保護の入学金の前倒し支給というのは出ているという話を聞いています。千葉県がどうかというのは、それはわかりませんけれども、住民のためになることだったら前倒しで、特別に予算をつけろと言っているわけではありません。手続上の問題だけなわけですから、ぜひ、やっていただきたいと思います。

○議長（志関武良夫君）　教育課長。

○教育課長（野口　彰君）　やはり、収入が関係しますので、以前にもあったんですけれども、これは世帯の全員の収入を把握するということで、調べてみましたら収入が多かったということもありまして、ですから、確実なところでやったほうが本人にも迷惑がかからないと思いますので、前倒しというのは考えていないところでございます。

○議長（志関武良夫君）　ほかにございますか。

11番野中眞弓君。

○１１番（野中眞弓君）　款から外れると思います。128ページに給与費明細書があります。特別職がことしは168人も大幅にふえているんですけれども、これはどういうことを反映しているんでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　総務課長。

○総務課長（加曽利英男君）　お答えします。

給与費明細書、これは非常勤特別職の人数なんですけれども、今回、参議院議員選挙、千葉県知事選挙がございます。町議会議員選挙もございますが、参議院議員選挙と千葉県知事選挙、期日前投票期間が16日というふうに非常に長い期間がありますので、その間、投票管理者、投票立会人、最低３人の方が16日間は出ると。で、投票日当日、７投票所がありますので、そこの立会人と投票管理者、さらに開票立会人、開票管理者、そういう方が非常にかかりますので、それで、その延べ人数ということで計上させていただいておりますので、非常に多くなっております。

以上です。

○議長（志関武良夫君）　ほかにございますか。

９番吉野僖一君。

○９番（吉野僖一君）　初めにちょっとお断りしておきたいんですが、これ予算書にないんで、本当は質問しちゃいけないのかもしれないんですけれども、たまたま西畑小学校のプールの更衣室、老川小と統合するときもＰＴＡで要望を出してあって、私はとっくにできていると思ったんですけれども、この間、ＰＴＡの人から言われまして、「吉野さん、更衣室がまだ、できていないんだけど」ということなので、教育長さん、町長さんもいますし、プール、ＢＧを使うんであればそれでいいのかもしれないけれども、既存のプールを使うんであれば、やはり約束事はやっぱりちゃんと守ってくれないといけない。

自分がとっくにできてるつもりが、ＰＴＡの方に「吉野さん、まだ更衣室ができていないんだけど」と言われちゃって、それも中学校に入る人のアンケート、説明会というときに父兄がみえまして、それ言われたんで、またそれできょうはこれは載っていないから、課長には言ってあるんだけれども、今後だから、じゃあＢＧのプールを使うか既存の学校の一緒のプールを使うか、水道料とか維持管理もかかるし、だったらＢＧへ来たほうがいいんじゃないかと、もしあれだったら現場の学校の先生とＰＴＡのほうの話し合いですけれども、どっちにするか、その辺も、ちょっとこれ予算に関係ないんだけれども、一応そういう約束事があったということを言われたんで、今ちょっと発言を求めました。そういうことで、善処してください。現場の声を聞いてですね。お願いします。

○議長（志関武良夫君）　教育長。

○教育長（石井信代君）　ただいまのことですけれども、西畑小学校と老川小学校が統合するときに、統合するに当たって要望ということでいただいているんです。それで、切れている

わけではないんです。当初、あそこに私の記憶では2,000万円かけて更衣室ということが出てきたんです。で、最初にちょっと計画したんです。

ところが、あそこのプールが議員さんもおっしゃるように、もうかなり老朽化していて、いつまで使えるかわからないと。で、そこの更衣室に、2,000万円もの更衣室が必要かどうかと考えたときに、先ほども予算の無駄ということを考えて、今、子供の数もこれからどんどんふえていく状況ではありませんので、十分その約束事は承知しているんですけれども、今の西小学校のプールの更衣室として、それだけのお金を、金額をかける必要があるかどうか、あるいは、空き教室もありますので、その辺をうまく改築するような形で更衣室として使えれば、それは無駄なお金を使わないで済むということで、今、学校側と協議を進めておりますので、ご理解いただきたいと思います。

○議長（志関武良夫君）　９番吉野僖一君。

○９番（吉野僖一君）　じゃ、よろしくお願いします。

○議長（志関武良夫君）　ほかにございますか。

11番野中眞弓君。

○１１番（野中眞弓君）　125ページ、学校給食センター管理運営事業の中に、賃金1,003万8,000円の予算が計上されております。で、臨時職員の賃金ですが、この同一労働の正職員と臨時職員が携わっている職場の賃金格差というのは、どのくらいあるんでしょうか。考えられるのは、給食センターの調理員、保育所の保育士、特老の調理員、特老の介護士あたりが同じ職場で同じ仕事をしているんじゃないかと思いますが、ざっとでいいですので、どのくらいの格差があるのか、教えてください。

○議長（志関武良夫君）　総務課長。

○総務課長（加曽利英男君）　それでは、いろいろまたがりますので、総務課のほうからお答えしますが、まず、一番正職員と近いといいますか、まず特老の介護士が正職員100に対して約46パーセント、半分ぐらいということでよろしいでしょうか。これは、実際今いる職員で算出をしていますので、それがかわるとまた若干変わりますが、今現在約、特老の介護士は臨時職員は正職員の46パーセント、約半分ぐらいということで、あと、一番差があるといいますか、そこが給食センターの調理員、これが臨時職員が正職員に対して29パーセントぐらい、３分の１ぐらいの賃金の差になっております。あと、保育士ですね、保育士が、正職員の約44パーセントぐらいでございます。

以上です。

○議長（志関武良夫君）　ほかにございますか。

11番野中眞弓君。

○１１番（野中眞弓君）　今、非正規雇用が世間では大変問題になっております。で、この一気に全部正職員というのは今の状況では無理だという、それはわかりますけれども、できるだけ改善する方向で、28年度、取り組むという考えはありませんか。

○議長（志関武良夫君）　総務課長。

○総務課長（加曽利英男君）　新年度予算のたびに指摘をされる、ご質問あることだと思いますけれども、今年度は最低賃金が変わったこともありますので、新年度、平成28年度は例えば一般の事務職で6,400円から6,600円に200円上げさせていただいております。あと、例えば特別支援の……。

（「声が小さくて聞こえない」の声あり）

○総務課長（加曽利英男君）　はい。特別支援教育の支援員が850円から860円、これ時間ですけれども、10円を上げさせていただいております。

それで、賃金はそれは高ければ、もちろん高いほうが臨時職員の方はいいわけですけれども、法律で定められた最低賃金ですとかと、社会一般の相場といいますか、標準的なもの、そういうものを勘案して定めさせていただいておりますので、それは高ければ高いほうがいいには決まっておりますけれども、ただ、それを支出するほうとしますと、予算的な裏づけも必要になりますので、新年度は今申し上げました上昇率程度でいきたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（志関武良夫君）　いいですか。

11番野中眞弓君。

○１１番（野中眞弓君）　最低賃金の上昇に比例して、本町でも時間給を多少上げるということですが、近隣では臨時職員に対してボーナスということでその差を少しは埋める努力をしているという話を聞いております。本町では交通費、それから有給休暇はありますけれども、やはり、いただいた資料によりましても１年間正職員と同じように働いても、資格があって働いても200万円、年収いかないというワーキングプアの世界です。で、法律を守らなきゃいけない役所のやることでは、やっぱりないなと思います。で、28年度はせめてボーナスを支給するという努力をする考えはありませんか。

○議長（志関武良夫君）　町長。

○町長（飯島勝美君）　まず、臨時雇用という中で、やはりボーナスというのは余り妥当ではないのかなと思っています。本来、臨時なんで本当は長くずっと続けて雇用するというのは、本当は元来の姿ではないんですが、実際そういうものが慣行として残っちゃってますが、今、今年度は、今、臨時職員を町が全体的に募集して、毎年応募した中からやはりそれを採用するということで、今は臨時職員をいわゆる公募しているんですね。

登録してもらって、登録していただいた方の中からやっぱりこれからやっていくということで、臨時が正職のような形でずっといく形は余り芳しくないだろうと、ということで、そういったことも今含めてやっていますが、大多喜町が定員管理というものがございます。まだまだ類似団体から見ますとはるかに多いということで、まだまだ減らしていかない中で、そういう中でそういうものをどんどんふやしていっては定員管理にはとても到達しませんので、できるだけそういったところは改善しながらしていきたいと思っています。

○議長（志関武良夫君）　ほかにございますか。

（「なし」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

◎動議提出

○議長（志関武良夫君）　本案に対して、６番江澤勝美君外９名から議員のお手元にお配りしました修正の動議が提出されています。

したがって、これを本案とあわせて議題とします。

事務局をして執行部に議案を配付いたします。

（議案配付）

○議長（志関武良夫君）　修正動議提出者の説明を求めます。

６番江澤勝美君。

○６番（江澤勝美君）　それでは議案第21号　平成28年度大多喜町一般会計予算に対する修正案提出者、江澤勝美。以下敬称略させていただきます。野村賢一、小髙芳一、根本年生、吉野一男、麻生勇、渡邉泰宣、吉野僖一、山田久子、野中眞弓、以上の議員でございます。

議案第21号　平成28年度大多喜町一般会計予算に対する修正動議。

上記の動議を地方自治法第115条の３、及び会議規則第17条第２項の規定により、別紙の修正案を添えて提出をいたします。

それでは、提案理由の説明をいたします。

この件に関しましては、平成28年度の一般会計予算に高速バスの運行補助金としてその額5,688万円が計上されております。まさに高速バス運行における赤字補塡をするものであり、この財源としてふるさと納税を活用しようとするものであります。

高速バスの運行事業については、議員全員協議会等で運行及び収支計画については、執行部から説明を受けてまいりました。議員の中には疑問視する意見もあったことは事実であります。将来の大多喜町、このままではいけない、定住化対策、人口増対策、そして過疎からの脱却、工場誘致、観光客の増、都会への通勤・通学の便をよくし、あまねくは本町に明るい将来を来す第一歩として大いに期待するところであります。

政策としては評価できるところであります。しかしながら、二元代表制という立場から、また、長の政策を監視する機能の面から納得のいく運行及び収支計画が示されない限り、容認できるものではありません。

執行部から示された向こう５年間の収支計画では、５年間で赤字補塡額は１億5,300万円ということでありあますが、１億5,300万円を投資して５年後の大多喜町をどのようにするのか、どのようになさるのかといったビジョン、収支計画の積算根拠がいまだに不明瞭であります。利用客をふやす努力が見えてこない、黒字化した場合、町へ還元されるというが、これも不透明なところがあります。町と業者と三者協定、契約はどのようになっているのかなど議会としてはさらに詳細な説明を求める必要があります。このようなことから、この赤字補塡額を当初予算に計上したことに対し、議会としては認めることはできないと判断するものであります。

続いて、修正内容について説明をいたします。

議案第21号　平成28年度大多喜町一般会計予算の一部を次のように修正する。

第１条中、56億9,200万円を56億3,512万円に改める。

第１表、歳入歳出予算の一部を次のように改める。

数字が二重に記載されていますが、下段の部分が当初予算計上額で、上段の部分が修正すべき金額となります。全ての数字を当てはめるものでありますが、高速バス運行補助金5,688万円を減じた数字となります。

初めに歳入ですが、款18繰入金、項１繰入金、予算計上額11億5,258万6,000円。修正すべき金額として10億9,570万6,000円。歳入合計、当初予算額56億9,200万円、修正後の金額56億3,512万円。

次に歳出ですが、款２総務費、項１総務管理費、当初予算額18億6,004万3,000円、修正後の金額18億316万3,000円。歳出合計、当初予算額56億9,200万円、修正後56億3,512万円です。

次に参考として、事項別明細書を添付してございますが、特に歳入歳出の部分ですが、ふるさと基金繰入金を5,688万円繰り戻し、一方歳出では、企画費の中の負担金補助及び交付金、当初予算額１億3,309万円を7,621万円に修正する。説明は高速バス運行補助金として、当初計上した5,688万円を減額するという修正内容であります。

以上で議案第21号　平成28年度大多喜町一般会計予算に対する修正案の提案説明といたします。

よろしくご協議のほど、お願い申し上げます。

以上です。

○議長（志関武良夫君）　説明が終わりました。

これから質疑を行います。

質疑ありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

修正案について討論を省略し、これから採決したいと思います。

ご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　ご異議なしと認めます。

これから、議案第21号　平成28年度大多喜町一般会計予算の修正案について採決します。

江澤勝美君外９名から提出された修正案について賛成の方は挙手願います。

（挙手全員）

○議長（志関武良夫君）　挙手全員です。

したがって、修正案は可決されました。

これより、修正議決した部分を除く原案について討論を行います。

初めに、修正議決した部分を除く原案に反対者の発言を許します。

11番野中眞弓君。

○１１番（野中眞弓君）　私は、今、議長がおっしゃいましたように、修正部分を除いた部分について反対の立場から討論をさせていただきます。

平成28年度予算の概要では、今、私たちが置かれている経済的状況を次のように述べています。経済的状況をあえて言うのはやはり経済によって私たちの暮らしは規制されているからです。日本経済は消費税率の引き上げなどの影響により、一時的に落ち込んだものの、雇用環境の改善や企業の設備投資の回復、消費税率の再引き上げの延期などにより、景気は緩やかな回復基調が続いています。こう述べていますが、果たしてこのとおりでしょうか。私たちの実感とは異なるのではないでしょうか。きょうの質疑の中でも担当課長は、町平均の個人町民税では１万2,000円の減、給料所得者は1.4パーセント伸びているけれども、農業、自営業者については、減っている、景気が好転しているとは言いがたい、こういう答弁がありました。

内閣府が８日に発表した2015年10月から12月期の国内総生産、ＧＤＰですが、この改定値はアベノミクスによる消費の冷え込みを一層浮き彫りにしました。個人消費は速報値から0.1ポイント低い0.9パーセントへと落ち込みました。14年４月の８パーセントへの消費税率引き上げによって受けた家計への打撃が２年近くたっても改善するどころか、深刻化していることを示しています。

安倍首相も８パーセント増税が消費に与えた影響をただした委員会の答弁で、予想以上に落ち込み、予想以上に長引いているのは事実だと消費税増税路線の破綻を認めざるを得なくなっています。

同じく３月８日発表の消費者態度指数も暮らし向き、収入のふえ方を初め全指数で悪化しています。また、同じく３月８日に発表された内閣府の景気ウォッチャー調査からは、消費税増税に対する悲鳴と上がらない賃金への嘆きが聞こえてきます。民間設備投資の上方修正の影響などによって、実質年率ＧＤＰは速報値から0.3ポイントふえていますけれども、それでも１年間では、１年前と比べて1.1パーセント減というマイナス成長の実態は変わっていません。

法人企業統計では、全産業の売り上げと経常利益は４年ぶりにそろって前年比でマイナスになるなど、企業業績にも急ブレーキがかかっています。個人経営の見通しも悲観的です。大多喜町では個人経営は今、特需的に、先ほど野村議員からふるさと納税の好影響があるのではないか、私もそう思いますけれども、でも、全体的には悲観的なものです。で、悲観的な話ばっかりですけれども、以上私が申し上げましたのは、政府機関の発表でこうなのです。国民を取り巻く経済は悪化しており、大多喜町民を含む国民は収入、賃金は思うように伸びず、暮らし向きも苦しい中に置かれているということです。

地方自治法では、地方自治体の本旨は住民福祉の増進にありとうたっています。増進というのですから、住民をより幸せにすることが自治体、役場の仕事だということは皆さんご承知のとおりです。そのために今町がすべきことは、何としても町民の暮らしをしっかり支える役場になることではないでしょうか。

28年度予算は住民の負担を軽くし、暮らし改善の志が見えるでしょうか。定住化、観光振興にスポットライトが当てられ、住民の暮らし改善は脇に置いていかれているかのように、見えます。先ほど、抜くように修正案のあった高速バスですが、赤字前提の高速バスの強引な運行。住民の望んでいる、住民の日常の足が欲しいという願いはこの予算でも足蹴にされております。水道も高い、いろんな保険料も高いという負担、住民の声も通りません。負担軽減も実現しません。

世界一企業が活躍しやすい国にするというアベノミクスのもとで、非正規雇用がふえ続け、一人前の専門職としての資格を得た人でも真面目に働いても当たり前の生活ができないワーキングプアが広がっています。大多喜町の役場の非正規雇用もそうではないでしょうか。公務員職場における臨時職員の待遇が本当にそれをあらわしていると思います。法を守るべき公の職場だからこそ、民間の先頭に立って改善を図っていただきたいと思います。

今や、少子化対策は最大の課題と言ってもいいと思います。雇用、賃金問題の取り組みと並行して、その少子化対策の大きな柱の一つとして子育て支援は重要な役割を持っています。子供らがふえても、親の経済的負担はふえない制度を整備すべきです。子供、子育ては個人の問題ではありません。本来なら国がやるべき問題ですが、早急に町として取り組むべきだと思います。人口の減少は本当に１年前想像できなかったほど進んでいる、それが町なかに住んでいる者の実感です。何としてもいろんな面での子育て支援を28年度予算、補正を組んでまでも実現していただきたいと思います。

昨年から国が次々と地方再生だの創生だのとの号令のもとに、国の負担率のよい事業展開をしております。本町は昨年秋から突貫で次々に応募し、３月補正でも来年度に明許繰り越しがされた事業が幾つかあります。詳しい内容は、私どもまだ理解できておりません。感想として思うことは次々に新しい事業が出て、職員が未消化のまま進められている。コンサルタントの仕事づくりだなと思うことがあります。

私は、この話が出ると新エネルギービジョンのことをまるでトラウマのように思い出します。新エネルギービジョンによって始められた事業は、ことしいっぱいで終わるということで安心しています。職員に十分研究する間がなく、次々にコンサルタントから提案されたこ

と、検証する手だても、それから自分の中への積み重ねもないまま、コンサルタントに押し切られる、それが昨年からのいろいろなおりてきた事業に応募している町の様子を見ると、コンサルタントが手を引いて、コンサルタントの思う路線が敷かれた段階で、もう終わりが始まっている、そういうことであっては困るし、今、職員が足りないという中で、次から次、事業が持ち込まれている。それによって、がたがたに町の体制がなるのではないか。例えば、いろんなものをこなすだけの体力のない人に、おいしいから栄養があるからと言って次々に詰め込んだら、消化不良を起こし、いずれは健康を損なうことになります。今、大多喜町が直面しようとしているのは、そんなような気がするんです。

28年度は、非常に危うさを感じているんです。中央の流れにのみ込まれず、地方自治法の精神にのっとり、町民からの信頼を寄せていただける町政の展開を望んで、私は28年度予算に反対とさせていただきます。

以上です。

○議長（志関武良夫君）　次に、修正議決した部分を除く原案に賛成者の発言を許します。

５番野村賢一君。

○５番（野村賢一君）　私は平成28年度大多喜町一般会計予算、修正部分を除く賛成討論をさせていただきます。

平成28年度大多喜町一般会計予算の修正部分を除く部分について、賛成の立場で討論をいたします。

平成28年度大多喜町一般会計予算は、総額56億3,512万円で過去に例を見ないほどの大型予算になっています。平成26年12月から本格的に取り扱ってまいりました、ふるさと納税による温かい寄附金によるところが、大型予算の背景にあることは皆様も承知の事実であります。

歳入につきましては、税収の伸びない中、ふるさと基金からの繰り入れが６億9,877万6,000円、県支出金で４億294万円、地方交付税で14億7,458万8,000円、地方消費税交付金で１億7,000万円、これらが大きく伸びていきます。

一方、歳出面では総務費が20億2,186万5,000円、前年度比158.9パーセントという大幅な伸びになっています。これは今さら申し上げるまでもなく、国の施策である地方創生関連事業の、本町が取り組むべき事業に要する経費を予算計上したものであり、十分議論してきた中での予算措置であり、着実な成果を求めての事業執行を望むところです。

また、福祉面に目を向けますと、国保会計に法定外の繰出金として3,500万円を計上して

います。被保険者の保険税負担軽減に大いに役立つ施策でもあります。また、大幅に伸びた県支出金の使途は、国土調査に影響したものであり、長期間にわたる地籍調査であったものを事業実施計画を立てて計画に基づき、実施するものであり、早期に調査を終了することを望むところです。

公衆衛生関連事業におきましては、町民の健康増進事業の強化や新規事業としての不妊治療費の助成事業などを取り入れるなど、きめ細かな事業の導入などに大いに賛成できる部分でもあります。

緊縮予算が続いてまいりましたが、平成28年度は大型予算が編成できる予定であり、町民福祉の向上に大きな期待を寄せるところであります。一部修正はさせていただきましたが、議会にも立場というものもございます。ご理解をお願い申し上げまして、修正部分を除く原案には私は賛成するものであります。

以上で終わります。

○議長（志関武良夫君）　ほかに討論ありませんか。

反対者の討論から始めます。

（「ほか、討論はどっちでもいいと思いますけれども」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　ないの。

はい、どうぞ、７番小髙芳一君。

○７番（小髙芳一君）　私は賛成の立場から意見を言わせていただきたいと思います。

野村議員とダブるところはあると思いますがご容赦いただきたいと思います。

今年度の予算総額56億9,200万円ということで、32.6パーセントの増、久々の予算増であります。これはいろいろ出ていますけれども、前からふるさと納税は第２の財源だと言われておりました。そしてふるさと納税がふえたことによって、自主財源も比率が50パーセントということになりました。大変、私たちのこの財源、ふるさと納税は町にとりまして本当に大きな財源ということであります。そして今回、いろいろ指摘がありましたけれども、本来の返礼品の趣旨にのっとって、返礼品の条件を大きく変更されて、本当にふるさと納税という趣旨の部分になったというふうに思っています。

そしてもう１点、歳入の部分で申し上げたいのは、今回、起債が３億4,180万円ということであります。一方、公債費が４億8,758万円ということで、常々町長のほうからも起債は返済以上にはふやさない、こういう趣旨でありまして、今年度におきましても、起債残高の減少ということになっております。少ない起債ということで、大変評価をするところでござ

います。

次に歳出の部分でありますけれども、ことしから始まる、未来に光り続けるふるさと大多喜を目指す第３次の総合計画、そして人口減少克服、未来にわたり地域の活力を維持するということで人口ビジョン総合戦略の初年度ということで、新しい定住化等の事業が何点か計上されました。この目的に沿ってこれからこの３次総合計画、人口ビジョン総合戦略、この達成に向けて大いに期待をするところであります。

次に今回の予算で増額されました衛生費の予防費、健康増進事業、あるいはがん検診、予防接種事業、母子保健事業、さらには農林水産費で猿、鹿、猪等の駆除、被害防止対策の経費、また多面的機能支払交付金ということで、本当に住民が切実に思っている問題、あるいは将来に向けて大多喜町の町民が健康で暮らせるようにと、この辺は増額をされているということで本当に必要な経費だというふうに私も考えております。

また、今回新たに公共施設等の総合管理計画策定業務、あるいは町道の設計業務委託料、橋梁長寿命化事業、町営の住宅補修計画策定の委託料ということで、今までなかったのが不思議なぐらいで、公共施設を維持・管理、そして修繕をする、あるいは町道の舗装の管理・維持、そして計画をきちんとつくっていく、橋梁も同じようであります。町営住宅も同じように維持・管理、これからの補修の計画をしっかりとつくって、これに沿って町の財産を管理するということは非常に重要な部分というふうに考えます。全体的には、私はバランスのとれた適正な予算ということで認めたいというふうに思っています。

そして、これから予算を執行するに当たり、何点か留意していただきたい点があります。

まず、ふるさと納税の寄附金があります。この使途についてでありますけれども、多くの町民は何に使うんだろう、このお金は、ぜひこういうところに使ってください、今自分たちが受けている住民サービス、まだ足りないだろう、多くの町民がそういうふうに、何に使うんだろうというふうに思っています。で、やっぱりこれだけ金額が多くなると、やっぱりその使途は明確にすべき話だというふうに考えます。１事業、２事業に特化してそこだけに使うということはなかなか住民感情としては理解を得られない。そういう意味から、やはりある意味公平な予算配分というのを前に戻して策定をし、寄附もそういう形で集められるのがよいのではないかというふうに考えます。

次に、いすみ鉄道の件でありますけれども、私たちに経営の詳細な部分を報告してほしいというようなことで言いましたけれども、審議をするに当たって、いすみ鉄道の経営内容を知る上では非常に重要な部分であります。まして大多喜町は基金を預かって１市２町の基金

を運用している部分でもあります。赤字補塡があれば基金の補塡もする話であります。これを上程をする執行部は、議会の皆さんから詳細な部分はわかりませんから、いすみ鉄道に聞きますということでは、非常に困ると思います。執行部は全ていすみ鉄道の経営の詳細をきちんと把握して初めて、予算計上ができる話であると思いますし、そういう責任もあると思います。私たちがいろいろ審議するには、本当に１億以上のお金をいすみ鉄道に毎年毎年つぎ込んでいるわけですから、本当にいすみ鉄道の経営をしっかりと執行部の皆さんもつかんでいるし、私たちもつかんで、それで初めて審議ができるというふうに思っていますので、ぜひ、経営内容はしっかりとおつかみいただきたいというふうに思います。

次に先ほど野中議員のほうからもありましたけれども、資源循環型の事業、15万9,000円ということで28年度から廃止ということで、私も説明を聞いておりますけれども、効果がないものは耐用年数が終わってから、じゃあ、やめますよじゃなくて、すぐさま廃止すべきというふうに考えます。

また、農林振興事業３万7,000円で粉砕機の使用料ということで、収入で１万5,000円ほど載っています。些細な金額かもしれませんけれども、やはりこれは大切な予算で竹チップの粉砕機を買いました、需要もあるということであります。しかしながら、ほとんど使われていない、去年は３件ということで、ことしは１万5,000円ということで計上しましたけれども、本当に当初の計画がそれでよかったのかどうか、どうして使われないのか、この辺は次につながる問題でありますので、十分検討をしていただきたいというふうに思います。

以上でありますけれども、これから予算執行に当たりましては、本当に事業の目的、そういうものを原点に返ってしっかりと検討をし、効率で効果的な執行を望むものであります。

以上で賛成討論を終わります。

○議長（志関武良夫君）　これで討論を終わります。

これから、議案第21号　平成28年度大多喜町一般会計予算の修正議決をした部分を除く原案について採決します。

お諮りします。

修正議決をした部分を除く部分については、原案のとおり決定することに賛成の方は挙手願います。

（挙手多数）

○議長（志関武良夫君）　挙手多数です。

したがって、修正議決した部分を除く部分は原案のとおり可決されました。

ここで10分間休憩をとります。３時40分から会議を開きます。

（午後　３時２８分）

○議長（志関武良夫君）　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後　３時３９分）

◎議案第２２号の質疑、討論、採決

○議長（志関武良夫君）　日程第２、議案第22号　平成28年度大多喜町鉄道経営対策事業基金特別会計予算の議事を続けます。

これから質疑を行います。

質疑ありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

討論はありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　討論なしと認めます。

これから、議案第22号　平成28年度大多喜町鉄道経営対策事業基金特別会計予算を採決します。

本案は原案のとおり決定することに賛成の方は挙手願います。

（挙手全員）

○議長（志関武良夫君）　挙手全員です。

したがって、議案第22号　平成28年度大多喜町鉄道経営対策事業基金特別会計予算は原案のとおり可決されました。

◎議案第２３号の質疑、討論、採決

○議長（志関武良夫君）　日程第３、議案第23号　平成28年度大多喜町国民健康保険特別会計予算の議事を続けます。

これから質疑を行います。

質疑ありませんか。

11番野中眞弓君。

○１１番（野中眞弓君）　163ページ、保険料の項目ですけれども、一般の方たちの保険料が1,218万増額されています。退職の方が718万6,000円減額ですが、これ、かなりの、特に退職の方、多いと思うんですが、この理由はどういうことでしょうか。

それから、ついでに保険料ですけれども、今回、平均の保険料、１人当たりお幾ら、そして世帯当たり幾ら、昨年と比べてどうなのかということも教えてください。

○議長（志関武良夫君）　税務住民課長。

○税務住民課長（市原和男君）　では初めに、保険料の関係でございますけれども、ご質問のとおり、一般分で1,218万9,000円の増額、退職分で718万6,000円減額となっております。国保の予算でございますけれども、歳入歳出とも、共同事業交付金など平成28年度概算額が事前に示されているものもございますけれども、ほとんどの科目につきましては、過去の実績、あるいは算定の基礎となる数値をもとに計上いたしました。歳出に見合った歳入を確保するために必要な国民健康保険税として平成28年度は前年度と比較いたしまして、500万3,000円増を見込んでおるところでございます。

まず、退職分のご説明をさせてもらいますけれども、退職分につきましては、社会保険加入者等が会社を退職され、国民健康保険に加入された方で、なおかつ年金を受給している場合には、国民健康保険の退職被保険者という位置づけをされます。平成27年４月から制度改正があり、現在の退職被保険者の制度は65歳まで継続しますけれども、それ以降は新たな退職被保険者への移行はなくなったというふうなことで、今後人数がふえることはないというふうなことでございます。

そのような関係で、退職分につきましては、一般被保険者から退職分に移行がなくなると、今以上に保険者がふえる可能性がないというふうなことで、718万6,000円の減額を見込んだところでございます。

一般分につきましては、その退職分の減額相当に歳入不足が見込まれます金額を加えて1,218万円の増額としたところでございます。

あと、平均保険料というふうなことでございますけれども、平成28年度予算で１人当たり平均９万9,900円、１世帯当たり平均17万3,300円、平成27年度予算では１人当たり９万8,560円、１世帯当たり17万980円でございます。

○議長（志関武良夫君）　ほかに質疑ありませんか。

11番野中眞弓君。

○１１番（野中眞弓君）　滞納額もかなりあるんですけれども、滞納世帯資格証の有無とか、それから短期証だとか、世帯数だとか、人数だとか、教えていただけませんか。

２種類の保険料の集め方が、40歳以上と40歳以下で集める項目が違うと思いますので、それぞれでお願いいたします。

○議長（志関武良夫君）　税務住民課長。

○税務住民課長（市原和男君）　滞納の状況というふうなことでございますけれども、まず最初にお断りというふうなことで、それぞれ医療支援、あるいは介護等集める方法は異なっておりますけれども、件数的には全て１本でお答えをさせていただきたいと思うんですけれども、よろしいでしょうか。

（「よくわからないけれども、いいです」の声あり）

○税務住民課長（市原和男君）　では、滞納の世帯数でございますけれども、現在209世帯でございます。そのうち、資格証、これは１年以上前の滞納がある世帯で、納付相談あるいは分納誓約など、納付意識の薄い方に交付するものでございますけれども、こちらが32世帯。あと、短期保険証につきましては、95世帯。短期というふうなことでそれぞれ保険証の有効期限がありますけれども、まず１カ月の保険証が25世帯、２カ月が４世帯、３カ月が３世帯、４カ月が28世帯。たまたまこの短期証を発行してある方で、その後、保険証をとりに来ていない方というのが35世帯ございます。

あと、人数でございますけれども、資格証の対象となっている世帯員数が40名、32世帯で40名です。

短期保険証につきましては、169名です。95世帯の169名でございます。

○議長（志関武良夫君）　ほかに質疑ありませんか。

11番野中眞弓君。

○１１番（野中眞弓君）　滞納者に対しての集金というか、取り立てというか、相談というかどういう形で行われているんですか。

○議長（志関武良夫君）　税務住民課長。

○税務住民課長（市原和男君）　滞納者への集金というふうなことでございますけれども、まず納付計画なりされている方については、その計画どおり履行されるか、されない場合には電話催促等行っておるというふうなことでございます。

また、中には定期的に毎月何日とか自宅のほうに臨戸して徴収に伺う場合もございます。

そのほかの方につきましては、納付状況等見ながら、電話催促、あるいは職場への給与照会、預貯金調査等行っておるというふうなことでございます。

○議長（志関武良夫君）　11番野中眞弓君。

○１１番（野中眞弓君）　差し押さえは。

○議長（志関武良夫君）　税務住民課長。

○税務住民課長（市原和男君）　場合によっては差し押さえも実施をしております。平成27年度の数字を申し上げますと、これは国保税だけに限らず、ほかに町税もあった場合の差し押さえの件数というふうなことで申し上げたいと思います。給与の差し押さえが１件、預貯金の差し押さえが14件、国税還付金の差し押さえが３件、今現在、18件の差し押さえを実施いたしました。

○議長（志関武良夫君）　ほかにございませんか。

11番野中眞弓君。

○１１番（野中眞弓君）　滞納世帯が209件ということですけれども、どういう傾向にあるんでしょうか。よく悪質な滞納とか何かいうことがあると思うんですが。

それと、納めてもらうとき、さっき臨戸ということがありましたけれども、職員が直接訪問して、差し押さえて、滞納している分をいただくのが当たり前なのでしょうか、それとも持っていらっしゃいと言って、こちらがでんと構えていて持ってこさせるのが主流なのでしょうか。

○議長（志関武良夫君）　税務住民課長。

○税務住民課長（市原和男君）　やはり、納税ですから本人の意志で納めてもらうのが、まずこれ第一だと考えております。また、そういう形でも納税されない場合につきましては、町のほうから出向いていくというふうな形になろうかと思います。

最初の質問は何か。

（「何言ったっけ。徴収の仕方で、でも今ので、そう」の声あり）

○税務住民課長（市原和男君）　あと、滞納の差し押さえの関係ですね。

（「差し押さえは伺いました」の声あり）

○税務住民課長（市原和男君）　よろしいですか。

（「確信者」の声あり）

○税務住民課長（市原和男君）　確信者。すみません。

確信というか、悪質というかそういう定義がないかと思うんですけれども、強いて言うと

すれば、やはりさっき、資格証を32世帯交付しているというふうなことで申し上げました。この家庭につきましては、滞納１年以上前のものが滞っておると。なおかつ、納付相談、あるいは分納誓約など、そういう納付意識が薄いというふうな方が、こういう資格証の交付世帯に該当しますので、こちらの32世帯がそちらのほうに当たるんではないかというふうに考えております。

○議長（志関武良夫君）　ほかにございますか。

11番野中眞弓君。

○１１番（野中眞弓君）　滞納世帯に対して、やっぱりどうしても納められなそうだなというところってあるんじゃないかと思うんですが、そういうときにはどうするんでしょうか。

一般会計のときに、保健活動と連動して隣の長南町のことを少し話しましたけれども、長南町は資格証を国保で出していないんですね。ゼロなんですね。それでも年々、何というか、国保の値段が、個人の保険料、もちろん世帯のも下がっている。そういう配慮というのは必要なんじゃないかと思うんですけれども。

大多喜町と隣の長南町の滞納者対策のあり方を見ると、長南町は滞納があっても資格証を出さないで、訪問とか事情、その家の事情に応じて短期証でやってもらって、いつでもいざというときには医者にかかれる。大多喜町の場合は、悪質だって判定されたら資格証が出されて、いざというときにはワンクッションおいて、つまり１回役場に来て、すみません、どうしても医者に行かなきゃいけないんで、1,000円とか何か払って１カ月証か何かもらって行く。ここのところ何度か言っているんですけれども、国民健康保険の加入者の置かれている状況って経済的には、自分の所得に対して負担割合が非常に高い。サラリーマンに比べてね。で、サラリーマンに比べなくても所得の十何パーセント、15パーセントを超えた保険料が賦課される、平均的に賦課されている。

そういうときに、払えないことって十分考えられる。そこを払っていないというんで、もうばしっとペナルティーの資格証を出すというのは人道的にどうなんだという気がします。資格証を出されたから、滞納が解消するわけではないじゃないですか。滞納が解消するものであれば、もうこの資格証だってなくなっているはずでしょう。そういう温情のある対応の仕方というものを考えられないかどうか伺いたいと思います。

○議長（志関武良夫君）　税務住民課長。

○税務住民課長（市原和男君）　資格証の交付については、先ほども申し上げましたけれども、やはりかなり古い滞納があって、なおかつ、町としてもご本人となかなか折衝ができないと

お話しする機会がないというふうな方がほとんどでございます。ですから、ある程度、生活を圧迫するような徴収は当然していませんけれども、例えばお金がなくて払えなくても、そういう納付相談なり何なりしていただければ、期間の短い保険証を出して対応しているというふうなことでございます。

また、そういう資格証の方が、医者にかかる場合には、連絡なり何なりいただいて、町のほうで保険証を出すというふうな形になるわけですけれども、やはりそういう折衝できない方との納税交渉の場の一つでもあるのかなと。やっぱり納めてもらっている、納付いただいている方との公平性もございますので、資格証につきましては、従来どおり今の形で発行していくことを考えております。

○議長（志関武良夫君）　野中君以外の方でございますか。

９番吉野僖一君。

○９番（吉野僖一君）　今の庇護者というか、高齢者でひとり暮らしの人ですが、年齢別のあれはわかりますか。

○議長（志関武良夫君）　税務住民課長。

○税務住民課長（市原和男君）　申しわけないんですけれども、そこの世帯状況はまだちょっと把握していません。当然ひとり暮らしの方もいらっしゃるでしょうし、中には大家族の方もいらっしゃるというふうに思っております。

○議長（志関武良夫君）　ほかにございますか。

（「なし」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

討論ありませんか。

討論あります。

11番野中眞弓君。

○１１番（野中眞弓君）　今の質疑の中で、大多喜町が特に滞納者に対して非常にあこぎな対応をしているのではないということはわかりましたけれども、医療とか福祉とか、本当に社会保障に当たる事業に対して、本来なら国が責任を持たなきゃいけない部分をどんどん国が切り捨てて、社会保険者とかあるいは共同出資、高額療養費などは共同出資してプールして、多いところに回すという相互扶助という形をとっていることに憤りを感じます。

執行部にぶつけられても困るよとおっしゃるかもしれませんけれども、本当に制度が使う国民の負担がふえるよう、ふえるよう、しかも国民健康保険は昔は農業者とか自営業者とか、そういうきちんと仕事を持った、第一次産業や第二次産業に携わる中小の零細業者なり、それなりに収入のある人たちが入っていたのに、最近は退職者、失業者、で、ちゃんと仕事を持った農業者とか自営業者の割合がうんと少なくなっている。

ところが、国がそこのところをきちんと手当てをしないもんだから、莫大な医療保険がお金のない階層にかかわっている。国に対して大きな声で保険者として、要求してもらうことを要求しますし、それと、町もやはり今がふるさと納税で多少財源が豊かになっております。何年間かは十分に手当てができるはずだと思います。介護保険の繰り入れをもっとふやしていただいて、安心してこの町で暮らせるよう、していただけることを要求して今のままの高料金、低所得者対策のない国民健康保険行政に反対の討論といたします。

○議長（志関武良夫君）　次に本案の賛成者の発言を許します。

９番吉野僖一君。

○９番（吉野僖一君）　今、職員も努力しているということで、できるだけ滞納のないように今後もよく訪問して、地区民生委員さんとか、生活保護ともいろいろ絡むと思うんですけれども、できるだけ滞納のないように努めていただきたいと思います。

以上です。

○議長（志関武良夫君）　ほかに討論はありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これから、議案第23号　平成28年度大多喜町国民健康保険特別会計予算を採決します。

本案は原案のとおり決定することに賛成の方は挙手願います。

（挙手多数）

○議長（志関武良夫君）　挙手多数です。

したがって、議案第23号　平成28年度大多喜町国民健康保険特別会計予算は原案のとおり可決されました。

なお、議員の皆さんにお知らせします。

本日、一般会計補正予算（第10号）が提案される予定でありますので、あらかじめご承知願いたいと思います。

議事進行にご協力をお願いしたいと思います。

◎議案第２４号の質疑、討論、採決

○議長（志関武良夫君）　日程第４、議案第24号　平成28年度大多喜町後期高齢者医療特別会計予算の議事を続けます。

これから質疑を行います。

質疑ありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

討論ありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　討論なしと認めます。

これから、議案第24号　平成28年度大多喜町後期高齢者医療特別会計予算を採決します。

本案は原案のとおり決定することに賛成者の挙手を願います。

（挙手多数）

○議長（志関武良夫君）　挙手多数です。

したがって、議案第24号　平成28年度大多喜町後期高齢者医療特別会計予算は原案のとおり可決されました。

◎議案第２５号の質疑、討論、採決

○議長（志関武良夫君）　日程第５、議案第25号　平成28年度大多喜町介護保険特別会計予算の議事を続けます。

これから質疑を行います。

質疑ありませんか。

11番野中眞弓君。

○１１番（野中眞弓君）　206ページの保険料の件ですけれども、またここでも増額になっています。その理由を教えてください。

今、増額になった人ってどのくらいいるんでしょうか。

それから、今の段階で標準保険料が幾らになっているのか、教えてください。介護保険は保険料が９段階に分かれているんですけれども、私たち、もしかしたら、議員はどこかで自分で調べなければ、その保険料がわからない気がするんですね。基礎資料として、そういうものなんか議員に配っていただきたいなと思います。

とりあえず、今の段階での標準保険料、幾らなのか教えてください。

○議長（志関武良夫君）　健康福祉課長。

○健康福祉課長（永嶋耕一君）　それでは、介護保険の保険料の関係でご質問がありましたので、回答させていただきます。

まず最初に、人数の関係なんですが、平成28年度の当初、3,674名で推計しております。平成27年度の当初と比較いたしまして、49名の増ということでございます。

基準の保険料でございますが、これは介護保険の場合は、３年を１期といたしまして介護保険料を決めておりますので、それは変わりませんので今回第６期の介護保険料は4,500円となっております。これは基準額になります。

あと、この保険料のふえた理由でございますけれども、平成27年度は第６期の介護保険の事業計画がまだ決まっておりませんでしたので、保険料につきましては、前期の第５期の保険料4,300円で計算をしております。今回、第６期につきまして、保険料が4,500円と決まりましたので、その差額が今回増額の部分となっております。

以上です。

○議長（志関武良夫君）　ほかに質疑ありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

討論ありませんか。

討論あります。

これから討論を行います。

初めに本案に反対者の発言を許します。

11番野中眞弓君。

○１１番（野中眞弓君）　介護保険も利用者がふえるほど、保険料がふえることになっています。介護保険の場合、かなり利用料、うちもお世話になっているんですけれども、本当に国

民年金だけで暮らしていくと、保険料は払っても利用できないという気がするんですね。利用者がふえればふえるほど、自分は使わなくてもお金を払わなきゃいけない。段階的にこういうふうに、国保なんかと違って軽減ということではなくてなっているんだけれども、やっぱりこれも相互扶助が適用されていて、社会保障が手を引いている。暮らしづらい、本当にお国柄になっていることについて、憤りを感じます。

健康福祉課は介護予防とか、いろいろな健康で暮らせる教室を展開しているんですけれども、それでもなお、そこに通える人は健康なんですね。本当に困っている人たちが、すくい上げ切れない現実がある。非常に介護だとか、高齢者医療だとかを考えると、地方自治体ができることって限られているけれども、だからといってこのまま大変だと嘆いているお年寄りたちのことを考えると賛成するわけにはいきません。

ほかのところで、お金を省略して本当にお年寄りの負担が少なくなるような町政の展開を望んで反対討論といたします。

○議長（志関武良夫君）　次に本案に賛成者の発言を許します。

７番小髙芳一君。

○７番（小髙芳一君）　賛成の立場から討論をさせていただきます。

野中議員の言うことも非常によくわかります。介護保険は平成12年から始まって非常にこの制度があることによって、本当に助かって多くの人が介護保険の恩恵を受けているというふうに思います。介護保険の給付費の推移を見ますと、平成12年は総額ですけれども２億7,000万円。平成26年の資料しかありませんけれども、それが９億5,000万円、このように伸びております。保険料についても平成12年は基礎金額でありますけれども、平成12年が2,210円が、先ほどお話がありましたけれども、平成27年には4,500円、こんなふうになっています。

対象者ももちろんふえておりますけれども、介護保険の保険料の伸び、そして給付費の伸び、これをこの先どういうことで伸びていくかということになると、本当にどんどん負担はふえていくという状況であると思います。こういう中にあって、弱者の救済も当然あっての話であります。

そして国では、これから予防事業に力を入れていくというような状況であります。今回の予算の中でも、介護保険の予防事業ということで4,500万円ほどの予算が措置をされています。これから介護予防に力を入れていくためのいろいろな啓発活動だとか、あるいは地域の予防活動支援事業とか、いろいろあります。特に新しく今年度は地域サロン支援事業18万円、それからボランティアポイント制度が41万4,000円ということで計上されているということ

でありまして、まさに地域を挙げてみんなで支え合う社会をつくっていこう、こういうことであります。介護給付費の伸びを見るとどうしてもこういう地域でいずれは支えていく社会をつくっていかなければいけない。

ここで一つ申し上げておきたいのは、介護予防は別に健康福祉だけの問題ではなくて、町全体が取り組むべき話であると思います。高齢化社会になって、少しでも地域自体でそういう人たちを見ていく、こういう時代が来ているんだということで、本当に区だとか、そういう単位の中で地域でそういう人たちを支えていかなければ、こういうことが持続していかない、こういう時代が来ているんだというふうに思います。

いろいろ、弱者の問題がありましたけれども、介護保険をさらに持続させるということ自体は今回の予算について十分措置をされているし、また、町にもそういう支え合う社会をつくっていくための一般会計の予算についても、どんどんそういう世話にぜひ力を入れていただきたいと、こういうことをお願い申し上げまして、賛成討論とさせていただきます。

○議長（志関武良夫君）　ほかに討論はありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これから、議案第25号　平成28年度大多喜町介護保険特別会計予算を採決します。

本案は原案のとおり決定することに賛成の方は挙手願います。

（挙手多数）

○議長（志関武良夫君）　挙手多数です。

したがって、議案第25号　平成28年度大多喜町介護保険特別会計予算は原案のとおり可決されました。

◎議案第２６号の質疑、討論、採決

○議長（志関武良夫君）　日程第６、議案第26号　平成28年度大多喜町水道事業会計予算の議事を続けます。

これから質疑を行います。

質疑ありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

討論ありませんか。

11番野中眞弓君。

○１１番（野中眞弓君）　有収率が上がったり、ずっと長いこと赤字が出てきたのが黒字に転換したり、担当課のご努力、評価したいと思いますが、高過ぎる水道料金の引き下げ、特に高齢者のことはまだまだ考えられないという、そういう中で、町が高料金対策の繰り入れを200万円減らしました。もしかして200万円あれば、１立米の基本料金を下げることができるかもしれない。そう思うとやはり、本当に利用者の立場に立っていないなという気持ちを強く持ちます。水は本当に欠かすことはできません。そこのところをやはり、使わない分まで払う制度は改善していただきたいという気持ちを込めて反対討論とさせていただきます。

○議長（志関武良夫君）　次に本案の賛成者の発言を許します。

７番小髙芳一君。

○７番（小髙芳一君）　賛成の立場から討論させていただきたいと思います。

水道企業会計であります。この中でいつも言われるように、有収率、非常に上がって本当に水道会計、健全会計に向かっていると思います。しかし、一方で町からの補助金7,300万円、県からの補助金6,900万円ということで、膨大な補助金をここにつぎ込んでいるという実態はまだまだ変わっていません。今回におきましても、支出の分でありますけれども、資産減耗費ということで除却損をこれから１億円やっていくということでありますけれども、それが減っていかないとなかなか全体的に帳簿上はよくならないということであります。

確かに水道料金高いということでありますけれども、こういう企業会計の部分においては、もう少し、下げるという部分については、我慢が必要ではないかというふうに考えます。

以上で賛成討論とさせていただきます。

○議長（志関武良夫君）　ほかに討論はありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これから、議案第26号　平成28年度大多喜町水道事業会計予算を採決します。

本案は原案のとおり決定することに賛成の方は挙手願います。

（挙手多数）

○議長（志関武良夫君）　挙手多数です。

したがって、議案第26号　平成28年度大多喜町水道事業会計予算は原案のとおり可決されました。

◎議案第２７号の質疑、討論、採決

○議長（志関武良夫君）　日程第７、議案第27号　平成28年度大多喜町特別養護老人ホーム事業会計予算の議事を続けます。

これから質疑を行います。

質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

討論はありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　討論なしと認めます。

これから、議案第27号　平成28年度大多喜町特別養護老人ホーム事業会計予算を採決します。

本案は原案のとおり決定することに賛成の方は挙手願います。

（挙手全員）

○議長（志関武良夫君）　挙手全員です。

したがって、議案第27号　平成28年度大多喜町特別養護老人ホーム事業会計予算は原案のとおり可決されました。

◎日程の追加

○議長（志関武良夫君）　お諮りします。

町長から、平成27年度大多喜町一般会計補正予算（第10号）の議案が提出されました。

この議案を日程に追加し、直ちに議題としたいと思います。

これにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　異議なしと認めます。

よって、提出された議案を日程に追加し、追加日程第２として直ちに議題とすることに決定しました。

事務局職員をして、議案を配付します。

（議案配付）

○議長（志関武良夫君）　議案の配付漏れはございませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　配付漏れなしと認めます。

◎議案第２９号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（志関武良夫君）　追加日程第２、議案第29号　平成27年度大多喜町一般会計補正予算（第10号）を議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

企画財政課長。

○企画財政課長（西郡栄一君）　議案第29号の説明をさせていただきます。

今回の補正予算につきましては、ふるさと納税の増額に係る補正でございます。

平成28年２月分のふるさと納税額は1,517件、２億4,320万8,120円の寄附をいただきました。

このため、２月末日現在の累計額、これは前年度の出納整理期間中の寄附額576万円を含めますと、18億1,922万1,664円となり、ふるさと納税額をふるさと基金に積み立てる歳出予算が不足しておりますので、補正予算を提案させていただくものでございます。

それでは、本文の説明をさせていただきます。

１ページをお開きください。

平成27年度大多喜町一般会計補正予算（第10号）は、次に定めるところによる。

歳入歳出予算の補正。

第１条、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ２億1,700万円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ79億1,483万4,000円とする。

第２項、歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は、「第１表　歳入歳出予算補正」による。

それでは、事項別明細書により、補正予算の説明をさせていただきますので、４ページ、

５ページをお開きください。

２、歳入。

款17寄附金、項１寄附金、目１指定寄附金２億1,700万円の増額補正は、ふるさと納税の増額を見込み、計上させていただきました。

３、歳出。

款２総務費、項１総務管理費、目６企画費２億1,700万円の増額補正は、説明欄のふるさと基金積立事業として、ふるさと納税寄附金をふるさと基金へ積み立てるものでございます。

以上で、平成27年度大多喜町一般会計補正予算（第10号）の提案説明とさせていただきます。よろしくご審議くださるよう、お願いいたします。

○議長（志関武良夫君）　説明が終わりました。

これから質疑を行います。

質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

本案については、討論を省略し、これから採決したいと思います。

ご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　異議なしと認めます。

これから、議案第29号を採決します。

本案は原案のとおり決定することに賛成の方は挙手願います。

（挙手全員）

○議長（志関武良夫君）　挙手全員です。

したがって、議案第29号は原案のとおり可決されました。

◎休会について

○議長（志関武良夫君）　以上で、本日の日程は全て終了しました。

お諮りいたします。

本定例会は、議事の都合により、あす17日から本年６月30日まで休会としたいと思います。

これにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（志関武良夫君）　異議なしと認めます。

よって、あす17日から本年６月30日までを休会とすることに決定しました。

◎散会の宣告

○議長（志関武良夫君）　本日はこれをもって散会とします。

長時間にわたりご苦労さまでございました。

（午後　４時２７分）

会議の経過を記載し、その相違ない事を証するため、ここに署名する。

平成２８年８月１５日

議　　長　　志　関　武良夫

署名議員　　野　中　眞　弓

署名議員　　根　本　年　生